

目次

氏名に「★」が付された教員は、「実務経験のある教員」です。実務経験内容、担当科目名および単位数等について、本学ホームページの下記 URL に詳細を掲載しています。

http://jonan.jp/tandai/about/about_04.html

共通基礎科目

<1年次科目>

城南のこころ(女性と人権)	1
社会人のふるまい	1
清和気品の文化(華道)	2
清和気品の文化(茶道)	2
キャリアデザイン演習	3
キャリアデザイン演習	3
日本語表現A	4
日本語表現A	4
日本語表現B	5
日本語表現B	5
英語コミュニケーションA(現代生活)	6
英語コミュニケーションA(総合保育)	6
情報処理演習A	7
情報処理演習A	7

<2年次科目>

英語コミュニケーションB(現代生活)	8
英語コミュニケーションB(総合保育)	8

現代生活学科

<1年次科目>

現代生活基礎演習	11
現代生活応用演習	11
現代生活論	12
食生活論	12
チームビルディング(ヨガI)	13
特別実践活動1	13
インターンシップI	14
簿記入門	14
商業簿記	15
情報処理演習B	15
プレゼンテーション論	16
色彩表現	16
エンターテインメントスポーツ	17
ビジネス実務総論	17
情報デザイン論	18
ビジネス実務演習	18
データ処理演習(1)	19
エンターテインメントビジネス論及び演習I	19
エンターテインメントビジネス論及び演習II	20
ビジネスと文化I(アニメ・まんがの可能性)	20
ビジネスと文化II(アニメ・まんがの可能性)	21
絵本の世界	21
文芸文化論	22
芸術社会論	22
文学の歴史(図書館サービス特論)	23
図書館概論	23
図書館サービス概論	24
児童サービス論	24
情報資源組織論	25
情報資源組織演習(1)	25
情報資源組織演習(2)	26
食生活と健康I	26
食品と栄養の特性I	27
食品と栄養の特性II	27
食品と栄養の特性IV	28
食品の安全と衛生I	28
食品の安全と衛生II	29
調理理論と食文化概論I	29
調理理論と食文化概論II	30
調理理論と食文化概論V	30
食材の見極め(買い出し)I	31
食材の見極め(買い出し)II	31

調理実習(包丁レッスン・基礎料理I)	32
調理実習(基礎料理II)	32
調理実習(中国料理)	33
調理実習(フランス料理)	33
スキルアップI	34
スイーツアート基礎演習I	34
スイーツアート基礎演習II	35
フードプロモーションI(カメラワーク・ラッピング)	35
フードプロモーションII(ラッピング・ディスプレイ)	36
洋菓子入門	36
洋菓子の理論と実践(初級)	37
パンの理論と実践(基礎)	37
和菓子の理論と実践(基礎)	38
和菓子の理論と実践(応用)	38
ダンスI	39
ダンスII	39
ヨガII	40
運動学	40
東住吉研究I(地域演習)	41
地域活性化プランニングI(地域演習)	41
高齢者の生活(衣食住)	42
アクションライフ(生活支援技術I)	42
エビデンス技術(生活支援技術II)	43
社会福祉概論(社会の理解I、人間の尊厳と自立)	43
社会保障論(社会の理解II)	44
医学一般1(こころとからだのしくみI)	44
医学一般2(こころとからだのしくみII)	45
医学一般3(こころとからだのしくみII)	45
ライフヒストリー1(介護過程I)	46
調理学	46
家庭料理	47
食品学I	47
食品学II	48
食品の安全性	48
フードコーディネイト論	49
エンターテインメントスポーツ(アウトドア演習)	49
商品開発・販売I	50
ブレ特別実践活動	50

<2年次科目>

現代生活卒業研究	51
現代社会論	51
消費者経済学	52
イノベーション論	52
大阪の人と文化	53
まちづくり研究	53
カスタマー心理学	54
経営学	54
ファイナンシャルプランニング演習	55
広告コミュニケーション論及び演習	55
カスタマーサービス演習	56
データ処理演習(2)	56
データ処理演習(3)	57
小説を読む	57
詩歌を読む	58
絵画を読む	58
映像を読む	59
メディアを読む	59
文献学入門(図書館基礎特論)	60
生涯学習概論	60
図書館情報資源概論	61
情報サービス論	61
情報サービス演習(1)	62
情報サービス演習(2)	62
図書館制度・経営論	63
図書館情報技術論	63
図書館情報資源特論	64
図書・図書館史	64
図書館実習	65
情報処理演習B	65
食生活と健康II	66

総合保育学科

<1年次科目>

体育(実技)	103
幼児教育基礎Ⅰ	103
幼児教育基礎Ⅱ	104
情報処理演習B	104
保育原理	105
教育原理	105
子ども家庭福祉	106
社会福祉	106
社会的養護Ⅰ	107
社会的養護Ⅱ	107
保育の心理学	108
子どもの保健	108
領域指導法(健康)	109
人間関係	109
環境	110
言葉	110
乳児保育Ⅰ	111
特別支援教育基礎	111
障害の理解Ⅰ	112
インターンシップⅠA	112
インターンシップⅠB	113
インターンシップⅡA	113
インターンシップⅡB	114
幼児音楽Ⅰ	114
幼児音楽Ⅱ	115
うたと音楽(基礎)	115
うたと音楽(応用)	116
造形表現Ⅰ	116
造形表現Ⅱ	117
表現法(絵本・読み聞かせ・人形劇・等)	117
表現法(運動遊び・屋外遊び等)	118
教育実習Ⅰ	118
保育実習Ⅰ	119
保育実習指導Ⅰ	119
保育実践演習Ⅰ	120
保育実践演習Ⅱ	120

<2年次科目>

日本の憲法と人権	121
体育(理論)	121
教育制度	122
保育者・教育者論	122
子ども家庭支援論	123
保育の心理学	123
子ども家庭支援の心理学	124
幼児理解と教育相談	124
子どもの理解と援助	125
子どもの食と栄養Ⅰ	125
子どもの食と栄養Ⅱ	126
教育方法・技術論	126
教育課程論・保育の計画と評価	127
保育内容(総論)	127
領域指導法(人間関係・言葉)	128
領域指導法(環境・表現)	128
乳児保育Ⅱ	129
子どもの健康と安全	129
子育て支援	130
在宅保育	130
障害児保育Ⅰ	131
障害児保育Ⅱ	131
障害の理解Ⅱ	132
インターンシップⅢA	132
インターンシップⅢB	133
インターンシップⅣA	133
インターンシップⅣB	134
幼児音楽Ⅲ	134
音楽理論	135
造形表現Ⅲ	135
身体表現Ⅰ	136
身体表現Ⅱ	136
身体と運動	137
表現法(室内遊び・ふれあい遊び等)	137
教育実習Ⅱ	138
保育実習Ⅱ	138
保育実習指導Ⅱ	139
保育実習Ⅲ	139
保育実習指導Ⅲ	140
教職実践演習(幼稚園)	140
卒業研究Ⅰ	141
卒業研究Ⅱ	141

食生活と健康Ⅲ	66
食品と栄養の特性Ⅲ	67
食品と栄養の特性Ⅴ	67
食品の安全と衛生Ⅲ	68
食品の安全と衛生Ⅳ	68
食品の安全と衛生Ⅴ	69
調理理論と食文化概論Ⅲ	69
調理理論と食文化概論Ⅳ	70
調理理論と食文化概論Ⅵ	70
食材の見極め(買い出し)Ⅲ	71
食材の見極め(買い出し)Ⅳ	71
調理実習(日本料理)	72
総合調理実習	72
調理スペシャリスト研究	73
スキルアップⅡ	73
料理プレゼンテーション演習	74
洋菓子の世界	74
和菓子の世界	75
スイーツアート応用演習Ⅰ	75
スイーツアート応用演習Ⅱ	76
スイーツデザイン	76
洋菓子の理論と実践(中級)	77
洋菓子の理論と実践(上級)	77
パンの理論と実践(応用)	78
創作スイーツ実習	78
カフェ実習Ⅰ	79
カフェ実習Ⅱ	79
カフェドリンク	80
表現力実践演習(読む・書く)	80
エンターテインメントビジネス論及び演習Ⅲ	81
エンターテインメントビジネス論及び演習Ⅳ	81
ヨガⅢ(指導者育成)	82
ヨガⅣ(指導者育成)	82
障害とテクノロジー	83
エビデンス技術(生活支援技術Ⅱ)	83
認知症の理解2(認知症の理解Ⅱ)	84
社会保障論(社会の理解Ⅱ)	84
医学一般2(こころとからだのしくみⅡ)	85
医学一般3(こころとからだのしくみⅡ)	85
医学一般4(こころとからだのしくみⅡ)	86
長寿生活論2(発達と老化の理解Ⅱ)	86
生活ライフヒストリー2(介護過程Ⅱ)	87
人生設計論(介護過程Ⅲ)	87
障害の理解(障害の理解Ⅱ)	88
医療的ケア1(吸引)(医療的ケア)	88
医療的ケア2(経管栄養)(医療的ケア)	89
医療的ケア演習(医療的ケア演習)	89
健康運動(介護予防運動)	90
食品の安全性	90
食品学Ⅰ	91
食品学Ⅱ	91
食品科学実験	92
フードスペシャリスト論	92
食品の官能評価・鑑別論	93
食品の官能評価・鑑別演習	93
介護食論	94
介護食実習	94
幼児食実習	95
ローカルフーズ(郷土料理)	95
商品開発・販売Ⅱ	96
インターンシップⅡ	96

医療系集中講義科目

<1・2年次科目>

医学一般	99
医療管理学	99
医療秘書実務	100

<2年次科目>

医療事務総論及び演習レセプトコンピュータ	100
----------------------	-----

※資格取得のための必修科目または選択必修科目に、資格名称を記載しています。

司書 : 図書館司書

調理 : 調理師

フード : フードコーディネーター

カフェ : カフェクリエーター

介実 : 介護福祉実務者研修

介食 : 介護食士

医療 : 医療情報事務士等

幼 : 幼稚園教諭二種

保 : 保育士

ベビー : 認定ベビーシッター

主事 : 社会福祉主事任用

共 通 基 礎 科 目

城南のこころ(女性と人権)

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 保
担当 ★前田 崇博

《授業の概要》

本学の建学の精神、「清和・気品」「自主・自律」の2訓を修得するために、複雑な現代社会を生き抜く基本的な人間力を学びます。多様な視点を持ち広く社会で活躍しようとする女性としての生き方が、本学における学びに共通する精神であり、その一助となる知識や学問を「城南のこころ」の位置づけとしています。女性としての在り方、社会で活躍する女性の権利、社会に存在する性差別構造など様々な時事的な事柄を織り交ぜながら広く構成し、学びを深めていきます。

《学生の到達目標》

本学にどのような社会的使命があり、城南短大生がどのような精神で学び、社会で活躍しようとするべきであるのかを理解する。他者の価値観を尊重し、その尊厳を傷すことなく関わることができるようになる。主体的に行動できる自立した女性としての知識や教養を身につけることができる。

《授業計画》

1. 城南生に求められる精神とは1
2. 城南生に求められる精神とは2
3. 建学の精神 (学長からのメッセージ)
4. 学生のためリスクマネジメント1 (防災リーダー)
5. 学生のためリスクマネジメント2 (SNSの学習) 1
6. 保育のこころ (総合保育学科のプレゼン) 1
7. おもてなしのこころ (現代生活学科のプレゼン) 1
8. 保育のこころ (総合保育学科のプレゼン) 2
9. おもてなしのこころ (現代生活学科のプレゼン) 2
10. 学生生活に役立つ社会的知識
11. 社会福祉入門1
12. 社会福祉入門2
13. 海外文化研究 (文化人類学入門)
14. 社会人の先輩から学ぶ
15. 授業全体の振り返り・到達目標から振り返る

《成績評価の基準・方法》

振り返り授業の時には、レポート提出を求める。評価は、担当教員の5段階評価で行う。すべての評価を集計して全体の評価とする。レポートの記述量が少ないものは、評価の対象にならないので注意すること。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：本学の建学の精神を熟読し、城南短大生としての在り方を考える。また、それぞれの授業テーマについて自分自身でも考えてみる。事後学習：自身の考えていたことや知識と比較して、授業で新たな発見や影響を受けたことを振り返る。また、それらに関連したことにも興味を持ち情報を収集し、自己を評価してみる。

社会人のふるまい

1 年次(半期)
1 単位 (演習)
資格 なし
担当 吉田 真知子

《授業の概要》

建学の精神である「自主自律」「清和気品」を理解し、体得できるよう、「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為に「話しことば」、社会に出てからすぐに役立つ『美しい話し方』を習得する。

《学生の到達目標》

建学の精神である「自主自律」「清和気品」が体現でき、社会に求められる人材となる。
1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の習得
2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く
3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける
4. 正しい日本語の運用についての知識の習得

《授業計画》

1. オリエンテーション どこでも誰にでも伝わる「ことば」の力について
2. 人と人との関係の第一歩 挨拶からスタート！
3. 発声と発音Ⅰ 腹式呼吸による発声、日本語の発音のしくみ
4. 発声と発音Ⅱ 発音の基本 母音・子音の理解と実際
5. 発声と発音Ⅲ 正しく話す豊かな表現方法
6. 敬語Ⅰ 敬語の種類、具体的な使い方
7. 敬語Ⅱ 尊敬語、謙讓語、丁寧語、特別なかたち
8. 敬語Ⅲ 美化語、相手や第三者への敬語、間違いやすい例
9. 美しい言葉の使い方は？話し方、聞き方
10. わかりやすく正しく話す表現について
11. 相手の心をつかむ話し方
12. 今までに学んだことを振り返り、問題にチャレンジ！
13. スピーチⅠ 自己PR 作成
14. スピーチⅡ 自己PR 発表
15. 総まとめ

《成績評価の基準・方法》

授業の取り組み状況 (30%)、小テスト (30%)、授業中課題 (20%)、授業中発表 (20%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

復習として、前回授業時の配布資料を読んでおくこと。および、別途授業時に示した実践の要点について配布資料をもとに振り返り、練習や課題作成を進めること。

清和気品の文化(華道)

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 秀平 彩華

《授業の概要》

花、花器、水、鉢、いける人が一体となってこそ「いけばな」であるという考えのもと、嵯峨御流を基本にして講義と実習を行う。講義では、華道の歴史から花の扱い方や基本の花形についての知識、実習では、嵯峨御流の基本型を身につけていただき、生活に役立つフラワーアレンジメントの実技も行う。希望者は入門・初伝を取得できる。

《学生の到達目標》

日本の伝統文化である「いけばな」の基本、花と道具の扱い方、いけばなの基本形と約束事など華道の流派に共通する基礎知識と技術を礼儀作法と共に身に付け実生活に生かすことのできる力を養うことを到達目標とする。

《授業計画》

1. 講義 オリエンテーションと華道を学ぶ心構え
2. 実技 花の扱い、道具の扱い
3. 実技 生花から作る手作りプリザーブドフラワー
4. 実技 花材の活用～小さな花束
5. 講義 華道の歴史と嵯峨御流の花型について
6. 実技 嵯峨御流 心粧華
7. 講義 嵯峨御流 伝承花 盛花、瓶花について
8. 実技 嵯峨御流 伝承花 盛花
9. 実技 嵯峨御流 伝承花 瓶花
10. 講義 フラワーアレンジメントについての基礎知識
11. 実技 フラワーアレンジメントの基本型
12. 実技 フラワーアレンジメントについての応用作品
13. 講義 嵯峨御流 伝承花 飾盛体と色彩について
14. 実技 嵯峨御流 伝承花 飾盛体
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

筆記試験(50%)、毎回の実技の習得度および授業に取り組む姿勢(初回授業で説明)(30%)、ノートとプリントのファイル提出(20%)

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

講義の目的は、花に親しみいけばなを実生活で役立たせることを第一とし、礼儀・作法を身につけていただくことです。【授業前の心得】講義内容を予習し、実技の場合は花器や花材について調べをしてイメージを膨らませます。事前準備が理解度をより深めます。【授業後の心得】持ち帰った花材を使い何度もいけなおしてみます。この積み重ねにより感性に磨きがかかり、繰り返し花と向き合うことが上達につながります。

清和気品の文化(茶道)

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 中田 宗佳

《授業の概要》

400年以上もの長い歴史を通して、洗練され、伝承されてきた表千家茶道を学ぶ事により、日本の伝統文化の素晴らしさに触れ、一期一会、和敬静寂で表される茶の心を探求します。和の心・礼の心を学び、無駄のない美しい所作、立居振る舞いを学びます。客の心得と作法に重点をおいた演習主体の授業になります。希望者は、表千家「入門・相伝」資格を取得することができます。

《学生の到達目標》

美しい立居振る舞いを身に付け、茶席での客の基本的な作法を習得する。茶室のしつらえや作法の流れを理解する。茶道の精神を理解し、日常生活にも通じる感性を育てる。

《授業計画》

1. 受講心得、茶道の歴史、表千家流茶道について
2. 立居振る舞いの作法 干菓子のおたき方
3. 菓子器の扱い、主菓子のいたき方
4. 薄茶のいたき方
5. 袱紗さばきと使い方
6. 茶巾の扱い方
7. 茶筌について・薄茶の点て方
8. 茶の心
9. 茶道具について
10. 薄茶を点てる・略点前
11. 席入りの作法
12. 茶会とは、茶会での挨拶
13. お茶会
14. 実技テスト(お菓子、薄茶のいたき方)
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

受講心得の遵守、提出物等60% 実技テスト/確認テスト40%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：抹茶、お花、書道、和菓子、四季の変化やおもてなし等、興味のある事の一つ見つけて授業に参加してください。総合芸術と言われている茶道が、より身近に感じる事ができます。事後学習：授業での所作や季節の風情等を思い出し、日常生活に気持ちのゆとりを持ち、機会があれば大番せのお茶会等に出かけ、日本の伝統文化に触れてみましょう。

キャリアデザイン演習

1 年次(半期)
1 単位 (演習)
資格 なし
担当 湯浅 嵩晃, 現生専任教員

《授業の概要》

卒業後の進路決定から企業受験時の選考対策、就職後のライフプラン等について、実践的な演習を通して考えることを目的とする。なにを目指し、どこに就職し、どのような人生を歩んでいくのか。それをこの2年間で、必死に考えなければならぬ。そのためには、これまでの人生をふり返り、自分がどのような人物であるか整理する必要がある。なにができて、なにを求め、どのように働いていきたいのか。これまでの自分を理解して初めて、これからの自分が見えてくる。そしてそれこそが、企業の選考を突破する鍵である。グループワークやディスカッション等のアクティブラーニングを通じて、自己分析から内定獲得までの対策を集中的に実施していく。

《学生の到達目標》

「自己理解」については、自己分析シートの作成を中心に進め、わかりやすい構文と正しい書き言葉で自分の特徴を文面で相手に伝えられるようになることを目標としている。また、インターンシップの課題設定と絡めた声紋分析等のツールを活用し、自分の資質や強みの発見・追認を行うことで、自己理解を深めていく。「筆記試験対策」については、毎回算数の宿題を実施し、正課外の筆記試験集中講座を終了、3月以降の筆記試験選考を突破できる得点率を確保することを目標としている。「面接対策」については、自分の長所や学生時代取り組んだことなどを口に出して相手に伝える機会を随所に設けており、それにより、自信を持って他者に自分について話せるようになることを目標としている。

《授業計画》

1. 就職ガイダンス&今後のスケジュール
2. 業種職種理解&インターンシップについて
3. マインドマップ作成
4. 自己分析講座(声紋分析について)
5. 自己分析シート作成
6. 自己分析の方法
7. 履歴書の書き方
8. 履歴書作成①
9. 履歴書作成②
10. エントリーシート対策テスト
11. グループディスカッション対策
12. 面接対策
13. 求人票の見方・説明会の受け方・求人票システム説明会
14. ライフプラン考察
15. 筆記試験および今年度就活準備レポート作成

《成績評価の基準・方法》

総括レポート(50%) ・宿題等提出状況および授業への貢献度(50%)

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

毎回の宿題を必ず提出すること。また、本授業では、選考の予備知識の習得と、就職活動の進め方を体得することを目的としており、この授業だけで十分な対策ができるわけではない。授業で渡すワーク類も、自宅での復習にて初めて書き終える分量となっているものもある。就職活動は自分で推し進めていくものであることを十分に理解し、授業内外のツールを用いて積極的に取り組んでいくこと。

キャリアデザイン演習

1 年次(半期)
1 単位 (演習)
資格 なし
担当 前崎 卓, 湯浅 嵩晃, ★多田 鈴子

《授業の概要》

自分自身の将来としっかり向き合うために、自己分析の手法を通じて、自らの考え方を明確にするとともに、物事に対する視野を一層広げること、(自分)というものを冷静に捉え、自己のキャリア形成のイメージを描く。次に就職先の選定および応募から採用試験に至る一連の就職活動の実践的な知識と方法を学ぶことにより、自己のキャリア形成に必要な態度・能力を育成することにより、園長・施設長や本学卒業生など現職の保育者等による生の声を聴く機会を取り入れることにより、実際の教育・保育現場に対する理解をよりいっそう深め、勤労観・職業観の醸成を図る。

《学生の到達目標》

以下の段階をクリアすることを到達目標とする
1. 職業観・勤労観の醸成：キャリアの意味、および、望ましいキャリアの実現に向けて在学中に必要な行動を自覚し実践する
2. 専門知識の習得：園や施設等で働く保育従事者として必要な知識を身につける
3. 自己分析のブラッシュアップ：自身の経験や実績を見つめなおし、自らの長所や強みを捉えなおす
4. 文章作成の上達：上記1-3について、読み手に伝わる文章を書くことができる
5. 選考知識の獲得：履歴書・筆記試験・面接の各段階における要点を知り、提出課題等に反映することができる

《授業計画》

1. 「キャリアとは、キャリアデザインとは?①」～総論～
2. 「キャリアとは、キャリアデザインとは?②」～就職?進学?～
3. 「福祉施設の仕事」～現職施設長、卒業生による施設現場の紹介～
4. 「お金に関する基礎知識を学ぶ」～社会人として自立するためのヒント～
5. 「就活基礎演習①」～自己分析、自己理解その1～
6. 「就活基礎演習②」～自己分析、自己理解その2～
7. 「就活基礎演習③」～履歴書作成の基礎知識その1～
8. 「就活基礎演習④」～履歴書作成の基礎知識その2～
9. 「就活基礎演習⑤」～採用試験とはこんなもの 筆記試験編～
10. 「就活基礎演習⑥」～採用試験とはこんなもの 実技試験編～
11. 「就活基礎演習⑦」～面接試験の基礎知識その1～
12. 「保育・教育の現場を学ぶ」～現職保育者による教育・保育現場の紹介～
13. 「卒業生から就職活動を学ぶ」～現職保育者(卒業生)からのアドバイス～
14. 「就職フェアディレクターから就活情報を聞く」～直前のアドバイス～
15. 「キャリアデザイン演習まとめ授業」～さらにスキルアップを～

《成績評価の基準・方法》

各回授業後に提出される演習シート、課題レポートの各評価点の合計により成績を決定する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

当日の授業内容に応じた課題やレポートの作成を適宜指示する。これは学習内容の復習となるだけでなく、自分自身を振り返り、気持ちや考えを客観的に整理すること(自己分析・自己理解)となり、また将来のキャリア形成を考える上でたいへん重要な気づきへとつながるため、必ず積極的に取り組むこと。なお作成に際しては、常識ある社会人となるためのトレーニングの一環であることを認識の上、真剣な態度で丁寧に作成することを求める。

日本語表現 A

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 なし
担当 萩原 省吾

《授業の概要》

短大生にとってこれからの学生生活は、社会で評価される専門知識や技能を身につける場であるとともに、小・中・高と学んできた知識を、これからの人生に役立つ真の知恵とするための総仕上げの場でもある。中でも日常生活や職場で「常識」として求められることの多いのが国語の知識であり、その力が本当に試され、必要とされるのはむしろこれからである。この授業では、社会でのそうした要求に応えられる「地アタマ力」としての日本語能力を、これまでの国語学習の内容を短大レベルのより高度な視点から整理したうえで、教科書やプリントの問題を解くことによって実践的に身につけてゆく。これまで国語が得意だった人も嫌いだっただ人も、日々の地道な積み重ねによって必ず成果が出るので、毎回気を抜かずコツコツと授業に取り組んでほしい。

《学生の到達目標》

前期は一般常識問題として入社試験や採用試験等で必ず出題される漢字や熟語、慣用句などについて、単なる丸暗記でなく、理論的に整理して効率よく習得していけるように、日本語の表記や文法、語彙に関する正確な知識に習熟することを旨とする。そのことによって、短大を卒業した一人前の社会人として正當に評価されるだけの漢字知識や語彙力を養い、それらを自在に駆使しうる日本語の実力を身につけることを目的とする。

《授業計画》

1. 受講上の諸注意その他
2. 漢字の構造と部首①
3. 漢字の構造と部首②
4. 同音異義語①
5. 同音異義語②
6. 同訓異義語①
7. 同訓異義語②
8. 複数の音訓をもつ漢字
9. 熟語と熟字訓①
10. 熟語と熟字訓②
11. 四字熟語①
12. 四字熟語②
13. 慣用表現の使い方①
14. 慣用表現の使い方②
15. 前期のまとめと復習

《成績評価の基準・方法》

提出物の評点等による平常点50%+定期試験の評点50%。定期試験は授業で扱った問題からセレクトしたものに、一部応用問題も加えて課す。

《授業で使用する教科書》

・丸山顕徳「キャリアアップ国語表現 二十一訂版」嵯峨野書院

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

受講に当たってはスマホのアプリだけでなく図書としての字書・国語辞典の携帯が望ましい。それらを用いて教科書の問題を事前に予習しておくことは自由であるが、提出に際しては授業中の解説を聞いて適宜修正するようにしてほしい。提出物は採点して返却するが、誤答分を修正して再提出することを求める場合がある。平常点が50%あるので、定期試験で高得点を取るだけでなく毎回の授業にしっかり出席して真面目に問題に取り組む姿勢が必要である。

日本語表現 A

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 保
担当 河野 千穂

《授業の概要》

短大での学習活動や社会生活の様々な場面で必要となる「日本語の力」の向上をめざす。後期では、より実践的なコミュニケーションの場面で必要となる「口語表現と文書表現の基本的な運用能力」について学び、実習から就職活動に至るまでの各場面で役立つ日本語能力の育成を定めていく。授業進度にもよるが、発表やグループ討論などのアクティブラーニングも行う予定である。

《学生の到達目標》

正しい日本語表現の理解、漢字や四字熟語など基礎知識の習得と、それらを基にした上で自分の考えを適切な表現で話したり書いたりすることができることを目標とする。

《授業計画》

1. 授業での留意点・簡単な発表（自分の話す力を知る）
2. 基本的な文章のルール
3. お礼状の書き方
4. 電話のマナーと話し方
5. 実習の感想や反省点を文章にまとめる
6. 発表（前半）
7. 発表（後半）
8. 時事問題について考える
9. 時事問題について自分の意見をまとめる
10. グループ討論(1)
11. グループ討論(2)
12. 敬語表現
13. レポートの書き方
14. 小レポートの作成
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

提出物50%、発表内容30%、授業貢献度20%

《授業で使用する教科書》

・米田明美他「大学生のための日本語表現実践ノート」風間書房

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

授業中に配布した課題は必ず次の授業までに作成し、添削された箇所については復習すること。また、グループ討論で時事問題を扱うので、普段からニュースなどに目を通しておくこと。

日本語表現 B

1 年次(半期)
1 単位 (演習)
資格 なし
担当 萩原 省吾

《授業の概要》

職業人としても家庭人としても、これからの人生で大人として求められる日本語表現は、これまで授業の中でほぼ完結していた学生・生徒としての国語表現とは違い、単なる個人の才能や個性によるだけでなく、社会の中で通用している様々な習慣やしきたり、各文書の書式など形式的なルールに適合したものでなければならない。こうした形式的な文章力は、普段フィインやメールで親密な者同士でやり取りをしたり、SNSに気ままに投稿しているだけでは身に付かない。この授業は、社会に出てから様々な場面で困ったり恥をかいたりすることが無いように、社会人としての基本的な文章表現のマナーやルール、エチケットを、教科書やプリントの問題演習を解いたり、実際に文章を書くことによって身に付けておこうというものである。このため、授業では書き言葉や文章表現を主な学習内容とするが、助動詞や助詞の誤用や敬語など、一部は話し言葉にも共通する事項も取り上げる。

《学生の到達目標》

仮名遣いや送り仮名について、定められたルールに基づいて正しく使いこなせる能力を身に付ける。若者に多い日本語の誤用についても、それらがなぜ間違っているのかを理解したうえで正しい語法を用いることができる判断力を養う。また、日本語の社会的運用の要となる待遇表現を学び、日常的に正しく敬語を使うようになるとともに、相手の社会的位相や目的、時節に適合した表現を適切に選択して形式の整った手紙や文書を書くための知識を身に付ける。これらのことを通して、言いたいことが正確に伝わり、読む人に対する配慮も行き届いた、社会人として洗練された文章が書けるようになることを目標とする。

《授業計画》

1. 受講上の諸注意その他
2. 仮名遣いと送り仮名のルール
3. 仮名遣いと送り仮名の実際
4. 仮名遣いと送り仮名の応用
5. 日本語の誤用①
6. 日本語の誤用②
7. 敬語の種類
8. 敬語の語彙
9. 敬語の使い方
10. 手紙の書き方①
11. 手紙の書き方②
12. 手紙の書き方③
13. 実用的な文章①
14. 実用的な文章②
15. 後期のまとめと復習

《成績評価の基準・方法》

提出物の採点等による平常点50%+定期試験の評点50%。定期試験は授業で扱った問題からセレクトしたものに、応用問題を加えて課す。

《授業で使用する教科書》

・丸山顕徳「キャリアアップ国語表現 二十一訂版」嵯峨野書院

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

提出物は採点して返却するが、手紙や文章については不適切箇所を推敲したうえで再提出を求められることがある。前期と同じく平常点が50%あるので、定期試験だけでなく授業中の課題に真面目に取り組むことが重要であるが、後期は手紙など文章の作成を求めているので、時間内にしっかり書き上げて提出するための集中力が必要である。

日本語表現 B

1 年次(半期)
1 単位 (演習)
資格 保
担当 吉岡 鎮香

《授業の概要》

短期大学生活での学習活動や学外活動だけでなく、社会生活のあらゆる場面で必要となる「日本語力」の向上をめざす。講者の日本語表現力を確認することから始める。その上でテキストを用いた最初の段階では、各講者の日本語表現力の向上を主眼とし、受講者の知識が確実なものとなるようにしたい。後半の段階では、親しみを持って取り組めるようなテーマでのプレゼンテーションやグループディスカッションを行っていき、口頭表現力の向上もめざす。また、九月から実施される実習終了後に送付するお礼状の基礎知識についても学ぶ。

《学生の到達目標》

短期大学で学び、卒業後のキャリアにふさわしい日本語の運用ができることを第一目標とする。まずは、各自があいまいに、あるいは間違っていて定着させてしまっている知識の有無を確認し、正確な知識となること。次の段階では、場面に応じたその場にふさわしい基本的文章表現力と口頭表現力の向上と応用力を身につけること。学生生活や就職活動で使用できる実用的文章表現力、口頭表現力を養うことを目標とする。

《授業計画》

1. 講義の説明・小テスト
2. 自己紹介
3. 敬語 (1)
4. 敬語 (2)
5. 敬語 まとめ・小テスト
6. ビブリオバトル①
7. ビブリオバトル②
8. エントリーシートについて
9. 履歴書の書き方
10. プレゼンテーション①
11. プレゼンテーション②
12. プレゼンテーション③
13. グループディスカッション
14. お礼状の書き方
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

小テスト、提出物、発表課題への取り組み方、授業の受講態度、レポートで総合的に判断する。

《授業で使用する教科書》

・米田明美/蔵中さやか/山上登志美「大学生のための日本語表現実践ノート」風間書房

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

授業時に担当者から説明を行う。

英語コミュニケーションA（現代生活）

1年次(半期)
1単位（演習）
資格 なし
担当 菅 正隆

《授業の概要》

「英語」それ自体はまったく楽しいものではない。「英語を使えて、英語がわかって」はじめて楽しいものになる。中学校及び高等学校で、「英語」はわからない、むずかしいと思ったのは、「英語」に原因があるのではなく、教える教員に問題があったからである。そこで、中学校及び高等学校で学習した「英語」をかなぐり捨てて（すべて忘れて）、新たに、「楽しい英語」「役に立つ」英語を授業の柱とする。実際に使える英語、生活の中で役に立つ英語、笑える英語、癒される英語を実体験して、そして、15回目には「英語が好き」になるマジックにかかることとなる。

《学生の到達目標》

とにかく授業には休まないこと。授業で学んだことは、友達に、家族に、そして知り合いに、知ったかぶりで話ができる内容が満載である。「英語自慢」もできる。そのために、1回でも休むとせっかくのチャンスを逃すことになる。

到達目標は、英語雑学博士、楽しい英語の話ができる人、生活の中で実際に英語を使える人になることである。そのために、これまでの「英語」の授業の悪いイメージを払拭することが最も大事である。特に中学校、高等学校での「英語」の授業が嫌いだった人は、授業内容も、悪い思い出も、先生の顔さえも忘れることが重要である。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 英語とは何か？得体のしれない英語を解剖する。
3. 英語（EIGO）から愛を取ったら、ただのEGO
4. 英語を食べる。
5. 恥をかかない英語
6. すべらない英語
7. 笑える英語
8. 役立つ英語、使える英語(1)
9. 役立つ英語、使える英語(2)
10. 恋する英語、愛する英語
11. 感動する英語
12. 癒される英語、人を助ける英語
13. 人のために英語教材を作ろう(1)
14. 人のために英語教材を作ろう(2)
15. 教材全体発表会

《成績評価の基準・方法》

全体発表会：40%
グループワーク：20%
授業内で実施する小レポート：40%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

さまざまな内容に関して、アイデアを現実化する。中には、商品もあれば教材もある。それらを、自宅で試行錯誤してアイデアを練って、授業に持ち寄る。（時間：毎回60分）

英語コミュニケーションA（総合保育）

1年次(半期)
1単位（演習）
資格 幼・保
担当 菅 正隆

《授業の概要》

現在、小学校においては、中学年（3、4年）で領域の「外国語活動」が行われ、高学年（5、6年）では教科「外国語」が必修として行われている。これを受けて、小学校の低学年（1、2年）でも、独自に「英語」の授業をカリキュラムに取り入れている学校は多い。この状況を受け、現在、全国の幼稚園、保育所、認定こども園等でも、「英語」に触れる時間を保育の中に取り入れているところが約80%以上ともいわれる。そこで、本授業では、多くの学生が、将来、楽しく役に立つ英語の教え方を身に付けるために、子ども達の英語コミュニケーション能力の基礎的な考え方を知り、実際のコミュニケーション活動を通して、指導のテクニックを向上させ、保育の現場で活躍することをめざす。

《学生の到達目標》

「英語」それ自体は楽しいものではない。中学校、高等学校と学習してきた「英語」が実生活で役に立った実感などほとんどない。特に、英語の授業など無駄だったと考える人も多い。しかし、それは、「英語」そのものに原因があったのではなく、「英語」を教える教員に問題があったのである。

そこで、保育の現場で、子ども達に「英語」が楽しい、面白いと感じさせ、実際に「英語」を使ってみたい、話してみたいと思わせることのできる保育者（日本一の指導者）を育成する。

例え、中学校や高等学校の時に、英語が嫌いだったり、苦手だったりしても特に問題はない！この授業を通して、頑張りなくとも、無理しなくとも、立派な指導者になることは簡単なことである。そのためには、休まないこと、それだけで立派な指導者になることは可能である。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 英語の歌(1)
3. 英語の歌(2)
4. チャンツで英語
5. ゲームで英語(1)
6. ゲームで英語(2)
7. 英語の読み聞かせ
8. さまざまな教材・教具作成(1)
9. さまざまな教材・教具作成(2)
10. AIロボットで英語
11. 保育英語指導案作成（1）
12. 保育英語指導案作成（2）
13. 模擬設定保育（英語バージョン）発表会(1)
14. 模擬設定保育（英語バージョン）発表会(2)
15. ふり返りとまとめ

《成績評価の基準・方法》

模擬設定保育：40%
指導案及び教材等：20%
授業内レポート：40%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

本授業では学習内容を踏まえて、復習の時間に練習を積みこむこと。

練習時間：毎回60分程度
ただし、第11回目以降は、模擬設定保育発表に向けての準備を毎回90分程度行うこと。

情報処理演習 A

1 年次(半期)
1 単位 (演習)
資格 医療
担当 中津 功一郎

《授業の概要》

IT時代の情報活動を効率的に行うための基本的な情報リテラシの習得を目指す。内容は、①Wordによる文書作成、②インターネットの利用法について幅広く学ぶ。Wordの利用においては、単に入力するだけでなく、デザインや見栄えなどレイアウトを学生自ら考える。さらに、自ら考えたデザインを実現するための効率的な作成方法を学ぶ。また、Internetの利用法については、電子メールやネットリテラシーだけでなく、情報を見つけて出すための効率的な方法を学ぶ。

《学生の到達目標》

この授業では、コンピュータの利用法についての講義を通じて、情報を扱うための基礎知識を得ることが出来、情報を扱うための技術が習得できる。具体的には、授業を通じて、以下の能力を身につけることを目的とする。①PCを扱う上で不便を感じないタイピング能力を身につけることが出来る。②伝えたい事を分かりやすく、Word文書として伝えるための方法を身につけることが出来る。③インターネット上で的確な情報を素早く身につけることが出来る。

《授業計画》

1. 授業のガイダンス
2. Windowsの基礎とWordの基本操作① (既存ファイルの利用と保存、文章入力)
3. Wordの基本操作② (画像を用いた文書作成)
4. Wordの基本操作③ (表の作成と罫線の利用)
5. Internet基礎① ブラウザの利用と検索
6. Internet基礎② 電子メールの利用
7. Internet基礎③ googleの利用とネットリテラシー
8. PowerPointの基本操作① (PCで絵を描く・マウスを使いこなす)
9. PowerPointの基本操作② (PCで絵を描く・ショートカットキーの習得)
10. PowerPointの基本操作③ (PCで絵を描く・作業効率を高める)
11. Word応用① ビジネス文書の作成 (社内文書)
12. Word応用② ビジネス文書の作成 (社外文書)
13. Word応用③ 業務マニュアルの作成のために
14. 最終課題 ポスターの作成
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

この授業は演習形式の授業であるため、毎回課す、授業内容を確認するための課題により評価する。(60%)課題については、未完成であったり、課題としての評価が低いものに関しては、教員からの注意点を踏まえ、再提出を行うこととする。再提出に関する評価を10%とする。また、最終授業において、応用問題を最終課題として課す。最終課題の成績を30%とする。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：配布資料に目を通しておく。事後学習：授業中の応用問題を課題とするので、自ら考えて課題をクリアしていく必要がある。

情報処理演習 A

1 年次(半期)
1 単位 (演習)
資格 幼・保
担当 藤田 朋己

《授業の概要》

保育・幼児教育現場においては、ICT機器活用が不可欠となっている。また、仕事や保育を進める上で、効率よく時間を使い、効果的な活用を実現するスキルも求められている。本授業では、筆記用具と同じくICT機器を扱うスキルと、効率的に業務をおこなうスキルの向上を目指す。ICT機器はあくまで道具である。特に表現する道具として利用する場合は、個の感性やものごとの捉え方が問われるとともに、第三者に対して伝えたい内容が、正確かつわかりやすく表現できるかが重要である。個の感性を磨くとともに、多方向からものごとを見る広い視野の育成もおこなう。そのため、他者と成果物を相互評価する場面を設け交流を図る。

《学生の到達目標》

ICT機器を道具としての的確に操作するスキルを身につけるとともに、ICT機器を効率よく正確に操作できるスキルの獲得を目標とする。また、何かしら作成物を作成する際には、それを手にする第三者の視点に立ち、デザイン・構成等を考えなければならない。自身の感性を磨き、広い視野でものごとを多方向から見ようとする姿勢を身につけることも目標とする。実施にあたっては、学生同士で成果物を評価し合う場面を設ける。他者の成果物から学びを得るとともに、他者に感想を伝え、アドバイス等の対話をおこなうことで、評価者としての視点を育むことも目標とする。

《授業計画》

1. 授業計画・学内環境の理解
2. 自己紹介カード作成演習
3. 自己紹介カードを用いた交流 (交流・相互評価)
4. 印刷素材提供サイト・折り紙サイトの活用
5. Wordの基本操作・既存ファイルの利用
6. 段組み・段落罫線を用いた作成演習 (童謡歌詞カード作成)・手遊びサイトの活用
7. 歌詞カード作成演習1 (作成)
8. 歌詞カード作成演習2 (作成・冊子印刷)
9. 歌詞カード作成演習3 (冊子印刷・交流・相互評価)
10. 絵文字レター作成演習・イラスト提供サイトの活用
11. ドキュメンテーション
12. ドキュメンテーション (作成・交流・相互評価)
13. Webからの情報収集・整理・発信 (スクリーンキャプチャー)
14. おたより作成演習1
15. おたより作成演習2 (既存ファイルに変更を加える)

《成績評価の基準・方法》

本授業は演習授業である。授業時の説明を聞いた上で課題に取り組み、その課題を提出することが最も重要である。提出された課題については、修正点等のコメントをつけた上で返却する。指摘された点に注意して、以後の課題に反映して欲しい。

評価方法としては、演習への取り組み姿勢や課題への向き合い方に対する評価 (30%)・課題評価 (60%)・最終レポート (10%)とする。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

伝えたいことをわかりやすく、正確に伝えるためのスキルを身につけるために、普段の生活の中で自らにしているものに意識を持って接して欲しい。また、常に自身の感性を磨き、ものごとに対する視野を広げる努力も重要である。事前学習として、これらのことを意識することを願う。提出課題については、評価とコメントをつけて返却する。事後学習として、指摘された内容を理解し、今後の演習に活かす努力を願う。

英語コミュニケーションB（現代生活）

2年次(半期)
1単位（演習）
資格 なし
担当 菅 正隆

《授業の概要》

社会に出るにあたって、役に立つ英語、恥をかかない英語、英語を得意とする人に見せる話し方など、一般には学校で教えない英語を伝授する。社会人として基礎となる英語の表現、旅行で役に立つ、騙されない英語を身に付けることを目的とする授業である。そして、最後には、英語によるミュージカルを通して、自己表現活動の集大成とする。しかも、楽しく、笑いながら英語をマスターしていく。何のプレッシャーも感ずることなく、いつの間にか英語が使えるようになるマジックにかかることとなる。「英語」を学ぶことは、本来楽しいものではない。学ぶのではなく、楽しむ姿勢で授業に参加していただきたい。

《学生の到達目標》

「英語」は使えて、わかって、初めて価値のあるものとなる。ただただ教科書で、文法や訳読をしても、ほとんど身に付いていないのは、使う機会も興味もなかったからである。しかも試験や入試を目的とした英語の授業は、「百害あって一利なし」である。中学校や高等学校で習った授業のことは忘れて、また新たにスタートしましょう。楽しく笑いながら授業に参加すること、授業を休まないことで、英語を抵抗なく受け入れることができる。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. すべらない自己紹介、笑える他己紹介
3. 英語ほど簡単な言語はない
4. 笑える英語
5. すべらない英語
6. 恥をかかない英語
7. 旅行で失敗しない英語のテクニック
8. 友達になるための英語のテクニック
9. 英語のできる人と思わせるテクニック
10. 英語で歌を歌う
11. 英語で踊る
12. 英語によるミュージカル準備(1)
13. 英語によるミュージカル準備(2)
14. 英語ミュージカル発表会(1)
15. 英語ミュージカル発表会(2)

《成績評価の基準・方法》

英語ミュージカル発表会：40%
ペア・グループでの活動：20%
授業時間内的小レポート：40%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

・復習を重視してください。使えるようになるためには、もう一度、自分の口と耳で繰り返すことが重要です。（復習：毎回60分）
・英語ミュージカルでは、発表までの2週間は、毎日60分程度の練習をしてください。

英語コミュニケーションB（総合保育）

2年次(半期)
1単位（演習）
資格 幼・保
担当 宮崎 康支

《授業の概要》

英語は事実上の世界共通語である。日本国内においても外国にルーツを持つ子どもおよび保護者が増加していることや、小学校における英語教育の導入などが相まって、幼児教育・保育の現場で英語使用のニーズが高まっている。そのような状況において学生が幼児教育・保育現場において英語を用いた職務、活動を、自信をもって行えるようになるべく、おもに次のことを体験的に学ぶ。1つ目は、教科書を用いた幼児教育・保育に関係した基本的な英語表現の学習である。2つ目は、英語による絵本の読み聞かせや歌唱指導の技術の取得である。3つ目は、保育・教育の今日的な問題について英語で短いスピーチ（一人3分間）とグループディスカッションの実施である。これにより、自分の意見を英語で表現できるようになることを目指す。なお、授業は英語と日本語を併用して行うが、基本的な指示は英語で行う予定なので、学生はそれに英語で応答できるように努める必要がある。

《学生の到達目標》

1. 学生が、英語でためらいなく子どもや保護者に対してあいさつ、様子の伺い、基本的な指導などを行うことができる
2. 学生が、英語でためらいなく絵本の読み聞かせや歌唱指導の実施ができる
3. 学生が、保育・幼児教育についての自分の意見を英語でためらいなく述べることができる

《授業計画》

1. 授業の進め方の説明/ Pre-unit
2. Unit 1/ 英語によるこどものうた（グループ分けと練習）
3. Unit 2/ 英語によるこどものうた（グループ1披露）
4. Unit 3/ 英語によるこどものうた（グループ2披露）
5. Unit 4/ 英語による絵本の読み聞かせ（グループ分けと練習）
6. Unit 5/ 英語による絵本の読み聞かせ（グループ1披露）
7. Unit 6/ 英語による絵本の読み聞かせ（グループ2披露）
8. Unit 7/ 英語による絵本の読み聞かせ（グループ3披露）
9. Unit 8/ 英語ディスカッション（進め方の学習）
10. Unit 9/ 英語ディスカッション（グループディスカッション1回目）
11. Unit 10/ 英語ディスカッション（グループディスカッション2回目）
12. Unit 11/ 英語スピーチ（準備についての学習1）
13. Unit 12/ 英語スピーチ（準備についての学習2）
14. Unit 13/ 英語スピーチ（グループ1披露）
15. Unit 14/ 英語スピーチ（グループ2披露）

《成績評価の基準・方法》

教科書を用いた活動における正確さと積極性（リフレクションシートの内容を含む）：20%、英語の歌の披露における質と積極性：20%、英語絵本の読み聞かせにおける質と積極性：20%、英語ディスカッションにおける質と積極性：20%、英語スピーチにおける質と積極性：20%。期末試験は課さない。

《授業で使用する教科書》

・土屋麻衣子「Happy English for Childcare 保育のための基礎英語」金星堂
他、適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：教科書の課題は授業前に解いておくこと。授業内で答えあわせを行う。読み聞かせ、歌、ディスカッション、そしてスピーチについては授業外での練習が求められる。練習の手順や方法については授業内で説明する。事後学習：時間の許す限りにおいて、教科書で学んだ内容を、音声データ（音声のダウンロードの方法は初回授業で説明する）も活用しつつ音読すること。英語の発話能力はできるだけ多くの量を集中して聴き、声に出すことで伸ばすことができる。

現代生活學科

現代生活基礎演習

1 年次(半期)
1 単位 (演習)
資格 なし
担当 中津 功一郎, 小林 孔, 村上 真樹

《授業の概要》

本演習は現代生活学科各コースに共通する初年次教育科目として位置づけられる。ただ、一般に言われる初年次教育に含まれるような、ノートのとり方やレポート作成のノウハウを学ぶものではない。また、高等学校での授業科目の補習を行うものでもない。並行して始まっている各講義及び、やがて始まる就職活動を含む社会生活全般において、様々な生起する問題にどう取り組んで行けばよいか、その手がかりを発見することを、本講義は主眼に置く。本講義を通じて、ジェネリックスキルあるいはメタ認知能力を向上させ、短期大学での2年間の課程だけでなく、卒業後においても、自ら考え判断する力を養う最初の一步を踏み出してもらいたい。

《学生の到達目標》

本演習では、ジェネリックスキル=汎用的技能(一般にはメタ認知能力と呼ばれる)の重要性を認識することを最大の目標とする。そのため直ちに成果を求めるものではない。この技能に含まれる要素を自ら意識できるかどうかが課題となる。本来各自が持っているはずのこの能力向上のために、三つのステージが用意され、そこで問題を解決してもらおう。それによって、問題把握の糸口の発見、論点整理のための分類の実践、適切に問題解決するための手順の組み立て方などを、様々な作業に基づいて体感してもらおう。到達すべき目標に対する達成度は、本演習でのみ測れるものでなく、現代生活学科全開講科目において、受講者各自が日々確かめて行くことになる。

《授業計画》

1. オリエンテーション [この授業では何を学ぶのか?]
2. ジェネリックスキル養成の基礎(1)問題解決手順 (アルゴリズムということ)
3. ジェネリックスキル養成の基礎(2)問題解決手順 (最適化の重要性)
4. ジェネリックスキル養成の基礎(3)総括と導入 (分類の基礎理解に向けて)
5. ジェネリックスキル養成の基礎(4)分類と階層と繋がり (区分と要素の分析から)
6. ジェネリックスキル養成の基礎(5)分類と階層と繋がり (部分と全体の把握)
7. ジェネリックスキル養成の基礎(6)前半総括とプレゼンテーション
8. ジェネリックスキル養成の基礎(7)前半総括とプレゼンテーション
9. ジェネリックスキルの実践(1)音声情報の要約
10. ジェネリックスキルの実践(2)映像情報の要約
11. ジェネリックスキルの実践(3)書記情報の要約
12. ジェネリックスキルの実践(4)書記情報の要約
13. ジェネリックスキルの実践(5)書記情報の要約
14. 現代生活基礎演習の総括(1)振り返りレポートによる自己検証
15. 現代生活基礎演習の総括(2)提出レポートに基づく授業内容の再確認

《成績評価の基準・方法》

各ステージでの受講者の取り組み方およびその結果に基づいて評価を行う。第1ステージではアルゴリズムの最適化のための課題(25%)について、第2ステージでは学術用語等の分類と階層化のための課題(25%)に基づいて、第3ステージでは「要するにどうということ？」を意識するための課題を提示する。(50%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

本演習では、大学で学ぶとはどういうことかについて焦点が絞られるので、高等学校までの授業への取り組み方をいったん忘れて臨んでほしい。それが事前学習になる。事後学習としては、演習で学んだ知見を、他の受講科目や自らの社会生活に当てはめて考えることを求める。本演習で体感したことに基づき、科目の垣根を越えて、外へと視線を向けることが最大の事後学習となる。

現代生活応用演習

1 年次(半期)
1 単位 (演習)
資格 なし
担当 中津 功一郎, 小林 孔, 村上 真樹

《授業の概要》

本講義は、1 年次前期開講の「現代生活基礎演習」の応用編として位置づけられる。前期で意識してもらったジェネリックスキル(汎用的技能)の実践を、いくつかの課題に集約して、深化させることを目指す。特に、①相手の話を理解し、②まとも、③自分の意見を加え、④効果的に伝えることを身につけてほしい。図書館探索において、調査すべきことを的確に把握し、要約することから始め、就職活動で求められるエントリーシートを素材にして、自己に関する情報をいかにまとめ、活用するか、企業情報を題材にして、そこから何を読み取り、効果的なプレゼンテーションを行えるかを体験し、今後の学生生活と社会生活に役立ててもらいたい。

《学生の到達目標》

本演習では、自分の考えを簡潔で、分かりやすい文章に表現し、公の場で表現できる技能を身につけることができるかが、一つの目標となる。同時に、コミュニケーションの場面で過不足なく相手のメッセージを聞き取り、そのポイントを的確に把握できるようになることも目標となる。また、企業情報を通して、現代社会への視野を広げ、その中に自分自身をどう位置づけるかを考えてもらいたい。

《授業計画》

1. 現代生活応用演習では何をやるか? (現代生活基礎演習の振り返りから)
2. ジェネリックスキルの実践(1)図書館探索への導入 (観点と鍵語について)
3. ジェネリックスキルの実践(2)図書館探索の実践 (観点を整理と分類)
4. ジェネリックスキルの実践(3)図書館探索の実践 (観点を改めて見てみるということ)
5. ジェネリックスキルの実践(4)図書館探索の実践 (発表資料の作成)
6. ジェネリックスキルの実践(5)図書館探索の実践 (論点の整理と資料の補足)
7. ジェネリックスキルの実践(6)図書館探索の実践 (図書館探索結果の発表)
8. コミュニケーションの実践(1)自分の分析と相手の分析 (エントリーシートを素材に)
9. コミュニケーションの実践(2)自分の分析と相手の分析 (企業情報へのアプローチ)
10. コミュニケーションの実践(3)PCで情報を整理し、エントリーシートにまとめてみる
11. 企業情報の探索とプレゼンテーションの準備(1)
12. 企業情報の探索とプレゼンテーションの準備(2)
13. 企業情報の探索に基づくプレゼンテーションI
14. 企業情報の探索に基づくプレゼンテーションII
15. プレゼンテーションに対する講評と現代生活応用演習の総括

《成績評価の基準・方法》

本演習は3つのステージに分かれるが、第1ステージでは学術図書館の蔵書を利用して、教員の提示する問題について、二人一組で相互理解を深めつつ、資料を調査し、整理し、報告できるか、そのプロセス全体を評価する。(40%)
第2ステージでは、エントリーシート作成を利用した提出物によって、自己分析に関わる記述能力の確認を行い、これを評価に代える(20%)。第3ステージでは、企業情報の分析結果(指定する企業のホームページを素材とする)を報告してもらい、その成果について評価する(40%)。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

「現代生活基礎演習」において体感した事柄を再考することが、実質的な事前学習となる。また、本演習の性格上、提示された課題に対処することが、結果として事後学習になってくる。また、文章の要約課題やエントリーシートの記述等については、受講者の個々の求めに応じて別途助言や添削を行うので、これに積極的に取り組み、事後学習を主体的に充実させてほしい。

現代生活論

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 なし
担当 ★奥田 晶子, ★長橋 幸恵, 大江 由起

《授業の概要》

社会環境、生活環境が変化する中で、自らの価値観を見出し、主体性をもって社会と関わるための基礎知識を学ぶ科目です。最初の5回は他人や社会との関わりの中で、将来の目的を達成するためにどうしたらよいかを考え、実践できる知識について学びます。衣生活では、衣類の働きを考え、健康的で快適な衣生活を送る力を養うとともに、身だしなみや、衣服の整え方について学びます。暮らしを支える住生活では、日本の特徴的な住空間や住み方について紹介したのち、住まいや住環境を快適に維持し、健康で安全な住環境を実践するにはどうすればよいか考察します。さらに近年の家族の変化の中で豊かな住生活とは何かについて考えます。

《学生の到達目標》

- ・自らのライフスタイルをマネジメントできる基礎力を身につける。テーマにそった小グループでの話し合いを通して、テーマについて理解することができる。他人との関わりの中で、摩擦の少ないコミュニケーションについて理解することができる。
- ・衣服を着る意味を理解し、文化的な衣生活を送る知識を身に付ける。衣服の素材や性能、取り扱いについての知識を得て、健康的で快適な衣生活を送る知識を身に付ける。
- ・生活者の視点から住まいに対する関心を持ち、快適に維持し、かつ安全に暮らしていくための問題意識をもつことができる。真に豊かな住生活とは何か、自分の住まい、身近な住生活に引き寄せて主体的に考える姿勢を養うことができる。

《授業計画》

1. コミュニケーションのとり方 ～アクティブリスニング～
2. コミュニケーションのとり方 ～他人との意識疎通をスムーズにするために～
3. 働く意義について考える (グループワーク)
4. あなたの価値感について知る
5. あなたの人生を設計してみよう ～ライフプランニング表の作成～
6. ヒトはなぜ装うのか (グループワーク)
7. 衣服と文化 ～ファッションとマーケティング～
8. 環境と衣服
9. 衣服の選択と身だしなみ
10. 衣類の管理と整理収納 ～繊維別の洗濯と整理収納法～
11. 日本の住まいの特徴と住生活上の課題 ～床座と椅子座・はきものを脱いだ生活～
12. 安全な住まい ～家庭内事故と住宅内の安全対策～
13. 住まいの室内環境 ～音環境・光環境・温熱環境～
14. 住まいの選択と住生活の管理 ～家族の変化と多様な住まい～
15. 体験型授業 (見学授業) ～理想の住まい～

《成績評価の基準・方法》

3人の教員で1/3ずつ評価します。
第1～5回：授業内外で取り組んだ課題や提出物50%、授業への参加貢献度50%
第6～10回：授業内外で取り組んだ課題や提出物50%、授業への参加貢献度50%
第11～15回：授業内外で取り組んだ課題や提出物40%、授業への参加貢献度60%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：日ごろから広く社会問題、生活問題、住まいや住環境にかかわることがらに関心を持ち、新聞やニュースなどから今目の前の問題、特に若い女性の労働に関するニュースや新しい住まいの問題をとりあげた記事に注目してください。また、日ごろから自己表現のための服装にも意識し、他の女性の服装にも注目してください。
事後学習：授業内容を振り返り、必要に応じて課題に取り組みましょう。

食生活論

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 7-F[®]
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

現在わが国民の死因は、食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣と関係するものが一位を占めており、健康の維持増進・疾病の予防に、生活習慣が大きく影響を与えている。疾患の治療(二次予防)や早期発見(一次予防)よりも、こどもの頃から健康的な生活を心がけ、病気になることを予防(一次予防)する事が重要である。健康で長生きするための生活習慣とくに食習慣について重要な事柄を学ぶ。

《学生の到達目標》

栄養の基礎知識を理解し、栄養の不足、偏りが、健康をどのように阻害するかを理解する。現代日本の食生活が取り巻く様々な問題点に関心を持つことができる。女性として母性としての食生活にも関心を持ち、一生にわたって健康で豊かな食生活を営むための知識を身につけることが出来る。

《授業計画》

1. 食生活の機能について
2. 健康な食生活の基本について
3. 健康なダイエットについて
4. 栄養の基本について 炭水化物
5. 栄養の基本について 脂質、たんぱく質
6. 栄養の基本について ビタミン、ミネラル
7. 身体活動について
8. スポーツ栄養と食生活について
9. 休養・ストレスについて
10. 健康を阻害する要因について
11. 疾病の予防について
12. 生活習慣病について
13. 母性と栄養について
14. 子どもの病氣と栄養について
15. 子育てのための食生活について

《成績評価の基準・方法》

試験 (70%)、課題提出 (30%) で評価する。

《授業で使用する教科書》

・一般社団法人FLAネットワーク協会「食生活アドバイザー3級公式テキスト&問題集」日本能率協会マネジメントセンター

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習は、食生活に関する本などを読み、興味を持ったものや、わからないところは調べる。事後学習は、毎回配布するプリントを勉強し、知識の定着を図る。食生活アドバイザー試験の勉強をする。

チームビルディング(ヨーガⅠ)

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 坂本 淑子

《授業の概要》

ヨーガ療法はインド5000年の伝統的ヨーガを科学的な研究をもとに一般の人や疾患を持つ人でも安全に行えるように改良して作られたものである。ヨーガは身体機能の回復を図るだけでなく、心の落ち着きや睡眠などの精神的な健康を向上させる効果のある健康法として今や世界中に広まっている。授業ではストレス対処法としてヨーガ行者たちが培った技法から、心身の不調からの健康回復や病氣予防の方法を学ぶ。また実技のアサナや呼吸法、瞑想によって客観的に自分を捉える力、ストレス場面でも落ち着いて対処する力、集中力を養い、またグループワークによって言語化する力、他者と関わる力、アセスメントする能力を磨いていく。

《学生の到達目標》

伝統的ヨーガ、ヨーガ療法について学び、現代社会におけるストレス、ストレスによっておきる疾患を理解する。また自分自身でストレス対処能力を身につけ、自己コントロール力を養うことにより、問題解決能力、協調性など社会に出るために必要な力を身につける。同時にアサナ、呼吸法などヨーガの実技を学び、心身両面の健康作りを実践し、実技を人に教える基礎を身につける。さらには瞑想や心理教育によって自分自身のこだわりについて理解し、認知の修正をはかることで自立的に生きる方法を学ぶ。

《授業計画》

1. ヨーガ・ヨーガ療法について
2. ストレスについて①～ストレスのメカニズム
3. ストレスについて②～ストレス性疾患
4. ストレスについて③～ヨーガ療法によるストレスマネジメント
5. ヨーガ療法における人間観～人間五蔵説
6. ヨーガ療法における病理論
7. 人間五蔵説に基づく治療・指導論
8. 自分自身をアセスメントする
9. 日常ストレスへの対処法
10. ストレスからの脱却①～ストレスは自分の中で作り出している
11. ストレスからの脱却②～心のお掃除
12. 新たな目標に向かって①～自立・独存位
13. 新たな目標に向かって②～社会との調和・社会への貢献
14. 新たな目標に向かって③～真の幸せとは
15. ストレスマネジメントまとめ

《成績評価の基準・方法》

授業への取り組み姿勢・授業後の質問及び感想文…40%
授業の内容に添った設問、自己を内観、分析するレポート提出…40%
実技への取り組み姿勢…20%

《授業で使用する教科書》

・木村慧心「実践 ヨーガ療法」ガイアブックス

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：授業終了時に毎回の気づき、感想文を提出する。
適宜宿題を課し、次回授業時にレポートとして提出する。
事後学習：毎回習った実技（アサナ・呼吸法など）を家庭で実習する。

特別実践活動1

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 現生専任教員

《授業の概要》

特別実践活動では、社会に関わることを通して、大学の学びとの関連を意識し、社会人として必要な力を身につける実習である。短大の学びを活かした実践分野を学生自身が選択し、目標設定を行い、計画・行動する。履修学生は、実践活動を通して、社会を見る（観察）、社会について分かる（理解）、自分が何をすべきか決める（決定）、実際に動く（行動する）を体験していく。

《学生の到達目標》

本授業では、以下の能力を獲得する事を目標とする。①短大の学びと社会の関係を理解する②社会を観察し、社会について理解する③社会の観察により、社会の課題を知る。

《授業計画》

1. 特別実践活動とは
2. 短大の学びと特別実践活動の関連
3. 実践活動を行うフィールドの決定
4. 実践活動と振り返り①
5. 実践活動と振り返り②
6. 実践活動と振り返り③
7. 中間報告
8. 後半の目標設定
9. 実践活動と振り返り④
10. 実践活動と振り返り⑤
11. 実践活動と振り返り⑥
12. 実践活動と振り返り⑦
13. 実践活動と振り返り⑧
14. 実践活動と振り返り⑨
15. 最終報告

《成績評価の基準・方法》

目標設定を含めた計画書(30%)、活動報告書(30%)、活動報告プレゼンテーション(40%)で評価を行う。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前・事後学習では、毎回の活動の目標設定や振り返りを行う。

インターンシップ I

1 年次(半期)
1 単位 (実習)
資格 なし
担当 湯浅 嵩晃, 現生専任教員

《授業の概要》

インターンシップでは、学生が興味のある企業などを訪問したり、実際に働いたりする職業体験を経験する。本学との間でインターンシップ契約に同意した一般企業、食関連業種、保育・介護施設等において、正社員の業務の一部を担う実習を行ない、実際の業務や働く環境の体験を通じて、働くことの理解を深める。
期間は夏季もしくは春季の1週間～2週間で、実習内容等は、各受入先との事前打合せにて決定する。

《学生の到達目標》

- ① 学生が社会人基礎力を高める。
- ② 学生が仕事の仕組みを理解できる。
- ③ 学生が自分の役割を理解できる。
- ④ 学生が学んだことを就職活動で活用できる。
- ⑤ 学生が自ら定めた目標の達成に向かい努力できる。

《授業計画》

1. インターンシップガイダンス (概要説明)
2. 受入先公募
3. マッチング面談
4. インターンシップ事前ガイダンス① (全体スケジュール共有)
5. インターンシップ事前ガイダンス② (課題解決シート作成)
6. インターンシップ事前ガイダンス③ (郵送物作成)
7. インターンシップ事前ガイダンス④ (電話アポイント・挨拶訪問の仕方)
8. 電話アポイント
9. 挨拶訪問
10. インターンシップ本番
11. インターンシップ本番
12. インターンシップ本番 (中間面談)
13. インターンシップ本番
14. インターンシップ本番
15. 総括 (事後面談)

《成績評価の基準・方法》

インターンシップ先指導者による評価表 (70%) と実習生の実習報告 (30%) で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：学生が希望する業種・職種を調査し、通勤可能エリアを考慮したうえで受入先候補を決定する。そのため、同時期に並行して行われるキャリアデザイン演習にて自己理解および仕事の理解を深めながら手続きを進める。事後学習：インターンシップ終了後、総括し、就職活動に取り組み。受入スケジュールの調整等は、学生本人が受入先企業と協力して行なっていくため、責任を持って取り組むこと。

簿記入門

1 年次(半期)
1 単位 (演習)
資格 なし
担当 ★羽多野 咲己

《授業の概要》

初めて簿記を学習する人を対象に、簿記の基礎を中心に、簿記とはどのような流れで行われているのかを理解し、簡単な決算までの知識・技術を習得する。企業で行われている簿記会計情報の意義と重要性の一部を学習します。

《学生の到達目標》

初歩的な簿記の知識・技術を習熟することができる。

《授業計画》

1. 簿記の基礎
2. 資産・負債・資本
3. 費用・収益
4. 貸借対照表
5. 損益計算書
6. 取引と勘定
7. 仕訳と転記
8. 仕訳帳と総勘定元帳
9. 試算表
10. 現金と預金
11. 決算 1
12. 決算 2
13. 貸借対照表・損益計算書 1
14. 貸借対照表・損益計算書 2
15. まとめ・商品勘定 (3分法)

《成績評価の基準・方法》

試験 60% 小テスト 20% 提出物 20%

《授業で使用する教科書》

・小田良次「最新段階式 日商簿記検定問題集3級4訂版」実教出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：教科書の要点と整理をよく読み、例題を解いてみる。
事後学習：授業時の配布プリントを参考にして練習問題に取り組み、授業内容を確認し知識の定着を図る。

商業簿記

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 ★羽多野 咲己

《授業の概要》

簿記入門を履修している人を対象に、簿記入門の学習した内容の続きから授業に入り、企業における財務諸表作成のための必要な簿記知識・技術の習熟及び会計情報の意義と重要性を学習し、日本商工会議所簿記検定3級資格取得に向けての学習を行います。

《学生の到達目標》

企業が必要としている簿記の基本的な知識と技術を習得することができる。日本商工会議所主催の簿記検定3級を受験することができるようになる。

《授業計画》

1. 現金・現金過不足
2. 当座預金・当座借越
3. 小口現金
4. 仕入帳・売上帳
5. 商品有高帳・売掛金・買掛金・貸倒引当金
6. 受取手形・支払手形・クレジット売掛金
7. その他の債券・債務
8. 有形固定資産と減価償却
9. 税金
10. 精算表
11. 決算整理
12. 収益・費用の繰り延べと見越し
13. 決算1
14. 決算2
15. 総合問題・まとめ

《成績評価の基準・方法》

定期試験 60% 小テスト 20% 提出物 20%

《授業で使用する教科書》

・小田良次「最新段階式 日商簿記検定問題集3級4訂版」実教出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：教科書の要点と整理をよく読み例題を解いてみる。
事後学習：授業時の配布プリントを参考にして練習問題に取り組み、授業内容を確認し知識の定着を図る。

情報処理演習 B

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 村上 真樹

《授業の概要》

IT時代の情報活動を効率的に行うための基本的な情報リテラシーの習得を目指す。内容は、①Excelの基本操作、②関数を利用した表計算、③ExcelとWordの連携について幅広く学ぶ。単に入力するだけでなく、デザインや見栄えなどレイアウトを考え、効率よく資料を作成するための技能を学ぶ。また、動画編集ソフトを利用し、写真や動画を用いて編集する技能を学ぶ。2年生で学ぶ「広告制作演習」へのつながりも考慮している。

《学生の到達目標》

Microsoft Excelを用いて簡単な表計算ができ、ビジネス面でのコンピュータの基礎知識とExcelの利用を身につけることができる。さらに、自らが撮影した動画や写真を利用し、音楽を組み合わせた動画編集をすることができる。また、それぞれの課題については、対象者を設定する。そのため、誰のために情報を処理するのか、考える力が身につく。

《授業計画》

1. 授業のガイダンス (Excelで行う情報処理とは何か)
2. Excelの基本操作 (既存ファイルの利用と保存)
3. 効率的に情報処理するための方法：データ入力・編集
4. 効率的に情報処理するための方法：並び替え、オートフィルタ
5. 効率的に情報処理するための方法：SUM・AVERAGE・MAX・MIN関数の利用
6. 情報を提供する方法：表のレイアウト、他のアプリケーションへのデータ出力
7. 情報を提供する方法：グラフ機能①
8. 情報を提供する方法：グラフ機能②
9. 情報を創り出す：IF関数の利用
10. 情報を創り出す：SUMIF・COUNTIF関数の利用
11. 情報を創り出す：SUMIFS・COUNTIFS関数の利用
12. 情報を創り出す：ピボットテーブルの利用
13. 情報を創り出す：VLOOKUP関数の利用
14. 資料を作る際に重要とすること
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

この授業は演習形式の授業であるため、毎回課す、授業内容を確認するための課題により評価する。(60%)課題については、未完成であったり、課題としての評価が低いものに関しては、教員からの注意点を踏まえ、再提出を行うこととする。再提出に関する評価を10%とする。また、最終授業において、応用問題を最終課題として課す。最終課題の成績を30%とする。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：配布資料に目を通しておく。事後学習：授業中の応用問題を課題とするので、自ら考えて課題をクリアしていく必要がある。

プレゼンテーション論

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 なし
担当 中津 功一郎

《授業の概要》

プレゼンテーションとは、与えられた条件の下で自分の持っている情報、事実、考えなどを相手にわかりやすく正確に伝え、受け入れてもらう行動のことである。本授業は、プレゼンテーション能力を身につけるために、いくつかの課題についての実践を通して、プレゼンテーションの意義、目的、進め方、ツールの活用を学ぶ。また、プレゼンテーションで一番大事なことは、発表者が発表内容を知識とすること。この重要性を簡単な例題から実感し、理解する。

《学生の到達目標》

本講義では、以下の能力を獲得する事を目標とする。①プレゼンテーションが苦手な理由を理解し、苦手克服ができる。②コミュニケーションの大切さを学び直し、プレゼンテーションの基礎能力を身につけることができる。③プレゼンテーションをしやすい環境づくりができる。

《授業計画》

1. 授業のガイダンス
2. プレゼンテーション力を磨くのはなぜ？
3. 聞き手について考える
4. 聞き手との意識共有①聞き手は何を知りたい？（発表準備）
5. 聞き手との意識共有②聞き手に気づかせる（発表準備）
6. 発表：聞き手を意識したプレゼンテーション
7. プレゼンのシナリオと重要性①伝える順序で変わる（発表準備）
8. プレゼンのシナリオと重要性②伝わるシナリオ（発表準備）
9. 発表：話しやすい環境を意識する
10. プレゼンのシナリオと重要性③まとめ
11. プレゼンテーションの話し方①緊張はしてもいい
12. プレゼンテーションの話し方②自分の言葉で話をしよう
13. 考えることの重要性
14. 最終発表準備
15. 最終発表

《成績評価の基準・方法》

授業中に課す、プレゼンテーションを課題とする。課題の結果を成績評価の50%とする。また、授業内容を身につけるために定期試験を行い、その結果を成績評価の50%とする。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習としては、配布された資料を読み、わからないところなどのチェックを行う。事後学習としては、毎回課される課題を振り返り学習として行い、知識を定着させる。

色彩表現

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 なし
担当 ★柴田 精一

《授業の概要》

この授業では自然、生活などの多様な視点から色彩について学習していく。色彩の表現や、光の性質、生活の場での配色等、色彩に関する基礎的知識の習得を中心に、それを応用した演習などを行い、身近でありながらも深遠な色の世界を体感する。

《学生の到達目標》

色彩についての基礎的な知識を習得し、自身の生活の中で状況に応じて配色ができる。色彩の重要性を認識する。

《授業計画》

1. 色彩の不思議、色が見える仕組み
2. 色の要素（色の三属性・色相環）
3. トーン概念について
4. インテリアカラーコーディネート知識
5. インテリアカラーコーディネートを想定した演習
6. パーソナルカラー概念の知識
7. パーソナルカラー診断に基づいた演習
8. 食品販売と色彩の知識
9. 食品の販促のための演習
10. ロゴタイプとロゴマークについて
11. ロゴマークの製作
12. 色彩がもたらす効果について
13. 色彩構成の計画
14. 色彩構成の実践
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

ポートフォリオ内の作品（60%）、ポートフォリオ内の記述（20%）、小テスト（20%）

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習では、自身のファッションや、インテリアなど身の回りにおける色彩に着目し、色彩がもたらす効果について、考察する。事後学習では、授業内で学習した色彩についての知識を用い、自身の生活に活用し、その変化を探る。

エンターテインメントスポーツ

1 年次(半期)
1 単位 (演習)
資格 なし
担当 田中 愛梨, 柚木 健

《授業の概要》

現代社会においては、少子高齢化、労働力不足、男女雇用均等、女性の社会進出など、様々な社会問題を解決する1つの手段として、「空の産業革命」と言われるドローンが注目されている。また、これまで人々が危険を伴い出来なかったことや、素早く安価に行えることが最大のメリットです。また、近年ではドローンを用いたドローンレースやプログラミングドローンの編隊飛行の演出などエンターテインメントの分野でも活用されている。本授業においては、これからドローンが民生活用されていく中で、様々な課題解決に向け女性が活躍する手段(ツール)として利用されていくことを踏まえ、どのように活用し今後の学生生活と社会生活に役立つものにするかを学ぶ。

《学生の到達目標》

ドローンの基礎知識(仕組みや法令等)をしっかり学び、ドローンの民生用とについて考える。その上で、ドローンの操作方法をマスターする。各ミッションはチーム戦で行い、具体的な目標設定や情報共有を行いコミュニケーションの活性化を図る。最終的には、ドローン本来の目的に沿って自分自身の生活や卒業後に活かせることを目標とする。

《授業計画》

1. オリエンテーション(ドローンの歴史、概要)
2. ドローンの仕組みと法令、国内市場と民生活用
3. 実習①(操作方法、セッティング、ホバリング)
4. 実習②(前回復習、前後左右移動、対面操作)
5. 実習③(前回復習、斜め移動、回転移動)
6. 実践テスト①(実習①~③の見極め)
7. 実習④(深視力ミッション:力をあわせて離着陸レース)
8. ドローンの先進事例研究
9. 実習⑤(前回復習、離着陸、サークル飛行)
10. 実習⑥(前回復習、8の字飛行)
11. 実習⑦(前回復習、ノーズインサークル飛行)
12. 実習⑧(目視外飛行ミッション:箱の中を当てよう)
13. 実習⑨(FPV(マイクロドローン)飛行体験)
14. 実習⑩(弱点課題の個人練習)
15. 実践テスト②(実習⑤~⑦の見極め)

《成績評価の基準・方法》

授業準備(20%)、授業の取り組み(40%)、実践テスト(40%)、到達目標別に、基本的な内容の習得状況について、正しく操作できているかという点を評価する。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習:授業内容について、事前にインターネット等により調べておくこと。事後学習:配布プリントを読み込んで知識の定着を図り、実践した技能を習得し将来に活かせるよう努める。その他:実習中はヘルメットを貸与するので、各自飛行訓練中は着用すること。また、体育館使用時は体育館シューズを持参すること。

ビジネス実務総論

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 なし
担当 ★前田 崇博

《授業の概要》

現代社会では、IT化、グローバル化が急速に進む中で大きな変革の時代を迎えています。同時にこの変革の波はビジネスの世界にも波及し、ビジネスで求められる知識やスキルも年々高度になってきました。学生が就職するビジネスの世界でしっかりと活躍できるように、まずはこの授業で基本的な知識とビジネス実践力をつける為に職業教育とキャリア教育の観点から進めていきます。今まで、高等学校等では学ばなかった内容も多くありますが、民間企業では当たり前前の知識として求められるものです。また、同時に秘書検定3級・2級を受験する為の準備も進めます。知識として理解するだけではなく、積極的に学び、資格取得につないでください。

《学生の到達目標》

学生が社会人としての基本的な知識を理解し、説明できるようになる。学生が社会人としてのマナーを理解し、実践できるようになる。学生が社会人としての常識を理解し、実践できるようになる。学生が多様化するビジネス環境の中で活躍できる能力を向上させる。学生が多様化するビジネス環境の中で活躍できる考え方を身につける。

《授業計画》

1. ビジネス実務のガイダンス 23
2. キャリアと仕事へのアプローチ
3. コミュニケーションとビジネスマナーの基本
4. 指示の受け方と報告・連絡・相談
5. 話し方と聞きかたのポイント
6. 来客対応と訪問の基本マナー
7. 会社関係でのつき合い
8. ビジネスコミュニケーションのまとめと演習(アクティブラーニング)
9. 仕事への取り組み方
10. ビジネス文書の基本
11. 統計・データの読み方、まとめ方(アクティブラーニング)
12. 情報収集とメディアの活用
13. 会社を取り巻く環境と経済の基本(アクティブラーニング)
14. 仕事の実践に関するまとめ
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

定期試験(60%)、ミニレポートの作成状況(40%)

《授業で使用する教科書》

・日本能率協会マネージメントセンター「2022年度版ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト」日本能率協会・実務技能検定協会「秘書検定2級クイックマスター改定新版」早稲田教育出版社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習:授業では事前にビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキストを予習しておくこと。事後学習:各自が秘書検定3級及び2級を受験する為の準備を家庭で行い、資格取得に取り組むこと。

情報デザイン論

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 なし
担当 中津 功一郎

《授業の概要》

前半では、情報化社会において、情報を創り出すことは重要なこと。まずは、情報が何かを理解することを目的とする。さらに、情報化社会を生きていく上で、切り離すことが出来ないコンピュータのこと情報処理全般にわたる基礎的な知識を体系的に学ぶ。後半では、今後、人工知能やIoTが生活の中で、どのように発展していくか、また、その新技術をどのように活かすことができるのかについて学ぶ。

《学生の到達目標》

本講義では、以下の能力を獲得する事を目標とする。①現在の情報化社会を理解し、今後社会がどのように変わっていくのかをイメージすることが出来る。②変わりゆく社会生活を送るのに必要な情報を創り出す重要性が理解できる。③いろいろな情報を便利に扱うための知識の重要性が理解できる。④人工知能やIoTの基礎知識を身につけることが出来る。

《授業計画》

1. 授業のガイダンス：情報デザイン論で学ぶこと
2. 「情報とは何か」を理解する
3. 情報化社会と情報リテラシーとは
4. 情報リテラシーを身につける：ハードウェアとソフトウェア
5. 情報リテラシーを身につける：コンピュータの五大機能
6. 情報リテラシーを身につける：コンピュータと人間の違い
7. 情報リテラシーを身につける：コンピュータネットワーク
8. 情報を扱う上での注意点を考える
9. 人工知能で未来はどう変わる
10. 人工知能の仕組み：教師あり学習、教師なし学習、強化学習
11. 人工知能の導入事例
12. IoT:Internet of Thingsにより便利になる社会とは
13. 人工知能に仕事は奪われるのか
14. 人工知能に負けない人になるために
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

授業後に振り返り学習の目的で課題を課す。課題の結果を成績評価の30%とする。定期試験を行い、その結果を成績評価の70%とする。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習としては、配布された資料を読み、わからないところなどのチェックを行う。事後学習としては、毎回課される課題を振り返り学習として行い、知識を定着させる。

ビジネス実務演習

1 年次(半期)
1 単位 (演習)
資格 なし
担当 ★前田 崇博

《授業の概要》

現代社会では、IT化、グローバル化が急速に進む中で大きな変革の時代を迎えています。この変革の波は、ビジネスの世界にも波及し、ビジネスにおいて求められる知識やスキルも高度になってきました。学生が就職するビジネスの世界で活躍できるように、また、ビジネスの基本的な知識や実践力をつけるために職業教育とキャリア教育の観点からこの授業を進めていきます。高等学校では学ばなかった内容も多くありますが、民間企業では当たりまえの知識として求められるものです。また、同時に秘書検定3級・2級を受検するための準備を進めます。知識として理解するだけでなく、積極的に学び資格の取得に繋いでください。

《学生の到達目標》

学生が社会人としての基本的な知識を理解し、説明できるようになる。
学生が社会人としてのマナーを理解し、実践できるようになる。
学生が社会人としての常識を理解し、実践できるようになる。
学生が多様化するビジネス環境の中で活躍できる能力を向上させる。
学生が多様化するビジネス環境の中で活躍できる考え方を身につける。

《授業計画》

1. ビジネス実務のガイダンス
2. キャリアと仕事へのアプローチ
3. コミュニケーションとビジネスマナーの基本
4. 指示の受け方と報告・連絡・相談
5. 話し方と聞きかたのポイント
6. 来客対応と訪問の基本マナー
7. 会社関係でのつき合い
8. ビジネスコミュニケーションのまとめと演習 (アクティブラーニング)
9. 仕事への取り組み方
10. ビジネス文書の基本
11. 統計・データの読み方、まとめ方 (アクティブラーニング)
12. 情報収集とメディアの活用
13. 会社を取り巻く環境と経済の基本 (アクティブラーニング)
14. 仕事の実践に関するまとめ
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

定期試験 (60%)、ミニレポート作成状況 (40%)

《授業で使用する教科書》

・日本能率協会「2022年度版ビジネス能力検定ジョブパス2級公式テキスト」日本能率協会
マネジメントセンター・実務技能検定協会「秘書検定2級クイックマスター改定新版」早稲田
教育出版社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：授業では公式テキストを予習しておくこと。
事後学習：各自が秘書検定3級及び2級を受検するための準備を家庭で行い、資格取得に取り組むこと。

データ処理演習(1)

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 柴田 敬子

《授業の概要》

情報活用能力の向上を目的として、ワープロソフトWordの基本と応用を幅広く学ぶ。

《学生の到達目標》

MOS試験(マイクロソフト オフィス スペシャリスト アソシエイト2019) Wordの合格に必要な知識と技術を習得することができる。

《授業計画》

1. 授業計画の説明
2. 基本操作の復習
3. 文書の共有と管理
4. コンテンツの書式設定
5. ページのレイアウトと再利用可能なコンテンツの適用
6. 図や画像の挿入
7. 文書の校正
8. 参考資料とハイパーリンクの適用
9. 差し込み印刷の実行
10. 模擬試験1(解答・解説)
11. 模擬試験2(解答・解説)
12. 模擬試験3(解答・解説)
13. 模擬試験4(解答・解説)
14. 模擬試験5(解答・解説)
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

試験(50%)、レポート・課題・提出物(50%)

《授業で使用する教科書》

・「よくわかるマスター MOS Word 365 & 2019 対策テキスト & 問題集」FOM出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：授業時間以外にも積極的にコンピュータを利用し操作に慣れ、幅広く意欲的に勉強してください。
事後学習：MOS試験合格を目標に、模擬試験を頑張りましょう。

エンターテインメントビジネス論及び演習I

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

現在、エンターテインメント産業は過去最大のチャンスを迎えている。映像や音楽といったメディアがエンターテインメント分野は、インターネットの発展から消費者へのアプローチも変わり、ライブやプロスポーツなどのライブ・エンターテインメントは、体験を届けることを意識した産業へと変わっている。第5世代(5G)の携帯電話により、こうした動きをさらに加速するだろう。本講義では、変化していくエンターテインメントビジネスを体験しながら、未来を予測し、そこから考えるべきビジネスチャンスについて考察していく。

《学生の到達目標》

講義では、以下の能力を獲得する事を目標とする。①エンターテインメントビジネスについて理解できる。②エンターテインメントビジネスの未来について考えることができる。③日本の強みを知り、エンターテインメントビジネスとの関係性について自分の考えを持つことができる。

《授業計画》

1. 授業のガイダンス(エンターテインメントビジネスとは)
2. 日本と海外のエンターテインメントビジネス
3. 日本の強み
4. エンターテインメント興行見学と考察①
5. エンターテインメント興行見学と考察②
6. エンターテインメント興行見学と考察③
7. エンターテインメント興行についてのグループディスカッションと発表
8. エンターテインメント興行見学と考察④
9. エンターテインメント興行見学と考察⑤
10. エンターテインメント興行見学と考察⑥
11. エンターテインメント興行についてのグループディスカッションと発表
12. エンターテインメント興行見学と考察⑦
13. エンターテインメント興行見学と考察⑧
14. エンターテインメント興行見学と考察⑨
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

グループディスカッションにおける「発言力」「傾聴力」50%とする。
レポート課題を50%とする。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：興行見学に積極的に参加するために、それぞれの興業の情報について調査しておく。
事後学習：課された課題について、個人、グループで積極的に取り組む。

エンターテインメントビジネス論及び演習 II

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 村上 真樹

《授業の概要》

本講義は、エンターテインメントビジネス論および演習 I を受講していることを前提としている。本講義では、多種多様なエンターテインメントについて触れ、「日本の強み」との関連について、ディスカッションしていく。そして、変化していくエンターテインメントビジネスを体験しながら、未来を予測し、そこから考えるべきビジネスチャンスについて考察していく。

《学生の到達目標》

講義では、以下の能力を獲得する事を目標とする。①日本の強みを知り、エンターテインメントビジネスとの関係性について自分の考えを持つことが出来る。②エンターテインメントビジネスの未来と日本の関係について考えることが出来る。

《授業計画》

1. 授業のガイダンス(エンターテインメントビジネスとは)
2. 日本の文化と日本の強み
3. 持続可能な社会
4. エンターテインメント興行見学と考察①
5. エンターテインメント興行見学と考察②
6. エンターテインメント興行見学と考察③
7. エンターテインメント興行についてのグループディスカッションと発表
8. エンターテインメント興行見学と考察④
9. エンターテインメント興行見学と考察⑤
10. エンターテインメント興行見学と考察⑥
11. エンターテインメント興行についてのグループディスカッションと発表
12. エンターテインメント興行見学と考察⑦
13. エンターテインメント興行見学と考察⑧
14. エンターテインメント興行見学と考察⑨
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

グループディスカッションにおける「発言力」「傾聴力」50%とする。
レポート課題を50%とする。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：興行見学に積極的に参加するために、それぞれの興業の情報について調査しておく。
事後学習：課された課題について、個人、グループで積極的に取り組む。

ビジネスと文化 I (アニメ・マンガの可能性)

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 橋井 綾乃, 落合 真司

《授業の概要》

エンタメ業界において、アニメ・マンガのコンテンツはどのような位置にあり、人々の生き方にどんな影響を与えているのかを考察。アニメ監督、表現テーマ、表現法などにもフォーカスし、多角的にアニメ・マンガの可能性を探ります。また、現役イラストレーターによる実習を通し、実際に体験することで発想力や表現の楽しさを学びます。
※アクティブ・ラーニング含む

《学生の到達目標》

アニメの社会的影響力や、ファン心理を理解する。
アニメを通じてエンタメ業界を俯瞰し、他分野への知識応用もできるようになる。

《授業計画》

1. アニメに込められた普遍的的人生論/ジェンダー問題の投げかけ
2. アニメならではの表現/擬人化キャラクター研究
3. ヒットするアニメの法則/社会現象はなぜ起こるのか
4. 山田尚子監督研究/アニメを通して障害者問題を考える
5. 岡田磨里監督研究/究極の母性と生きることへの問い
6. 宝塚歌劇がモチーフのアニメ/令和版トップスターへの道
7. 新海誠監督研究/万葉集と雨の純愛アニメ【中間テスト】
8. 多様化するイラストレーターの仕事について
9. 実習：画材に触れる・デッサンの世界
10. 似顔絵ビジネスについて・描き方のコツを学ぶ
11. 実習：似顔絵を描いてみよう
12. 上手い下手ではない! ゆるキャラの世界
13. 漫画の構成について①様々な要素
14. 漫画の構成について②現場を見て学ぶ
15. 漫画に隠された心理をつく場面の見せ方

《成績評価の基準・方法》

実習成果40%、中間テスト30%、授業への取り組み30%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

《第1回～第7回》事前学習：話題のアニメ・マンガに積極的に触れる。事後学習：授業をふまえた上で、なぜ話題なのかを考える。
《第8回～第15回》事前学習：本・インターネットなどで、できるだけ多くの作品を見て、創造力を育む。事後学習：他の作品と自分の発想や考えを比較し、考察力を向上させる。

ビジネスと文化II (アニメ・マンガの可能性)

1年次(半期)
1単位 (演習)
資格 なし
担当 椿井 綾乃, 落合 真司

《授業の概要》

アニメが持つアート性や表現技法について分析・研究していきます。さらにエンタメビジネスの側面から、アニメ制作会社や声優ブームについても論じます。また、現役イラストレーターや漫画家の実習を通して体験することで発想力や表現の楽しさを学びます。
※アクティブ・ラーニング含む

《学生の到達目標》

アニメ文化を多視点でとらえることで、幅広い考え方や新しい発見が出来る。エンタメ分野だけではなく、流行や社会動向の洞察力向上につながる。

《授業計画》

1. 京都アニメーションを世界中が支援した理由/京アニ魂が生んだ名作①
2. 泣けるアニメを分析/京アニ魂が生んだ名作②
3. 感動と共感的知的カルチャー/文学作品のアニメ化①
4. アニメにおける音響/音で表現できるエンタメの可能性
5. クリエイティブ革命/アニメの表現技法を深掘りする①
6. 手描き・CG・アートの領域へ/アニメの表現技法を深掘りする②
7. 田辺聖子・不朽の青春恋愛小説/文学作品のアニメ化②【中間テスト】
8. 魅力のあるキャラクターとは？
9. キャラクターを実際に考えて生み出そう
10. 実習：漫画の描き方①/プロット
11. 実習：漫画の描き方②/ネーム
12. 実習：漫画の描き方③/下描き
13. 実習：漫画の描き方④/ペン入れ
14. 実習：漫画の描き方⑤/仕上げ
15. 実習：漫画プレゼンテーション

《成績評価の基準・方法》

実習成果40%、中間テスト30%、授業への取り組み30%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

《第1回～第7回》事前学習：話題のアニメ・マンガに積極的に触れる。事後学習：授業をふまえた上で、なぜ話題なのかを考える。
《第8回～第15回》事前学習：本、インターネットなどで、できるだけ多くの作品を見て、創造力を育む。事後学習：他の作品と自分の発想や考えを比較し、考察力を向上させる。

絵本の世界

1年次(半期)
2単位 (講義)
資格 なし
担当 宮崎 博和

《授業の概要》

「絵本を知る・絵本を作る」がテーマ。絵本には子どもが初めて出会う楽しさと驚きがいっぱい詰まっています。たくさんのお絵本に触れ、何が子供の心をとらえるのか、絵本は子供にとってどのような意味をもっているのか、絵本の持っている魅力とその影響力について考えます。また実際に自分で絵本を制作することで、画材や作画の技術、絵本作家の想い、絵本作りの楽しさと奥深さ、などを体感します。

《学生の到達目標》

- ①子供にとっての絵本の意味や役割を理解できる。
- ②絵本の魅力、その影響力を実感としてとらえることができるようになる。
- ③自分の考えを自分の絵本で伝えることができる。
- ④構図、デフォルメ、擬人化などの意味を理解できる。かつ表現できる。
- ⑤画材の種類や、その使い方を習得する。

《授業計画》

1. 絵本概論 好きな絵本や心に残る絵本についての発表。次週からの授業の説明。
2. 図書館で絵本を読み感想を書き提出する
3. 図書館で絵本を読み感想を書き提出する
4. 図書館で読んだ絵本や今までに読んだ絵本の中で印象深い作品を持参し発表する
5. 絵本の解説と紹介
6. 絵本の解説と紹介
7. 絵本制作と指導 画材や絵本の作り方の説明
8. 絵本制作と指導 下描き制作
9. 絵本制作と指導 下描き制作
10. 絵本制作と指導 下描き制作
11. 絵本制作と指導 原画制作
12. 絵本制作と指導 原画制作
13. 絵本制作と指導 原画制作
14. 絵本制作と指導 原画の完成
15. 完成した絵本の発表会と講評

《成績評価の基準・方法》

独創的な絵本の原案20% 構図・構成20% デフォルメ・擬人化20% 学習態度20%
自分の描きたい世界、伝えたい想いが表現できているか20%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習 できるだけ多くの絵本を読む。事後学習 好きな絵本を見つけ、その理由を考える。絵と文章の関係、作者の意図を感じながら鑑賞する。絵本の表現で、自分に出来るところと出来ないところを明確にして次の授業に臨む。

文芸文化論

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 なし
担当 中井 康行

《授業の概要》

講義の前半期では、昔話やアニメーションから夜見る夢までを例して、物語について考察する。特に物語の心理的背景や文化的背景について関心を促す。後半期では、中編小説を取り上げ、物語世界の重層性について考える。

《学生の到達目標》

物語のメッセージを読み解き、その構造を解きほぐすことで、言語によって組み立てられる様々な事象を分析する能力の向上を目標とする。付随的に、講義を聴きながら、講義内容の概要を把握できる能力を培うこととする。

《授業計画》

1. 「読む」ことと「読み解く」こと
2. 物語／話とは何か i
3. 物語／話とは何か ii
4. 夢が作り出す物語
5. 物語の規則 i
6. 物語の規則 ii
7. 物語の仕組み i
8. 物語の仕組み ii
9. 前半期講義内容理解の確認
10. 山本周五郎『柳橋物語』の世界 i
11. 山本周五郎『柳橋物語』の世界 ii
12. 山本周五郎『柳橋物語』の世界 iii
13. 山本周五郎『柳橋物語』の世界 iv
14. 山本周五郎とは誰か
15. 後半期講義内容理解の確認

《成績評価の基準・方法》

前半期理解確認問題への取り組み (50%)
後半期理解確認問題への取り組み (50%)

《授業で使用する教科書》

・山本周五郎『柳橋物語』新潮社(新潮文庫)

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

授業計画の後半が始まるまでに、『柳橋物語』を読了していなければ、単位取得は不可能である。

芸術社会論

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 なし
担当 村上 真樹

《授業の概要》

20 世紀の芸術を中心に、アーティストによる社会的実践の歩みをたどります。現代においては、芸術はたんに「美しい」ものをつくるというだけでなく、社会に対する問題提起や生き方の提案をも含むものとなりました。この講義では、これまでの常識にとらわれないアーティストの発想に立ち寄り、そこに込められた思想を読み解くことを通して、新しい社会を創造していく力について考えてみたいと思います。

《学生の到達目標》

社会に能動的に働きかける様々な芸術活動についての理解を深めることによって、自分自身の生活・行動に活かせるようになる。

《授業計画》

1. 導入
2. 生活の中の芸術
3. パブリック・アートと公共性
4. 現代アートの挑戦
5. 活躍する女性アーティスト (1)
6. 活躍する女性アーティスト (2)
7. 自己表現としての芸術
8. コミュニケーションとしての芸術
9. パフォーマンスとしての芸術
10. 社会活動としての芸術
11. 現代日本のアート・プロジェクト (1)
12. 現代日本のアート・プロジェクト (2)
13. アートと大阪
14. 「すべての人は芸術家である」(ヨーゼフ・ボイス)
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

期末レポート (70%)、発表・提出物 (30%) によって評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：次回の学習内容について、書籍・インターネットを使って調べる。
事後学習：授業内容をふり返り、社会と芸術との関係について考える。日常生活の中での「気づき」を大切にしてください。

文学の歴史(図書館サービス特論)

1年次(半期)
2単位(講義)
資格 司書
担当 小林 孔

《授業の概要》

本講義では、日本文学史を通常の文学史とは全く逆に、近代から近世へ、近世から中世へ、中世から上代へとさかのぼって概観する。15回の講義のうち前半の5回においては、昭和から大正へ、大正から明治へとそれぞれその時期の代表的な作家とその作品を紹介しつつ、近代文学の誕生期へ向けて時代をさかのぼる。6回目以降は、明治初期の時代相にふれ、そこから江戸時代のさまざまな文学様式を紹介し、原点をたぐりながら、室町、鎌倉、平安朝、上代の作品世界を覗いてみたい。

《学生の到達目標》

15回の講義前半では、日本近代文学の大まかな流れと時代区分を把握できるようにすることが、本講義の最大の到達目標になる。とくに明治時代の多様なジャンルの意義を探り、作品の一斑に触れて、その表現世界の拡がりを感じられるようにする。また、後半は、時代をさかのぼって、文学通史としての体系化を目指すため、最終的に、総合的な歴史認識ができるようにしたい。

《授業計画》

1. 受講上の諸注意その他(時代区分ということ)
2. 近代文学概観
3. 近代日本文学の諸相Ⅰ
4. 近代日本文学の諸相Ⅱ
5. 近代日本文学の諸相Ⅲ
6. 明治初期の時代相
7. 前半のまとめ
8. 近代と古典世界の断層
9. 近世文学の諸相Ⅰ
10. 近世文学の諸相Ⅱ
11. 中世文学の諸相Ⅰ
12. 中世文学の諸相Ⅱ
13. 中古文学の諸相
14. 上代文学の諸相
15. 総まとめ

《成績評価の基準・方法》

授業中に基礎的な知識の確認を行い、これに基づいて成績を評価する(50%)。また、授業内容を確認するための試験を用意する(50%)。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

文学史を体系的に把握するためには、回が進むごとの復習が必要になります。作品と作品の関連づけ、作品と時代との相関性を理解するよう学習をしてください。なお、講義中に事前学習の課題を出しますので、それを仕上げて出席してください。

図書館概論

1年次(半期)
2単位(講義)
資格 司書
担当 ★川窪 和子

《授業の概要》

図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館に利用者ニーズ、図書館職員の仕事と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を生徒にわかりやすく説明する。本講義は、司書資格取得のためだけでなく、学習における基礎的な素養を身に付け、生涯にわたる必要に応じて図書館を使いこなし、情報を主体的に生かせる人材育成のための実学でもある。フィールドワークとして各自で見学・調査した図書館のレポート発表の場も設定する。

《学生の到達目標》

図書館の社会的な存在意義と理念や役割を理解し、歴史や現状を認識する。学びを通して、その概要について資料をもとに説明することができる。身近な図書館について、わかりやすく現状を説明することができる。

《授業計画》

1. 図書館とは何か(定義と意義、種類、ネットワーク、構成要素と機能)
2. 現代社会と図書館、(※レポート課題説明)
3. 出版と図書館、著作権
4. 図書館の理念(図書館の自由に関する宣言等)
5. 図書館法規と行政、施策
6. 地域社会と図書館(地域振興という視点)
7. 館種別図書館の制度と機能(公共図書館)
8. 館種別図書館の制度と機能(学校図書館)
9. 館種別図書館の制度と機能(大学図書館)
10. 館種別図書館の制度と機能(専門図書館・その他)
11. 館種別図書館の制度と機能(国立図書館)
12. 図書館の歴史の展開
13. 図書館の類縁機関・関係団体
14. レポート発表
15. 図書館の課題と展望

《成績評価の基準・方法》

発言・発表20%、提出課題(ミニッツレポート等を含む)40%、最終確認テスト40%で総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・「図書館概論 五訂版」日本図書館協会 ISBN978-4-8204-1813-9
他、適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：次回授業内容について、教科書に目を通しておく。
事後学習：講義内容を復習するとともに、レポート発表の準備を進めておく。

図書館サービス概論

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 司書
担当 ★川窪 和子

《授業の概要》

図書館サービスの考え方と構造の理解を図り、資料・情報提供、連携・協力、課題解決支援、障害者・高齢者・多文化サービス等の各種のサービス、著作権、接遇・コミュニケーション等の基本を解説する。図書館サービスに関わるグループワークでの討議やレポート発表におけるプレゼンテーションも実施する。

《学生の到達目標》

図書館サービスの本質、歴史的経緯、サービスの種類、図書館サービスに関わる著作権法、図書館サービス体制等について、基本的な知識を習得すること、身近な公共図書館を利用・観察し、サービスの概要を説明できることを到達目標とする。

《授業計画》

1. 図書館サービスの意義と理念
2. 公共図書館サービスの変遷
3. 図書館サービスとコンプライアンス (オープン化をめぐる動向・著作権)
4. 資料提供サービス (閲覧・貸出・予約・複写サービス)
5. 情報提供サービス (レファレンスサービス)
6. 情報提供サービス (カレントアウェアネスサービス、非来館型サービス)
7. 図書館サービスの協力と連携
8. 課題解決支援サービス
9. ビジネス支援サービス
10. 特別な支援を必要とする人へのサービス
11. 多文化サービス
12. 超高齢社会における図書館高齢者サービス
13. 利用者に対する接遇・コミュニケーション、広報
14. 図書館観察レポート発表
15. 図書館サービスの課題と展望

《成績評価の基準・方法》

発言・発表20%、提出課題(ミニッツレポート等を含む)40%、最終確認テスト40%で総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・「図書館サービス概論 改訂」樹村房 ISBN978-4-88367-294-3
他、適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：次回授業内容について、教科書に目を通しておく。
事後学習：講義内容の復習とともに、身近な公共図書館(出来れば、指定都市立中央図書館と都道府県立図書館)を利用し、利用者の視点で多様なサービス内容を観察してみましょう。

児童サービス論

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 司書
担当 ★川窪 和子

《授業の概要》

児童(乳幼児からヤングアダルトまで)を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせ、学校との協力等について解説し、書評や絵本の読み聞かせなどの演習を行う。

《学生の到達目標》

- ①子どもの発達段階を理解し、子どもの本の特性を理解し、子どもと本を結びつける技術の基礎を習得する。
- ②さまざまな児童サービスを通じ、すべての子どもたちに読書の喜びを伝えるために必要な考え方と方法を理解し、説明できる。
- ③絵本の読み聞かせを実演し、本の紹介を書くことができる。

《授業計画》

1. 児童サービスの意義と歴史
2. 子どもの生活と読書
3. 児童資料の種類と特色 (絵本)
4. 児童資料の種類と特色 (物語と伝承文学)
5. 児童資料の種類と特色 (ノンフィクション・レファレンス資料など)
6. 児童サービスの実際 (資料の選択と提供、書評)
7. 児童サービスの実際 (読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトークなど)
8. 児童サービスの運営と市民協働
9. 乳幼児サービス(ブックスタートなど)
10. ヤングアダルトサービス、YA向けPOP作成
11. 特別支援の必要な子どもたちへのサービス
12. 学校、学校図書館への支援と連携・協力
13. 子どもの読書活動の推進と公共図書館
14. (演習) 絵本の読み聞かせ
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

発言・発表30%、提出課題(ミニッツレポート等を含む)30%、最終確認テスト40%で総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・「児童サービス論 新訂版」日本図書館協会 ISBN978-4-8204-1909-9
他、適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：次回授業内容について、教科書に目を通しておく。
事後学習：講義内容を復習する。授業で配付するお勤め児童書リストの中から、読み聞かせや書評作成等の演習に取り組む。公共図書館の児童書コーナーを見学し、出来れば行事にも参加してみよう。

情報資源組織論

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 司書
担当 ★川窪 和子

《授業の概要》

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用方法を解説する。主題分析等のテーマではグループワークも実施する。

《学生の到達目標》

ハイブリッド図書館として機能するために、図書館が扱う幅広い資料・情報資源の組織化の必要性を理解する。
図書館の資料や情報へのアクセスを保証し利用できるようにするための「組織化」の技術の概略を理解し、説明できることを到達目標とする。

《授業計画》

1. 図書館情報資源組織化の意義と理論
2. 書誌コントロール
3. 目録法
4. 目録規則と標準化
5. 主題分析の意義と考え方
6. 主題分析と分類法 (主要な分類法)
7. 索引言語システム
8. 主題分析と索引法 (主要な統制語彙)
9. 書誌情報の作成と流通 (MARC)
10. 書誌ユーティリティ
11. 多様な情報資源の組織化 (地域資料、行政資料、外国語資料の書誌情報作成)
12. 書誌情報の提供 (OPACの管理と運用)
13. ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ
14. 新たな情報資源組織化
15. 知識情報資源へのアクセス

《成績評価の基準・方法》

発言・発表30%、提出課題(ミニツレポート等を含む) 30%、最終確認テスト40%で総合的に評価する

《授業で使用する教科書》

・「情報資源組織論及び演習 第3版」学文社 ISBN978-4-7620-3012-3
他、適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

・「日本目録規則2018年版」日本図書館協会・「日本十進分類法」日本図書館協会

《事前・事後学習》

事前学習：次回授業内容について、教科書に目を通しておく。
事後学習：講義内容を復習するとともに、国立国会図書館や公共・大学図書館のOPACを検索し、資料や情報へのアクセスを保証するためにどのような情報・機能が提供されているかを体感し理解を深めましょう。

情報資源組織演習(1)

1 年次(半期)
1 単位 (演習)
資格 司書
担当 ★川窪 和子

《授業の概要》

多様な情報資源に関する書誌データの作成演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。グループワークとして、演習で作成した書誌記述等の相互点検・評価も実施する。

《学生の到達目標》

日本目録規則のしくみを理解して、基本的な記述目録(書誌データ)作成能力の習得を到達目標とする。

《授業計画》

1. 日本目録規則(NCR) 2018年版の概要(構成・書誌階層等)
2. 日本目録規則(NCR) 2018年版の概要(エレメント・資料の種別等)
3. 日本目録規則(NCR) 2018年版の概要(属性の記録)
4. 日本目録規則(NCR) 2018年版の概要(関連の記録)
5. 書誌データ作成の実際(単行資料)
6. 書誌データ作成の実際(単行資料)
7. 書誌データ作成の実際(逐次刊行物)
8. 書誌データ作成の実際(地図資料等)
9. 書誌データ作成の実際(録音資料)
10. 書誌データ作成の実際(動画資料)
11. 書誌データ作成の実際(電子資料)
12. 典拠コントロール
13. 集中化・共同化による書誌データ作成の実際
14. ネットワーク情報資源のメタデータ作成
15. 総合演習

《成績評価の基準・方法》

発言・発表及び提出課題100%

《授業で使用する教科書》

・「情報資源組織論及び演習 第3版」学文社 ISBN978-4-7620-3012-3

《参考書》

・「日本目録規則2018年版」日本図書館協会

《事前・事後学習》

事前学習：次回授業内容について、教科書に目を通しておく。
事後学習：講義内容を復習するとともに、国立国会図書館や公共・大学図書館のOPACを検索し、資料や情報へのアクセスを保証するためにどのような情報・機能が提供されているかを体感し理解を深めましょう。

情報資源組織演習(2)

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 司書
担当 ★川窪 和子

《授業の概要》

多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。主題分析や分類付与等の演習においては、グループワークでの相互点検・評価手法も導入する。

《学生の到達目標》

日本十進分類法と基本件名標目表のしくみを理解して、基本的な分類記号・件名付与など情報資源組織化の技術の習得を到達目標とする。

《授業計画》

1. 主題分析と索引語への翻訳
2. 日本十進分類法の概要
3. 分類作業の実際 補助表(形式区分・地理区分・海洋区分)
4. 分類作業の実際 補助表(地理区分・海洋区分)
5. 分類作業の実際 補助表(言語区分等)
6. 分類作業の実際 総記 哲学・地理
7. 分類作業の実際 歴史・地理
8. 分類作業の実際 社会科学・自然科学
9. 分類作業の実際 技術・工学・産業
10. 分類作業の実際 芸術・美術 言語 文学
11. 分類作業の実際 総合演習
12. 基本件名標目表の概要
13. 件名作業の実際 件名標目の付与 維持管理
14. 総合演習
15. 総合演習

《成績評価の基準・方法》

発言・発表及び提出課題(小テスト含む) 100%

《授業で使用する教科書》

・「情報資源組織論及び演習 第3版」学文社 ISBN978-4-7620-3012-3

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：次回授業内容について、教科書に目を通しておく。
事後学習：講義内容を復習するとともに、様々な図書館のOPACを利用して、分類・件名、相関索引等のデータを確認し理解を深める。

食生活と健康 I

1年次(半期)
2単位(講義)
資格 調理
担当 門田 尚子

《授業の概要》

医食同源という言葉とおり、食生活と健康は密接な関係です。「外食」や調理済み食品を持ち帰って食べる「中食」に頼る傾向が高まり、食の多様化が進んでいる現在の食環境で、それを支える調理師の役割は重要になってきています。この科目で食生活のもたらす健康への影響を学びます。

授業内容の補足の参考資料を併用し、確認問題等で授業の理解を深めます。

《学生の到達目標》

- ①食生活が健康に果たす役割を理解し、健康な食生活における調理師の役割を理解する。
- ②調理師法を理解し、調理師として社会に出たときに必要な知識を得る。
- ③生活習慣病の現状を知り、これに対する調理師の役割を理解する。

《授業計画》

1. 健康とは何か
2. わが国の健康水準と目指すべき健康とは
3. 食生活が健康に果たす役割
4. 健康的な食生活習慣づくり
5. 調理師の成り立ちと調理師法
6. 調理師法の目的と定義
7. 調理師免許①
8. 調理師免許②
9. 調理師の役割
10. 「調理師と健康」のまとめ
11. 疾病の動向
12. 疾病の予防
13. 生活習慣病①
14. 生活習慣病②
15. 「食生活と疾病」のまとめ

《成績評価の基準・方法》

期末の筆記試験(70%)、授業における積極的参加度合い、課題レポートの回答内容の充実度合い(30%)で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「新調理師養成教育全書 必修編1 食生活と健康」公益社団法人 全国調理師養成施設協会

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：教科書に目を通し、興味を持ったことや分からないところはWebによる検索や関連書籍を用いて調べてから授業に臨む。
事後学習：講義内容を復習するとともに、確認問題より授業内容を振り返る。「食生活が健康の維持や生活習慣病の発症・重症化に重要な役割を果たしている」ことを社会に向けて直に発信することで調理スペシャリストとしての知識と経験を積んでいく。

食品と栄養の特性 I

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 調理
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

食品には、色素成分、味覚成分、香り成分、栄養成分などの多くの成分が含まれており、食品の特徴を形作っている。食品と栄養の特性 I では、食品中の成分について、種類や性質、特徴、多く含まれる食品などの基礎知識について学ぶ。また、食品成分表の使い方や、web サイトを使った栄養価計算の方法を理解し、食品の評価と健全な食生活に役立たせる。その上で、食品についての知識を深めるために、種々の食品群について、種類や成分、食用としての価値、適正な取扱いや保存方法などについて学ぶ。

《学生の到達目標》

食品に含まれる成分の性質や特性を理解することができる。
食品の特性を、調理や製菓に応用できる。食品の栄養価を計算できる。
食品の知識を深め、良し悪しを判断できる。
調理師取得やフードスペシャリスト資格試験合格に必要な知識を習得することができる。

《授業計画》

1. 食品学概論 食品学でどんなこと学ぶのか
2. 嗜好成分 (1) 色素成分、香り成分の種類と特徴
3. 嗜好成分 (2) 味覚成分の種類と特徴、テクスチャーについて
4. 炭水化物 (1) 炭水化物の種類と特徴
5. 炭水化物 (2) 炭水化物の特性と食品への応用
6. たんぱく質 (1) たんぱく質の種類と特徴
7. たんぱく質 (2) たんぱく質の特性と食品への応用
8. 脂 質 (1) 脂質の種類と特徴
9. 脂 質 (2) 脂質の特性と食品への応用
10. 食品の成分と栄養価
11. 栄養価計算の方法 (PCを使った栄養価計算)
12. 植物性食品の知識 1 穀類① (米、米加工品など)
13. 植物性食品の知識 2 穀類② (麦類、とうもろこしなど)
14. 植物性食品の知識 2 穀類③ (でんぷん類など)
15. 植物性食品の知識 3 いも類 (じゃがいも、さつまいも、やまいもなど)

《成績評価の基準・方法》

授業内の演習課題や小テスト (30%)、定期テスト (全範囲の知識) (50%)、質問や回答などの積極的な発言を考慮した授業への参加貢献度 (20%)

《授業で使用する教科書》

・ (公社) 全国調理師養成施設協会「調理師養成教育全書 2 食品と栄養の特性」・「新食品成分表」東京法令出版 他、適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

日ごろから食品や食物に関心を持ち、スーパーやコンビニエンスストア、デパ地下などの食品売り場を良く見て、どんな食品が売れているのか、季節や品種、価格、調理方法などに注目し、情報収集を心がける。授業前は、教科書をよく読み、興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。授業後は、教科書やプリントを読み返して復習問題に取り組み、知識の定着を図る。

食品と栄養の特性 II

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 調理
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

食品と栄養の特性 I で学んだ知識をもとに、食品についての知識を深めるために、日常よく利用される身近な食品について、種類や成分、食用としての価値、調理特性、適正な取扱いや保存方法などを幅広く学ぶ。また、食品の実物サンプルや写真を見たり、食べ比べなどをして、実際にその知識を身につける。現在市場にあふれている食品の価値を、合理的に判断できる力を養い、栄養、嗜好、衛生、経済などいろいろな面から私たちの健全な食生活に役立たせる。

《学生の到達目標》

食品素材の基礎的な知識を身につけることができる。食品に含まれる成分の性質や特性を理解し、調理や製菓に応用できる。食品の知識を深め、良し悪しを判断できる。調理師取得やフードスペシャリスト資格試験合格に必要な知識を習得することができる。

《授業計画》

1. 植物性食品の知識 5 豆類① (大豆)
2. 植物性食品の知識 6 豆類② (小豆、インゲン豆)
3. 植物性食品の知識 7 種実類① (分類と特長)
4. 植物性食品の知識 8 種実類② (ゴマ、アーモンド)
5. 植物性食品の知識 9 野菜類① (野菜の種類と成分)
6. 植物性食品の知識 10 野菜類② (利用頻度の高い野菜の特徴と目利き)
7. 植物性食品の知識 11 野菜類③ (利用頻度の高い野菜の特徴と目利き)
8. 植物性食品の知識 12 果実類① (果実の種類と成分)
9. 植物性食品の知識 13 果実類② (利用頻度の高い果実の特徴と目利き)
10. 植物性食品の知識 14 野菜類・果物類 総括 (プレゼンテーション)
11. 動物性食品の知識 1 肉類 (牛、豚、鶏肉の成分と特徴)
12. 動物性食品の知識 2 肉類加工品 (ハム、ソーセージなど)
13. 動物性食品の知識 3 魚介類 (魚介類の種類と成分)
14. 動物性食品の知識 4 魚介類加工品 (かまぼこ、缶詰めなど)
15. 動物性食品の知識 5 肉類・魚介類 総括 (プレゼンテーション)

《成績評価の基準・方法》

定期テスト (50%) 課題や資料作成 (30%)
質問や回答などの積極的な発言を考慮した授業への参加貢献度 (20%)

《授業で使用する教科書》

・ (公社) 全国調理師養成施設協会「調理師養成教育全書 2 食品と栄養の特性」・「新食品成分表」東京法令出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

日ごろから食品や食物に関心を持ち、スーパーやコンビニエンスストア、デパ地下などの食品売り場を良く見て、どんな食品が売れているのか、季節や品種、価格、調理方法などに注目し、情報収集を心がける。授業前は、教科書をよく読み、興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。授業後は、教科書やプリントを読み返して復習問題に取り組み、知識の定着を図る。

食品と栄養の特性IV

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 調理
担当 大杉 加菜子

《授業の概要》

食品と栄養の特性は食に携わる仕事をする上で基礎となる知識の1つである。様々な食品に含まれる栄養素の特徴と消化吸収のメカニズム、具体的に身体にどのような生理作用があるのかなどについて、基本的な栄養学を中心に学び、栄養素の種類と働き、消化・吸収・代謝など、栄養に関する基礎的な知識を習得する。

《学生の到達目標》

- ①健康と栄養の定義が理解できる
- ②各栄養素の種類と働きが理解できる
- ③三大栄養素の消化、吸収、代謝のメカニズムが理解できる
- ④ミネラル、ビタミンの過剰症や欠乏症が理解できる

《授業計画》

1. 健康と栄養
2. 生活時間と生活リズム
3. 炭水化物(糖質)①
4. 炭水化物(糖質)②
5. 脂質
6. たんぱく質
7. 炭水化物、脂質、たんぱく質の消化と吸収
8. 炭水化物、脂質、たんぱく質の代謝
9. ミネラル①
10. ミネラル②
11. 脂溶性ビタミン
12. 水溶性ビタミン
13. 水の働きと出納、機能性成分
14. エネルギー消費
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

確認テスト 40% 提出物 60%

《授業で使用する教科書》

・日本フードスペシャリスト協会「三訂 栄養と健康(第2版)」建帛社

《参考書》

・「調理師養成教育全書2 食品と栄養の特性」全国調理師養成施設協会

《事前・事後学習》

栄養に関する正しい知識は、調理師に必要なだけでなく自らと家族の健康的な食生活を確立する上でも役に立つ知識です。ぜひ興味をもって学びましょう。

事前学習：身の回りの食品にどんな栄養素が多く含まれているか確認し、興味を持ったことについてインターネット等で調べてください。

事後学習：前回の授業のノートなどの見直しをしてください。

食品の安全と衛生I

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 調理
担当 ★瀧本 文子

《授業の概要》

現在食に関する様々な情報の中で、特に安全・安心が強く求められている。本来食品は人に害を及ぼすものであってはならず、調理師とは実は人命を左右する職業でもある。食の安全・安心と食品衛生の重要性を認識するとともに、それらを維持・管理する法律やシステムについて学び、調理師として必要な法律、条例、ガイドライン、慣習などの幅広い知識を持ち合わせ、食に携わる人材としての基本的な衛生知識を身につける。

《学生の到達目標》

- ①食品従事者としての健康、衛生管理の知識を習得し実践できる
- ②食品衛生法および食品安全基本法について理解できる
- ③食品の安全管理に関するシステムが理解できる
- ④各食材の衛生管理ポイントが理解できる

《授業計画》

1. 調理従事者の健康、衛生管理①服装、習慣、健康チェック
2. 調理従事者の健康、衛生管理②手洗いの重要性
3. 調理従事者の健康、衛生管理③衛生教育の重要性、食品衛生責任者、食品衛生7S
4. 食品の安全と衛生
5. 食品衛生法①概要、目的
6. 食品衛生法②関係者の責務、清潔衛生の原則など
7. 食品衛生法③営業に関する法律
8. 食品安全基本法①目的、理念 ②責務と役割など
9. 食品安全行政①中央組織(リスクアナリシス)②地方組織
10. 食品営業施設の安全対策①食品営業施設②HACCP③大量調理施設衛生管理マニュアル
11. 調理作業時における安全対策①食材の衛生管理(簡易鑑別法)
12. 調理作業時における安全対策②食材の衛生管理(納入時のポイント)
13. 調理作業時における安全対策③食材の保存、管理
14. 調理作業時における安全対策④異物混入防止対策
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

定期試験(70%) 小テストを含む提出物(20%) 質問、回答など発言を含む授業への参加貢献度(10%)で総合的に評価する

《授業で使用する教科書》

・「調理師養成教育全書3 食品の安全と衛生」全国調理師養成施設協会・日本フードスペシャリスト協会「三訂 食品の安全性(第3版)」建帛社

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

食品衛生の基本をまず身につけましょう。法律用語など難しい部分もありますが、調理師の仕事だけでなく日常生活にも活用できる事柄もありますので、普段の生活にもあてはめて学んでいきましょう。

事前学習：食の安全に関するニュースに関心をもち、わからないことはインターネットや教科書などで調べてください。

事後学習：前回の授業プリントなどの見直しをしてください

食品の安全と衛生 II

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 調理
担当 ★瀧本 文字

《授業の概要》

現代においても食中毒などの健康危害は後を絶たない。調理師として食品の微生物汚染や衛生対策への理解を深めるために、食品衛生微生物の基礎知識を習得するとともに、食品に関わる危害そのものについて食中毒を中心に特徴や対策を学ぶ。食中毒の原因や発生状況などを理解し、それぞれの防止対策を調理師の立場で実践できる知識を習得する。

《学生の到達目標》

- ①食品の腐敗・変敗のメカニズムが理解できる
- ②食中毒の種類、発生状況、種類、原因食品、防止方法などが理解できる
- ③各食品やメニューについて、食中毒の危害を予測しその予防対策ができるようになる

《授業計画》

1. 食品と微生物①微生物の基礎知識
2. 食品と微生物②腐敗・変敗とその防止法
3. 食中毒の種類と発生状況
4. 細菌性食中毒①サルモネラ属菌、腸炎ピブリオ
5. 細菌性食中毒②病原性大腸菌
6. 細菌性食中毒③カンピロバクター、エルシニア、リステリア
7. 細菌性食中毒④ブドウ球菌、ボツリヌス菌
8. 細菌性食中毒⑤ウエルシュ菌、セレウス菌、食中毒予防の三原則
9. ウイルス性食中毒
10. 自然毒食中毒①動物性自然毒
11. 自然毒食中毒②植物性自然毒
12. 化学性食中毒、寄生虫食中毒①概要
13. 寄生虫食中毒②各論
14. 経口感染症・その他の健康危害
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

定期試験 (70%) 小テストを含む提出物 (20%) 質問、回答など発言を含む授業への参加貢献度 (10%) で総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・「調理師養成教育会書3 食品の安全と衛生」全国調理師養成施設協会・日本フードスペシャリスト協会「三訂 食品の安全性 (第3版)」建邦社

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

安全で安心な食事を提供するために、食品微生物をはじめとする食中毒の知識は非常に大切です。調理師という職業のためだけでなく、身近な人や自分自身に対しても必要なものとして学習してください。
事前学習：食の安全に関するニュースに関心をもち、わからないことはインターネットや教科書などで調べてください
事後学習：前回の授業プリントなどの見直しをしてください

調理理論と食文化概論 I

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 調理
担当 加藤 めぐみ

《授業の概要》

食べ物の重要な条件である美味しさは、さまざまな要因が係りあって感じられるものである。どのような要因があるのか、それが調理とどのように関係しているのかを学ぶ。また調理方法の種類と特徴、それぞれの操作方法を学び、調理の基本技術を習得する。

《学生の到達目標》

調理技術に関する理論を理解し、知識に裏付けられた技術を調理実習に応用できるようになる。例えば、食品の酵素的褐変を理解し、調理実習で褐変を防止し、美しい料理に仕上げる事が出来る。

《授業計画》

1. 調理の意義
2. 調理の目的
3. おいしさの化学的要因
4. おいしさの物理的要因
5. おいしさの心理的要因
6. おいしさの生理的要因
7. おいしさの環境的要因
8. 調理法の種類
9. 非加熱調理法
10. 加熱調理法
11. 非加熱調理操作① 浸漬、切碎など
12. 非加熱調理操作② 磨砕、成形など
13. 加熱調理操作① 湿式加熱操作
14. 加熱調理操作② 乾式加熱操作
15. 誘電加熱・誘導加熱

《成績評価の基準・方法》

定期試験 (70%)、課題提出 (30%) で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「新調理師養成教育会書4 調理理論と食文化概論」全国調理師養成施設協会・一般社団法人 F L A ネットワーク協会「食生活アドバイザー3級公式テキスト&問題集」日本能率協会マネジメントセンター

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習は、教科書をよく読み、興味を持ったものや、わからないところは調べる。事後学習は、毎回配布するプリントを勉強し、数回ごとに行う小テストで合格点がとれるように、復習する。

調理理論と食文化概論 II

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 調理
担当 加藤 めぐみ

《授業の概要》

食材料としての食品が調理上どのような特徴を持っているか、調理における諸現象、変化などを科学的に把握し、理論的な調理方法を学ぶ。食品素材別に栄養的性質、物理的性質を調理例と関連付けて学習する。

《学生の到達目標》

食品中の成分が調理によってどのように変化するのかを理解する。よりよい料理に仕上げるためには、どのように調理すればよいかを考え工夫ができる。

《授業計画》

1. 米・米粉の調理科学
2. 小麦粉・そばの調理科学
3. イモ類の調理科学
4. デンプンの調理科学
5. 砂糖の調理科学
6. 大豆の調理科学
7. 小豆の調理科学
8. 雑穀類の調理科学
9. 野菜類の調理科学 テクスチャーなど
10. 野菜類の調理科学 色など
11. 野菜類の調理科学 栄養成分など
12. 果実類の調理 香りなど
13. 果実類の調理科学 酵素など
14. きこの類の調理科学
15. 海藻類の調理科学

《成績評価の基準・方法》

定期試験 (70%)、課題提出 (30%) で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「新調理師養成教育全書 4 調理理論と食文化概論」公益社団法人 全国調理師養成施設協会

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習は、教科書をよく読み、興味を持ったものや、わからないところは調べる。事後学習は、毎回配布するプリントを勉強し、数回ごとに行う小テストで合格点がとれるように、復習する。

調理理論と食文化概論 V

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 調理
担当 大杉 加菜子

《授業の概要》

調理師はおいしい料理をつくるとともに、食文化を継承するという役割も担っている。日本・世界の食文化を知り、理解を深める。また日本人のもつ繊細な感性を風土や歴史を学ぶことで身近に感じ食生活に取り入れよう。

《学生の到達目標》

調理師として、食文化の伝統や変遷の知識を身につけ、調理業務の従事に実践的に活かせるようにする。年中行事や四季の催事を積極的に調べ自身の食生活に取り入れよう。

《授業計画》

1. 食文化の成り立ち
2. 宗教と食文化 (伊勢参りと古事記)
3. 食法・調理法などの多様性
4. 食文化の共通性と国際化
5. 日本の食文化史 (原始時代)
6. 日本の食文化史 (稲作と箸)
7. 日本の食文化史 (中世時代 南蛮菓子と日本人)
8. 日本の食文化史 (江戸時代 上方の食文化と徳川幕府)
9. 日本料理の食文化 (日本料理様式)
10. 日本料理の食文化 (茶の湯・千利休と懐石料理)
11. 日本の食文化史 (典座教訓・道元禅師)
12. 日本料理の食事作法
13. 行事食と郷土料理
14. 食生活の現状
15. 食文化の未来

《成績評価の基準・方法》

確認テスト 40% 提出物 60%

《授業で使用する教科書》

・「新調理師養成教育全書 4 調理理論と食文化概論」公益社団法人全国調理師養成施設協会

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前 外食産業が盛んになっていく中で、調理師の果たす役割はなんなのか日本の豊かな食の広がりや四季の変化から培われた様々な料理について調べてみよう。

事後 日本の食文化を学んで日本人の感性を通して見てくる世界の食文化を考えよう。

食材の見極め(買い出し)Ⅰ

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 ★宮本 弥生, ★奥田 晶子

《授業の概要》

調理をするためには調理技術はもちろんですが、素材を見極める目を養うことも大変重要になります。
そのための基礎として、八百屋さんや肉屋さん・魚屋さんに授業をしてもらったり、時には農家を訪問し生産者の方の思いを聞いたり、収穫したての野菜をその場で食べてみたりし、食材に対する知識を深めていきます。

《学生の到達目標》

授業に必要な材料を自分たちで買い出しにできたりもします。
そのための基礎知識を身につけていきます。

《授業計画》

1. 授業についてのオリエンテーション・商店街探索
2. 春野菜について1
3. 春野菜について2
4. 春野菜について3
5. 牛肉について
6. 豚肉について
7. 鶏肉について
8. 農家訪問
9. 初夏の野菜について1
10. 初夏の野菜について2
11. 魚について1
12. 魚について2
13. 夏野菜について1
14. 夏野菜について2
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

毎時間提出のレポート100%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

- ・事前にその日の素材について自分で調べレポートにし、発表。
- ・事後にあためてレポートを作成し、提出。

食材の見極め(買い出し)Ⅱ

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 ★宮本 弥生

《授業の概要》

食材の見極めⅠに引き続き、食材への知識を深めながら、授業に使う食材の買い出しや、ひと月に一度は八百屋さんでコラボして「城南ベジマルシェ」をオープンし、実際に季節の野菜の販売も行います。

《学生の到達目標》

野菜販売のためには、野菜を見極めることや使い方を知ることが大事になります。
2年次には自分たちで買い出した食材で、自分たちで献立を考える授業も始まります。
そのためにも食材の季節を知り、食材を見極めるポイントをしっかりと身につけ、人に伝えられるようにしてください。

《授業計画》

1. 秋野菜について1
2. 秋野菜について2
3. 城南ベジマルシェ
4. 農家訪問
5. 秋野菜について3
6. 調味料について1
7. 城南ベジマルシェ
8. 調味料について2
9. 魚について1
10. 魚について2
11. 冬野菜について1
12. お節の野菜について
13. 城南ベジマルシェ
14. 冬野菜について2
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

レポート50% ベジマルシェへの取り組み方50%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

- 事前に食材について調べ、レポートにし、発表。
- 事後に更にレポートを作成し、提出。

調理実習(包丁レッスン・基礎料理Ⅰ)

1年次(半期)
3単位(実習)
資格 調理・フード
担当 ★宮本 弥生

《授業の概要》

調理をするにあたっての基本姿勢・技術・心構えを身につけると共に、時にはコンテストに挑戦したり、季節の料理を学ぶ。実習内容はまず講師がデモンストレーションを行い、手順・ポイント・注意点を伝え、各自それぞれ理解した上で実習を行う。実習は1-2名ずつで行う。
尚、実習は決められた服装・身だしなみができていなければ受講できない。

《学生の到達目標》

包丁の持ち方・使い方・研ぎ方の習得。
材料の切り方・魚おろしの習得。
材料の下処理の習得。
基本的調理技術の習得。

《授業計画》

1. 包丁の使い方1 ポテトグラタン・春キャベツのサラダ
2. 包丁の使い方2 金平牛蒡・紅白なます 他
3. ご飯を炊く 炊き込みご飯・煮物
4. 出しをひく 吸い物・肉じゃが・鶏のたたき風
5. 煮物について1・包丁研ぎ1 筑前煮・味噌汁・桜餅
6. 和え物について・包丁研ぎ2 胡麻和え・ナスの揚げ煮・苺大福
7. 生地について1 キッシュ・コロック・デザート
8. 煮物について2 南瓜と海老の炊き合わせ・生姜焼き・酢の物
9. 魚について1 鰯の三枚おろし 和風ソテー・南蛮漬け
10. 魚について2 鰯の三枚おろし フライ・ホイル焼き・デザート
11. 料理コンテスト 応募作品制作
12. 肉について ハンバーグ・サラダ・デザート
13. スライスについて スパイシーカレー・サモサ・タンドリーチキン
14. 生地について2 ピッツァ・デザート
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

実習での課題達成度40% テスト40% ノート提出20%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

- ・事前 前週に自修のレシピを配布するので、材料・調理法の事前調べをする。
- ・事後 実習終了後に実習ノートを作成し、15回終了後に提出。

調理実習(基礎料理Ⅱ)

1年次(半期)
2単位(実習)
資格 調理・フード
担当 ★宮本 弥生

《授業の概要》

前期の調理実習Ⅰをふまえ、調理技術の基礎のより深い習得に努めるとともに、季節の献立を学ぶ。決められた服装・身だしなみができていなければ、受講できない。

《学生の到達目標》

調理技術の基礎の習得。
調理時の段取りを時間配分も含め、自分でつけられるようになる。

《授業計画》

1. 秋の献立1 菊花吸い物・鱧まき卵・栗ご飯・スイートポテト
2. 秋の献立2 かぼちゃの丸ごとグラタン・スペアリブの煮物・ハロウィंकッキー
3. 料理コンテスト 応募作品制作
4. 秋の献立3 天ぷら盛り合わせ・すっぽん仕立て吸い物
5. 秋の献立4 太巻き寿司・蟹の箱寿司・茶碗蒸し
6. 秋のおそうざい 鯖の味噌煮・切り干し大根の煮物・佃煮
7. 保存食 ジャム・マーマレード・豆の煮物・ふりかけ・肉みそ
8. 冬の献立1 粕汁・鰯の蒲焼・ひろうすの煮物
9. おせち料理1
10. おせち料理2
11. クリスマスケーキ
12. 冬の献立2 海老芋と海老の炊き合わせ・湯葉かけご飯・利休饅頭
13. レストラン 献立制作
14. レストラン オープン
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

実習での課題達成度40% テスト40% ノート提出20%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

- ・事前 前週に自修のレシピを配布するので、材料・調理法の事前調べをする。
- ・事後 実習終了後に実習ノートを作成し、15回終了後に提出。

調理実習(中国料理)

1年次(半期)
2単位(実習)
資格 調理
担当 ★伊東 成

《授業の概要》

中国料理の基礎知識及び基礎技術を段階的に学習すると共に、衛生面や調理の段取り・コミュニケーションをとりながらの作業を学ぶ。授業としてはまず実習内容のデモンストレーションを行い、手順・ポイント等を伝えた後、実習を行う。なお、実習時決められた服装・身だしなみが出来ていなければ授業は受講できない。

《学生の到達目標》

材料の下処理から、切り方・下準備・中華なべの扱い・仕上げ等、基礎技術の習得。

《授業計画》

1. 棒棒鶏絲・青椒肉絲・什景炒飯
2. 涼拌海蜇皮・干焼大蝦・回鍋肉・甜麵醬
3. 老酒蒸鶏・麻婆豆腐
4. 蟹肉燻蛋・雲吞
5. 栗子猪肉粽・素炒塌菜・椰子西米露
6. 魚香茄子・魚生粥・芝麻元宵
7. 干蒸魚・宮保蝦仁・鮑片鍋巴
8. 紅油墨魚花・炒米粉・糖醋丸子
9. 貴妃鶏・香味鷄腿肉・魚翔湯・杏仁豆腐
10. 豆鼓排骨・糖醋魚象・高麗香蕉
11. 魚香烏肝・大良鮮奶・豆乳布丁
12. xo醬炒貝柱・糖醋肉・蝦仁燒売
13. 春捲・東坡肉・拔糸地瓜
14. 復習の料理・椰子地瓜・炸醬担々麵
15. 総まとめ

《成績評価の基準・方法》

基本的技術の習得度40% テスト 30% 実習ノート 30%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

- ・事前 毎回、次週のレシピを渡すので、材料の中国語を調べる。
- ・事後 実習後に実習ノートを作成し、15回終了後に提出をする。

調理実習(フランス料理)

1年次(半期)
2単位(実習)
資格 調理
担当 山口 清香

《授業の概要》

西洋料理の基本的調理法を取り入れたメニューの講習・実習を行う。ヨーロッパの食文化、料理に関わる歴史、調理法の専門用語(フランス語)について学ぶ。普段あまり目にするもの出さない珍しい食材に触れながら、幅広く西洋料理の知識を深める。実習の際、指定した実習着の着用と身だしなみを整えていなければ、授業は受講できない。

《学生の到達目標》

基本的調理技術の習得。調理に必要な知識を身につけることで、基礎をしっかり固め将来的に多方面で活躍出来る調理師を目指す。

《授業計画》

1. 料理をはじめるにあたり(調理器具の説明他)
2. 包丁の技法①(玉葱のみじん切り)
3. 仔牛の出し汁(肉料理他2~3品)
4. 鶏の出し汁(鶏料理他2~3品)
5. 魚の出し汁(魚料理他2~3品)
6. ソースについて(冷製料理、温製料理)
7. ポターージュについて(冷製、温製)
8. 基本的調理法①(鴨の料理他2~3品)
9. 基本的調理法②(エスカルゴの料理他2~3品)
10. 基本的調理法③(ローストチキン他2~3品)
11. フライパンの扱い方(オムレツ)
12. 高級食材を使ったメニュー(フォアグラ、トリュフ、キャビア他)
13. スペイン料理のメニュー
14. 包丁の技法②(じゃがいものシャトー剥き)
15. 総まとめ

《成績評価の基準・方法》

ノート提出(30%) フランス料理の基本的技術の習得度(30%)
フランス料理の基本的知識の習得度(40%)で評価する。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：授業で使用するプリント(レシピ)はその授業が行われる数日前には配布します。材料はフランス語で記載していますので、必ず調べて授業に臨んでください。
事後学習：料理を作ることの楽しさ、難しさ、厳しさを体験すると想います。技術向上を目指し意欲的に取り組んでください。

スキルアップ I

1年次(半期)
1単位 (演習)
資格 なし
担当 ★宮本 弥生

《授業の概要》

調理の基礎技術の習得のための自主練習の時間です。
それぞれ、自分の不足しているところを反復練習してください。
材料は事前に申告すれば用意します。
尚、授業は決められた服装が整ってなければ受講できない。

《学生の到達目標》

包丁の手入れ・材料の切り方・材料の下処理の習得。
魚の三枚おろし・出し巻き卵の習得。
玉葱のみじん切り・シャツーむきの習得。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 自主練習
3. 自主練習
4. 自主練習
5. 自主練習
6. 自主練習
7. 自主練習
8. 自主練習
9. 自主練習
10. 自主練習
11. 自主練習
12. 自主練習
13. 自主練習
14. 自主練習
15. 自主練習

《成績評価の基準・方法》

練習に向かう態度の熱意と習得度 100%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前 今の自分に足りない技術を見極める。
事後 その日習得できた技術をイメージトレーニングし、次回につなげる。

スイーツアート基礎演習 I

1年次(半期)
1単位 (演習)
資格 なし
担当 ★柴田 精一

《授業の概要》

製菓の範疇にとどまらない多様な素材や技法を扱う中で手を動かしながら思考することを体験し、創作のための素地を作る。

《学生の到達目標》

多様な素材や技法を通して、手を動かしながら思考する方法を知る。また、それらを創作に応用できることを知る。

《授業計画》

1. オリエンテーション、ドローイングについて
2. 鉛筆・色鉛筆について特性を理解する
3. 鉛筆・色鉛筆画の制作①
4. 鉛筆・色鉛筆画の制作②
5. 自作いろがみ制作の計画
6. 自作いろがみの彩色
7. 自作いろがみを用いた切紙
8. 切紙を通して思考するワークショップ
9. オートマティスムの手法を理解する
10. オートマティスムを活用して発想する
11. オートマティスムを活用して描く①
12. オートマティスムを活用して描く②
13. 講評会に向けた準備
14. 講評会
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

作品 (60%)、小レポート (20%)、発表内容 (20%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習では、次回取り組む内容について予習する。事後学習では、学習した素材や技法から着想した製菓のアイデアをドローイングする。

スイーツアート基礎演習Ⅱ

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 ★柴田 精一

《授業の概要》

製菓の範疇にとどまらない多様な素材や技法を扱う中で手を動かしながら思考することをさらに積み、経験を抽象化して発想することを学ぶ。

《学生の到達目標》

多様な素材や技法を通して、手を動かしながら思考する方法を体得する。また、それらを創作に応用できるようになる。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 張り子の基礎知識と計画
3. 張り子スイーツのための糊作りと張り込み
4. 張り込み仕上げ
5. 胡粉の塗布、絵付けの計画
6. 絵付け
7. 型を使ったキャンドルスイーツの計画
8. 型取り演習
9. 離型と注入
10. キャンドルスイーツの仕上げ
11. 樹脂粘土を使用したフェイススイーツの計画
12. フェイクスイーツの制作①
13. フェイクスイーツの制作②
14. 講評会
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

作品(60%)、小レポート(20%)、発表内容(20%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習では、次回取り組み内容について予習する。事後学習では、学習した素材や技法から着想した製菓のアイデアをドローイングする。

フードプロモーションⅠ(カメラワーク・ラッピング)

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 中田 絢子, 櫻井 真貴子

《授業の概要》

○カメラワーク：今や私達の生活に欠かせない「写真」は、新たな共通言語のように、誰もが気軽に発信しています。しかし、情報や気持ちを的確に届けるためには、写真の適切な扱い方や伝え方を学ぶ必要があります。本授業では自身のスマートフォンを用いて、売上アップにつながる魅力的なフード写真の撮り方に特化して学習します。
○ラッピング：販売の現場では、見た目の印象が売り上げや顧客獲得を左右します。季節感やセンスがある表現を演出する基本技術を学び、各自のアイデアや個性の発想力を育てながら、対象物を美しく飾るための「包み方」、目的に応じた「素材の選び方」が出来るように学習していきます。

《学生の到達目標》

○カメラワークでは、フード写真の目的について理解し、必要な撮影の知識を身につけることができる。スマートフォンのカメラ機能を適切に扱い、ターゲットの興味を引く写真を仕上げる事ができる。
○ラッピングでは、必要な道具を使い、包装紙を綺麗に切ることが出来る。基本的な包み方とリボンの結び方を習得し、見栄えよく仕上げる事が出来る。
○包装された作品をスマートフォンで魅力的に撮ることが出来る。

《授業計画》

1. 売上アップにつながるフード写真とは
2. 写真の印象を操作する光について
3. 構図について、配色について
4. 写真のストーリーを考える
5. 撮影実習①
6. 撮影実習②
7. 撮影実習③
8. 課題講評会(テスト)
9. 基本の包み方「キャラメル包み」(箱の厚さ別)
10. 基本の包み方「斜め包み(デパート包み)」
11. 基本の包み方「スクエア包み」
12. リボントクニック：一文字掛け・十字掛け・斜め掛け
13. 巾着包みと絞り包み・ワイヤーを使ったリボンボウの作り方
14. 季節やイベントに合わせたラッピング
15. 総まとめ

《成績評価の基準・方法》

2人の教員で1/2ずつ評価します。
第1回～8回：授業への参加貢献度30%、授業理解度40%、課題提出内容30%
第9回～15回：授業内の課題への取り組みと理解度40%、授業への参加貢献度40%、テスト20%

《授業で使用する教科書》

・佐藤 明、小坂 桂「おいしいかわいい料理写真の撮り方 改訂版
(手持ちのカメラとスマホで撮れるフードスタイリングと撮影の本)」イカロス出版
他、適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：次回の学習内容について興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。事後学習：毎回の授業後に授業内で習ったことを復習しておくこと。
第8回の課題は、1～7回の内容を踏まえて授業時間外に自主的に取り組み、授業内で発表するものとする。

フードプロモーションII(ラッピング・ディスプレイ)

1 年次(半期)
1 単位 (演習)
資格 なし
担当 櫻井 真貴子, 山本 智子

《授業の概要》

ラッピング：調理・製菓の現場では、見た目の印象が売り上げや顧客獲得を左右します。季節感(旬)やセンスがある表現を演出する「ラッピング」の基本技術を学び、各自のアイデアや個性の発想力を育てながら、対象物を美しく飾るための「見せ方・包み方」、目的に応じた「色とデザインの違い」が出来るように学習していきます。
ディスプレイ：ディスプレイとはストーリーです。ただ美しいというだけではなくその商品の価値と思いを伝えるための重要な手段です。また商品や店舗のコンセプト、顧客層、季節、立地環境などによってディスプレイは大きく変わります。ディスプレイを今までしたことのない方や苦手意識がある方もすぐに魅力的なディスプレイができるようになります。この授業ではその考えかたやコツ、ルールをあますところなくお伝えしていきます。

《学生の到達目標》

○ラッピング：必要な道具を使って、包装の基本技術を使い、包む対象物に合わせた素材を選び、更に工夫をし、見栄え良く仕上げる事が出来る。
○ディスプレイ：ゴールは2つです。この授業を受ければあなたがどんな環境や職種におかれても、そのニーズと目的に沿った和洋のディスプレイがすぐに行えるようになります。またディスプレイというひとつの感性を通して、自信や楽しみそして公私ともに感性豊かなライフスタイルを送れるようなマインドを育てていきます。

《授業計画》

1. お菓子のブーケ
2. 基本の包み方のアレンジ①
3. 基本の包み方のアレンジ②
4. フードラッピング①
5. フードラッピング②
6. マチ有りとマチ無しのペーパーバッグ
7. 冠婚葬祭に合わせた熨斗紙の使い方
8. 基本の包み方とリボンテクニックの総まとめ
9. ディスプレイの大原則) 何のためにやるの?どんな効果あるの?何をディスプレイするの?
10. 顧客目線で考えるディスプレイ) これくださいの心理、お客様から見る売り場、3構成
11. ディスプレイ基本の型3・ローコスト&グッドセンスが可能な方法 クリスマス実習
12. 【ディスプレイ4W1Hワーク テーマを決めてグループワークと発表】
13. 【和のディスプレイ基本の知識、3つのポイントと実習】
14. 【ディスプレイを通じたコミュニケーションを学ぶ】
15. 【総まとめ】和のディスプレイ復習と各自宿題発表

《成績評価の基準・方法》

2人の教員で1/2ずつ評価します。
第1回~8回:授業内の課題への取り組みと理解度30%、授業への参加貢献度30%、テスト40%
第9回~15回:授業への参加貢献度(質問など)20%、ワークでの積極性40%、宿題提出40%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

・沼田明美「売り上げにつながるディスプレイ」同文館出版

《事前・事後学習》

【事前学習】ラッピング：次回の学習内容について興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。ディスプレイ：ネットや本で予習。
【事後学習】ラッピング：毎回の授業後に授業内で習ったことを復習しておくこと。
ディスプレイ：毎回の授業後に授業内で習ったことを復習しておくこと。

洋菓子入門

1 年次(半期)
3 単位 (実習)
資格 なし
担当 山口 真知子

《授業の概要》

菓子製造における正確な計量、作業工程、専門用語、洋菓子の分類を学ぶ。
素材の特性を理解し、洋菓子製造の基礎技術を習得する。
反復学習することで作業工程を理解し、チームワークの重要性を学ぶ。

《学生の到達目標》

正確に計量できるようになる。
道具、機材の扱い方、基本の製菓技術を習得する。
理論実習をすることで素材の特性を理解し、良い生地の状態を見極め、成功に繋げる。
反復実習をすることで作業性を習得し、チームワーク、協調性の大切さを知る。

《授業計画》

1. オリエンテーション 器具・機材の扱い方 ジェノワーズ (バターなし)
2. ジェノワーズ (バターあり) ☆スポンジ実験① <材料:砂糖>
3. ココアジェノワーズ、ナッペ、ポッシュ☆スポンジ実験② <材料:小麦粉>
4. ロールケーキ (共立て) プレーン、抹茶
5. フィンガービスケット、バトンマレージュ☆メレンゲ実験③
6. プッセ、シフォンケーキ
7. ガトショコラ、ジェノワーズ練習、シュクレ仕込み
8. 洋梨タルト、ペイクドチーズタルト
9. カトルカール (抹茶、ココアマール) オレンジゼリー、☆凝固材料実験④
10. シュークリーム ☆シュー皮実験⑤
11. ラングドシャ、カントリーマアム、アイシングクッキー型抜き
12. アイシングクッキー
13. ココナッツムース、カップレチーズケーキ
14. ジェノワーズ反復、マフィン (バター、油)、☆マフィン実験⑥
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

ノートレポート40%
実技試験 (製品・作業工程) 60%
ノートレポートは講師とアシスタントの連携で実習内容について正しい理解で記載されているかチェックする。

《授業で使用する教科書》

・塩川 由美 「新・現場からの製菓フランス語」ジービー・中山
弘典「科学でわかるお菓子の「なぜ？」」柴田書店

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前・・・フランス語の材料表記を日本語に訳す。
事後・・・失敗した部分、うまく進まなかった部分、上手くできた事柄をノートにまとめる。

洋菓子の理論と実践(初級)

1年次(半期)
3単位(実習)
資格 なし
担当 山口 真知子

《授業の概要》

入門で学んだことを基礎ベースにさらに反復することにより、高度な製菓技術を身に付ける。作業工程を理解し、チームワーク内での作業分担、時間配分を考え、自主的に作業に取り組む。丁寧な作業を心掛け、商品を意識して美しい製品を創り出す。

《学生の到達目標》

各パートの基礎製造技術を習得する。
各種実験実習を行い、素材の特性をさらに理解する。
チームワークの重要性を理解し、自主的に作業に取り組む力を身に付ける。
基本材料のフランス語を読み、書きできるようになる。

《授業計画》

1. プリン、マドレーヌ(プレーン・ココア)
2. クレームブリュレ、フィナンシェ(プレーン・ココア)、アイスボックスクッキー
3. お花のデコロール、ブラウニー
4. 絞りクッキー、シュクレ仕込み、スコーン、ジャム
5. スイートポテトタルト、パンブキンプリン、シートジェノワーズ仕込み
6. ティラミス、マロンタルト(ダイヤモンド)
7. アップルクーヘン、モンブランロール
8. クレープドームケーキ
9. アップルパイ、ショコラババロア
10. フランボワーズムース、シュクレ仕込み
11. ジェノワーズ反復、サンタケーキ クッキー焼成
12. プッシュ・ド・ノエル、アイシングクッキー
13. ジェノワーズ反復、デコレーションケーキ(2台)、ナッペ・ポッシュ反復
14. ジェノワーズ試験、デコレーションケーキ、ナッペ・ポッシュ反復
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

ノートレポート 40%
実技試験(製品・作業工程) 60%
ノートレポートは講師とアシスタントの連携で実習内容について正しい理解で記載されているかチェックする。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前・・・フランス語の材料表記を日本語に訳す。
事後・・・失敗した部分、うまく進まなかった部分、上手くできた事例をノートにまとめる。

パンの理論と実践(基礎)

1年次(半期)
3単位(実習)
資格 なし
担当 ★亀井 知子

《授業の概要》

パン製造に関する、材料の知識を深める。パン製造に関する独自の用語、温度管理、発酵管理、製パン技法などを学ぶ。

《学生の到達目標》

製パンの基本を習得する。材料について知識を深め、製パンに応用できる。専門的な機械を扱い大量生産を可能にする。家庭など、学校の実習室とは違った環境で、学んだパンを再現できる。パンシエルジュ3級のテキストをもとに、資格取得を目指す。

《授業計画》

1. オリエンテーション、パンのレシピ見方、バターロール
2. バターロール(手捏ね)、ハムロール、材料学(粉)
3. 菓子パン(ミキサー)、蒸しパン、蒸しケーキ、スコーン、材料学(塩)
4. 菓子パン(クリームパン)、原価計算基礎
5. 山食パン、材料学(砂糖類)
6. マスカルポーネパン、販売実践実習(仕込み)①、材料学(たまご)
7. 販売実践実習①、材料学(油脂類)
8. 角食パン、ナポリ風ピッツァ、フォカッチャ、材料学(酵母菌)
9. パンピザ、ピッツァ、さつまいもスティック、材料学(乳製品)
10. クロワッサン、アップルパイ(仕込み)、メロンパン
11. シュトーレン、ミルクハース、アップルパイ、クロッカン、販売実践実習②(仕込み)
12. 販売実践実習②
13. 白パン、フランスパン(バター、ベーコンエビ)
14. 角食パン(サンド用)、ミルクフランス、パン・オ・レ
15. ベーグル、サンドウィッチ(三角サンド、カスクート)、総括

《成績評価の基準・方法》

授業の理解度(30%)、実習でのパン製造のできばえ(70%)実技試験で評価する。

《授業で使用する教科書》

・ホームメイドクッキング「パンシエルジュ検定3級公式テキスト」株式会社実業之日本社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：実習課題のパンをイメージし、可能な限り調べておく。

事後学習：実習内でのレシピを完成させる。家庭などで学んだパンを、再現する。

和菓子の理論と実践(基礎)

1年次(半期)
2単位(実習)
資格 なし
担当 ★前野 欣司

《授業の概要》

和菓子の分類や製菓材料、器具の使用法、季節の和菓子から製餡・包餡などの実践的な製菓技術等を基本から学ぶと共に、四季・風習・生活に結び付く和菓子の一つ一つの作品の意味を探索し感性も育成する。

《学生の到達目標》

実習で使用する器具・機械・材料の取り扱いが適切にできる。基本的な製菓技法を理解し、実践できるようになる。

《授業計画》

1. 花見団子 包餡
2. 製餡 桜餅
3. 粒餡 いちご大福
4. 柏餅 粽
5. どら焼餡 みたらし団子 草餅
6. どら焼 おはぎ3種
7. 赤飯 赤飯饅頭 鮎求肥
8. 鮎 水饅頭
9. 上用饅頭 わらび餅
10. 田舎饅頭 水ようかん 乳菓餡
11. 乳菓 土用餅
12. 水無月 みかん大福
13. あんみつ 葛桜
14. 上生菓子(外郎) 煉切生地
15. 上生菓子(煉切)

《成績評価の基準・方法》

毎回の授業での実習作品の完成度50%、テスト50%で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：次回の実習作品についてレシピを配布するので材料の確認とどんな菓子かを調べる。
事後学習：実習後、学んだ内容をノートにまとめ、疑問点を次回の授業の際に質問出来るようにしておく。

和菓子の理論と実践(応用)

1年次(半期)
2単位(実習)
資格 なし
担当 ★前野 欣司

《授業の概要》

和菓子の分類や製菓材料、器具の使用法、季節の和菓子から製餡・包餡などの実践的な製菓技術を基本から学ぶと共に、四季・風習・生活に結び付く和菓子の一つ一つの作品の意味を探索し感性も育成する。

《学生の到達目標》

実習で使用する器具・機械・材料の取り扱いが適切にできる。基本的な製菓技法を理解し、実践できるようになる。学んだ知識を生かしてオリジナルの和菓子を作る。

《授業計画》

1. 浮島 煉り羊羹
2. 栗饅頭 利休饅頭
3. 月見団子 かりんとう饅頭
4. 干菓子(吹き寄せ)
5. 栗蒸し羊羹 落雁
6. 黄味時雨 亥の子餅
7. はさみ菊 桃山
8. 工芸菓子
9. 工芸菓子
10. きんつば 豆大福
11. クリスマスの上生菓子
12. お鏡 棒餅 あん餅
13. 花びら餅 酒饅頭
14. チョコ大福 うぐいす餅
15. 創作和菓子

《成績評価の基準・方法》

毎回の授業での実習作品の完成度50%、テスト50%で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：次回の実習作品についてレシピを配布するので材料の確認とどんな菓子かを調べる。
事後学習：実習後、学んだ内容をノートにまとめ、疑問点を次回の授業の際に質問出来るようにしておく。

ダンスⅠ

1年次(半期)
1単位(実習)
資格 なし
担当 山崎 真実

《授業の概要》

ダンスとは表現方法の一つであり、豊かなコミュニケーションと、表現を楽しむ文化・芸術である。また、数多くの種類があり、その歴史も様々な時代と共に発展し続けている。本授業では、ストレッチやリズムジャンプといったボディコンディショニング・トレーニング法から、ステップや振付を用いた多ジャンルのダンスに取り組み、身体づくりと表現法を学ぶ。ダンスの技術力の向上だけでなく、個に合わせた目標設定を行い、半期の授業を通して自身の可能性を広げる。さらに、グループワークでは、他者と共に身体を動かすことを楽しみ、コミュニケーション能力とチーム構築のために必要なスキルについて知る。技術習得だけでなく、感性を磨き、健康的な心身の維持、一人ひとりのもつ魅力を最大限に活かすことを目指す。

《学生の到達目標》

- ・自分自身の身体と向き合い、動きや仕組みについて理解・苦手克服に取り組むことができる
- ・音楽を聴き、リズムをとり、自由に表現することができる
- ・他者と協力し、互いに認め合い、コミュニケーションとチームワークを意識することができる

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 身体を知る・目標設定(静的ストレッチ・動的ストレッチ)
3. 姿勢・ストレッチ・リズムトレーニング
4. リズムトレーニング・リズムジャンプ
5. 基本的なステップを用いたダンス
6. 基本的なステップを用いたダンス
7. 基本的なステップを用いたダンス
8. 創作ダンス(グループワーク)
9. 創作ダンス(グループワーク)
10. 創作ダンス(グループワーク)
11. 発表に向けた内容(グループワーク)
12. 発表に向けた内容(グループワーク)
13. 発表
14. 発表
15. 振り返り

《成績評価の基準・方法》

本授業は実習授業である。評価方法としては、毎回の授業への取り組みや姿勢に対する評価50%、授業内で実施する実技の成果発表(静的/動的ストレッチ・リズムジャンプ・ダンス実技)の評価50%とする。ただし、ダンスの技術のみを問うものではなく、学生一人一人の課題と目標達成度、半期15回の授業での成果を評価する。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

自身の目標達成や、実技の成果発表に向けて積極的に取り組むこと。また、日常生活から、音楽やリズムに興味を持ち親しむこと、自身の身体と向き合うことが望まれる。

ダンスⅡ

1年次(半期)
1単位(実習)
資格 なし
担当 山崎 真実

《授業の概要》

本授業ではダンスⅠで習得したことを深め、専門性を高める。ダンスとボディコンディショニング・トレーニング法について、技術力と指導力の両面からスキルアップを目指す。また、グループワークを基本とした内容で、コミュニケーション能力やチーム構築のために必要なスキルを学ぶ。

《学生の到達目標》

- ・他者と協力し、互いに認め合い、コミュニケーションとチームワークを意識することができる
- ・自身の言葉掛けと動きで、簡単な指導を行うことができる
- ・身体づくりについて理解し、説明ができる

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 身体を知る・目標設定(ストレッチ・リズムジャンプ)
3. 姿勢・ストレッチ・リズムトレーニング
4. キューイングを学ぶ
5. 選曲方法・カウントについて学ぶ
6. 基本的なステップを用いたダンス
7. 基本的なステップを用いたダンス
8. 創作ダンス
9. 創作ダンス
10. ストレッチ・創作ダンスの指導法
11. ストレッチ・創作ダンスの指導法
12. ストレッチ・創作ダンスの指導法
13. 発表
14. 発表
15. 振り返り

《成績評価の基準・方法》

本授業は実習授業である。評価方法としては、毎回の授業への取り組みや姿勢に対する評価50%、授業内で実施する実技の成果発表(静的/動的ストレッチ・リズムジャンプ・ダンス実技と指導)の評価50%とする。ただし、ダンスの技術のみを問うものではなく、学生一人一人の課題と目標達成度、半期15回の授業での成果を評価する。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

自身の目標達成や、実技の成果発表に向けて積極的に取り組むこと。また、日常生活から、音楽やリズムに興味を持ち親しむこと、自身の身体と向き合うことが望まれる。

ヨーガII

1 年次(半期)
1 単位 (演習)
資格 なし
担当 坂本 淑子

《授業の概要》

人生を揺るがすようなトラウマティックな出来事や、心的外傷 (PTSD) をもたらすような非常に辛い出来事をきっかけとして、人間としての心の成長を果たす反応をPTG (Post Traumatic Growth) という。大災害の中でも自らを客観視し、何をすべきなのかを理解する自制力を発揮する力である。それは自然災害だけではなく、事故、虐待、戦争、いじめ、妻切り、失業、貧困などにもあてはまる。まさにこのコロナ禍においても必要な力である。ヨーガ行者が数千年の過酷な生活環境の中で培い、伝えてきた伝統的ヨーガの種々の技法が、人間のレジリエンス (しなやかさ・強さ) を高め、PTGを生み出すと言われている。本講座では災害の多い日本で、またストレス社会にあってもストレス・タフに、強くしなやかに生きる術をインド5千年の智慧から学ぶ。

《学生の到達目標》

ストレス、ストレス反応について更に深く理解し、身の回りで起きた不運、逆境、危険、問題に出会っても、他者の力を借りながら自らそれをはね返して、ダメージを受けた状態から元の精神的に健康な状態に戻る力=レジリエンスをこの講座で身につける。”ヨーガの智慧に学ぶめげないココロ” ”ヨーガの体操で作るめげないカラダ”。この2つをキーワードにして、他者との親和性・協調性・問題解決能力・積極的思考・感情統制・自己肯定感などの”生きる力”の向上を目指す。

《授業計画》

1. 災害は忘れた頃にやってくる ～SOCとPTGについて
2. 現代社会が抱える二大問題
3. 現代医学によるストレスの説明 ～ハンス・セリエ
4. 体内の恒常性 (ホメオスタシス)
5. 生体の恒常性が正常に保たれない場合
6. ストレスで心が乱れて発症する内科疾患
7. ストレスと上手につきあう方法 ～インド5000年の智慧
8. 文明病としてのストレス関連疾患・WHOの健康概念
9. 心身症患者の性格特徴
10. 現代社会とストレス・マネージメント
11. 人生とは ～ギヤーナ・ヨーガから学ぶ
12. 幸福はどこにあるのか?
13. 正しい幸福追求の向き
14. 行為とは ～カルマ・ヨーガから学ぶ
15. 無執着は完全な自己滅却である

《成績評価の基準・方法》

授業への取り組み姿勢、授業後の質問及び感想文提出…40%
レポート提出 (授業内でシェアリング有・講師が添削して返却) …40%
実技実習度合 (授業内・家庭における自習) …20%

《授業で使用する教科書》

・木村慧心「実践 ヨーガ療法」ガイアブックス

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：事前に配布した資料と教科書に目を通しておく。
授業終了時に毎回の気づき、感想文を提出する。
事後学習：習った実技 (アーサナ・呼吸法など) を毎日家庭で実習し、自らの健康を作る。その変化もその都度レポートに書く。

運動学

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 なし
担当 ★松尾 高行

《授業の概要》

身体運動に関する器官として、骨・関節・筋・内臓の各部の構造と形態、メカニズムを学習し、身体運動を理解する基礎を身につけることを目的とする。①骨・関節 (骨の構造と分類、各部の骨の形態、関節の構造と分類、各部の関節と韧带)、②筋系 (筋の構造と分類、各部の筋の起止・停止、筋の作用)、③内臓器系 (循環器系、呼吸器系、消化器系等) について講義する。また体表解剖として学生間で互いの皮膚表面から筋や骨を視診と触診によって確認し、形状や弾力性等を確かめる。心・循環器機能を把握するために運動による脈拍、血圧、呼吸の変化を確かめる。医療機関・福祉施設における疾病や外傷等によって受けた身体障害に対するリハビリテーションについて学ぶ。

《学生の到達目標》

骨・関節・筋・内臓の各部の構造と形態、メカニズムを理解できる。
医療機関・福祉施設におけるリハビリテーションについて関心をもつ。

《授業計画》

1. 骨・関節①上肢の骨
2. 骨・関節①上肢の関節
3. 筋①上肢の筋
4. 上肢の運動：実技 (関節運動・筋の伸張)
5. 骨・関節②下肢の骨
6. 骨・関節②下肢の関節
7. 筋②下肢の筋
8. 下肢の運動：実技 (関節運動・筋の伸張)
9. 内臓①心臓の解剖
10. 内臓①心臓の機能
11. 内臓②肺の解剖
12. 内臓②肺の機能
13. 内臓③消化器の解剖・機能
14. 内臓：実技 (運動による脈拍・血圧・呼吸の変化)
15. 医療機関・福祉施設におけるリハビリテーション

《成績評価の基準・方法》

前期試験 (筆記試験・100%) により評価する。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

受講にあたって予習・復習を十分に行うこと。

東住吉研究Ⅰ(地域演習)

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 小林 孔

《授業の概要》

本学が位置する東住吉区は、大阪市内でも高齢化率が最も高いとされている地区である。また、その東住吉区では、住宅地、商業地区、小規模工業地域など、それぞれに昭和から現在まで続く多様な歴史が読み取れる。本講座では、昭和から平成にいたる東住吉区の様相の変遷の中から、令和の社会に必要な考え方を、各自が実際に現場に足を運び、取材をしながら見つけ出す、社会提言型のプログラムである。

《学生の到達目標》

予備学習を踏まえ、東住吉区へのアプローチ方法を各自が決定し、みずからの取材計画に基づいた実状把握と地域への具体的な提言ができる思考力をつける。

《授業計画》

1. 東住吉区の90年
2. 高齢化率の根拠
3. 歴史に問題を探る
4. 商業地区の役割
5. 住宅地の拡大
6. 産業の減少
7. 街の構造と高齢社会
8. 令和への問題点①
9. 令和への問題点②
10. 根本を探る(取材)
11. 根本を探る(取材)
12. 取材報告
13. 再び取材へ
14. 文章として残す
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

取材報告の内容と文章化した内容のそれぞれを50%ずつで評価する。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

内容の優れている報告は、年2回発行の「大阪ほっとコミ」に掲載する。また、東住吉区との包括連携会議の議案としても提起してみたい。

地域活性化プランニングⅠ(地域演習)

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

地域の中で高齢者を支えるために必要なことを学ぶ。これから人口が減少し超高齢社会をむかえる。そこで、高齢者を支えた多くの世代が暮らしやすいまちにするプランニングが必要である。地域の中で高齢者が生き生きと生活できるような取り組みをしている地域の方々の声も聞き、事例からも地域活性化への手がかりを得る。その人らしい生活に必要なことを考え、地域で暮らしていく高齢者のことを幅広く理解していくことで、生活する上での課題を抽出し、地域を活性化するためのプランを計画してみる。

《学生の到達目標》

・地域での高齢者の課題を理解する。・地域で暮らす高齢者の現状を知る。・地域で福祉を支えるしくみを理解する。・実施できるプランを計画する。・計画をプレゼンテーションする。

《授業計画》

1. 高齢者の幸せな老後
2. 地域で高齢者を支えるしくみ
3. 地域で障害者を支えるしくみ
4. 東住吉区の高齢者の現状と課題
5. 東住吉区の高齢者の生活
6. 地域の魅力を考える
7. 地域活性化に向けた課題の抽出①
8. 地域活性化に向けた課題の抽出②
9. 地域活性化に向けた計画①
10. 地域活性化に向けた計画②
11. 地域活性化に向けた計画③
12. 地域活性化に向けた計画④
13. プラン内容のプレゼンテーション①
14. プラン内容のプレゼンテーション②
15. 評価から考える まとめ ディスカッション

《成績評価の基準・方法》

課題レポート40%、プランニング内容、プレゼンテーション60%で評価をする。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

今後、国民の約4人に1人が高齢者になることを考えると、高齢者の理解はこれからの日本社会では必要不可欠となります。まずは、ニュースなどで高齢者に関する話題でどのようなものを取り上げているか、高齢者の方がどのようなことに困っているのかなど、興味・関心を持つことから始めましょう。地域で高齢者が元気に暮らすためのプランを前半の地域からの声を聞き、課題点、活性化に必要なことをまとめてみましょう。

高齢者の生活(衣食住)

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 介実
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

2025年には団塊の世代が75歳に達し、国民の約4人に1人が後期高齢者となる時代がもうすぐそこに迫っている。しかしながら、高齢者が増えるといっても、元気に過ごしている方々がほとんどである。この科目では、特に高齢者の衣・食・住に注目し、高齢者の特徴や以前の暮らしから、高齢者理解を深めていくことを目的とする。

《学生の到達目標》

・高齢者の生活を理解する。・高齢者が生活する上で必要なことを知る。・介護する上で、どのような支援が必要か理解する。・地域で安心して過ごすために必要な福祉サービスを理解する。高齢者の衣食住の環境や好み、楽しみについても考える。

《授業計画》

1. 高齢者とは
2. 高齢者の暮らしの実際
3. 高齢者の居場所
4. 高齢者が暮らす住宅の問題点
5. 安全で快適な生活空間
6. 高齢者の食事
7. 美味しく食べるための環境づくり
8. 安全に食べるための基礎知識
9. 高齢者の食事の今と昔
10. 衣生活の基礎知識
11. 高齢者の服装の今と昔
12. 生活習慣と装いの楽しみ
13. 高齢者の衣生活
14. 衣・食・住にかかわる自助具・福祉用具の活用①グループワーク
15. 衣・食・住にかかわる自助具・福祉用具の活用②グループ発表

《成績評価の基準・方法》

課題レポート、小テスト、グループワークへの参加・課題の取り組み状況40%、科目試験60%で評価をする。

《授業で使用する教科書》

・前田崇博 監修「介護職員実務者研修テキスト」ミネルヴァ書房

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

今後、国民の約4人に1人が高齢者になることを考えると、高齢者の生活の理解はこれからの日本社会では必要不可欠となります。まずは、ニュースなどで高齢者に関する話題でどのようなものを取り上げているか、高齢者の方がどのようなことに困っているのかなど、興味・関心を持つことから始めてください。事後には、レポートにて学びの確認をしてください。

アクションライフ(生活支援技術Ⅰ)

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 介実
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

高齢者が介護を必要とする際に、それを介助するための技術の基礎を身につける科目です。高齢者の衣食住を視点を、多様な高齢者の暮らしを考え、実技・行動できる力を磨きます。その人らしい生活を継続できる基本的な方法を身につけ、自立支援し、その人の持っている最大限の力を発揮できるように生活上での介護技術の原理・原則を理解し、判断できる知識と技術を修得する。

《学生の到達目標》

・生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。・ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。・介護技術の基本(移動、移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔、清潔、睡眠・休息、家事援助等)を学び身につける。・居住環境の整備、福祉用具の活用等により高齢者の環境を整備する視点・留意点を理解している。

《授業計画》

1. 生活支援の考え方 ICF
2. 高齢者の心身に合わせた居住環境、リラックスできる部屋
3. 高齢者の心身の状況に合わせた移動
4. 持ち上げない移動
5. 高齢者の心身状況にあわせた食事
6. 高齢者が好む食と提供方法
7. 高齢者の心身状況にあわせた入浴方法
8. 高齢者の心身状況にあわせた排泄
9. 高齢者の状況に合わせた整容(衣生活、おしゃれ)
10. 高齢者の心身状況にあわせた着脱
11. 高齢者の口腔・レクリエーション
12. 高齢者の心身状況にあわせた家事①
13. 高齢者の心身状況にあわせた家事②
14. 高齢者の自立に向けた生活支援技術 まとめ
15. 高齢者が望んでいる生活空間を考える

《成績評価の基準・方法》

課題レポート、小テスト、グループワークへの参加・課題の取り組み状況40%、科目試験60%で評価をする。

《授業で使用する教科書》

・大田貞司 上原千寿子 白井孝子「介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻 介護Ⅰ」中央法規

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

一年前期の高齢者の生活(衣食住)と連動している科目です。前期に学んだ高齢者の生活から一歩進み、その人らしい生活について考えてみましょう。・介護技術の基本(移動、移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔、清潔、家事援助等)の知識と技術を修得するために、積極的に演習に取り組んでもらいたい。・テキストにて事前に学習し、事後は、演習のポイントを復習し、シミュレーションしておくことよいでしょう。

エビデンス技術(生活支援技術 II)

1年時(半期)
1単位(演習)
資格 介実
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

高齢者が介護を必要とする際に、それを介助するための技術の応用を身につける科目です。高齢者の生活の視点を、多様な高齢者の暮らしを考え、実践・行動できる力を磨きます。その人らしい生活を継続できる基本的な方法を身につけ、自立支援し、その人の持っている最大限の力を発揮できるように生活上での介護技術の原理・原則を理解し、判断できる知識と技術を修得する。

《学生の到達目標》

・「環境整備」「移動・移乗」「食事」「入浴・清潔保持」「排泄」「着脱、整容、口腔清潔」「休息・睡眠」「人生の最終段階における介護」「福祉用具の活用」について、利用者の心身の状態に合わせた、自立に向けた生活支援技術を理解し、行うことができる。

《授業計画》

1. 高齢期の住まいと環境整備
2. 福祉用具の選定
3. 移動・移乗の生活支援技術①体位変換の介助
4. 移動・移乗の生活支援技術②移乗介助・安楽な体位と褥瘡予防
5. 移動・移乗の生活支援技術③歩行の介助・移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法
6. 食事の生活支援技術①食事の環境整備、食事介助の視点
7. 食事の生活支援技術②食事に関する福祉用具とその活用方法
8. 食事の生活支援技術③誤嚥・窒息の予防、脱水の予防
9. 入浴・清潔保持の生活支援技術①
10. 入浴・清潔保持の生活支援技術②
11. 排泄の生活支援技術①排泄介助の視点
12. 排泄の生活支援技術②排泄に関する福祉用具とその活用方法
13. 排泄の生活支援技術③浣腸、座薬の挿入の介助・ストーマ、パウチ
14. 着脱、整容、口腔清潔の生活支援技術①
15. 着脱、整容、口腔清潔の生活支援技術②
16. 休息・睡眠の生活支援技術①
17. 休息・睡眠の生活支援技術②
18. 人生の最終段階における介護の生活支援技術①
19. 人生の最終段階における介護の生活支援技術②

《成績評価の基準・方法》

課題レポート50%、試験50%にて評価します。

《授業で使用する教科書》

・太田貞司 上原千寿子 白井孝子「介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻 介護Ⅰ」中央法規

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

アクションライフ(生活支援技術Ⅰ)の応用科目です。介護技術の基本(移動、移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)の知識と技術を修得するため、事前に教科書についているDVDにて、事前学習するとよいでしょう。事後は、演習を振り返り、課題レポートにて復習しておくとうよいでしょう。

社会福祉概論(社会の理解Ⅰ、人間の尊厳と自立)

1年次(集中)
2単位(講義)
資格 介実・主事
担当 ★前田 崇博

《授業の概要》

社会福祉の基本について学びます。特に法律では社会福祉六法や介護保険法についてしっかり学習します。社会保障制度はわが国の人々が安心して生活を営むためのきわめて重要なセーフティネットの役割を果たしています。その制度の骨格やサービスの内容を精読します。税金や社会保険の財源を使いながらどのようにその制度を組み立てているのか基本的な部分を中心に学びます。

《学生の到達目標》

社会福祉六法や尊厳の保持、自立の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用者までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。

《授業計画》

1. 人間の多面的な理解と尊厳
2. 人間の尊厳の意義
3. 介護における自立
4. 自立した生活を支えるための援助の視点
5. 人権と尊厳
6. 介護における権利擁護と人権尊重
7. ノーマライゼーションの実現
8. プライバシーの保護
9. 社会福祉六法
10. 社会福祉六法の実際
11. 社会福祉六法と施設
12. 介護保険制度の基礎的理解
13. 介護保険制度における専門職の役割
14. その他の専門職の役割
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

毎回、授業後に学びに復習としてのミニレポートを課します。また、期末テストも実施します。前者後者それぞれ50%ずつの基準で評価します

《授業で使用する教科書》

・前田崇博「(1年生のみ)介護福祉士実務者研修テキスト」ミネルヴァ書房

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

毎回、国家試験に関わるキーワードを10個提示します。通常のノートとは別に単語帳を作成し、次回の授業までに暗記していきましょう。
■2年生で前田監修『介護実務者研修テキスト』(ミネルヴァ書房)をお持ちの方は記載のテキストの購入は不要です。

社会保障論(社会の理解Ⅱ)

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 介実
担当 山本 永人

《授業の概要》

社会保障制度はわが国の人々が安心して生活を営むためのきわめて重要なセーフティネットの役割を果たしています。その制度の資格やサービスの内容を概説します。税金や社会保険の財源を使いながらどのようにその制度を組み立てているのか基本的な部分を中心に学びます。

《学生の到達目標》

介護を実践するなかで、その背景となる社会保障制度の役割を理解し説明できるようになる。利用者の生活支援に活かせる知識を身につける。

《授業計画》

1. 社会福祉の定義とその専門性について
2. 社会保障制度の基本的な枠組み
3. 現代社会の変化と社会保障
4. わが国の社会福祉制度の歴史(福祉6法を中心に)
5. 社会保険制度① 医療保険(1)
6. 社会保険制度① 医療保険(2)
7. 社会保険制度② 年金保険
8. 社会保険制度③ 労働保険
9. 介護保険制度の成立の背景
10. 社会保険制度④ 介護保険制度(1)
11. 社会保険制度④ 介護保険制度(2)
12. 公的扶助制度① 生活保護制度
13. 公的扶助制度② 生活保護制度・社会手当
14. 障害者の範囲とその捉え方
15. 障害者の福祉制度
16. 障害者総合支援法に基づく障害者サービス
17. 児童家庭福祉①
18. 児童家庭福祉②
19. 社会保障制度の今後の課題 振り返りのディスカッション

《成績評価の基準・方法》

試験80% レポート20%

《授業で使用する教科書》

・太田 貞司 他 編「介護福祉士実務者研修テキスト1 人間と社会」中央法規

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：シラバスの各単元の教科書を授業前に熟読しておきましょう。(30分) 事後学習：配布されたプリントと教科書を今一度振り返り、それぞれの制度やサービスの内容を確認しましょう。(60分)

医学一般1(こころとからだのしくみⅠ)

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 介実・主事
担当 ★静 和美

《授業の概要》

介護実践に必要な根拠となる心身の構造や機能について理解し、身体的・心理的・社会的側面を総合的にとらえるための知識を身につけることを目的とする。心身のしくみと働きを知り、健康とは何か、暮らしの中での健康の保持・増進とは何かを理解する。また、人が心身に変化(老化を含む)が生じた時、その状態を根拠をもとにとらえ、安全・安楽・安心な環境のもとどのように支援しなければならないのかを学ぶ。

《学生の到達目標》

健康とは何か、暮らしの中での健康の保持・増進とは何かを理解する。

介護実践に必要な根拠となる心身の構造や機能について理解する。

《授業計画》

1. 健康とはどのような状態なのか学ぶ
2. こころのしくみと働きについて学ぶ
3. 記憶と学習について学ぶ
4. からだのしくみについて学ぶ
5. からだの働きについて学ぶ(小テスト)
6. 移動に関連するこころとからだのしくみを学ぶ
7. 心身の機能低下が移動に及ぼす日常生活への影響を学ぶ
8. 移動に関連する観察の留意点について学ぶ
9. 移動に関連する支援の留意点を学ぶ
10. 移動に関連する多職種との連携の必要性について学ぶ(小テスト)
11. 移乗に関連するこころとからだのしくみを学ぶ
12. 心身の機能低下が移乗に及ぼす日常生活への影響を学ぶ
13. 移乗に関連する観察の留意点について学ぶ
14. 移乗に関連する支援の留意点を学ぶ
15. 移乗に関連する多職種との連携の必要性について学ぶ(小テスト)

《成績評価の基準・方法》

授業内の小テスト70% 授業への参加30%(話し合い参加の積極性、グループ貢献する作業能力、うなずき等のコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など)

《授業で使用する教科書》

・太田貞司・上原千寿子・白井孝子編集「介護福祉士実務者研修テキスト第4巻 こころとからだのしくみ 第2版」中央法規

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習では、当該範囲のテキストを確認しておきましょう。その中でわかりにくい用語があれば調べておきましょう。事後学習では、小テストの見直し等を行い理解しにくい点は、質問をして理解につなげましょう。

医学一般2(こころとからだのしくみII)

1年次(半期)
2単位(講義)
資格 介実
担当 ★静 和美

《授業の概要》

介護実践に必要な根拠となる心身の構造や機能についての基本的知識をもとに、心身の機能低下が及ぼすADLへの影響について理解することを目的とする。自立支援の実践にあたり対象者を知る必要がある。そのために、介護者としての観察力や判断力を養い、身体的・心理的・社会的側面を総合的にとらえるための知識を身につける。

《学生の到達目標》

心身の機能低下が及ぼすADLへの影響について理解する
観察力や判断力を基に、対象者を身体的・心理的・社会的側面から総合的にとらえられるようになる

《授業計画》

1. 食事に関連するこころとからだの仕組みを学ぶ
2. 心身の機能低下が食事に及ぼす日常生活への影響を学ぶ
3. 食事に関連する観察の留意点について学ぶ
4. 食事に関連する支援の留意点について学ぶ
5. 食事に関連する多職種との連携の必要性について学ぶ(小テスト)
6. 整容・口腔清拭に関連するこころとからだの仕組みを学ぶ
7. 心身の機能低下が整容・口腔清拭に及ぼす日常生活への影響を学ぶ
8. 整容・口腔清拭に関連する観察の留意点について学ぶ
9. 整容・口腔清拭に関連する支援の留意点について学ぶ
10. 整容・口腔清拭に関連する多職種との連携の必要性について学ぶ(小テスト)
11. 着脱に関連するこころとからだの仕組みを学ぶ
12. 心身の機能低下が着脱に及ぼす日常生活への影響を学ぶ
13. 着脱する観察の留意点について学ぶ
14. 着脱に関連する支援の留意点について学ぶ
15. 着脱に関連する多職種との連携の必要性について学ぶ(小テスト)

《成績評価の基準・方法》

授業内の小テスト70% 授業への参加30%(話し合い参加の積極性、グループ貢献する作業能力、うなずき等のコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など)

《授業で使用する教科書》

・太田貞司・上原千寿子・白井孝子編集「介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻 「こころとからだのしくみ」 第2版」中央法規

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習では、当該範囲のテキストを確認しておきましょう。その中でわかりにくい用語があれば調べておきましょう。事後学習では、小テストの見直し等を行い理解しにくい点は、質問をして理解につなげましょう。

医学一般3(こころとからだのしくみII)

1年次(半期)
2単位(講義)
資格 介実
担当 岡田 享子

《授業の概要》

支援や介護が必要な人の生活の身体的側面、精神的側面、社会的側面を総合的に捉え生活を支えるための介護実践の根拠となる知識を学ぶことを目的とする。機能低下や障がいが日常生活動作に及ぼす影響を知り支援が必要となる要因や観察のポイントを理解し、支援や介護が必要な人の日常生活の支援の方法を学ぶ。

《学生の到達目標》

支援や介護が必要な人の生活の身体的側面、精神的側面、社会的側面を総合的に捉えるための基本的な知識を理解する
機能低下や障がいが生じ生活に及ぼす影響を知り支援のポイントを理解できる
多職種連携の必要性が理解できる

《授業計画》

1. 排泄に関連するこころとからだのしくみを学ぶ
2. 心身の機能低下が排泄に及ぼす日常生活への影響を学ぶ
3. 排泄に関連する観察の留意点を学ぶ
4. 排泄に関連する支援の留意点を学ぶ
5. 排泄に関連する多職種との連携の必要性について学ぶ・小テスト
6. 入浴・清潔に関連するこころとからだのしくみを学ぶ
7. 心身の機能低下が入浴・清潔に及ぼす影響を学ぶ
8. 入浴・清潔に関連する観察の留意点を学ぶ
9. 入浴・清潔に関連する支援の留意点を学ぶ
10. 入浴・清潔に関連する多職種との連携の必要性について学ぶ・小テスト
11. 休息・睡眠に関連するこころとからだのしくみを学ぶ
12. 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす日常生活への影響を学ぶ
13. 休息・睡眠に関連する観察の留意点を学ぶ
14. 休息・睡眠に関連する支援の留意点を学ぶ
15. 休息・睡眠に関連する多職種との連携の必要性について学ぶ・小テスト

《成績評価の基準・方法》

授業への参加30%(話し合い参加の積極性、グループ貢献する作業能力、うなずき等のコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など) 授業内の小テスト70%

《授業で使用する教科書》

・太田貞司・上原千寿子・白井孝子編集「介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻 「こころとからだのしくみ」 第2版」中央法規

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習についてはテキストの該当部分を読んでおきましょう。

事後学習では理解できなかった事をそのままにせず、自分で調べたり授業時に質問するなどして知識を増やす努力をしましょう。

ライフヒストリー1(介護過程Ⅰ)

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 介実
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

介護過程の基礎的知識を学ぶ。本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づいた課題解決の思考過程を習得する。対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。その中で、チームアプローチの重要性も理解する。介護過程の骨格となるアセスメントやニーズの焦点化、計画の作成、評価という一連のプロセスの基本的な解説を通して、介護過程は介護を科学的に実践するための思考過程であることを理解することを目的とする。

《学生の到達目標》

・介護過程の目的、意義、展開等が理解できる。・介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を考えることができる。・チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種役割を理解することができる。

《授業計画》

1. 介護過程の意義と目的
2. 介護過程の意義と目的
3. 介護過程の展開 アセスメント
4. 介護過程の展開 アセスメント
5. 介護過程の展開 計画立案
6. 介護過程の展開 実施
7. 介護過程の展開 評価
8. 介護過程とチームアプローチ①
9. 介護過程とチームアプローチ②
10. 介護計画の具体的な支援内容と支援方法
11. 介護過程とケアマネジメントの関係性
12. これからの人生を考える① グループワーク
13. これからの人生を考える② グループワーク
14. 介護過程とケアマネジメントの関係性、チームアプローチにおける介護福祉士の役割
15. 振り返りのディスカッション、まとめ

《成績評価の基準・方法》

レポート、用語確認小テスト50%、定期試験50%で評価します。

《授業で使用する教科書》

・太田貞司「介護福祉士実務者研修テキスト 第3巻 介護Ⅱ」中央法規

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

生活には人それぞれの多様な人生があることを理解し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる介護過程の一連の流れをテキストにて事前に学習し、授業にて学びを深めてください。事後は、レポートにて学びの確認をし、生活ヒストリー2(介護過程Ⅱ)へと進めて学習しましょう。

調理学

1年次(半期)
2単位(講義)
資格 フード
担当 ★瀧本 文子

《授業の概要》

調理における諸現象、食品変化、技術上のコツなどの法則を科学的に把握し、論理的な調理方法を学ぶ。調理の理論と実習が結びつくように調理科学的要素と実際の調理性を関連付けて学ぶ。

《学生の到達目標》

①調理における諸現象を科学的に把握し、実際の食生活に生かせることが出来る
②栄養素の調理による変化を考慮し、食品の組み合わせや調理による損失を減少させる工夫が出来る

《授業計画》

1. 調理学の意義について
2. 美味しさの要因について
3. 美味しさを生み出すだしと調味について
4. 献立について
5. 炭水化物を多く含む食品(米・小麦)の調理性
6. 炭水化物を多く含む食品(イモ・豆類)の調理性
7. たんぱく質を多く含む食品(食肉)の調理性
8. たんぱく質を多く含む食品(魚介類)の調理性
9. たんぱく質を多く含む食品(卵類)の調理性
10. たんぱく質を多く含む食品(乳類)の調理性
11. たんぱく質を多く含む食品(大豆及び大豆の加工品)の調理性
12. ビタミン・ミネラルを多く含む食品(野菜類)の調理性
13. ビタミン・ミネラルを多く含む食品(果物・きのこ)の調理性
14. ビタミン・ミネラルを多く含む食品(海藻・種実)の調理性
15. ゲル化食品の調理性

《成績評価の基準・方法》

定期試験(70%) 小テストを含む課題提出(20%) 質問、回答など発言を含む授業への参加貢献度(10%)で総合的に評価する

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

各食品の調理性を学ぶことは、みなさんの食生活に大変な豊かさをもたらします。受験資格や単位取得の目的としてだけでなく、これからの食生活のためにも興味を持って学んでください。事前学習：調理に関する本などを読み、興味を持ったものや、わからないところはインターネット等で調べてください
事後学習：毎回配布するプリントを復習し、知識の定着を図ってください

家庭料理

1 年次(通年)
3 単位 (実習)
資格 フード[®]
担当 加藤 めぐみ

《授業の概要》

日本料理、西洋料理、中国料理の基本的な手法、調理法、コツを習得していく。技術の上達、工程の合理性、機能性のみならず、調理する真心や食に対する美意識、感性を磨いていく。

《学生の到達目標》

食品の数種類の切り方など基本的な調理技術を習得する。食中毒を起こさない食品の衛生管理能力を身につける。自主的に、段取りを考えて、献立の作り方を書いて実習することが出来る。

《授業計画》

1. オリエンテーション・米の調理・だしのとり方・おにぎり・若竹汁
2. ご飯の炊き方・味噌汁・だし巻き卵・ほうれん草のお浸し・桜餅
3. サンドウィッチ・ロールサンド・オープンサンド・フルーツのシロップ漬け
4. 中華スープ・鶏のから揚げ・杏味の焼き菓子
5. しそご飯・かき玉汁・筑前煮・キュウリとシラスの酢の物・わらび餅
6. コンソメジュリエヌ・フィッシュムニエル・コーヒーゼリー
7. 五目チャーハン・クラゲの和え物・肉団子のスープ・パイナップルケーキ
8. 親子丼・茄子の赤だし・たこの辛子酢味噌・あんみつ
9. ハンバーグ・ミネストローネ・ロールケーキ
10. 冷やし中華・春巻・カスタードプディング
11. あさりの味噌汁・あじの南蛮漬け・きんぴらごぼう・水ようかん
12. ドライカレー・グリーンサラダ・シュークリーム
13. ひき肉のレタス包み・棒棒鶏・ブラマンジェ
14. そうめん・かぼちゃのあんかけ・グレープフルーツゼリー
15. ピンソワーズ・ポークピカタ・シフォンケーキ
16. ハッシュドビーフ
17. チンジャオロース・餃子・キュウリの和え物、レアチーズケーキ
18. 炊き込みご飯・魚のホイル焼き・けんちん汁・栗饅頭
19. ビーフロケット・野菜のチャウダー・マドレーヌ
20. 八宝菜・かに玉・サツマイモの飴煮
21. 散らし寿司・蛤の潮汁・利休饅頭
22. ポトフ・マカロニグラタン・アップルケーキ
23. 中華風コンソメスープ・酢豚・和え物・蒸しカステラ
24. 茶碗蒸し・サバの味噌煮・ほうれん草の白和え・ぜんざい
25. 三色そばろご飯・酢の物・豚汁・みたらし団子
26. チキンライス・コンソメスープ・チキンソルト・ショートケーキ
27. 三祝肴・味噌仕立て雑煮・口取り三種・若草きんとん
28. 麻婆豆腐・ワンタン・中華風和え物・ペイクドチーズケーキ
29. ロールキャベツ・かぼちゃのポタージュ・シーザーサラダ・ケーキショコラ
30. スパゲティミートソース

《成績評価の基準・方法》

レポート 70%、実習成果 30%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習は、次回のレシピを勉強し、手際よく実習できるように、予習する。事後学習は、その日の献立を振り返り、作り方を書いて復習する。

食品学 I

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 フード[®]
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

食品には、色素成分、味覚成分、香気成分、栄養成分などの多くの成分が含まれており、食品の特徴を形作っている。食品と栄養の特性上では、食品中の成分について、種類や性質、特徴、多く含まれる食品などの基礎知識について学ぶ。また、食品成分表の使い方や、パソコンを使った栄養価計算の方法を理解し、食品の評価と健全な食生活に役立てる。その上で、食品についての知識を深めるために、種々の食品群について、種類や成分、食用としての価値、適正な取扱いや保存方法などについて学ぶ。

《学生の到達目標》

食品素材の基礎的な知識を身につけることができる。食品に含まれる成分の性質や特性を理解し、調理や製菓に応用できる。食品の知識を深め、良し悪しを判断できる。フードスペシャリスト資格試験合格に必要な知識を習得することができる。

《授業計画》

1. 食品学概論 食品学でどんなことを学ぶのか
2. 嗜好成分 (1) 色素成分、香気成分の種類と特徴
3. 嗜好成分 (2) 味覚成分の種類と特徴、テクスチャーについて
4. 炭水化物 (1) 炭水化物の分類と特徴
5. 炭水化物 (2) 炭水化物の特性と食品への応用
6. たんぱく質 (1) たんぱく質の分類と特徴
7. たんぱく質 (2) たんぱく質の特性と食品への応用
8. 脂 質 (1) 脂質の分類と特徴
9. 脂 質 (2) 脂質の特性と食品への応用
10. 食品の成分と栄養価
11. 栄養価計算の方法 (PCを使った栄養価計算)
12. 植物性食品の知識1 穀類① (米、米加工品など)
13. 植物性食品の知識2 穀類② (麦類、とうもろこしなど)
14. 植物性食品の知識2 穀類③ (でんぷん類など)
15. 植物性食品の知識3 いも類 (じゃがいも、さつまいも、やまいもなど)

《成績評価の基準・方法》

定期テスト (50%) 課題や小テスト (30%)
質問や回答などの積極的な発言を考慮した授業への参加貢献度 (20%)

《授業で使用する教科書》

・ (公社) 全国調理師養成施設協会「調理師養成教育全書 2 食品と栄養の特性」・「新食品成分表」東京法令出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

日ごろから食品や食物に関心を持ち、スーパーやコンビニエンスストア、デパ地下などの食品売り場を良く見て、どんな食品が売れているのか、季節や品種、価格、調理方法などに注目し、情報収集を心がける。授業前は、教科書をよく読み、興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。授業後は、教科書やプリントを読み返して復習問題に取り組み、知識の定着を図る。

食品学Ⅱ

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 フード[®]
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

食品学Ⅰで学んだ知識をもとに、食品についての知識を深めるために、日常よく利用する身近な食品について、種類や成分、食用としての価値、調理特性、適正な取扱いや保存方法などを幅広く学ぶ。また、食品の実物サンプルや写真を見たり、食べ比べなどをして、実用に即した知識を身につける。現在市場にあふれている食品の価値を、合理的に判断できる力を養い、栄養、嗜好、衛生、経済などいろいろな面から私たちの健全な食生活に役立たせる。

《学生の到達目標》

食品素材の基礎的な知識を身につけることができる。食品に含まれる成分の性質や特性を理解し、調理や製菓に応用できる。食品の知識を深め、良し悪しを判断できる。フードスペシャリスト資格試験合格に必要な知識を習得することができる。

《授業計画》

1. 植物性食品の知識 5 豆類 (大豆、小豆など)
2. 植物性食品の知識 6 種実類① (分類と特徴)
3. 植物性食品の知識 7 種実類② (チョコレート)
4. 植物性食品の知識 8 野菜類① (野菜の分類と成分)
5. 植物性食品の知識 9 野菜類② (利用頻度の高い野菜の特徴と目利き)
6. 植物性食品の知識 10 果実類 (果実の分類と成分)
7. 動物性食品の知識 1 肉類 (牛、豚、鶏肉の成分と特徴)
8. 動物性食品の知識 2 魚介類 (魚介類の分類と成分)
9. 動物性食品の知識 3 肉類・魚介類加工品 (ハム、ソーセージ、かまぼこなど)
10. 動物性食品の知識 4 卵類 (卵の構造と成分、特性)
11. 動物性食品の知識 5 乳類 (牛乳の種類と成分)
12. 動物性食品の知識 6 乳製品 (チーズ、バター、ヨーグルトなど)
13. その他の食品 1 調味料① (砂糖、塩)
14. その他の食品 2 調味料② (醤油、味噌、酢、みりん)
15. その他の食品 3 香辛料・嗜好飲料

《成績評価の基準・方法》

定期テスト (50%) 課題や小テスト (30%)
質問や回答などの積極的な発言を考慮した授業への参加貢献度 (20%)

《授業で使用する教科書》

・ (公社) 全国調理師養成施設協会「調理師養成教育全書 2 食品と栄養の特性」・「新食品成分表」東京法令出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

日ごろから食品や食物に関心を持ち、スーパーやコンビニエンスストア、デパ地下などの食品売場の隅々まで、どんな食品が売れているのか、季節や品種、価格、調理方法などに注目し、情報収集を心がける。
事前学習：教科書をよく読み、興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。
事後学習：教科書やプリントを読み返して復習問題に取り組む。

食品の安全性

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 フード[®]
担当 ★瀧本 文子

《授業の概要》

「食」は生命維持、健康保持のために必要不可欠なものである。「安全」であることは絶対条件である。食の安全に関する基礎知識を学ぶとともに、食品にかかわる危害やその防止法、食品表示などについて学び、安全性を確保するための知識を習得する。

《学生の到達目標》

- ① 食中毒の分類、種類、発生状況、防止方法などが理解できる
- ② 食品表示の意味が理解できる
- ③ 食品添加物の種類、用途などが理解できる
- ④ 食品汚染物質の種類、防止方法などが理解できる
- ⑤ 食品の安全管理に関するシステムが理解できる

《授業計画》

1. 食品の安全性、食品従事者の衛生管理
2. 食品の腐敗・変敗とその防止法
3. 食中毒の分類と発生状況
4. 細菌性食中毒①
5. 細菌性食中毒②、ウイルス性食中毒、経口感染症
6. 自然毒食中毒
7. 化学性食中毒、寄生虫食中毒
8. 食品の安全性の確保
9. 家庭における食品の安全保持
10. 環境汚染と食品、器具及び容器包装、水の衛生
11. 食品の表示
12. 食品添加物
13. 輸入食品、遺伝子組み換え食品
14. 食品とアレルギー、発がん性物質
15. 食品の安全管理、総括

《成績評価の基準・方法》

定期試験 (70%) 小テストを含む提出物 (20%) 質問、回答など発言を含む授業への参加貢献度 (10%) で総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・ 日本フードスペシャリスト協会「三訂 食品の安全性 (第3版)」建帛社

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

食品の安全性は日常生活にも大変関係のある内容です。フードスペシャリスト資格受験に必要なだけでなく、普段の調理や買い物などにも役立つ内容ですので、興味をもって学びましょう。
事前学習：食の安全に関するニュースなどに興味をもち、わからないことはインターネット等で調べてください。
事後学習：前回の授業プリントの見直しを行ってください

フードコーディネーター論

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 フード
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

フードコーディネーターとは、食を提供する場面で複雑な条件を調整し、快適な食事を演出することである。そのために、フードコーディネーターの基本理念や、食文化、各国料理のテーブルコーディネーター、食卓のサービスとマナー、メニュープランニング、サービスマネジメントなどの幅広い知識を学び、食マネジメントの基礎とする。

《学生の到達目標》

食生活やフードビジネスの第一線の担い手として、フードコーディネーターが果たす役割と価値を理解することができる。各国料理のサービスとマナーの基礎を学び、実践できる。フードスペシャリストの資格認定試験に合格できる知識を習得することができる。

《授業計画》

1. フードコーディネーターの基本理念
2. 食事の文化① 日本の食事
3. 食事の文化② 世界の食事
4. 食卓のコーディネーター① 日本料理
5. 食卓のコーディネーター② 中国料理・西洋料理
6. テーブルコーディネーターの知識
7. テーブルコーディネーターの実践
8. 食卓のサービスとマナーの基本
9. 日本料理・中国料理のサービスとマナー
10. 西洋料理のサービスとマナー、パーティー
11. メニュープランニングの要件
12. 料理様式とメニュー開発の基礎
13. 食空間のコーディネーターの基礎
14. 食空間のコーディネーター
15. 食企画の実践

《成績評価の基準・方法》

定期試験 (60%) 課題への取り組みや復習問題 (40%)

《授業で使用する教科書》

・「三訂 フードコーディネーター論」建帛社 他、適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

日ごろから食や食産業に関するニュースに関心を持ち、スーパーやコンビニエンスストア、デパートなどの食品売り場を良く見て、どんな食品が売れているのか、またディスプレイや展示方法などにも注目し、情報収集を心がける。食の文化や歴史に興味を持った事は、知識を深める。授業前は、教科書をよく読み、興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。授業後は、復習問題に取り組み、知識の定着を図る。

エンターテインメントスポーツ(アウトドア演習)

1 年次(集中)
1 単位 (演習)
資格 なし
担当 小井手 桂祐

《授業の概要》

現代社会は都市化やICT・SNSといった情報化が進み便利で効率的な生活ができます。しかし、その反面自然に直接触れる機会が少なくなり、自然の中で過ごすことで得られる癒しや心地良さを感ずる体験、人と人との交流から生まれる良好な人間関係の構築が難しい社会になりました。この授業では野外で楽しく安全に活動するための知識やスキルを講義とキャンプ実習(2泊3日)を通して習得し、日本キャンプ協会公認の指導者資格である「キャンプインストラクター」の資格取得を目指します。また、キャンプ実習ではアウトドアクッキング(野外炊き)、テント泊、キャンプファイアー、登山、リポートレッキングなど様々なアクティビティを予定しておりアウトドアの楽しみ方や注意点を体験的に学びます。

《学生の到達目標》

野外活動におけるキャンプの知識やスキルを習得し、キャンプインストラクターの資格取得を目標とします。具体的には火おこし・アウトドアクッキング(野外炊き)・テント設営・ロープワーク・コンパスワーク・登山・キャンプファイアーなどの知識とスキルを習得し指導できるようになることを目指します。また、野外活動を安全に指導するためのリスクマネジメントについての知識も身につけます。

《授業計画》

1. キャンプの意義・目的、キャンプインストラクターの資質と役割
2. キャンプにおける人間関係づくり、キャンプ実習の事前学習
3. ディスカバリーウォーク(キャンプ実習)
4. アウトドアクッキング①鉄板使用(キャンプ実習)
5. ハンドクラフト(キャンプ実習)
6. テント設営(キャンプ実習)
7. アウトドアクッキング②コッフェル使用(キャンプ実習)
8. 登山(キャンプ実習)
9. リポートレッキング(キャンプ実習)
10. ロープワーク(キャンプ実習)
11. キャンプファイアー(キャンプ実習)
12. アウトドアクッキング③ダッチオーブン使用(キャンプ実習)
13. コンパスワーク・ウォークラリー(キャンプ実習)
14. リスクマネジメント、キャンプインストラクター筆記試験対策(キャンプ実習)
15. キャンプインストラクター実技・筆記(理論)試験(キャンプ実習)

《成績評価の基準・方法》

1. 実技試験 50点満点
●ハンドクラフト:10点満点 ●ロープワーク:20点満点 ●コンパスワーク:20点満点
2. 筆記(理論)試験 50点満点
以上、合計100点満点にて評価し、60点以上で単位認定、59点以下は単位不認定とする

《授業で使用する教科書》

・公益社団法人 日本キャンプ協会指導者養成委員会「キャンプ指導者入門」公益社団法人 日本キャンプ協会

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

ここ数年のアウトドアブームの中でも特にキャンプは大きな注目を集めています。キャンプ道具やウェアは機能性も高く日常でも使えるものが数多くあります。受講前にアウトドアショップをまわったり、訪れたような商品があるのか調べるなど予習をただでなく授業に対する期待感も高まりまします。また、習得した知識やスキルは繰り返し行うことでよりレベルアップします。受講後はキャンプインストラクターとして学んだことを発揮し、安全で楽しいキャンプを広めてください。

商品開発・販売 I

1年次(集中)
1単位(演習)
資格 なし
担当 現生専任教員, ★亀井 知子

《授業の概要》

東住吉区・平野区の企業を中心に、「好きになるプロジェクト」を立ち上げ、本学もこのプロジェクトに参加し、民間企業と連携して商品開発を行う。これ以外にも大阪府内の企業が参加しプロジェクトの数は12にも及ぶ。学生はこの12のプロジェクトの中から自分にあつたプロジェクトを選んで開発に取り組む。学生は民間企業の商品開発のノウハウを理解して、新しい商品・サービスの開発を行い、その取組や開発した商品を産業交流フェア等で発表する。学生は、今まで経験したことのないこの取組により大きく成長し、近い将来、社会人となった時の力とする。

《学生の到達目標》

学生は民間企業と連携し、商品やサービスの開発を具体化する。学生は共同作業を通じてチーム力を高める。学生は民間企業の考え方を説明できる。学生は共同開発を進める中で課題を発見する。学生は共同開発を進める中で課題を解決する。学生は成果を具体的に発表できる。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 参加プロジェクトの決定
3. 商品開発とは
4. 企業訪問
5. 研究開発1
6. 研究開発2
7. 研究開発3
8. 研究開発4
9. 研究開発5
10. 研究開発6
11. 研究開発7
12. 成果発表準備1
13. 成果発表準備2
14. 成果発表準備3
15. 成果発表

《成績評価の基準・方法》

研究開発の参加・貢献度70%、成果発表での評価を30%とする

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：企業訪問に積極的に参加する。昨年度の成果等を十分に理解しておく。事後学習：課題を確実にこなす。何事もチームワークを大切にして取り組む。

プレ特別実践活動

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 中津 功一朗, ★長橋 幸恵

《授業の概要》

特別実践活動では、社会に関わることを通じて、大学の学びとの関連を意識し、社会人として必要な力を身につける実習である。実践分野については、短大の学びを活かすことができ分野を教員と相談しながら学生自身が選択する。履修学生は、この実践活動を通して、社会を見る(観察)、社会について分かる(理解)、自分が何をすべきか決める(決定)、実際に動く(行動する)を体験していく。このプレ特別実践活動では、その下準備を目的に、「観察」と「理解」を中心に行っていく。

《学生の到達目標》

本授業では、以下の能力を獲得する事を目標とする。①短大の学びと社会の関係を理解する②社会を観察し、社会について理解する③社会の観察により、社会の課題を知る。

《授業計画》

1. プレ特別実践活動とは
2. 短大の学びと特別実践活動の関連
3. 実践活動を行うフィールドの決定
4. 実践活動と振り返り①
5. 実践活動と振り返り②
6. 実践活動と振り返り③
7. 中間報告
8. 後半の目標設定
9. 実践活動と振り返り④
10. 実践活動と振り返り⑤
11. 実践活動と振り返り⑥
12. 実践活動と振り返り⑦
13. 実践活動と振り返り⑧
14. 実践活動と振り返り⑨
15. 最終報告

《成績評価の基準・方法》

目標設定を含めた計画書(30%)、活動報告書(30%)、活動報告プレゼンテーション(40%)で評価を行う。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前・事後学習では、毎回の活動の目標設定や振り返りを行う。

現代生活卒業研究

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 現生専任教員

《授業の概要》

本講義は、現代生活基礎演習、現代生活応用演習とのつながりが深く、現代生活学科の基幹科目として位置づけられるものである。短大の学びの総括として、学生自身が興味のあるテーマについて、調査・研究を行い、知識獲得を目指す。また、この調査・研究は、現代生活応用演習での図書館探索での調査・発表を応用した実践的学習である。

《学生の到達目標》

①学生が社会の課題を理解し、調査すべきテーマを選択できる。②調査・研究・発表を計画的に行うことができる。③発表では、調査・研究内容を要約して、伝えることができる。④他の学生の発表を聞き、理解し、質問することができる。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 現代生活の課題①講義
3. 現代生活の課題②講義
4. 現代生活の課題③講義
5. 課題解決すべきテーマの選択
6. 卒業研究および調査①
7. 卒業研究および調査②
8. 卒業研究および調査③
9. 卒業研究および調査④
10. 中間発表
11. 中間発表での課題を基にした調査①
12. 中間発表での課題を基にした調査②
13. 研究発表準備1
14. 研究発表準備2
15. 研究発表

《成績評価の基準・方法》

以下の3つを総合的に評価する。①研究への取組(30%) ②成果物の内容・発表内容(60%) ③研究発表での質問力(10%)で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：自分で考え、計画的に行動する態度を養い、自主研究の楽しみや深みを知る。事後学習：家庭等においても自らの研究テーマに積極的に取り組む。また、グループでの討議にも積極的に関与することが重要である。

現代社会論

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 なし
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

社会人になる前に知っておきたい労働法や雇用制度、お金の知識などについて学び、職業選択に役立てる。また、女性が働く現状を知って、社会制度やワークライフバランスについて考え、ライフプランを立てる。後半では現在の日本社会全体の課題について知り、理解を深めるとともにそれぞれの課題について、グループワークを通じ、協同して解決の糸口を見だし、自分自身の考えを持つ。

《学生の到達目標》

現代社会が直面する課題について学び、解決策を考えることができる。女性が働く現状を知り、将来に役立てるとともに、より良い環境作りに向けて働きかける資質を身につける。課題に取り組む中で、コミュニケーション力を高め、話し合いやプレゼンテーションに積極的に参加できる。課題を分析し、解決策や自分の意見をレポートにまとめることができる。

《授業計画》

1. オリエンテーション及びライフプランシート作成
2. 働くことについて考える
3. 働く女性の現状とこれからの社会
4. 労働法について知る
5. ワークライフバランス
6. リスクについて考える
7. リスクに備える① 社会制度
8. リスクに備える② 年金制度
9. リスクに備える③ 保険の種類
10. お金の知識① 給与明細の見方
11. お金の知識② 収支計画
12. お金の知識③ 各種カードの知識
13. SDGsについて考える
14. 持続可能な未来に向けてできること
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

①レポート提出(50%)
②授業の取組姿勢、グループワークへの参加態度、課題の取組状況などで判断する(50%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：授業内で提示した内容について調べる。
事後学習：課題をレポートにまとめ、期限内に提出する。

消費者経済学

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 フード*
担当 中津 功一郎

《授業の概要》

私たち人間は、その一人ひとりが、それぞれたくさんの望みを持っている。しかし、すべての人の望みを叶えるだけの十分な資源はない。そのため、私たち人間が望むことをできるだけ多く叶えるためには、モノや時間などの限られた資源を、できるだけ無駄なく用いることが大切になる。経済学とは、限られた資源を無駄なく用いるにはどうすればいいか、ということを考える学問。この授業では、消費者や企業が経済全体の中でどう行動しているのか、食品業界を対象として考える。そして、自分たちの意志決定が経済全体の中でどのような意味や効果を持つのか、という問題について、グループワークやディスカッションを通して考える。

《学生の到達目標》

本講義では、以下の能力を獲得する事を目標とする。①経済とは何かについて説明することが出来る。②消費者の立場から経済の基礎的な仕組みを理解できる。③経済学的視点で物事を考えることが出来る。

《授業計画》

1. 経済学とは何か①
2. 経済学の対象と課題
3. 買物と経済：市場とは何か
4. 消費者を取り巻く社会経済情勢：円高と円安
5. 消費者を取り巻く社会経済情勢：保険
6. 消費者を取り巻く社会経済情勢：税金
7. 市場経済と商品・生産システム
8. 消費者行動と意識①
9. 食市場の変化：外食・中食・内食
10. 主要食品の流通
11. フードマーケティング
12. 食料消費を取り巻く課題
13. 経済学とは何か②
14. 消費者行動と意識②
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

授業後に振り返り学習の目的で課題を課す。課題の結果を成績評価の30%とする。知識定着のために定期試験を行い、その結果を成績評価の70%とする。『授業で使用する教科書・参考書』について記載してください。

《授業で使用する教科書》

・日本フードスペシャリスト協会「食品の消費と流通」株式会社 建帛社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習としては、配布された資料を読み、わからないところなどのチェックを行う。事後学習としては、毎回課される課題を振り返り学習として行い、知識を定着させる。

イノベーション論

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 なし
担当 中津 功一郎

《授業の概要》

現在の日本は、右肩上がりの成長が終わっているにもかかわらず、過去に成功から抜け出せない状況が続いています。そこで必要なのが、「新しい切り口」や「新しい捉え方」、つまり、イノベーションです。本講義では、イノベーションの基本的概念からイノベーションの機会を見つける方法や実現のために必要なことまで幅広く学び、学生は、今後の社会で活かすことができる「知識」を身につけます。

《学生の到達目標》

イノベーション論を学ぶということは、観点を変える重要性を知ることにもつながります。そのことを踏まえて、本講義では、以下の能力を獲得する事を目標とする。①現代日本において、イノベーションの重要性を理解できる。②イノベーションの機会を見つける方法を知ることができる③イノベーション実現のためのさまざまな戦略について知ることができる④観点を変えるチカラを身につけることができる。

《授業計画》

1. 短大で学ぶイノベーション論とは何か？
2. イノベーションとは何か（イノベーションの定義）①
3. イノベーションとは何か（日本産業とイノベーション）①
4. イノベーションの機会①
5. イノベーションの機会②
6. イノベーションの機会③事例研究
7. イノベーションの実現と戦略①
8. イノベーションの実現と戦略②事例研究
9. イノベーションの実現と戦略③事例研究
10. イノベーションとマネジメント①
11. イノベーションとマネジメント②事例研究
12. イノベーションとマネジメント③事例研究
13. イノベーションとは何か（イノベーションの定義）②
14. イノベーションとは何か（日本産業とイノベーション）②
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

授業後に振り返り学習の目的で課題を課す。課題の結果を成績評価の30%とする。知識定着のために定期試験を行い、その結果を成績評価の70%とする。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習としては、配布された資料を読み、わからないところなどのチェックを行う。事後学習としては、毎回課される課題を振り返り学習として行い、知識を定着させる。

大阪の人と文化

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 小林 孔

《授業の概要》

本講座は、大阪の人と文化を広く対象としたフィールドの中から、各自の興味と関心に従ってテーマを設定し、取材をとおして、これを多くの読者に伝える、ジャーナリズムの入り口を体験する内容となる。受講生がそれぞれに取材した記事を編集し、1冊のミニコミ誌を完成させる。その完成に必要ないくつかの手続きを説明し、取材の方法や記事のまとめ方、編集の方法、校正の最終過程までを指導する。ミニコミ誌「大阪ほっとコミ」の発行に向け、内容の充実に努めたい。

《学生の到達目標》

「大阪ほっとコミ」(B4判20頁)を発行するためには、取材に出掛けるまでの準備と取材後の文章化と記事のデザインの3要素を十分に理解し、実践に移さなければならない。よい取材ができること、読者につたわる文章が書けること、手にとってながめてもらえる編集ができるようになる。これらを到達の目標に設定したい。学生時代に作った1冊を、就職先への手土産にしてもよいでしょう。

《授業計画》

1. 取材対象 大阪の人、大阪の文化 過去の記事の紹介
2. テーマ設定
3. 取材立案と計画①(グループワーク)
4. 取材立案と計画②(グループ発表)
5. 写真の撮り方と許可
6. 取材(フィールドワーク)
7. 取材(フィールドワーク)
8. 取材事後報告と記事の執筆
9. 記事の執筆と誌面づくり
10. 誌面づくり
11. 割付と編集
12. 全体編集と記事の修正
13. 読み合わせ
14. 最終校正
15. 発行へむけて

《成績評価の基準・方法》

取材立案計画書(30%)、取材事後報告書(30%)、および完成した担当記事の内容(40%)に基づいて、100点に換算して評価する。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

シラバスの項目はあくまでもミニコミ誌の完成に向けた手順であり、今までに発行したミニコミ誌を読んで事前学習にしたい。取材のための事前準備、記事を仕上げる編集と事後の校正には、時間をかけるように心がけて欲しい。

まちづくり研究

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 ★前田 崇博

《授業の概要》

地域社会学(コミュニティ・ソシオロジー)の視点で自分の理想とするまちづくりを研究している。特に、自分が理想とする産業や福祉や教育機能等の構成要素を明確にして仮想コミュニティを作れるように学んでいく。そのため、国内外の機能的な都市や地域社会を学び、強みだけでなく、その付随する問題も一緒に考察していく。そして、将来、地域社会で活躍できる資質を修得していくための授業である。

《学生の到達目標》

1. 世界地理、日本地理の基本を修得する
2. 海外の代表都市に関しては擬似旅行をして体感する
3. 国内の様々な地域の実情を学ぶ
4. 地域診断力をつける
5. 地域福祉力をつける

《授業計画》

1. 世界地理を学ぼう1(民族や生活習慣)
2. 世界地理を学ぼう2(都市機能)
3. 日本地理を学ぼう(西日本編)
4. 日本地理を学ぼう(東日本編)
5. 大阪市東住吉区を学ぼう(機能や社会資源)
6. 東住吉区を歩こう(フィールドサーベイ)
7. 地域社会学入門
8. 地域福祉学入門
9. コミュニティケア入門
10. コミュニティワーク入門
11. コミュニティ・ブレインストーミング
12. コミュニティ・ワークショップ
13. まちづくり研究発表大会1
14. まちづくり研究発表大会2
15. 総括と今後の研究課題

《成績評価の基準・方法》

提出レポート(50%)、ミニ課題の提出(20%)、ディスカッションやプレゼンテーションの内容(30%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習:色々なまちに興味を持ってください。テレビやスマホで色々な地域を調べてください
事後学習:授業で取り上げた国内外の都市やコミュニティについてさらに調べて記録しておいてください。

カスタマー心理学

2 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 なし
担当 松村 朋子

《授業の概要》

私たち消費者は、どのようにして商品を選んでいるのでしょうか。自分自身の好みはもちろん、人からのアドバイスや有名なブランド、コマーシャルから購入を決める場合もありません。自分がよくある環境や所属する集団が、選択に影響を与えることもあります。人間の行動は個人特性と個人がそのときに置かれている環境が相互に影響することによって生じます。このような消費者の行動を理解することは、営利活動を展開する企業の立場から必要なものであり、消費者である自分自身が消費者の心理的弱点を利用しようとする不当な企業活動から自己を守るためにも重要です。この授業では、公正で中立的な理解を深めるために、消費者について心理学的視点から解説します。授業内でのディスカッションやグループワークも予定しています。

《学生の到達目標》

消費者の心理や行動に関わる心理学的知識を習得することを目標とします。また、自らの消費行動に関する実体験を振り返り、その背後にある心理プロセスに注目し、理解しようとする態度を身につけることを目指します。授業はこちらから一方的に話すのではなく、みなさんに問いかけながら進めますので、日頃から関心を持って取り組み積極的に発言することを期待しています。

《授業計画》

1. 消費者行動研究の意義と目的
2. マーケティングと消費者行動
3. 消費者の意思決定過程①心理的財布の理論
4. 消費者の意思決定過程②プロスペクト理論
5. 消費者の意思決定過程③購買決定後の過程
6. 心理的要因①動機付けと感情
7. 心理的要因②知覚
8. 心理的要因③認知
9. 心理的要因④個人特性
10. 心理的要因⑤知識と記憶
11. 心理的要因⑥学習
12. 広告の心理学①視覚広告・聴覚広告を用いた単純接触効果
13. 広告の心理学②物語が消費者に訴えかけるもの
14. 広告の心理学③悪徳商法あの手この手
15. 対人・集団の要因と消費者行動

《成績評価の基準・方法》

筆記試験 (60%)、リアクションペーパー・課題提出 (30%)、質問や回答など積極的に参加する姿勢 (10%) によって評価します。リアクションペーパーに優れた解答を記述した学生にはさらに加点を行います。提出物はコメントをつけて返却し、必要に応じて翌週以降の授業でフィードバックを行います。質問については授業時および授業後に対応します。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

買い物をするときに、あなたはなぜその商品を選ぶのでしょうか。日頃から自分や友人の買い物について考えることが、この授業の予習・復習になります。また、事前学習として授業時に課題を提示するので、忘れずに取り組んでください。事後学習のために提出物はコメントをつけて返却するので、振り返り確認し、知識の定着を目指してください。

経営学

2 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 なし
担当 中津 功一郎

《授業の概要》

経営学をはじめて学ぶ人を対象に、経営学が対象とする「企業」あるいは「会社」についての基礎知識を学び、企業活動の体系的な委を理解できるようにします。企業とはなにか、わたしたちの社会や生活にどのように関係しているのかを具体的な企業の事例を参考にしながら学びます。

《学生の到達目標》

経営学を学ぶということは、夢を持ち、その夢を実現するためのよりよい方法を学ぶことである。本講義では、以下の能力を獲得する事を目標とする。①経営学を学ぶことで企業活動がどのように自分たちの生活に関わっているかを理解できる。②企業がお金を稼がなければならない意味を理解することが出来る。③経営戦略の必要性を理解できる。④最新のビジネスモデルを知識として得ることが出来る。

《授業計画》

1. 短大で学ぶ経営学とは何か
2. 会社とは (会社の社会的役割)
3. 会社とは (株式会社とは)
4. 会社とは (会社組織)
5. 日本の経営と海外の経営
6. 大きくなり続けるために～経営戦略
7. 事例研究：ユニクロの経営戦略
8. 事例研究：しまむらの経営戦略
9. 時代とともに変わるビジネスモデル①
10. 時代とともに変わるビジネスモデル②
11. 時代とともに変わるビジネスモデル③：事例研究
12. 時代とともに変わるビジネスモデル④：事例研究
13. 時代とともに変わるビジネスモデル⑤：事例研究
14. 今後のビジネスモデル
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

授業後に振り返り学習の目的で課題を課す。課題の結果を成績評価の30%とする。知識定着のために定期試験を行い、その結果を成績評価の70%とする。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習としては、配布された資料を読み、わからないところなどのチェックを行う。事後学習としては、毎回課される課題を振り返り学習として行い、知識を定着させる。

ファイナンシャルプランニング演習

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 谷口 智美

《授業の概要》

毎日の生活の中で直面するお金の問題：保険や年金、税金、不動産、相続、金融商品等の知識について基礎から学び、生活設計や資産設計を考えるファイナンシャル・プランナーとしてのアプローチを解説する。

《学生の到達目標》

ファイナンシャル・プランニング技能検定3級出題6分野の基礎知識を理解し、合格水準の解答を作成できる。実生活における金融面での課題にも対応できる力を身につけることができる。

《授業計画》

1. オリエンテーション、検定の概要
2. ライフプランニングと資金計画①
3. ライフプランニングと資金計画②
4. ライフプランニングと資金計画③
5. リスク管理①
6. リスク管理②
7. 金融資産運用①
8. 金融資産運用②
9. タックスプランニング①
10. タックスプランニング②
11. 不動産①
12. 不動産②
13. 相続・事業承継①
14. 相続・事業承継②
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

定期試験70%、小テスト、提出物、発表内容を含む授業参加度30%

《授業で使用する教科書》

・「FP技能士3級 最速合格ブック '22→'23年版」成美堂出版・「2022-2023年版 スッキリとける過去+予想問題FP技能士3級」TAC出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

ファイナンシャル・プランナーに必要とされる知識は多岐にわたります。しかし3級合格は決して難しくありません。この授業で基礎知識を身につけ、自宅での反復練習を通してFP技能士3級取得を目指しましょう。ここでの学習が、実社会においてもきっと日々役に立つことでしょう。
事前学習：次回分野において興味のあること、疑問点をインターネット等で調べる
事後学習：教科書を読み返して、確認問題や問題集に取り組む

広告コミュニケーション論及び演習

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 なし
担当 中津 功一朗

《授業の概要》

広告とはアイデア、商品、サービスを広める目的で行うプレゼンテーションやプロモーションのことである。情報化社会にある近年、大企業だけでなく、多くの企業で、ホームページや動画などインターネットを通じた広告を利用しやすくなっている。また、広告事業は企業の戦略の一部であり、マーケティングについて同時に理解することが重要である。本講義では、いくつかの企業を例に挙げ、消費者と企業の広告事業を通じたコミュニケーションの重要性について、グループワークやディスカッションをしながら学び、広告制作へとつなげていく。

《学生の到達目標》

本講義では、以下の能力を獲得する事を目標とする。①マーケティングおよび広告の重要性について説明することが出来る。②企業・消費者の双方の立場から広告について考え、制作できる③消費者の立場、広告主の立場から、制作した広告について考察が出来る。

《授業計画》

1. 広告コミュニケーション論および演習についてのガイダンス
2. マーケティング戦略：戦略と戦術の違いについて理解する
3. 広告視点での競争戦略マネジメント：競争に勝ち抜くには
4. 事例紹介：ソフトバンクの競争戦略
5. 広告視点での競争戦略マネジメント：違いを作って、競争に勝ち抜く
6. 事例紹介：スターバックスとドトールコーヒーの競争戦略
7. マーケティングと広告：マーケティングにおける広告の位置づけ
8. ブランドと広告：ブランドの重要性
9. 広告視点での競争戦略マネジメント：強みを作る
10. 広告視点での競争戦略マネジメント：価値を提供するとは
11. CMを観点を変えて検証する①：プレゼンテーション
12. CMを観点を変えて検証する②：プレゼンテーション
13. テーマを決めたCMの作成（取材と制作）
14. テーマを決めたCMの作成（取材と制作）
15. グループ毎に作品発表：プレゼンテーションとディスカッション

《成績評価の基準・方法》

最終発表（20%）のほかに、授業後に振り返り学習の目的で課題を課す。課題の結果を成績評価の30%とする。知識の定着のために定期試験を行い、その結果を成績評価の50%とする。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習として、配布資料に目を通しておく。事後学習としては、授業で課された課題を個人、もしくはグループで解決しておく。

カスタマーサービス演習

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 吉田 真知子

《授業の概要》

自分をより素敵に見せるための笑顔や姿勢、アイコンタクトの取り方、服装などを学び、相手に信頼されるための話し方、効果的な自己アピールの仕方などを、ワークを中心とした実践的な授業を通して身に付ける。コミュニケーション能力を磨き、基本的なビジネスマナー、ことばのマナー、ビジネス文書の書き方などを学ぶ。

《学生の到達目標》

1. 知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。
2. 自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。
3. 社会の中で自分の立場や場面を的確に把握し、よい人間関係を築く。

《授業計画》

1. オリエンテーション 好感度アップに欠かせない基本態度
2. ビジネスマナーⅠ 清潔感を大切に服装と身だしなみ
3. ビジネスマナーⅡ 立ち居振る舞い・挨拶・お辞儀
4. ビジネスマナーⅢ 社会人のエチケット「敬語①」
5. ビジネスマナーⅣ 訪問・名刺交換・席次
6. ビジネスマナーⅤ 電話応対
7. ビジネスマナーⅥ ビジネスメール・ビジネス文書
8. コミュニケーションⅠ 相手の心を開くテクニック
9. コミュニケーションⅡ ビジネス会話
10. コミュニケーションⅢ スピーチの組み立て
11. コミュニケーションⅣ 社会人基礎力 自己PRのための自己分析
12. コミュニケーションⅤ 自己PR発表
13. 魅力を引き出す印象管理Ⅰ 顔色が良く見えるパーソナルカラー
14. 魅力を引き出す印象管理Ⅱ 表情グセチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント
15. 総まとめ

《成績評価の基準・方法》

授業の取り組み状況(40%)、小テスト(30%)、授業中課題(30%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習としては、配布資料を読んでおく。
事後学習としては、授業で課された課題を作成し、学習した事柄を実践したり練習しておくこと。

データ処理演習(2)

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 柴田 敬子

《授業の概要》

情報活用能力の向上を目的として、表計算ソフトExcelの基本と応用を幅広く学ぶ。

《学生の到達目標》

MOS試験(マイクロソフトオフィス スペシャリスト アソシエイト2019) Excelの合格に必要な知識と技術を習得することができる。

《授業計画》

1. 授業計画の説明
2. 基本操作の復習
3. セルデータの作成
4. セルやワークシートの書式設定
5. ワークシートやブックの管理
6. 数式や関数の適用
7. 視覚的なデータの表示
8. ワークシートのデータの共有
9. データの分析と整理
10. 模擬試験1(解答・解説)
11. 模擬試験2(解答・解説)
12. 模擬試験3(解答・解説)
13. 模擬試験4(解答・解説)
14. 模擬試験5(解答・解説)
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

試験(50%)、レポート・課題・提出物(50%)

《授業で使用する教科書》

・「よくわかるマスター MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト & 問題集」FOM出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：授業時間以外にも積極的にコンピュータを利用し操作に慣れ、幅広く意欲的に勉強してください。
事後学習：MOS試験合格を目標に、模擬試験を頑張りましょう。

データ処理演習(3)

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 柴田 敬子

《授業の概要》

情報活用能力の向上を目的として、データベースの概要およびデータベースソフトAccessの基本と応用を幅広く学ぶ。

《学生の到達目標》

基本操作を確実に理解し、Accessで作成したデータベースの利用ができる。

《授業計画》

1. 授業計画の説明
2. Accessの基本操作(1)
3. Accessの基本操作(2)
4. データベースのデータ編集(1)
5. データベースのデータ編集(2)
6. テーブルの操作(1)
7. テーブルの操作(2)
8. データベースの設計(1)
9. データベースの設計(2)
10. レポートの印刷
11. マクロの利用
12. 総合演習(1)
13. 総合演習(2)
14. 総合演習(3)
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

レポート(50%) 課題・提出物(50%)

《授業で使用する教科書》

・「よくわかる Microsoft Access 2019 基礎」FOM出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：授業時間以外にも積極的にコンピュータを利用し操作に慣れ、幅広く意欲的に勉強してください。
事後学習：MOS試験合格を目標に、模擬試験を頑張りましょう。

小説を読む

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 なし
担当 中井 康行

《授業の概要》

講義の前半期と後半期で、タイプの異なる作家の代表作を取り上げ、物語の時代背景、作品執筆時の作者周辺の状況、作者自身の原体験などを、作品に幾重にも重ね合わせることで見えてくる文学の世界の深さと広さを体感してもらう。

《学生の到達目標》

今後受講者各自に開かれる読書生活の基礎を培ってもらうことを、最大の目標とする。付随して、講義で提示される多様な情報を精査し整理できる能力を培い、講義を受講することがアクティブな作業であることを体感してもらう。

《授業計画》

1. 受講上の諸注意
2. 近代日本文学史概観Ⅰ
3. 近代日本文学史概観Ⅱ
4. 『ころ』を読むⅠ(作品を貫く三つの時間)
5. 『ころ』を読むⅡ(物語が収斂する地点)
6. 『ころ』を読むⅢ(名付け得ぬものをめぐって)
7. 『ころ』を読むⅣ(人を動かすもの・人を導くもの)
8. 夏目金之助という人／夏目漱石という作家
9. 前半期講義内容の確認
10. 『柳橋物語』を読むⅠ(日常性の観点から)
11. 『柳橋物語』を読むⅡ(恋愛小説の観点から)
12. 『柳橋物語』を読むⅢ(時代小説の観点から)
13. 『柳橋物語』を読むⅣ(作品の地理的状況と時代背景から)
14. 山本周五郎という人／山本周五郎という作家
15. 後半期講義内容の確認

《成績評価の基準・方法》

前半期講義内容確認問題への取り組み(50%)
後半期講義内容確認問題への取り組み(50%)

《授業で使用する教科書》

・夏目漱石「ころ」新潮社(新著文庫)もしくは、岩波書店(岩波文庫)・山本周五郎「柳橋物語」新潮社(新潮文庫)

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

本授業で取り上げる2作品を、事前事後に熟読することが必須。最低限通読していなければ、単位取得は不可能である。

詩歌を読む

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 なし
担当 小林 孔

《授業の概要》

2年次開講の科目として、やや専門性を備えたテーマを設定する。日本文学の中で最も短い詩形である俳諧の発句(俳句)を取り上げて、その解釈の方法を探求する。俳諧は、伝統的な詩情に新しさを加えることに眼目をおく、この基本を踏まえながら、今年は、日本の近世期の俳人、松尾芭蕉の発句を選び、その生涯と芸術についても展望できるように工夫する。半年間の講義内容を体系的に把握すると、1冊の学術書を時間をかけて読破した充実感が得られると思う。

《学生の到達目標》

短い言葉の中に、表現の歴史(本情)が隠されている。それを理解したうえで、では、何が表現の新しさなのかを探求し、理解する姿勢が必要。到達目標は、取り上げる芭蕉の発句の本意、本情と新しみの理解にある。

《授業計画》

1. 俳諧の発句
2. 季語の扱い方
3. 伊賀上野時代の発句
4. 江戸移住直後
5. 野ざらし紀行の句 ①
6. 野ざらし紀行の句 ②
7. 「古池や」の句はどのようにして誕生したか
8. 深川の草庵
9. 笈の小文の句 ①
10. 笈の小文の句 ②
11. 奥の細道の句 ①
12. 奥の細道の句 ②
13. 画賛の世界 ①
14. 画賛の世界 ②
15. 芭蕉の生涯と芸術

《成績評価の基準・方法》

授業内で求める課題レポートの提出(30%)と定期試験(70%)で評価する。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

1回の講義で、平均して2から3句の発句は取り上げるようにしたい。したがって、その時間で取り上げた句の解釈の方法を復習し、理解して欲しい。また、必ず次回に取り上げる内容を予告するので、予習に役立ててもらいたい。

絵画を読む

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 なし
担当 村上 真樹

《授業の概要》

ルネサンス以降の西洋絵画史を、技法・主題・思想の観点から読み解きます。作品が伝えているのはどのような物語なのか、画家は何をを目指しているのか、作品が生まれたのはどんな時代だったのか、それらを知ることによって、より深い絵画論賞体験を得ることができるでしょう。そしてそれぞれの画家たちがつねに試行錯誤を繰り返して、様々な革新を行ってきたことが見えてくると思います。

《学生の到達目標》

西洋美術についての知識を深め、作品を受容するための感性を養うことによって、絵画をより深く味わうことができるようになる。

《授業計画》

1. 導入
2. ルネサンスの発明(レオナルド、ミケランジェロ、ラファエロ)
3. 華麗さと優美さ(バロック絵画とロココ絵画)
4. 日常生活の詩人(レンブラント、フェルメール)
5. 躍動するロマン主義(ドラクロワ、ターナー)
6. 芸術の都パリ(クールベ、ロートレック、エコール・ド・パリ)
7. 印象派の探求(マネ、モネ、ルノワール)
8. 自然と人間(ゴッロー、ミレー、ラファエル前派)
9. 光を求めて(ゴッホ、ゴーギャン)
10. 形態から内面へ(セザンヌ、カンディンスキー、クレー)
11. スタイルの軽業師(ピカソ)
12. 想像力の冒険(キリコ、ダリ、マグリット)
13. 芸術の終焉?(マルセル・デュシャン)
14. 大量消費時代のポップ・アイドル(アンディ・ウォーホル)
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

期末レポート(70%)、発表・提出物(30%)によって評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習: 次回の学習内容について、書籍・インターネットを使って調べる。
事後学習: 授業で興味を持った画家・作品についてより深く調べる。ときには美術館にも足を運んでみてください。

映像を読む

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 なし
担当 村上 真樹

《授業の概要》

ヨーロッパ・アメリカの洋画を中心に、映画史を概観します。19世紀末に映画が発明されて以来、映像分野は急速な発展を遂げてきました。この講義では、映像の文法がどのように形成されてきたかをたどるとともに、それを当時の社会状況の反映として見ることを通じて、「映像の世紀」としての20世紀を俯瞰します。扱う作品については、名作の中でもできるだけ女性を主人公とする映画を多く取り上げたいと思っています。そこからは現代社会を生きるためのヒントもまた得られるのではないのでしょうか。

《学生の到達目標》

文化的教養としての映画についての知識を深め、作品を受容する感性を養う。また映像を分析的に見る視点を持つようになる。

《授業計画》

1. 導入
2. 映画の発明
3. 魔術としての映画
4. ドイツ映画の発展
5. サイレント・コメディの時代
6. サイレントからトーキーへ
7. 映画における女性主人公(1)
8. 映画における女性主人公(2)
9. イタリア映画の復興
10. フランス映画の新しい波
11. ミュージカル映画の登場
12. ハリウッドとアメリカの夢(1)
13. ハリウッドとアメリカの夢(2)
14. ハリウッドとアメリカの夢(3)
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

期末レポート(70%)、発表・提出物(30%)によって評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：次回の学習内容について、書籍・インターネットを使って調べる。
事後学習：授業内容をふり振り返り、身近な映像・動画について考える。古典的な名作映画にも接してみてください。

メディアを読む

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 なし
担当 村上 真樹

《授業の概要》

現在、私たちを取り巻くメディア環境は大きな過渡期にあります。スマートフォンを通して簡単にアクセスできるようになったインターネットの世界は、これからも私たちの生活に影響を及ぼすことが多く見られます。そうしたメディアの影響を理解するためにも、この講義では過去から現在までのメディアの発展の歴史をたどり、それらがどのように社会を変えてきたかを確認することを通して、新しいメディアが持つ意味と機能について、改めて考える機会としたいと思います。

《学生の到達目標》

日常生活で接するメディアの持つ意味と機能を理解し、自覚的に使用することによって、メディアを有効に活用できるようになる。

《授業計画》

1. 導入
2. メディアとは何か
3. メディアの種類と機能
4. メディア論の基礎(マクルーハンのメディア理論)
5. 活版印刷がつくった世界(グーテンベルクの銀河系)
6. 新聞・雑誌と社会(19世紀)
7. ラジオ・映画と社会(20世紀前半)
8. テレビと社会(20世紀後半)
9. インターネットの登場(グーテンベルク銀河系の終焉?)
10. マスメディアと双方向メディア
11. SNSのはじまりと歴史
12. インターネットをめぐる諸課題(1)
13. インターネットをめぐる諸課題(2)
14. コミュニケーションとコミュニティ
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

期末レポート(70%)、発表・提出物(30%)によって評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：次回の学習内容について、書籍・インターネットを使って調べる。
事後学習：授業内容をふり振り返り、メディアの持つ意味と機能について考える。スマートフォンやテレビなどの身近なメディアを見つめ直すきっかけにしたいと思います。

文献学入門(図書館基礎特論)

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 司書
担当 小林 孔

《授業の概要》

文献学とは、残酷な学問である。文字の書かれた文献が読めなければ、それまでである。生涯、その文献が何なのか、まったくわからない。日本の古い時代の文字が読めなくても、できる学問はないのか、と言えば、それはいくらかもある。ただ、本講座の内容は、スバリ、くずし字を読むことである。古い時代の人が手で書いた写本をとりあげてみたい、物語の筋が比較的わかりやすいものをテキストとして選ぶ。半年間、今まで見たこともない世界を体験することになる。

《学生の到達目標》

仮に到達目標を設定してみよう。もし、1行が15文字で構成されているとすれば、その中の3文字が読めないと、おそらく文脈にたどりつくことはできないだろう。つまり、読めない文字が1、2文字の程度にまで到達できれば、あとは類推ができる。それが読めたかな?といった最低ラインだろう。その最低ラインを超えてみた所が、第1の到達点である。おそらく、11回目あたりで明暗が分かれることになる。受講生全員が、すらすらテキストが読めたら大成功です。

《授業計画》

1. 文献学とは 事例をととして
2. 私たちは、本当に文字が読めるのか
3. 文字のくずしかた
4. 日本の文字が読めない
5. 室町時代物語の写本を読む① わずかしか読めない
6. 室町時代物語の写本を読む② 少し読めそう
7. 室町時代物語の写本を読む③ でも、意味がとれない
8. 室町時代物語の写本を読む④ まだ、意味がとれない
9. 室町時代物語の写本を読む⑤ えっ、まだ読めない
10. 室町時代物語の写本を読む⑥ 仮名文字は読める
11. 室町時代物語の写本を読む⑦ 文脈がとれる
12. 室町時代物語の写本を読む⑧ 自信がでてきた
13. 室町時代物語の写本を読む⑨ よし、読める
14. 室町時代物語の写本を読む⑩ えー、もう終わり
15. 文献学の入り口を垣間見て まとめにかえて

《成績評価の基準・方法》

上記のように、くずし字を読むようにするために、到達度を測定する小テストを2回、最後に1回の、計3回のテストをする。1、2回がともに2.5点、最後が5.0点、の加算合計10.0点で評価を下す。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

くずし字の古典作品は、活字になっていないものをプリントで配布する。予習は効果的である。文字に慣れるためには、事後の学習によるのもよい。毎日30分以上、コピーをながめて、くずし字に親しむことをおすすめする。事後の学習を継続することである。

生涯学習概論

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 司書
担当 ★前田 崇博

《授業の概要》

地域社会で活躍出来るための知識を本講座を通して学ぶ。愚題的には生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行政・施策・学校教育・家庭教育・家庭等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本を解説する。また、自治体の生涯学習施策を調査・発表し、未来志向の生涯学習についてブレインストーミングやハスセッション、ワークショップや疑似パネルディスカッションなどの様々な形態を通して学習する。

《学生の到達目標》

生涯学習を担う社会教育施設が、就学前や学校卒業後の生涯にわたる学びの拠点であり、大いに活用されるべきであるという視点に立ち、「権利としての社会教育」を説明できること、そのうえで、社会教育施設職員である司書の役割・職務を理解することを到達目標とする。社会教育、地域福祉教育の担い手としての知識と技術を修得する

《授業計画》

1. 生涯学習の基本
2. 生涯学習の起源と展開
3. 図書館と生涯学習
4. 生涯学習と地域教育機能と実際
5. 生涯学習と地域福祉と実際
6. 社会教育の意義・発展・特質
7. 社会教育行政の意義と一般行政との連携
8. 地方自治体の地域計画(前田作成の実例/尼崎・神戸)
9. 社会教育における学習情報の提供と学習相談
10. 生涯学習への支援と学習成果の評価と活用
11. 社会教育のワークショップ演習
12. 社会教育施設のケーススタディ
13. 社会教育についての疑似パネルディスカッション
14. 社会教育指導者の役割
15. 生涯学習の拠点施設としての図書館の課題

《成績評価の基準・方法》

最終課題レポート40% 授業内ミニレポート30%
プレゼンテーション等の内容30%

《授業で使用する教科書》

・香川正弘、「よくわかる生涯学習[改訂版](やわらかアカデミズム)」ミネルヴァ書房

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：次回授業内容について、教科書に目を通しておく。
事後学習：講義内容を復習する。身近な図書館・博物館・公民館・スポーツセンター・市民学習センター等生涯学習関連施設の講座や取り組みについて関心を持ち、情報収集にも努めましよう。

図書館情報資源概論

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 司書
担当 ★村岡 和彦

《授業の概要》

「図書館に置くべき『良い本』とは？」という問いかけを想定し、図書館情報資源(図書館資料)という切り口からみた情報メディアの歴史と様々な現状に触れ、「図書館情報資源とは?」「図書館とは?」との問いを解いていく。その際、「図書館の自由」「ネットワーク情報資源」にも目を配りながら、図書館情報資源の現在の課題を確認する。各回冒頭に、前回授業の振り返り(フィードバック)を行うと共に、その回のテーマに即した新聞記事等を提示し、理解を深める。また各回終了時に簡単な小テスト(短答式)を行い、ミニット・ペーパーの提出を求める。

《学生の到達目標》

図書館サービスを展開するうえでの基盤要素である図書館情報資源(図書館資料)について、電子資料・ネットワーク情報資源も含め多様な展開を見せる状況を説明することができる。またそれを踏まえて、図書館におけるコレクション構築にあたっての理論・手法と現実的な課題を様々な角度から考察・理解し、現在の課題を主体的に語る事ができる。

《授業計画》

1. 図書館情報資源という枠組み
2. 図書(1)「本」の誕生・発展と図書館
3. 図書(2)現代日本の出版流通と図書館
4. 雑誌・新聞
5. 灰色文献・行政刊行物・地域資料
6. 障害者サービス・高齢者サービス・多文化サービスとその資料その資料
7. 公共図書館と学術資料
8. ネットワーク情報資源と電子図書館
9. 図書館情報資源と著作権と
10. 図書館の自由と図書館情報資源(1)基礎編
11. 図書館の自由と図書館情報資源(2)応用編
12. コレクション構築とそのプロセス
13. 収集と選択
14. 蔵書管理と評価・分担収集/分担保存
15. ネットワークとしての図書館

《成績評価の基準・方法》

提出物(小テスト・ミニットペーパー)45%、最終確認テスト55%で総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

・事後学習:各回終了時の自分のコメント・ペーパーを踏まえて、再度教科・配布プリントにより復習しておくこと。
コメントペーパーで示された意見・疑問点については、次回冒頭に講師よりフィードバックを行う。

情報サービス論

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 司書
担当 ★川窪 和子

《授業の概要》

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンス、情報検索等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等について解説する。本講義では、利用者の課題解決をサポートするという図書館の役割をなすサービスを学ぶが、様々な組織内での検索行動や日常での情報収集能力(情報リテラシー)の向上も目指している。

《学生の到達目標》

情報サービスという、図書館利用者の調査を支援する多様な働きかけの手法を理解するとともに、広く市民の課題解決につながる情報発信の重要性を認識し、その概要を説明できることを到達目標とする。

《授業計画》

1. 情報社会と図書館の情報サービス、意義と種類(レファレンス・レフェラルサービス等)
2. 館種別の情報サービスの意義・展開例・特徴
3. レファレンスサービスの定義・種類・機能
4. レファレンスサービスの理論と実際(利用者の情報探索行動、レファレンスプロセス)
5. レファレンスサービスの理論と実際(レファレンスインタビュー)
6. レファレンスサービスの理論と実際(体制とコレクションの構築・普及)
7. レファレンスサービスの理論と実際(デジタルレファレンスサービス)
8. 情報検索の理論と方法
9. 各種情報源の特質と利用法・解説と評価(情報サービスに活用できる各種情報源)
10. 各種情報源の特質と利用法・解説と評価(文献調査:書誌・所在)
11. 各種情報源の特質と利用法・解説と評価(文献調査:新聞・雑誌)
12. 各種情報源の解説と特質と利用法・評価(事実調査:言葉・歴史・統計・法令)
13. 各種情報源の解説と特質と利用法・評価(事実調査:人物・団体・地理・地名)
14. 発信型情報サービスの意義と方法
15. 図書館利用教育・情報リテラシー教育の展開

《成績評価の基準・方法》

発言・発表20%、提出課題(ミニッツレポート等を含む)40%、最終確認テスト40%で総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・「情報サービス論」ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-08258-2
他、適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習:次回授業内容について、教科書に目を通しておく。
事後学習:講義内容を復習する。指定しなかった演習問題にも挑戦することが望ましい。

情報サービス演習(1)

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 司書
担当 山田 悟

《授業の概要》

この授業では、現代の情報サービスでは必須の技術となるコンピュータを用いた情報検索について、その基本的な考え方やデータベースの利用法、さらにインターネット上での情報検索方法などについて講義し、実際にコンピュータを使った演習を行う。またそれらの知識を活用した発信型情報サービスについても講義を行う。

《学生の到達目標》

図書館の情報サービスの基本的技能となる情報検索について、その概念を理解し、実行に必要な様々な知識を蓄え、利用者の質問を基に検索式等を用いた適切な情報検索の実行とその評価ができるようになる事、またインターネットを利用して有用な情報を効率的に得たり自ら情報発信ができるようになる事を目標とする

《授業計画》

1. 情報検索の概念と意義
2. CD-ROM検索演習 (1) 人物略歴情報
3. CD-ROM検索演習 (2) 雑誌記事情報
4. CD-ROM検索演習 (3) 図書内容情報
5. CD-ROM検索演習 (4) 雑誌記事原報
6. CD-ROM検索演習 (5) 総合演習
7. 検索戦略：質問の分析と情報源選択
8. 検索戦略：検索語と索引
9. オンライン図書館目録検索
10. オンラインデータベースの利用
11. 電子ジャーナルの検索
12. インターネット検索の基本的な考え方
13. インターネット検索演習 (1) 書籍検索
14. インターネット検索演習 (2) 各種情報の検索
15. 情報発信サービス

《成績評価の基準・方法》

授業時に毎回行う課題を重視(70%)し、定期試験の成績(30%)と合わせて最終的に評価する。毎回の課題については事後に解説を行うので課題内容の理解を深めてもらう。

《授業で使用する教科書》

・田中功・齋藤泰則・松山巖「CD-ROMで学ぶ情報検索の演習 新訂4版」日外アソシエーツ
他、適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

情報検索の技術は正しい考え方に基づいて自らやり方を考え、実行後に検索結果を評価・検討することで理解が深まる。日々の生活の中で多々あるであろう情報検索の機会に、講義内容を踏まえて実行・評価をすることを心がける事。
事前学習：教科書に目を通し、演習における適切な検索方法について予め考えておく。
事後学習：講義で取り上げなかったものも含めて改めて課題に取り組み、自身の理解度を確認する。

情報サービス演習(2)

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 司書
担当 ★川窪 和子

《授業の概要》

情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービス、積極的な発信型情報サービスの演習を通して、実践的な能力を養成する。レファレンス演習・成果発表の流れで進めていき、その過程や評価についてはグループワークの手法も導入する。

《学生の到達目標》

情報サービスにおける利用者とのやりとり(対人技法)、情報探索のためのツールの選びかたや使いかた、情報探索の手順などの演習を通して、基本的な能力を習得することを到達目標とする。

《授業計画》

1. 図書館における情報サービスの構築・レファレンスコレクションの整備
2. レファレンスインタビューの受付と技法と実際
3. 情報検索の技法と実際(ことばの選び方)
4. 情報検索の技法と実際(言語、事物、概念に対する情報を探す)
5. 上記演習
6. 情報検索の技法と実際(法令・判例・政府・行政情報を探す)
7. 上記演習
8. 情報検索の技法と実際(知的情報系情報：特許、商標を探す)
9. 上記演習
10. 情報検索の技法と実際(地理・歴史情報を探す)
11. 上記演習
12. 情報検索の技法と実際(統計や生活に関わる情報を探す)
13. 上記演習
14. 発信型情報サービスの実践(パスファインダーの作成演習)
15. 情報サービスの回答と評価(レファレンス事例の作成・蓄積と共有)

《成績評価の基準・方法》

発言・発表及び提出課題100%

《授業で使用する教科書》

・「情報サービス演習」ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-07836-3
他、適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：次回授業内容について、教科書に目を通しておく。
事後学習：講義内容を復習する。指定しなかった演習問題にも挑戦することが望ましい。講義で紹介した各種情報源を中心に、日頃より図書館の参考図書や学内限定の情報検索データベースなどを使う経験を多く持つておく。

図書館制度・経営論

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 司書
担当 ★川窪 和子

《授業の概要》

図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。様々なテーマのもと、経営という視点で図書館のあり方を討議し発表するグループワークも実施する。本講義は、司書資格取得のためだけでなく、経営の基本を理解しその視点を持つことで、会社や組織で仕事をしていく上でも有効な、社会人としてのセルフマネジメントも学ぶ。

《学生の到達目標》

図書館に関連する法制度や、図書館経営に関する基礎知識を習得し、その概要を資料を基に説明できること、それらの学びを通して、制度と経営の有機的な関連の中で図書館のあり方を考える視点を持つことを到達目標とする。

《授業計画》

1. 図書館の制度 (図書館法・他館種の法)
2. 図書館の制度 (図書館サービス関連法規)
3. 図書館の政策 (国・地方公共団体)
4. 図書館の経営 (使命と目的、組織)
5. 図書館の経営 (計画)
6. 図書館の経営 (評価)
7. 図書館サービスの設計 (コミュニティ・ニーズの把握とマーケティング)
8. 図書館サービスの設計 (サービス運営計画と関連法規：著作権法・個人情報保護法)
9. 情報資源の経営 (情報資源の収集、組織化・提供・連携・保存)
10. 情報資源の経営 (情報資源の調達と地方自治法)
11. 図書館施設の経営 (施設設備・危機管理)
12. 人的資源の経営 (組織構成・司書養成制度と育成・図書館組織の運営・館長の役割)
13. 財務と活動の集約 (公共図書館の財務・予算の確保・サービスの課金・統計)
14. 図書館の広がる役割 (コミュニティ基盤・障害者・多文化・高齢者・デジタルデバイド)
15. 新しい公共経営

《成績評価の基準・方法》

発言・発表20%、提出課題(ミニツレポート等を含む)40%、最終確認テスト40%で総合的に評価する

《授業で使用する教科書》

・「図書館制度・経営論」日本図書館協会 ISBN978-4-8204-1518-3
他、適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：次回授業内容について、教科書に目を通しておく。
事後学習：講義内容を復習する。

図書館情報技術論

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 司書
担当 山田 悟

《授業の概要》

現代の図書館は業務全般に情報技術が導入され、それらの活用なしでは機能しない。情報化社会と図書館の関わりを認識した上で、書誌データに関わるデータベースの構造、情報サービスに関わる検索エンジンの仕組み、資料保存と媒体変換のためのデジタル化技術など、図書館業務遂行に必要な情報技術の知識と技能を解説する。

《学生の到達目標》

情報技術の基礎的な知識を学び、データベースの意義や電子資料の制作、利用、管理方法、コンピュータシステムの管理法など、図書館業務における情報技術の役割とその重要性が理解できるようになることを目標とする。

《授業計画》

1. 情報技術と社会
2. コンピュータの基礎
3. ネットワークの基礎
4. インターネットの基本技術
5. データベースの仕組み
6. サービエンジンの仕組み
7. 図書館業務システムの仕組み
8. 図書館における情報技術の活用
9. デジタルアーカイブ
10. 電子資料の管理技術
11. 情報発信技術とウェブページ
12. 情報システムの管理
13. 情報システムのセキュリティ
14. 情報技術の法的保護
15. 次世代の図書館サービスと今後の展望

《成績評価の基準・方法》

各講義の最後に簡単なテストを行い、講義内容の理解度について確認を行う。この確認テストの成績(30%)と学期末に行う試験成績(70%)とを合わせて成績評価とする。

《授業で使用する教科書》

・田窪直規 編集/岡紀子、田中邦英 著「改訂 図書館と情報技術」樹村房
他、適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

現代社会はコンピュータとネットワークが普及し、図書館業務にも情報通信技術が多数活用されている。普段から身の周りにある情報技術に目をむけ、その役割について考える習慣を身につけるようにすること。
事前学習：教科書に目を通し用語等の内容の不明な部分をまとめておく。
事後学習：講義内容を整理・確認し、十分に理解できていない部分については自身でも調べることで情報技術の知識を確かなものにする。

図書館情報資源特論

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 司書
担当 小林 孔

《授業の概要》

図書館を利用するにあたって、事前に正確な情報を、迅速に収集することが何よりも望ましい。そこで、人文科学、社会科学、自然科学、技術の各分野の特性について考えるために、それぞれの分野が内包する代表的かつ具体的な主題をとりあげ、各々の主要文献ならびに資料から、各分野へのアプローチの方法と構造を明らかにしてみたい。なお、講義への導入にあたっては、いくつかのレファレンスケースをとりあげて、理解の一助とする。

《学生の到達目標》

各分野へのアプローチの方法を理解することができる。あわせて、主要文献の特性や特色を把握する。おそらくはじめて聞く講義内容にならうから、その都度、時間内で理解度のチェックをすること。自分の理解度、到達点を確認する。

《授業計画》

1. 書誌解題の目的と意義①(図書館情報とは)
2. 書誌解題の目的と意義②(図書館情報に親しむ)
3. 人文科学の書誌解題①(その特性)
4. 人文科学の書誌解題②(その特性)
5. 人文科学の書誌解題③(まとめ)
6. 社会科学の書誌解題①(その特性)
7. 社会科学の書誌解題②(その特性)
8. 社会科学の書誌解題③(まとめ)
9. 自然科学、技術の書誌解題①(特性と特色)
10. 自然科学、技術の書誌解題②(特色とまとめ)
11. 学術情報の流動化①(活用の応用にむけて)
12. 学術情報の流動化②(活用への応用)
13. 書誌解題の応用①(新しい疑問の提示)
14. 書誌解題の応用②(疑問はとけるか?)
15. まとめにかえて

《成績評価の基準・方法》

定期試験の成績、50点に、講義中に指示する5回の提出物の内容(50点)にもとづいて評価をする。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

この講座は、まず、講義内容をその時間でしっかり理解し、事後の復習によって、その理解をより確かなものにして欲しい。資格取得科目の中では、やや難解な授業内容にならう。担当者の配布する資料にあらかじめ目を通しておくとよい。直接書き込みをして、事後にまとめ直すといった手間も必要になる。

図書・図書館史

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 司書
担当 小林 孔

《授業の概要》

日本の書籍に例をとり、その形態、普及、交流の3点の諸相を、書写、ならびに出版の2つの視点から相互に論じ、それぞれの発土から定着までの変遷を関連づけられるよう考慮してみたい。また、収蔵という行為をめぐる、公私の文庫(図書館)が果たしてきた役割と特性についても、同時に考えてみたいと思う。なお、近代の図書館史についても、これを視野に入れて講じたい。

《学生の到達目標》

日本の古い和装本を実際に手でふれて、書籍史の一斑を観察することができる。和装本に対する初歩的な理解を求める。あわせて、日本の図書館史の流れを体系的に把握することができる。

《授業計画》

1. 書籍の形態
2. 書籍の機能性
3. 形態の合理性①(美濃本と半紙本)
4. 形態の合理性②(中本と小本)
5. 普及の条件
6. 普及の手段
7. 普及の実態①(本の製作現場)
8. 普及の実態②(本屋の店頭)
9. 普及と再生
10. 再生と展開
11. 図書蒐集と情報収集の接点①(読書とは)
12. 図書蒐集と情報収集の接点②(読書の風景)
13. 文庫(図書館)の発生と展開①(明治・大正)
14. 文庫(図書館)の発生と展開②(昭和戦前・戦後)
15. 近代図書館史一斑 まとめにかえて

《成績評価の基準・方法》

定期試験の成績50点に、講義中に出題する課題の内容(50点)で評価をする。

《授業で使用する教科書》

・寺田光孝「図書及び図書館史」樹村房

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

初めて知る事柄が多いはず。したがって、事前の学習は図書館史の講義に入ってからでよい。初めて知る内容は、新鮮な驚きのあるうちに復習するのがよいから、何度か、前の週の内容を発問形式で尋ねることがある。事後の学習の成果を見る。

図書館実習

2年次(半期)
1単位(実習)
資格 司書
担当 ★川窪 和子

《授業の概要》

受講生の住所地または出身地の希望する図書館と調整ののち、図書館側の受入れが可能な場合、夏季に図書館実習が実現する。事前に「実習事前調査票」を作成する。実習期間の内容は、おおむね、図書館システム操作、カウンター業務、書架整理業務等であり、実習図書館の指導に従う。終了後、「図書館実習報告書」を提出し、報告会を行う(実習・ディスカッション)

《学生の到達目標》

- ①実習先の図書館についての十分な事前調査ができる。
- ②実習図書館の規則や指示に従って、図書館業務を理解して業務を遂行できる。
- ③実習後の報告書作成や報告会で反省・報告ができる。

《授業計画》

1. ガイダンス
2. 実習図書館の調査(自治体における図書館の位置づけ、図書館統計、利用規則)
3. 実習図書館の調査(サービス内容、夏期催事等)による実習事前調査票の作成
4. 実技演習(接遇の基本・個人情報管理)
5. 実技演習(排架・書架整理)
6. 実技演習(図書館システム・カウンター対応等)
7. 実習(実習図書館のプログラムや指示に従う)
8. 実習(実習図書館のプログラムや指示に従う)
9. 実習(実習図書館のプログラムや指示に従う)
10. 実習(実習図書館のプログラムや指示に従う)
11. 実習(実習図書館のプログラムや指示に従う)
12. 実習(実習図書館のプログラムや指示に従う)
13. 実習(実習図書館のプログラムや指示に従う)
14. 図書館実習報告書の作成
15. 実習報告会

《成績評価の基準・方法》

「図書館実習事前調査票」30%、「図書館実習報告書」20%、「図書館評価表」(実習館作成)50%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

所定の期間内に実習図書館について、ホームページ等での情報収集も含め、十分な事前調査をしておく

情報処理演習 B

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 中津 功一郎

《授業の概要》

IT時代の情報活動を効率的に行うための基本的な情報リテラシーの習得を目指す。内容は、①Excelの基本操作、②関数を利用した表計算、③ExcelとWordの連携について幅広く学ぶ。単に入力するだけでなく、デザインや見栄えなどレイアウトを考え、効率よく資料を作成するための技能を学ぶ。また、動画編集ソフトを利用し、写真や動画をを用いて編集する技能を学ぶ。

《学生の到達目標》

Microsoft Excelを用いて簡単な表計算ができ、ビジネス面でのコンピュータの基礎知識とExcelの利用を身につけることができる。さらに、自らが撮影した動画や写真を利用し、音楽を組み合わせた動画編集をすることが出来る。また、それぞれの課題については、対象者を設定する。そのため、誰のために情報を処理するのか、考える力が身につく。

《授業計画》

1. 授業のガイダンス(Excelで行う情報処理とは何か)
2. 授業のガイダンス(Excelで行う情報処理とは何か)
3. 効率的に情報処理するための方法: データ入力・編集
4. 効率的に情報処理するための方法: 並び替え、オートフィルタ
5. 効率的に情報処理するための方法: SUM・AVERAGE・MAX・MIN関数の利用
6. 情報を提供する方法: 表のレイアウト、他のアプリケーションへのデータ出
7. 情報を提供する方法: グラフ機能①
8. 情報を提供する方法: グラフ機能②
9. 情報を創り出す: IF関数の利用
10. 情報を創り出す: SUMIF・COUNTIF関数の利用
11. 情報を創り出す: VLOOKUP関数の利用
12. 資料を作る際に重要とすること
13. 動画による情報提供: 動画編集①
14. 動画による情報提供: 動画編集②
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

この授業は演習形式の授業であるため、毎回課す、授業内容を確認するための課題により評価する。(60%)課題については、未完成であったり、課題としての評価が低いものに関しては、教員からの注意点を踏まえ、再提出を行うこととする。再提出に関する評価を10%とする。また、最終授業において、応用問題を最終課題として課す。最終課題の成績を30%とする。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習: 配布資料に目を通しておく。事後学習: 授業中の応用問題を課題とするので、自ら考えて課題をクリアしていく必要がある。

食生活と健康II

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 調理
担当 門田 尚子

《授業の概要》

食生活と健康は密接に関係しています。食生活の多様化が進む日本の食環境において調理師は人々の健康維持増進の役割も担っています。個人の健康だけでなく国の健康づくりの施策を知り理解し、食を通じて健全な人間を育てていこうとする食育の活動における調理師の役割についても学びます。また、身体健康だけでなく心の健康についても考え理解します。授業内容の補足の参加資料を併用し、確認問題等で授業の理解を深めます。

《学生の到達目標》

- ①国の健康づくりの施策を知り理解する。
- ②心の健康についても考え理解する。
- ③食の外部化など食の多様化が進んでいるなか、食の大切さ食べ物に対する感謝の心を伝える食育における調理師の役割について考える。

《授業計画》

1. 疾病予防から健康増進へ
2. 健康増進法
3. 健康づくり対策、健康教育
4. 健康に関する食品情報
5. その他の表示
6. 「健康づくり対策」のまとめ
7. 心身相関とストレス
8. ストレスへの対処方法と心の健康
9. 「心の健康づくり」のまとめ
10. 食育の定義と意義
11. 食育基本法
12. 食育における調理師の役割：正しい知識の提供
13. 食育における調理師の役割：食育の実践活動①
14. 食育における調理師の役割：食育の実践活動②
15. 「調理師と食育」のまとめ

《成績評価の基準・方法》

期末の筆記試験(70%)、課題レポートの回答内容の充実度合い、授業への積極的参加度合い(30%)で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「新調理師養成教育全書 必修編1 食生活と健康」公益社団法人 全国調理師養成施設協会

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：教科書に目を通し、興味を持ったことや分からないところはWebによる検索や関連書籍を用いて調べてから授業に臨む。
事後学習：教科書、配布プリント、確認問題を用いて授業内容を振り返る。そして、食育推進を担う調理スペシャリストとしての研鑽を積み、健康につながる食生活を広く啓蒙、実践していく。

食生活と健康III

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 調理
担当 門田 尚子

《授業の概要》

調理師は、単に調理の技術だけでなく「食生活と健康」に関する幅広い知識の取得が必要です。この授業では、健康増進に寄与できる調理師になるために、過重労働、過労死等の問題を労働と健康、人間の健康と密接な関係の空気や水などから飲食物を介した人々への影響を生活環境と健康についても学びます。授業内容の補足の参考資料を併用し確認問題等で授業の理解を深めます。

《学生の到達目標》

- ①労働者にとって健康で働くことが大切です。過重労働や過労死が大きな社会問題となっている今の労働と健康について理解する。
- ②調理師として働く際の職場環境と健康の確保についても考える。
- ③身の回りの生活環境や環境汚染が健康にどんな影響があるか理解する。

《授業計画》

1. 作業環境、作業条件と健康
2. 職業病、労働災害
3. 調理師の職場環境
4. 「労働と健康」のまとめ
5. 生活環境の衛生、環境因子
6. 環境条件：大気、水
7. 環境条件：住居、廃棄物、放射線
8. 環境汚染と対策：公害の歴史
9. 環境汚染と対策：空気汚染、水質汚濁
10. 環境汚染と対策：騒音、振動、悪臭
11. 環境問題：環境ホルモン
12. 環境問題：地球温暖化
13. 環境問題：酸性雨、オゾン層の破壊、循環型社会の構築
14. 環境問題のまとめ
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

期末の筆記試験の正答率(70%)、課題レポートの回答内容の充実度合い、授業への積極的参加度合い(30%)で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「新調理師養成教育全書 必修編1 食生活と健康」公益社団法人 全国調理師養成施設協会

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：教科書に目を通し、興味を持ったことや分からないところはWebによる検索や関連書籍を用いて調べてから授業に臨む。
事後学習：教科書、配布プリント、確認問題を用いて授業内容を振り返る。労働と健康、環境と健康に関する知識や情報を積極的に社会に発信し、「食生活と健康I、II」も含めて実践していく。

食品と栄養の特性III

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 調理
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

食品と栄養の特性I・IIで学んだ知識をもとに、食品についての知識を深めるために、日常よく利用する身近な食品について、種類や成分、食用としての価値、調理特性、適正な取り扱いや保存方法などを幅広く学ぶ。また、食品の実物サンプルや写真を見たり、食べ比べなどをして、実用面に即した知識を身につける。現在市場にあふれている食品の価値を、合理的に判断できる力を養い、栄養、嗜好、衛生、経済などいろいろな面から私たちの健全な食生活に役立たせる。

《学生の到達目標》

食品素材の基礎的な知識を身につけることができる。食品に含まれる成分の性質や特性を理解し、調理や製菓に応用できる。食品の知識を深め、良し悪しを判断できる。調理師取得やフードスペシャリスト資格試験合格に必要な知識を習得することができる。

《授業計画》

1. 動物性食品の知識 6 卵類(卵の構造と成分)
2. 動物性食品の知識 7 卵類(卵の調理特性)
3. 動物性食品の知識 8 乳・乳製品(牛乳の種類と特徴)
4. 動物性食品の知識 9 乳・乳製品(乳製品の種類と特徴)
5. 動物性食品の知識 10 卵・乳・乳製品 総括(プレゼンテーション)
6. その他の食品 1 調味料① 砂糖類
7. その他の食品 2 調味料② 塩類
8. その他の食品 3 調味料③ 味噌・醤油
9. その他の食品 4 調味料 酢・みりん
10. その他の食品 5 調味料 総括(プレゼンテーション)
11. その他の食品 6 香辛料 1
12. その他の食品 7 香辛料 2
13. その他の食品 8 嗜好飲料 1
14. その他の食品 9 嗜好飲料 2
15. その他の食品 10 嗜好飲料 総括(プレゼンテーション)

《成績評価の基準・方法》

定期テスト(50%) 課題や資料作成(30%)
質問や回答などの積極的な発言を考慮した授業への参加貢献度(20%)

《授業で使用する教科書》

・(公社)全国調理職業訓練協会「調理師養成教育全書2 食品と栄養の特性」

《参考書》

・「新食品成分表」東京法令出版

《事前・事後学習》

日ごろから食品や食物に関心を持ち、スーパーやコンビニエンスストア、デパートなどの食品売場をよく見て、どんな食品が売れているのか、流行の食品の種類や価格、調理方法などに注目し、情報収集を心がける。
事前学習：教科書をよく読み、興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。
事後学習：教科書やプリントを読み返して復習問題に取り組む。

食品と栄養の特性V

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 調理
担当 大杉 加菜子

《授業の概要》

健康を保つことと食生活は密接な関係にある。生活習慣と深くかかわりのある生活習慣病の原因やリスクについて学び、各疾病の予防や食事療法に適った献立について学ぶ。また人生の様々な場面により必要な栄養素は変化するライフステージに合わせた食事を選択する知識を身につける。さらに栄養学で学んだ基礎を活かしより応用力を高め自身の食生活を充実させる。

《学生の到達目標》

栄養の基礎知識をもとに、日々の自分の食事を見つめなおし、献立を立てることが出来るようになる。将来の生活習慣病などの予防や、家族の健康に役立てられるように学習し、適切なメニューを選ぶことが出来るようになる。

《授業計画》

1. 栄養の基礎知識 炭水化物
2. 栄養の基礎知識 脂質・たんぱく質
3. 栄養の基礎知識 ビタミン・ミネラル
4. 食事と栄養
5. 食事と健康
6. 健康とダイエット
7. ライフステージと栄養 妊娠～思春期
8. ライフステージと栄養 成人期、高齢期
9. 生活習慣病 脂質異常症など
10. 生活習慣病 虚血性心疾患など
11. 生活習慣病と食事 糖尿病など
12. 生活習慣病と食事 がんなど
13. 免疫について
14. 栄養と免疫
15. 食物アレルギー

《成績評価の基準・方法》

定期試験(40%)、課題提出(60%)で評価する。

《授業で使用する教科書》

・(公社)日本スペシャリスト協会「三訂 栄養と健康」建帛社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習は、教科書をよく読み、興味を持ったものやわからないところは調べる。
事後学習は、授業ノートをしっかり読み返し、数回ごとに行う小テストで合格点がとれるように復習する。

食品の安全と衛生III

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 調理
担当 ★瀧本 文子

《授業の概要》

食品の安全対策としての洗浄や殺菌・消毒、食品の安全性を脅かす可能性のある環境汚染物質などについて特徴を学ぶ。また主な食品添加物や食物アレルギーについて学び、食品表示情報を正しく読み取れるよう理解を深め、実践できる知識を習得する。

《学生の到達目標》

- ① 洗浄や殺菌の種類・方法が理解できる
- ② 食品添加物の安全性、種類や用途などが理解できる
- ③ 食品表示のルールが理解できる
- ④ 加工食品についてアレルギー物質や食品添加物などの内容を含めた食品表示の作成ができる

《授業計画》

1. 界面活性剤と洗浄
2. 消毒・殺菌の種類と方法
3. 器具・容器包装の衛生
4. 食品と重金属および放射性物質
5. 食品安全情報の共有①食品表示の概要と食品表示法
6. 食品安全情報の共有②加工食品の表示
7. 食品安全情報の共有③生鮮食品の表示
8. 食品安全情報の共有④その他の法律による表示
9. 食品添加物①食品添加物の概要
10. 食品添加物②関係法規、安全性の評価
11. 食品添加物③主な食品添加物とその用途①
12. 食品添加物④主な食品添加物とその用途②
13. 食物アレルギー
14. 食品表示の実践
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

定期試験(70%) 小テストを含む提出物(20%) 質問、回答など発言を含む授業への参加貢献度(10%)で総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・「調理師養成教育全書3 食品の安全と衛生」全国調理師養成施設協会・日本フードスペシャリスト協会「三訂 食品の安全性(第2版)」建帛社

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

市販されている食品の表示には様々な情報が載っています。調理師としての業務のためだけでなく、自分自身や家族のためにも、食品表示に対して自然に関心を持てるようになりましょう。
事前学習：身の回りの食品の表示を確認し、わからないことはインターネット等で調べてください。
事後学習：前回の授業プリントなどの見直しを行ってください。

食品の安全と衛生IV

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 調理
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

食品の安全と衛生Vにおいて行なう、食品の安全性の実験や食品の品質評価を行うための理論と実験方法についてや、食品保存のための加工技術について学ぶ。また、これらを通して、科学的・論理的な考え方の基本を理解し、適切な実験報告書の作成方法を学ぶ。

《学生の到達目標》

食品の科学的なものの見方と理解、論理的な考え方、実験報告書の作成ができるようになる。①食品の加工技術を理解し、調理や製菓に活用できるようになる。②食品の安全性の実験の目的と理論について理解することができる。③食品の安全性の実験の進め方について理解することができる。④実験についてレポート(報告書)の書き方を理解し作成できる。⑤実験結果について考察し、自分の考えをまとめることができる。

《授業計画》

1. 実験・検査方法および実験レポート作成のガイダンス
2. 微生物実験(1)環境中の微生物
3. 微生物実験(2)微生物による発酵食品
4. 食品添加物実験(1)保存料の検出
5. 食品添加物実験(2)発色剤の検出
6. 食品添加物実験(3)着色料の検出
7. 食品添加物実験(4)膨脹剤の特性
8. 食品のたんぱく質実験(1)分離と検出
9. 食品のたんぱく質実験(2)小麦加工品
10. 鮮度検査(1)卵
11. 鮮度検査(2)脂質、牛乳
12. 豆類加工品
13. 果実類加工品
14. 肉類加工品
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

実験内容を理解し、実験結果や考察が、目的に沿って書かれているか評価する(50%)・定期試験(50%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

基礎的な科学実験および種々の食品の衛生検査方法や加工方法を体得します。
事前学習：必ず「実験テキスト」を参照し、実験内容をよく理解して取り組んでください。
事後学習：実験した内容をよく精査し、実験レポートを作成して提出してください。

食品の安全と衛生 V

2 年次(半期)
1 単位 (実習)
資格 調理
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

食品の安全性および品質の評価を行う目的でのアクティブ・ラーニングとして、環境中の微生物検査、食品添加物の検出、鮮度判定、食品加工の技法についてグループで実験を行う。また実験報告書を作成し、科学的・論理的な考え方の基本を理解する。

《学生の到達目標》

食品の科学的なもの見方と理解、論理的な考え方、実験報告書の作成ができるようになる。①科学実験の進め方について理解することができる。②基本的な実験器具の取り扱いができる。③実験についてレポート(報告書)の書き方を理解し作成できる。④実験結果について考察し、自分の考えをまとめることができる。

《授業計画》

1. 実験・検査方法および実験レポート作成のガイダンス
2. 微生物実験(1) 環境中の微生物
3. 微生物実験(2) 微生物による発酵食品
4. 食品添加物実験(1) 保存料の検出
5. 食品添加物実験(2) 発色剤の検出
6. 食品添加物実験(3) 着色料の検出
7. 食品添加物実験(4) 膨脹剤の特性
8. 食品のたんぱく質実験(1) 分離と検出
9. 食品のたんぱく質実験(2) 小麦加工品
10. 鮮度検査(1) 卵
11. 鮮度検査(2) 脂質、牛乳
12. 豆類加工品実験
13. 果実類加工品実験
14. 肉類加工品実験
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

実験内容を理解した上で、積極的に参加し、班内での責任を全うしようとする取組みができていくか評価する(50%)。実験レポートの期限内の提出および実験結果や考察が、目的に沿って書かれているか評価する(50%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

基礎的な科学実験および種々の食品の衛生検査方法や加工方法を体得します。事前学習:必ず「実験テキスト」を参照し、実験内容をよく理解して取り組んでください。事後学習:実験した内容をよく精査し、実験レポートを作成して期日までに提出してください。

調理理論と食文化概論III

2 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 調理
担当 ★村上 道子

《授業の概要》

食材料としての食品が調理上どのような特徴を持っているか、調理における諸現象、変化などを科学的に把握し、論理的な調理方法を学ぶ。食品素材別に栄養的性質、物理的性質を調理例と関係付けて学習する。

《学生の到達目標》

食品中の成分が調理によってどのように変化するかを理解し、よりよい料理に仕上げるためにはどのほかに調理すればよいのか考え工夫できる。

《授業計画》

1. 野菜類の調理科学
2. 果実類の調理科学
3. きのこと類の調理科学
4. 海藻類の調理科学
5. 魚介類の調理科学 生食調理
6. 魚介類の調理科学 加熱調理
7. 肉肉類の調理科学
8. 卵類の調理科学 凝固性など
9. 卵類の調理科学 起泡性など
10. 乳類の調理科学
11. 油脂類の調理科学
12. 調味料の調理科学 食塩など
13. 調味料の調理科学 味噌など
14. ゲル状食品の調理科学 寒天
15. ゲル状食品の調理科学 ゼラチン・ペクチン

《成績評価の基準・方法》

定期試験(70%)、課題提出(30%)で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「新調理師養成教育全書4 調理理論と食文化概論」公益社団法人 全国調理師養成施設協会

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習は、教科書をよく読み、興味を持ったものや、わからないところは調べる。事後学習は、毎回配布するプリントを勉強し、数回ごとに行う小テストで合格点がとれるように復習する。

調理理論と食文化概論Ⅳ

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 調理
担当 ★村上 道子

《授業の概要》

調理を能率的に行い、美しく美味しく仕上げるためには、使用目的に適した調理器具が必要であり、出来上がった料理を美しく盛り付ける技術、食器の知識が重要となる。また調理作業を円滑にするためには、施設・設備の充実が必要である。これらの調理にとって重要な事について知識と理解を深めるように学習する。

《学生の到達目標》

調理器具を上手に選択し、使いこなせるよう各種器具の特徴や調理との関連について習得する。また料理の種類別の食器について理解を深める。料理に合った鍋の大きさ、形が分かる。また料理を盛りつける器を選ぶことが出来る。

《授業計画》

1. 調理施設・設備について
2. 非加熱調理器具について 混合・攪拌用など
3. 非加熱調理器具について 圧搾・濾過用など
4. 加熱調理器具について 鍋など
5. 加熱調理器具について オーブンなど
6. 加熱調理器具について 電子レンジ
7. 冷却用機器について
8. 食器・容器について
9. 材質別の食器・容器の特徴
10. 料理別の食器の種類と特徴
11. 和食器の種類と特徴
12. 洋食器の種類と特徴
13. 中国料理の食器の種類と特徴
14. 調理と熱源について
15. 熱効率について

《成績評価の基準・方法》

定期試験(70%)、課題提出(30%)で評価する。

《授業で使用する教科書》

・「新調理師養成教育全書4 調理理論と食文化概論」公益社団法人 全国調理師養成施設協会

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習は、教科書をよく読み、興味を持ったものや、わからないところは調べる。事後学習は、毎回配布するプリントを勉強し、数回ごとに行う小テストで合格点がとれるように復習する。

調理理論と食文化概論Ⅵ

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 調理
担当 大杉 加菜子

《授業の概要》

食文化の継承者として重要な使命を実行できる調理師をめざして、世界の料理と食文化を具体的に学び、今日の日本の食生活を彩る様々な国の料理や文化を学習する。

《学生の到達目標》

食文化の継承者の役割を担い、更に新たな調理法を創造する力を身につけるための基礎を学ぶ。

《授業計画》

1. 食文化の地域性と宗教
2. 世界の郷土料理
3. 行事食(春) イースター ミモザ祭り
4. 行事食(夏) 夏至祭 夏祭り・お盆
5. 行事食(秋) 収穫祭ハロウィン
6. 行事食(冬) クリスマス お正月
7. 現代食生活と未来の食文化
8. 西洋料理の食文化史
9. 西洋料理の食文化
10. 西洋料理の食事作法
11. 中国料理の食文化史
12. 中国料理の食文化
13. 中国料理の食事作法
14. アジア料理
15. 中東・中南米の料理

《成績評価の基準・方法》

確認テスト 40% 提出物 60%

《授業で使用する教科書》

・「新調理師養成教育全書4 調理理論と食文化概論」公益社団法人全国調理師養成施設協会

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前 世界の料理に関心を持ち、食事作法など特徴をつかもう。

事後 世界の料理を知ることによって日本の食文化や和食の特徴を見つめ直そう。

食材の見極め(買い出し)III

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 ★宮本 弥生

《授業の概要》

1年次に習得した食材の知識をいかし、実習に使う食材の買い出しに出かけます。また、1ヶ月に1度位の割合で「城南ベジマルシェ」をオープンします。

《学生の到達目標》

1年次で得た知識を自分が十分に生かして買い出しができていないか確認ができる。「ベジマルシェ」が昨年の反省を含め、自分たちで考え、昨年よりもうまく運営ができる。

《授業計画》

1. 市場訪問
2. 材料買い出し
3. 城南ベジマルシェ 準備
4. 城南ベジマルシェ オープン
5. 材料買い出し
6. 農家訪問
7. 城南ベジマルシェ 準備
8. 城南ベジマルシェ オープン
9. 材料買い出し
10. 材料買い出し
11. 城南ベジマルシェ 準備
12. 城南ベジマルシェ オープン
13. 材料買い出し
14. 材料買い出し
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

ベジマルシェでの準備・運営などへの取り組み方 50%
レポート 50%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前 食材について自分なりに調べる。
事後 レポート提出

食材の見極め(買い出し)IV

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 ★宮本 弥生

《授業の概要》

自分たちが考えた献立にふさわしい食材の買い出しや、買い出した食材で献立を考える。

《学生の到達目標》

その時一番おいしい食材を見分け、その食材の美味しさを一番味わえる料理を作るための買い出しができる。

《授業計画》

1. 食材の買い出し
2. 食材の買い出し
3. 食材の買い出し
4. 食材の買い出し
5. 食材の買い出し
6. 食材の買い出し
7. 食材の買い出し
8. 食材の買い出し
9. 食材の買い出し
10. 食材の買い出し
11. 食材の買い出し
12. 食材の買い出し
13. 食材の買い出し
14. 食材の買い出し
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

それぞれの料理にふさわしい食材の買い出しができたか、50%
買い出した食材で、ふさわしい料理が作れたか 50%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

日ごろから、スーパーや商店街などでその季節の食材をリサーチしておく。授業の時だけでなく、日ごろの注意が重要です。

調理実習（日本料理）

2年次(半期)
2単位（実習）
資格 調理
担当 ★茅ヶ迫 正治

《授業の概要》

1年次に行った調理実習を基本に、技術のレベルアップを図ると共に、日本料理の知識・調理師としての心構えの習得に努める。実習内容はまず講師がデモンストレーションし、手順・ポイント・注意点を実習を通じて伝え、各自それぞれ理解した上で実習をおこなう。なお、実習時決められた服装・身だしなみが出来ていなければ授業は受講できない。

《学生の到達目標》

毎回の実習での調理技術を習得し、調理師免許の取得を目標にする。

《授業計画》

1. 出汁について 吸い物 他
2. 魚を卸す 魚料理
3. 煮物について1 炊き合わせ 他
4. 煮物について2 眼張の煮物 他
5. 焼き物について1 肉の焼き物 他
6. 焼き物について2 鮎の塩焼き 他
7. 揚げ物について1 天麩羅盛り合わせ 他
8. 揚げ物について2 目板の唐揚げ 他
9. 蒸物について1 茶碗蒸し 他
10. 蒸物について2 魚介の蒸物 他
11. 鱧を卸して 鱧づくし
12. 季節の会席料理 初夏の献立
13. 季節の会席料理 盛夏の献立
14. 季節の会席料理 晩夏の献立
15. 総まとめ

《成績評価の基準・方法》

毎時間の技術の達成度 40% テスト 40% ノート20%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

- ・事前 次週のレシピを配布するので、材料・調理法を事前に調べる。
- ・事後 実習後、実習ノートを作成し、15回終了後提出する。

総合調理実習

2年次(半期)
2単位（実習）
資格 調理
担当 ★久松 幸彦, ★宮本 弥生

《授業の概要》

調理実習室に置ける器具や機器の安全で衛生的な使用を実践する。料理の基本的特性を理論的に理解し、食材、調理法などを反復しながら実習を行うと同時に、レストラン実習において円滑なグループワークの意識を醸成し、さまざまな現場を想定した実践力を高める。決められた服装・身だしなみができていないと受講できない。

《学生の到達目標》

調理実習で使用する基本的な器具、機器の取り扱いが出来る。基本的な調理技法（包丁操作、煮る、焼く、蒸す）を理解し、実践できるようになる。清潔な身だしなみ、衛生的な行動ができる。

《授業計画》

1. 牛フィレのステーキ・舌平目のエスカベッシュ 他
2. 豚フィレのシャルキュティエール・サラダ 他
3. レストラン実習
4. シーフードのクリーム煮・サンドイッチ他
5. レストラン実習
6. フルーツカッタイング
7. スモークサーモンのオードブル・いとよりのポアレ 他
8. レストラン実習
9. 仔牛のエスカロップ・コーンチャウダー 他
10. レストラン実習
11. 帆立と野菜のマリネ・糸よりのポアレ 他
12. レストラン実習
13. 洋風おせち料理
14. パーティー料理
15. 総まとめ

《成績評価の基準・方法》

毎時間の技術の達成度 40% テスト 40% ノート 20%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

- ・事前 次週のレシピを配布するので、材料・調理法のフランス語を事前学習し、レストラン実習時は自分の動き等の確認をする。
- ・事後 実習終了後に実習ノートを作成し、15回終了後提出。

調理スペシャリスト研究

2年次(半期)
2単位(実習)
資格 調理
担当 ★宮本 弥生

《授業の概要》

実習したものを学内販売したり、オリジナルメニューの開発をし、買出しから自分たちで行い、試食会を行う。また、時には学内レストランも実施する。実習は規定の服装・身だしなみができていなければ、受講できない。

《学生の到達目標》

1年で習得した調理技術のスキルアップを含め、自分たちで考え、話し合い、計画を立て、実行する力を身につけ、オリジナル料理で学内レストランをオープンすることを目標とする。

《授業計画》

1. オリエンテーション・1年次 復習
2. 春の素材を使った献立1
3. 春の素材を使った献立2
4. ミニ農業体験
5. レストラン実習のためのオリジナルメニュー試作
6. レストラン実習
7. 初夏の素材を使った献立1
8. 初夏の素材を使った献立2
9. レストラン実習のためのオリジナルメニュー試作
10. レストラン実習
11. 料理コンテスト 応募作品制作
12. 夏の素材を使った献立
13. レストラン実習のためのオリジナルメニュー試作
14. レストラン実習
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

オリジナルメニュー完成度30% レストラン実習での動き方50% ノート提出20%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

- ・事前 各人オリジナルメニュー作成のための事前リサーチ等を行う。
- ・事後 毎回、授業終了後実習ノートをパソコンで作成し、15回終了後提出。

スキルアップII

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 ★宮本 弥生

《授業の概要》

調理技術の向上のための自主練習の時間。自分に足りない技術の習得に使ってください。規定の服装がととのわなければ、受講できません。

《学生の到達目標》

規定の調理技術テストの合格。

《授業計画》

1. 自主練習
2. 自主練習
3. 自主練習
4. 自主練習
5. 自主練習
6. 自主練習
7. 自主練習
8. 自主練習
9. 自主練習
10. 自主練習
11. 自主練習
12. 自主練習
13. 自主練習
14. 自主練習
15. 自主練習

《成績評価の基準・方法》

練習への取り組み方・結果 100%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

授業時間だけでなく、家でもできるだけ包丁を使ってください。使うほど、調理技術は高まります。

料理プレゼンテーション演習

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 ★宮本 弥生

《授業の概要》

自分の考えたレシピを他の学生の前で講義をし、レシピをネットに公開する。
尚、きめられた服装・身だしなみが整ってなければ受講できない。

《学生の到達目標》

自分の意図したことを、正確に伝えるためには調理技術だけでなく、伝える技術も必要。また、聞くほうの人には、理解する能力も必要。それを養い、クラス以外の人にも講義したり、オリジナルレシピをネットに公開する。

《授業計画》

1. プレゼンテーションのためのスケジュール・テーマ作成
2. プレゼンテーションのためのレシピ作成
3. 料理作成
4. プレゼン・実習
5. プレゼンテーションのためのレシピ作成
6. 料理作成
7. プレゼン・実習
8. プレゼンテーションのためのレシピ作成
9. 料理作成
10. プレゼン・実習
11. プレゼンテーションのためのレシピ作成
12. 料理作成
13. プレゼン・実習
14. 発表会・試食会
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

発表時の達成度 50% レシピ50%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

- ・事前：使用するレシピを作成しプレゼンできるよう準備
- ・終了後感想を書いて、レシピとともに提出。

洋菓子の世界

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 なし
担当 ★亀井 知子

《授業の概要》

洋菓子のルーツを辿り、それにまつわる歴史や由来を学ぶ。

《学生の到達目標》

ひとつのお菓子から、様々な知識を拡げる。
今後の日常生活で、出会う洋菓子に対し学ぶことで、豊かな経験を積む。

《授業計画》

1. スポンジ、ショートケーキ
2. ザッハトルテ、オペラ
3. タルト、リンツァータルト、タルトタタン
4. シュー、パリプレスト、サントノーレ
5. カトルカール、ケーキ、ウィークエンド
6. マドレーヌ、バンドジェーヌ、フィナンシェ
7. パウムクーヘン、ガトー・ア・ラ・プロシュ
8. クッキー、ビスケット、サブレ
9. ミルフィーユ、アップルパイ
10. ビティビエ、ガレット・デ・ロア
11. ワッフル、ベルギー古典菓子
12. カヌレ、コンフィズリー(糖菓)
13. プリン、ババロア、ムース
14. チョコレート
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

各テーマについてのレポート(70%)、自由課題についてのレポート(30%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

- 事前：各テーマについて、自分自身の知識を持つ。
- 事後：学んだことを、実験に結びつける努力をする。

和菓子の世界

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 なし
担当 谷口 智美

《授業の概要》

和菓子は様々な切り口で学ぶことができる。この授業では、和菓子を通して日本の食文化と季節感を学んでいく。和菓子のルーツは、古代の「木の葉」にさかのぼり、その後貴族社会、武家社会と時代を経る中で、繊細で美しい和菓子を完成させてきた。その菓子を深く学ぶことで、日本人の暮らしや季節の楽しみ方を理解していく。

《学生の到達目標》

それぞれの時代の中での「人々の暮らしと菓子の関係」を説明できる。また、季節や行事と和菓子の関係を理解できる。

《授業計画》

1. オリエンテーション、日本の季節行事と和菓子
2. 和菓子のルーツ
3. 和菓子の材料
4. 京菓子和伝統行事
5. 風物詩を彩る和菓子 春・夏
6. 南蛮菓子上陸
7. 風物詩を彩る和菓子 秋
8. 和菓子の種類
9. 江戸時代の文化と菓子
10. 交通の発達と菓子
11. 街道の和菓子
12. 洋菓子輸入の始まり
13. 風物詩を彩る和菓子 冬
14. 人生の節目と和菓子
15. 郷土の和菓子、総括

《成績評価の基準・方法》

定期試験 50%、小テスト、提出物、発表内容を含む授業参加度50%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

和菓子を深く知ることで、日本の歴史や文化を再発見できることでしょう。日々の暮らしの中で、和菓子に目を留め、美しい和菓子を通して日本人特有の繊細な季節感も学びましょう。事前学習：次回の学習分野の資料を集めたり、調べたりしておく。当番の際は発表内容をまとめる等準備しておく。事後学習：配布プリントを見直し、知識の整理しておく。

スイーツアート応用演習Ⅰ

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 ★柴田 精一

《授業の概要》

製菓の範疇にとどまらない多様な素材や技法を扱う中で手を動かしながら思考することをさらに積み、身近な課題から創作のテーマを発見する。

《学生の到達目標》

手を動かしながら思考して、身近な課題をテーマにした創作活動を体感する。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. ローラーを用いた紋様製作①
3. 平面充填についての知識
4. 平面充填のデザイン
5. 平面充填の版製作①
6. 平面充填の版製作②
7. 平面充填の印刷
8. 問題発見と創造について
9. 自己課題を解決する創作の計画①
10. 自己課題を解決する創作の計画②
11. 自己課題を解決する創作①
12. 自己課題を解決する創作②
13. 自己課題を解決する創作③
14. 講評会
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

作品(60%)、小レポート(20%)、発表内容(20%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

学生自身のことや、身近な出来事から課題を探し、創作によって解決する方法を構想する。また、それらの構想をトローイングしまとめる。

スイーツアート応用演習II

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 ★柴田 精一

《授業の概要》

社会課題から創作のテーマを発見し、課題解決のための創作を試みる。後半はこれまでの集大成として、学生自身が設定したテーマの制作に取り組む。

《学生の到達目標》

学生自身が設定したテーマについて考察を深め制作することを通して、社会の中で創造活動を用いて問題を解決できる可能性を知る。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 社会課題に関わる創造的活動のケーススタディ
3. 社会課題を解決する創作の計画
4. 社会課題を解決する創作①
5. 社会課題を解決する創作②
6. 社会課題を解決する創作③
7. 振り返り(考えを文章化する)
8. 講評会
9. 自由制作の計画(テーマ設定)
10. 自由制作①
11. 自由制作②
12. 自由制作③
13. 振り返り(考えを文章化する)
14. 講評会
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

作品(60%)、小レポート(20%)、発表内容(20%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

社会課題に目を向け、創作によって解決する方法を構想する。また、それらの構想をドローイングしまとめる。

スイーツデザイン

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 橋井 綾乃

《授業の概要》

フェイクスイーツや人気のハンドメイド雑貨作りを通し、見た目が可愛いところも大きな魅力であるスイーツのデザイン、その魅力を学びます。

《学生の到達目標》

フェイクスイーツや雑貨のデザインが出来るようになること。

《授業計画》

1. 板チョコミラーデコレーション
2. クラフトペーパーで作るチョコレートケーキBOX
3. クラフトバンドで作るショートケーキ小物入れ
4. グルーデコ de ドーナツアクセ
5. グルーデコ de カップケーキ
6. 美味しそうに見えるスイーツイラスト
7. フェイクスイーツ(アメリカンドーナツプレート)
8. フェイクスイーツ(トリプルアイスパフェ)
9. フェイクスイーツ(くるくるキャンディー)
10. フェイクスイーツ(カップケーキ)
11. フェイクスイーツ(メイソンジャー)
12. フェイクスイーツ(クワイゼリー)
13. マカロンタワー
14. ミニチュアフェイクスイーツアート
15. まるで本物フェイクスイーツケーキ

《成績評価の基準・方法》

実習成果70%、授業への取り組み30%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習: 店頭、本、インターネットなどで、できるだけ多くの作品を見て、創造力を育む。
事後学習: 他の作品と自分の作品を比較し、デザイン力を向上させる。

洋菓子の理論と実践(中級)

2年次(半期)
3単位(実習)
資格 なし
担当 北村 りり

《授業の概要》

菓子製造の技術、知識を学ぶ。
学生同士が分担して作業を担う事により、各自に責任感を持たせると同時にコミュニケーション力の向上を目指す。
販売実習においては商品となる完成度を目指し、作業工程では時間や分担の構成を考える事で効率の良い仕事の段取りを学ぶ。

《学生の到達目標》

自信を持って作れる菓子またはパートを1つ以上作れるようになる。
自分から仕事を見つけ効率の良い作業ができる。
菓子を完成させる達成感、製品や作業工程の成功体験により製菓分野に対する興味関心を広げる。

《授業計画》

1. ガトー・オ・ショコラ(1人1台、2回)、ジェノワーズ復習
2. 焼き菓子①、デコレーション復習
3. 焼き菓子②
4. チーズケーキ各種
5. ムース①、焼き菓子③
6. 焼き菓子④
7. 焼き菓子⑤
8. 焼き菓子⑥
9. 焼き菓子⑦
10. デコレーション復習
11. 焼き菓子ギフト箱製作
12. 焼き菓子ギフト箱製作
13. ヴェリーヌ、プリン、ブリュレ
14. シフォンケーキ、ガトー・オ・ショコラ復習
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

ノートレポート40%
実技試験(製品、作業工程)60%
ノートレポートは講師とアシスタントの連携で実習内容について正しい理解で記載されているかをチェックする。

《授業で使用する教科書》

・中山弘典、木村万紀子「科学でわかるお菓子の「なぜ?」」柴田書店・塩川由美
藤原知子「新・現場からの製菓フランス語」GB

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前・・・フランス語の材料表記を日本語に訳す。
事後・・・失敗した部分、上手く進まなかった部分、上手くできた事柄をノートにまとめる。

洋菓子の理論と実践(上級)

2年次(半期)
3単位(実習)
資格 なし
担当 北村 りり

《授業の概要》

より高度な菓子製造技術、知識を学ぶ。
年次より学んだ基礎を反復学習することにより、習得した技術、知識をより確実にする。
学生同士が分担して作業を担う事により、各自に責任感を持たせると同時にコミュニケーション力の向上を目指す。
販売実習においては商品となる完成度を目指し、作業工程では時間や分担の構成を考える事で効率の良い仕事の段取りを学ぶ。

《学生の到達目標》

自信を持って作れる菓子を1つ以上作れるようになる。
自分から仕事を見つけ効率の良い作業ができる。
菓子を完成させる達成感、製品や作業工程の成功体験により製菓分野に対する興味関心を広げる。
周りの助言を素直な気持ちで聞く事ができる。

《授業計画》

1. シュー・ア・ラ・クレーム
2. フルーツタルト、シュー生地復習
3. チョコレートムース
4. 生地応用①
5. 生地応用②
6. フィユタージュ、モンブラン
7. 生地応用③、シュー生地復習
8. チーズフレ
9. 生地応用④
10. 生地応用⑤
11. クリスマスケーキ①
12. クリスマスケーキ②
13. チョコレート①
14. チョコレート②
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

ノートレポート40%
実技試験(製品、作業工程)60%
ノートレポートは講師とアシスタントの連携で実習内容について正しい理解で記載されているかをチェックする。

《授業で使用する教科書》

・中山弘典、木村万紀子「科学でわかるお菓子の「なぜ?」」柴田書店・塩川由美
藤原知子「新・現場からの製菓フランス語」GB

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前・・・フランス語の材料表記を日本語に訳す。
事後・・・失敗した部分、上手く進まなかった部分、上手くできた事柄をノートにまとめる。

パンの理論と実践(応用)

2年次(半期)
3単位(実習)
資格 なし
担当 ★亀井 知子

《授業の概要》

パン製造には、捏ねる・発酵・パンチ・成形・ホイロ・焼成など、独自の工程がある。それぞれの工程の役割を、しっかりと理解し、温度を管理することが、美味しいパン作りの秘訣になる。実習で、各工程の役割を体験しながら、習得していく。

《学生の到達目標》

あらゆる種類のパンを習得できる。材料の知識、製造工程の理解、温度管理、製品の質の向上。家庭など、学校の実習室とは違った環境で、学んだパンを再現できる。また、販売実践実習を通して、学生主体で製造から販売までをこなし、達成感を得て職業に対しての心構えを育む。
パンシエルジュ2級のテキストをもとに、資格取得を目指す。

《授業計画》

1. ベーグル(バリエーション)、スコーン(バリエーション)
2. 菓子パン(スイートロール)、販売実践①(仕込み)
3. 販売実践①
4. 菓子パン(冷やしクリームパン、チョココルネ)
5. パン・オ・ノア、パン・オ・レザン
6. 湯だね食パン、胚芽食パン、グリッシーニ
7. フルーツブレッド、カンパニユ
8. コーヒーケーキ、シナモンロール
9. クグロフ、プリオッシュ、販売実践実習②(仕込み)
10. 販売実践実習②
11. カレーパン、焼き込み調理パン(バリエーション)、サマーシュートレール
12. 塩バターロール、フランスパン(明太子フランス、パンシュール)
13. パン・オ・ショコラ、販売実践実習③(仕込み)
14. 販売実践実習③
15. パンプキンマンデル、デニッシュ、総括

《成績評価の基準・方法》

授業の理解度(30%)、実習でのパン製造のできばえ(70%)実技試験で評価する。

《授業で使用する教科書》

・ホームメイドクッキング「パンシエルジュ検定2級公式テキスト」株式会社実業之日本社

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習: 実習課題のパンをイメージし、可能な限り調べておく。

事後学習: 実習内でのレシピを完成させる。家庭などで学んだパンを、再現する。

創作スイーツ実習

2年次(半期)
2単位(実習)
資格 なし
担当 ★亀井 知子

《授業の概要》

今まで学んだ内容の基本、応用、テクニックを駆使し、自由な発想で創造力豊かに考え実践する。個々の能力を最大限に生かし、ものづくりに取り組み完成させる。

《学生の到達目標》

- ・創造的でオリジナリティーのある商品開発
- ・特別な時を彩る、ケーキ制作
- ・細工技法を学ぶ

《授業計画》

1. 焼き菓子①(レシピ考案、試作)
2. 焼き菓子②(商品開発、制作、包装)
3. 焼き菓子③(箱詰め、ラッピング)
4. ショートケーキ①(レシピ考案、試作)
5. ショートケーキ②(商品開発、制作、包装)
6. マジパン細工①
7. マジパン細工②
8. マジパン細工③
9. パースティケーキ①(レシピ考案、試作)
10. パースティケーキ②(商品開発、制作、包装)
11. ウェディングケーキ①
12. ウェディングケーキ②
13. ウェディングケーキ③
14. ウェディングケーキ④
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

創作についてのレポート、作品の完成度(40%)、(60%)で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前: 今まで学んだ授業内容を見直し、より理解を深め創作ケーキに役立てる。個々に研究を深め開発の糧にする。

事後: 実際の評価を参考に、再挑戦する。販売実践実習に繋げ、個々の意欲を伸ばす。

カフェ実習Ⅰ

2年次(半期)
2単位(実習)
資格 加1
担当 ★堀江 茂久, 山口 清香

《授業の概要》

人々の情報交換の場所として、また情報発信の場所として機能する「カフェ」について様々な知識を学ぶ。創造性、表現力を養い、将来的に自分のイメージするカフェづくりを目指す。基本的なカフェフードメニュー、カフェスイーツメニューをしっかりと学ぶ。実習の際、指定した実習着の着用と身だしなみを整えていなければ、授業は受講できない。

《学生の到達目標》

①「カフェ」で提供される料理や菓子、ドリンク等の主に実習をメインとした授業を受講することで、調理の知識や技術を磨き、カフェクリエーター3級の資格取得を目指す。②作品の製作・提供迄の流れを考え、状況に応じた行動が出来る。③飲食におけるオペレーション(キッチン・フロア・バックヤード)が理解出来る。

《授業計画》

1. カフェスイーツメニュー(ムース、ゼリー)
2. カフェフードメニュー(パスタ、サラダ)
3. カフェスイーツメニュー(クッキー、カップケーキ)
4. 店舗サービスについて
5. カフェスイーツメニュー(パン生地を使って)
6. カフェフードメニュー(米料理、スープ)
7. カフェスイーツメニュー(クレープ)
8. カフェフードメニュー(グラタン料理)
9. カフェスイーツのレシピ制作①
10. 制作したレシピ①の試作
11. カフェ・マネージメント(売上とコスト、店舗経営等)
12. カフェフードメニュー(パンのメニューⅠ)
13. フルーツカッティング(色彩について学ぶ)
14. カフェフードのレシピ制作②
15. 制作したレシピ②の試作

《成績評価の基準・方法》

授業への意欲、取り組み(70%) 授業の成果(30%)で評価する。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

・カフェクリエーター事業推進委員会「カフェクリエーター3級テキスト」公益社団法人全国調理職業訓練協会

《事前・事後学習》

事前学習：自分の思い描く「カフェ」をイメージしてください。時間に余裕がある時等、お店めぐりや関連雑誌のチェック等が出来ると思います。
事後学習：将来的にどのような仕事をを目指すかを決め、その目標に向けて意欲的に取り組んでください。

カフェ実習Ⅱ

2年次(半期)
2単位(実習)
資格 加1
担当 ★堀江 茂久, 山口 清香

《授業の概要》

人々の情報交換の場所として、また情報発信の場所として機能する「カフェ」について学ぶ。この授業では、調理や製菓の実習だけでなく、店舗経営に必要な知識、SNSやInstagramへ投稿する為の写真の撮り方、カクテル等のお酒の知識、「カフェ」について様々な角度から学習する。制作するスイーツやフードに個々の感性を取り入れ、創造力を高め物作りの楽しさや大変さを体験しながら、本格的な調理製菓実習棟を持つ大阪城南女子短期大学でしか出来ない授業を実践していく。実習の際、指定した実習着の着用と身だしなみを整えていなければ、授業は受講できない。

《学生の到達目標》

①「カフェ」で提供される料理や菓子、ドリンク等の実習や、実際に「カフェ」を運営するにはどんな知識が必要なのかについての講義を受講することで技術や知識を磨く。『カフェ実習Ⅰ』の授業と共に受講し、カフェクリエーター2級の資格取得を目指す。
②『カフェ実習Ⅰ』の経験を生かし、新しいスイーツやフードメニューを考える事が出来る。
③経営者の立場で店舗経営を考えられる。

《授業計画》

1. カフェスイーツメニュー(パウンドケーキ、ロールケーキ)
2. 試作したスイーツの販売
3. カフェスイーツメニュー(パンケーキ)
4. カフェスイーツメニュー(和菓子)
5. カフェスイーツメニュー(アジアンスイーツ)
6. 料理写真の技法
7. カフェフードメニュー(お酒に合うメニュー)
8. カクテルについて
9. カフェフードメニュー(パンのメニューⅡ)
10. カフェスイーツメニュー(クリスマスの皿盛りデザート)
11. コーヒー工場見学
12. カフェフードプレートメニューのレシピ制作(モーニング、ランチ、ディナー)
13. 制作したレシピの試作(モーニングプレート)
14. 制作したレシピの試作(ランチプレート)
15. 制作したレシピの試作(ディナープレート)

《成績評価の基準・方法》

授業への意欲、取り組み(70%) 授業の成果(30%)で評価する。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

・カフェクリエーター事業推進委員会「カフェクリエーター3級テキスト」公益社団法人全国調理職業訓練協会

《事前・事後学習》

事前学習：自分の思い描く「カフェ」をイメージしてください。時間に余裕がある時等、お店めぐりや関連雑誌のチェックが出来ると思います。
事後学習：将来的にどのような仕事をを目指すかを決め、その目標に向けて意欲的に取り組んでください。

カフェドリンク

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 カ1
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

カフェの語源は、フランス語の「コーヒー」を意味する言葉であるが、現在では広い意味で、飲食を提供するお店のことをさす。提供される飲料は、カフェの形態により様々であり、オーソドックスなものからアレンジしたものまで種類も多い。カフェドリンクでは、学外の実習を取り入れ、コーヒー、紅茶、中国茶、日本茶、ハーブティなど、幅広いソフトドリンクに触れる。専門の講師から基礎知識と技術を学び、味覚、視覚、嗅覚などの五感を使った体験を通してドリンクの世界に触れ、知識、技術、感性を高める。

《学生の到達目標》

お茶の種類と基本的な特徴が理解できる。代表的な4種のお茶を味わい、自ら淹れることができる。お茶と料理やお菓子の相性を考えることができる。カフェクリエーターに必要な知識を習得することができる。

《授業計画》

1. ガイダンス
2. コーヒーの基礎知識
3. コーヒー博物館見学
4. コーヒー豆の煎り方
5. エスプレッソマシンの使い方
6. ラテアートの作り方
7. 中国茶の基礎知識
8. 中国茶の種類と淹れ方
9. 紅茶の基礎知識
10. 紅茶の種類と淹れ方
11. 日本茶の基礎知識
12. 日本茶の種類と特徴
13. 日本茶の淹れ方
14. ハーブティーの基礎知識
15. ハーブティーの種類と淹れ方

《成績評価の基準・方法》

実習レポートの期限内の提出および、内容が正確に書かれているか評価する(50%)
実習に参加した上で、正しく理解し積極的に取り組んでいるかという点を評価する(50%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

・(公社)全国調理職業訓練協会「カフェクリエーター3級テキスト」

《事前・事後学習》

事前学習: 実習・体験するソフトドリンクについて調べ、内容を把握しておく。
事後学習: 実習・体験内容をよく思い出し、配布資料などを参考にレポートを作成し、期限内に提出する。

表現力実践演習(読む・書く)

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 小林 孔

《授業の概要》

本来、表現力の根幹は、聞き、そして理解する能力にあると思うが、その力はなかなか表面に現れて見えてこない。つまり、評価の対象になることが少ない。ならば、表面に出す工夫をしてみようか。また、その方法を取得してみようか。本講座の目的は、ここにあり、下記の内容は、読む・書くことに關するやや難しい内容を含むが、さまざまな分野で応用できる工夫と方法を学びとることにしよう。

《学生の到達目標》

表現力を身につけるには、繰り返ししか方法はない。ただ、心構えや気構えがなくては繰り返すことすら難しい。気づいていると思うが、「読む」には読解と朗読のふたつがある。この講座では、このふたつを視野に入れる。本当に理解している内容だからこそ、それを人に伝えることができる。理解していないものは、人には伝わらない。その心構えを学びたい。また、文章を書くときも読み手に伝える心構えがある。以下に用意するメニューの中で、内容ごとに各自の到達度をチェックする。8割以上の出来ばえで合格。未修得の点をその都度指摘する。

《授業計画》

1. 受講上の諸注意、その他
2. 中編小説を読む(読解)①
3. 中編小説を読む(読解)②
4. 声で伝える(朗読)①
5. 声で伝える(朗読)②
6. コミュニケーション能力を考えるI
7. 自分の考えを伝える(文章篇・レポート)①
8. 自分の考えを伝える(文書篇・レポート)②
9. 自分の考えを伝える(文章篇・レポート)③
10. コミュニケーション能力を考えるII
11. 論理的な文章を書く①
12. 論理的な文章を書く②
13. 論理的な文章を書く③
14. 読むこと的心構え
15. 書くこと的心構え(総括)

《成績評価の基準・方法》

各内容ごとに評価点をつける。積み上げの加算方式で100点とする。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

「身につける」観点から、実践内容の反復が必要である。到達度を見ながら、適宜指示する。

エンターテインメントビジネス論及び演習Ⅲ

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 村上 真樹

《授業の概要》

本講義では、「空間」をコンセプトに、エンターテインメントとビジネスの関係についてディスカッションしていく。居心地のよい空間、魅力的な空間とはどのようなものなのか、そのことを主眼に置きながら、これからのビジネスの可能性について考える機会としたい。そのためにエンターテインメント興行や商業スペースの現地見学を交えながら考察を進めていく。

《学生の到達目標》

講義では、以下の能力を獲得する事を目標とする。①空間デザインの重要性を知り、それについて自分の考えを持つことが出来る。②空間デザインについて、エンターテインメントとビジネスの両面から考えることが出来る。

《授業計画》

1. 授業のガイダンス(エンターテインメントビジネスとは)
2. 空間の持つエンターテインメント性
3. 商業スペースと空間演出
4. 現地見学と考察①
5. 現地見学と考察②
6. 現地見学と考察③
7. 空間デザインについてのグループディスカッションと発表
8. 現地見学と考察④
9. 現地見学と考察⑤
10. 現地見学と考察⑥
11. 空間デザインについてのグループディスカッションと発表
12. 現地見学と考察⑦
13. 現地見学と考察⑧
14. 現地見学と考察⑨
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

グループディスカッションにおける「発言力」「傾聴力」50%とする。
レポート課題を50%とする。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：現地見学に積極的に参加するために、それぞれの情報について調査しておく。事後学習：課された課題について、個人、グループで積極的に取り組む。

エンターテインメントビジネス論及び演習Ⅳ

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 村上 真樹

《授業の概要》

本講義では、「物語」をコンセプトに、エンターテインメントとビジネスの関係についてディスカッションしていく。「物語」はエンターテインメント興行・観光・商品・サービス・街の魅力など、様々なビジネスにとって重要な要素である。人を引きつける物語とはどのようなものなのか、そのことを主眼に現地見学を交えて考察を進めていく。

《学生の到達目標》

講義では、以下の能力を獲得する事を目標とする。①商品や街が持つ物語を知り、その魅力を感じ取ることが出来る。②物語がビジネスに与える影響を知り、それについて自分の考えを持つことが出来る。

《授業計画》

1. 授業のガイダンス(エンターテインメントビジネスとは)
2. 物語体験としての消費
3. 「歴史」という物語
4. 現地見学と考察①
5. 現地見学と考察②
6. 現地見学と考察③
7. 「物語とビジネス」についてのグループディスカッションと発表
8. 現地見学と考察④
9. 現地見学と考察⑤
10. 現地見学と考察⑥
11. 「物語とビジネス」についてのグループディスカッションと発表
12. 現地見学と考察⑦
13. 現地見学と考察⑧
14. 現地見学と考察⑨
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

グループディスカッションにおける「発言力」「傾聴力」50%とする。
レポート課題を50%とする。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：現地見学に積極的に参加するために、それぞれの情報について調査しておく。事後学習：課された課題について、個人、グループで積極的に取り組む。

ヨーガⅢ(指導者育成)

2年時(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 坂本 淑子

《授業の概要》

ヨーガ行者が数千年の過酷な生活環境の中で培い、伝えてきた伝統的ヨーガの種々の智慧と技法をさらに深く学ぶ。人間のレジリエンス(しなやかさ・強さ)を高め、PTG(心的外傷後成長)を促すインド5千年の智慧を自らに活かす。ストレス社会にあってもストレス・ダブに、強くしなやかに生きる術を身に付ける。

《学生の到達目標》

ヨーガⅡで学んだストレス、ストレス反応について更に深く理解する。アーサナ、呼吸法、瞑想によって内側に意識を向けることから自己客観視力を身に付け、ストレス対応能力を強化していく。他者との親和性・協調性・問題解決能力・積極的思考・感情統制・自己肯定感などの”生きる力”の向上を目指す。

《授業計画》

1. ヨーガ療法の科学的根拠
2. ヨーガ療法実習と活性酸素
3. 宮本武蔵「五輪書：水の巻」より ～判断力の涵養
4. ヨーガにおける人間の構造論と機能論①
5. ヨーガにおける人間の構造論と機能論②
6. 意識化の拡大①
7. 意識化の拡大②
8. 無心なる意識の階層
9. 真の自分を知る客観視の重要性と自己像変革の重要性①
10. 真の自分を知る客観視の重要性と自己像変革の重要性②
11. 上手な理智の手綱さばき①
12. 上手な理智の手綱さばき②
13. 上手な理智の手綱さばき③
14. インド5000年の智慧 ～バクティ・ヨーガ①
15. インド5000年の智慧 ～バクティ・ヨーガ②

《成績評価の基準・方法》

授業への取り組み姿勢・授業後の質問及び感想文…40%
授業の内容に添った設問、自己を内観、分析するレポート提出…40%
実技への取り組み姿勢…20%

《授業で使用する教科書》

・木村慧心「実践 ヨーガ療法」ガイアブックス

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：事前に配布した資料と教科書に目を通しておく。
授業終了時に毎回の気づき、感想文を提出する。
事後学習：習った実技(アーサナ・呼吸法など)を毎日家庭で実習し、自らの健康を作る。その変化をも都度レポートに書く。

ヨーガⅣ(指導者育成)

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 坂本 淑子

《授業の概要》

身体機能の回復を図るだけでなく、心の落ち着きや睡眠などの精神的な健康を向上させる効果のあるヨーガは、ストレス・マネジメントとして、医療施設、高齢者施設、リハビリ現場で多く取り入れられている。実際の現場で使われている心身の不調和からの健康回復や病気予防の方法を学ぶ。

《学生の到達目標》

ヨーガⅡ・Ⅲで学んだストレス、ストレス反応について更に深く理解し、自己の認知の変容を促す。アーサナや呼吸法、瞑想によって客観的に自分を捉える力、ストレス場面でも落ち着いて対処する力、集中力を磨く。またグループワークによって言語化する力、他者と関わる力、アセスメントし指導する能力を身につけていく。

《授業計画》

1. ヨーガⅡ・Ⅲの復習
2. 身体を整える技法 ～アーサナ①
3. 身体を整える技法 ～アーサナ②
4. 呼吸を整える ～ブラーナーヤーマ①
5. 呼吸を整える ～ブラーナーヤーマ②
6. 人間の成長 ～ホモサピエンスの進化・自由化
7. 人間の成長 ～人の進化・成長
8. 自律神経機能を随意に動かす
9. 心を整える
10. この世は心の合わせ鏡① ～ギヤーナ・ヨーガから学ぶ
11. この世は心の合わせ鏡② ～ヨーガ・ストトラから学ぶ
12. この世は心の合わせ鏡③ ～ヨーガ・ストトラから学ぶ
13. インド5000年の智慧と社会貢献の可能性① ～仕事
14. インド5000年の智慧と社会貢献の可能性② ～老後
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

授業への取り組み姿勢・授業後の質問及び感想文…40%
授業の内容に添った設問、自己を内観、分析するレポート提出…30%
実技への取り組み姿勢…30%

《授業で使用する教科書》

・木村慧心「実践 ヨーガ療法」ガイアブックス

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：事前に配布した資料と教科書に目を通しておく。
授業終了時に毎回の気づき、感想文を提出する。
事後学習：習った実技(アーサナ・呼吸法など)を毎日家庭で実習し、自らの健康を作る。他者に実技指導する練習をする。

障害とテクノロジー

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 引地 晶久

《授業の概要》

現在、様々なテクノロジーが私達の生活を豊かにしている。重度障害児者にとっても同様に、テクノロジーを活用することでコミュニケーション、生活、学習、遊びなどの幅を広げている。さらに重度障害者も働くという社会参加も可能となっている。それらを可能とする支援機器の基礎知識や種類を学び、様々な機器を体験する。そして、重度障害児者の事例を通じて、実際の支援機器の活用を学ぶ。

将来、障害を持つ方と関わる際に、障害があるから「できない」ではなく、その人の力を最大限に引き出せる、その人の「できる」可能性を見つかることができる支援者となってほしい。

《学生の到達目標》

- ①支援機器の概要や制度などの基礎知識を知る。
- ②支援機器の種類や操作方法を知る。
- ③実際の支援機器の活用場面を知り、テクノロジー活用の理解を深める。

《授業計画》

1. 「障害とテクノロジー」について考える
2. 支援機器とは
3. 支援機器の種類①～各種支援機器の紹介～
4. 支援機器の種類②～視線入力装置～
5. 支援機器の種類③～タブレット端末～
6. 支援機器の種類④～支援機器を操作するための入力機器～
7. 支援機器操作実習①～各種機器体験～
8. 支援機器操作実習②～視線入力装置～
9. 支援機器操作実習③～タブレット端末～
10. 支援機器操作実習④～各種入力機器～
11. 支援機器活用のポイント
12. テクノロジー活用事例①～重症心身障害児者への活用～
13. テクノロジー活用事例②～テクノロジーを活用して生活する～
14. テクノロジー活用事例③～テクノロジーを活用して働く～
15. 「障害とテクノロジー」について改めて考える

《成績評価の基準・方法》

グループワークや実習への参加40%、レポート60%で評価する。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

障害児者の生活や学習、遊び、働くことについて、自身がどう思うかを考えてほしい。そして、授業で様々なテクノロジーの体験や事例に触れた後、その考えや価値観がどう変わったか、気づきがあったか、何を感じたか、そんな自身が感じた思いを授業後に振り返ってほしい。

エビデンス技術(生活支援技術Ⅱ)

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 介実
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

高齢者が介護を必要とする際に、それを介助するための技術の応用を身につける科目です。高齢者の衣食住を視点に、多様な高齢者の暮らしを考え、実技・行動できる力を磨きます。その人らしい生活を継続できる基本的な方法を身につけ、自立支援し、その人の持っている最大限の力を発揮できるように生活上での介護技術の原理・原則を理解し、判断できる知識と技術を修得する。

《学生の到達目標》

・「環境整備」「移動・移乗」「食事」「入浴・清潔保持」「排泄」「着脱・整容・口腔清潔」「休息・睡眠」「人生の最終段階における介護」「福祉用具の活用」について、利用者の心身の状態に合わせた、自立に向けた生活支援技術を理解し、行うことができる。

《授業計画》

1. 高齢期の住まいと環境整備
2. 福祉用具の選定
3. 移動・移乗の生活支援技術①体位変換の介助
4. 移動・移乗の生活支援技術②移乗介助・安楽な体位と褥瘡予防
5. 移動・移乗の生活支援技術③歩行の介助・移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法
6. 食事の生活支援技術①食事の環境整備、食事介助の視点
7. 食事の生活支援技術②食事に関する福祉用具とその活用方法
8. 食事の生活支援技術③誤嚥・窒息の予防、脱水の予防
9. 入浴・清潔保持の生活支援技術①
10. 入浴・清潔保持の生活支援技術②
11. 排泄の生活支援技術①排泄介助の視点
12. 排泄の生活支援技術②排泄に関する福祉用具とその活用方法
13. 排泄の生活支援技術③浣腸、座薬の挿入の介助・ストーマ、パウチ
14. 着脱、整容、口腔清潔の生活支援技術①
15. 着脱、整容、口腔清潔の生活支援技術②
16. 休息・睡眠の生活支援技術①
17. 休息・睡眠の生活支援技術②
18. 人生の最終段階における介護の生活支援技術①
19. 人生の最終段階における介護の生活支援技術②

《成績評価の基準・方法》

課題レポート50%、試験50%にて評価します。

《授業で使用する教科書》

・大田貞司 上原千寿子 白井孝子「介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻 介護Ⅰ」中央法規

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

アクションライフ(生活支援技術Ⅰ)の応用科目です。介護技術の基本(移動、移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔、清潔、家事援助等)の知識と技術を修得するため、事前に教科書についているDVDにて、事前学習することによって。事後は、演習を振り返り、課題レポートにて復習しておくことによります。

認知症の理解 2 (認知症の理解 II)

2 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 介実
担当 ★瀬 志保

《授業の概要》

2025年には認知症の人が約700万人となると見込まれている。認知症の人の生活及び家族や社会との関わり方の必要性を理解し、地域で認知症のある人を支えていくことが求められている。この科目では基本的な認知症に関する知識、特に医学的側面からみた認知症についての理解と地域生活を継続するために必要となるサポート方法を学ぶ。

《学生の到達目標》

- ・代表的な認知症（若年性認知症を含む）の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。
- ・認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、本人主体の理念に基づいた支援ができる。
- ・地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。

《授業計画》

1. 医学的側面からみた認知症の理解①脳の機能、もの忘れとの違い
2. 医学的側面からみた認知症の理解②認知症に類似した状態
3. 医学的側面からみた認知症の理解③認知症の診断、重症度の評価
4. 認知症の原因疾患とその病態①アルツハイマー型認知症、血管性認知症など
5. 認知症の原因疾患とその病態②レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症など
6. 認知症の治療と予防（薬物治療・非薬物治療）
7. 認知症の人への支援の実際①中核症状へのかかわり方の実際
8. 認知症の人への支援の実際②BPSD（行動・心理症状）へのかかわり方の実際
9. 認知症の人の体験演習（DVD等映像から認知症の疑似体験を通して考える）
10. 認知症の人へのさまざまなアプローチ（ユマニチュード、バリテーションなど）
11. 家族への支援（家族が背負う四つの苦しみ、家族へのレスパイトケア）
12. 家族へのエンパワメントの基本、家族会と介護者教室
13. 認知症に関する施策の動向①（認知症施策推進総合戦略について）
14. 認知症の人の地域生活支援①（認知症サポーター等の社会資源）
15. 認知症の人の地域生活支援②公的サービスと地域資源の共同

《成績評価の基準・方法》

認知症ケアに関する内容からの課題レポート、授業内容確認小テスト40%、定期試験60%で評価する。

《授業で使用する教科書》

・太田 貞司、上原千寿子、白井孝子「介護福祉士実務者研修テキスト第4巻こころからだのしくみ」中央法規出版

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

少子高齢化社会の日本で今後、増え続けるであろう認知症の人を地域で支えていくために、認知症について多くの人が理解し、その生活を支えていけるよう、家族、地域のサポート体制について学んでいきます。認知症の理解1で学んだ、様々な症状や原因となる疾患を理解しておくこと、この科目の学びもより深まります。事前準備として、中核症状や周辺症状、原因疾患を再確認しておきましょう。また、事後学習ではその日に学んだ内容を教科書等で確認をし、知識を定着させていきましょう。

社会保障論(社会の理解 II)

2 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 介実
担当 山本 永人, ★前田 崇博

《授業の概要》

社会保障制度はわが国の人々が安心して生活を営むためのきわめて重要なセーフティネットの役割を果たしています。その制度の骨格やサービスの内容を概説します。税金や社会保険の財源を使いながらどのようにその制度を組み立てているのか基本的な部分を中心に学びます。

《学生の到達目標》

介護を実践するなかで、その背景となる社会保障制度の役割を理解し説明できるようになる。利用者の生活支援に活かせる知識を身につける。

《授業計画》

1. 社会福祉の定義とその専門性について
2. 社会保障制度の基本的な枠組み
3. 現代社会の変化と社会保障
4. わが国の社会福祉制度の歴史（福祉6法を中心に）
5. 社会保険制度① 医療保険(1)
6. 社会保険制度① 医療保険(2)
7. 社会保険制度② 年金保険
8. 社会保険制度③ 労働保険
9. 介護保険制度の成立の背景
10. 社会保険制度④ 介護保険制度(1)
11. 社会保険制度④ 介護保険制度(2)
12. 公的扶助制度① 生活保護制度
13. 公的扶助制度② 生活保護制度・社会手当
14. 障害者の範囲とその捉え方
15. 障害者の福祉制度
16. 障害者総合支援法に基づく障害者サービス
17. 児童家庭福祉①
18. 児童家庭福祉②
19. 社会保障制度の今後の課題 振り返りのディスカッション

《成績評価の基準・方法》

試験80% レポート20%

《授業で使用する教科書》

・太田 貞司 他 編「介護福祉士実務者研修テキスト1 人間と社会」中央法規他、適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：シラバスの各単元の教科書を授業前に熟読しておきましょう。（30分）事後学習：配布されたプリントと教科書を今一度振り返り、それぞれの制度やサービスの内容を確認しましょう。（60分）

医学一般2(こころとからだのしくみII)

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 介実
担当 ★静 和美

《授業の概要》

介護実践に必要な根拠となる心身の構造や機能についての基本的知識をもとに、心身の機能低下が及ぼすADLへの影響について理解することを目的とする。自立支援の実践に当たり対象者を知る必要がある。そのために、介護者としての観察力や判断力を養い、身体的・心理的・社会的側面を総合的にとらえるための知識を身につける。

《学生の到達目標》

心身の機能低下が及ぼすADLへの影響について理解する
観察力や判断力を基に、対象者を身体的・心理的・社会的側面から総合的にとらえられるようになる

《授業計画》

1. 食事に関連するこころとからだのしくみについて学ぶ
2. 心身の機能低下が食事に及ぼす日常生活への影響を学ぶ
3. 食事に関連する観察の留意点について学ぶ
4. 食事に関連する支援の留意点について学ぶ
5. 食事に関連する多職種との連携の必要性について学ぶ(小テスト)
6. 整容・口腔清拭に関連するこころとからだのしくみについて学ぶ
7. 心身の機能低下が整容・口腔清拭に及ぼす日常生活への影響を学ぶ
8. 整容・口腔清拭に関連する観察の留意点について学ぶ
9. 整容・口腔清拭に関連する支援の留意点について学ぶ
10. 整容・口腔清拭に関連する多職種との連携の必要性について学ぶ(小テスト)
11. 着脱に関連するこころとからだのしくみについて学ぶ
12. 心身の機能低下が着脱に及ぼす日常生活への影響を学ぶ
13. 着脱に関連する観察の留意点について学ぶ
14. 着脱に関連する支援の留意点について学ぶ
15. 着脱に関連する多職種との連携の必要性について学ぶ(小テスト)

《成績評価の基準・方法》

授業内の小テスト70% 授業への参加30%(話し合い参加の積極性、グループ貢献する作業能力、うなずき等のコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など)

《授業で使用する教科書》

・太田貞司・上原千寿子・白井孝子編集「介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻「こころとからだのしくみ」第2版」中央法規

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習では、当該範囲のテキストを確認しておきましょう。その中でわかりにくい用語があれば調べておきましょう。事後学習では、小テストの見直し等を行い理解しにくい点は、質問をして理解につなげましょう。

医学一般3(こころとからだのしくみII)

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 介実
担当 岡田 享子

《授業の概要》

支援や介護が必要な人の生活の身体的側面、精神的側面、社会的側面を総合的に捉え、生活を支えるための介護実践の根拠となる知識を学ぶことを目的とする。機能低下や障がいが日常生活動作に及ぼす影響を知り支援が必要となる要因や観察のポイントを理解し、支援や介護が必要な人の日常生活の支援の方法を学ぶ。

《学生の到達目標》

支援や介護が必要な人の生活の身体的側面、精神的側面、社会的側面を総合的に捉えるための基本的な知識を理解する
機能低下や障がいが生じ生活に及ぼす影響を知り支援のポイントを理解できる
多職種との連携の必要性が理解できる

《授業計画》

1. 排泄に関連するこころとからだのしくみを学ぶ
2. 心身の機能低下が排泄に及ぼす日常生活への影響を学ぶ
3. 排泄に関連する観察の留意点を学ぶ
4. 排泄に関連する支援の留意点を学ぶ
5. 排泄に関連する多職種との連携の必要性について学ぶ・小テスト
6. 入浴・清潔に関連するこころとからだのしくみを学ぶ
7. 心身の機能低下が入浴・清潔に及ぼす影響を学ぶ
8. 入浴・清潔に関連する観察の留意点を学ぶ
9. 入浴・清潔に関連する支援の留意点を学ぶ
10. 入浴・清潔に関連する多職種との連携の必要性について学ぶ・小テスト
11. 休息・睡眠に関連するこころとからだのしくみを学ぶ
12. 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす日常生活への影響を学ぶ
13. 休息・睡眠に関連する観察の留意点を学ぶ
14. 休息・睡眠に関連する支援の留意点を学ぶ
15. 休息・睡眠に関連する多職種との連携の必要性について学ぶ・小テスト

《成績評価の基準・方法》

授業への参加30%(話し合い参加の積極性、グループ貢献する作業能力、うなずき等のコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など) 授業内の小テスト70%

《授業で使用する教科書》

・太田貞司・上原千寿子・白井孝子編集「介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻「こころとからだのしくみ」第2版」中央法規

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習についてはテキストの該当部分を読んでおきましょう。
事後学習では理解できなかった事をそのままにせず、自分で調べたり授業時に質問するなどして知識を増やす努力をしましょう。

医学一般4(こころとからだのしくみII)

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 介実
担当 岡田 享子

《授業の概要》

これまでに学習してきた、介護実践の根拠となる知識や技術をもとに介護や支援が必要な人の実際の生活場面での活用を考えられるようになることを目的とする。
また、人生の最終段階となる終末期の人のこころとからだの変化を知り、身体的側面、精神的側面、社会的側面を通して、その人らしい最期のための支援の方法を学ぶ。

《学生の到達目標》

介護や支援が必要な人の生活場面での身体的な関わり方を考える事ができる。
人生の最終段階となる終末期のこころとからだのしくみを理解できる。
終末期におけるその人らしい最期をおくるための支援の方法や家族への対応、医療職との連携等を理解できる。

《授業計画》

1. 医学一般1~3の振り返り①
2. 医学一般1~3の振り返り②
3. 移動・移乗についての事例検討
4. 食事についての事例検討
5. 整容・口腔清拭についての事例検討
6. 着脱についての事例検討
7. 排泄についての事例検討
8. 入浴・清潔についての事例検討
9. 休息・睡眠についての事例検討・小テスト
10. 終末期の理解
11. 終末期のこころの理解
12. 終末期のからだの理解
13. 死後の対応
14. 終末期における医療職との連携のポイント
15. 家族への対応・小テスト

《成績評価の基準・方法》

授業への参加30%(話し合い参加の積極性、グループ貢献する作業能力、うなずき等のコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など) 授業内の小テスト40%
提出物30%

《授業で使用する教科書》

・太田貞司・上原千寿子・白井孝子編集「介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻「こころとからだのしくみ」第2版」中央法規

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習としては該当するテキスト、これまでの学習で配布された参考教材等も読んでおきましょう。

事後学習では、介護実践の活用でわからなかったこと、疑問など自分で調べたり、授業時に質問をして理解するように努力しましょう。

長寿生活論2(発達と老化の理解II)

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 介実
担当 岡田 享子

《授業の概要》

人間の成長・発達の課程を知り各発達段階における身体的、心理的、社会的な変化とその特徴を理解し各発達段階に対応した支援を行うための知識を学ぶ。
また、老年期に多い疾病や症状が生活にあたる影響を理解し、高齢者の生活を支えるための留意すべき点を考える事ができるようになることを目的とする。

《学生の到達目標》

人間の成長・発達と各発達段階の特徴・発達課題が理解できる。
老年期の特徴、老化による身体的、心理的、社会的な変化、それらが生活にあたる影響を理解できる。
高齢者に多い疾病や症状の特徴を知り、留意すべき点やかかりかたを考察することができる。

《授業計画》

1. 人間の成長と発達
2. 発達段階と発達課題
3. ライフサイクル各期の発達と特徴
4. 老年期の定義・老年期の発達と成熟
5. 老年期の心理的課題・小テスト
6. 老年期の心理・要介護状態と不適応
7. 高齢者に多い症状・疾病と留意点 痛み・熱等
8. 高齢者に多い症状・疾病と留意点 息苦しさ・咳・痰等
9. 高齢者に多い症状・疾病と留意点 便秘下痢・脱水・食欲不振・体重減少・小テスト
10. 高齢者に多い症状・疾病と留意点 運動器系・小テスト
11. 高齢者に多い症状・疾病と留意点 呼吸器系
12. 高齢者に多い症状・疾病と留意点 消化器系
13. 高齢者に多い症状・疾病と留意点 循環器系
14. 高齢者に多い症状・疾病と留意点 脳神経系・小テスト
15. 介護を要する高齢者によくみられる病気・病態・医療職との連携その他

《成績評価の基準・方法》

授業への参加30%(話し合い参加の積極性、グループ貢献する作業能力、うなずき等のコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など) 授業内の小テスト70%

《授業で使用する教科書》

・太田貞司・上原千寿子・白井孝子編集「介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻「こころとからだのしくみ」第2版」中央法規

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習では、成長と発達は自分自身にも関係のあることです。人は成長の課程のなかでどのように発達していくのかを自分自身に照らし合わせて興味を持って当該範囲のテキストを確認するようにしましょう。
事後学習では、小テストの見直しを行い、わからないことは自分で調べたり、質問などをして理解できるようにしましょう、また周囲の高齢者を観察してみましょう。

生活ライフヒストリー 2 (介護過程 II)

2 年次(半期)
1 単位 (演習)
資格 介実
担当 ★多田 鈴子

《授業の概要》

介護過程の基礎的知識を学ぶ。本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づき介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。その中で、チームアプローチの重要性も理解する。介護過程の骨格となるアセスメントやニーズの焦点化、計画の作成、評価という一連のプロセスの基本的な解説を通して、介護過程は介護を科学的に実践するための思考過程であることを理解することを目的とする。

《学生の到達目標》

介護過程の目的、意義、展開等が理解できる。・介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を考えることができる。・チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種との役割を理解することができる。事例を通じて、情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行なうことができる。

《授業計画》

1. 介護過程の意義と目的
2. 介護過程の進め方
3. 介護過程の展開 事例① 対象者の紹介
4. 介護過程の展開 事例① アセスメント
5. 介護過程の展開 事例① 計画立案
6. 介護過程の展開 事例① 実施
7. 介護過程の展開 事例① 評価
8. 介護過程とチームアプローチ①
9. 介護過程とチームアプローチ②
10. 介護計画の具体的な支援内容と支援方法
11. 介護過程とケアマネジメントの関係性
12. これからの人生を考える① 事例② 個人ワーク
13. これからの人生を考える② 事例② グループワーク
14. 介護過程とケアマネジメントの関係性、チームアプローチにおける介護福祉士の役割
15. 振り返りのディスカッション、まとめ

《成績評価の基準・方法》

レポート・用語確認小テスト50% 定期テストで評価します。

《授業で使用する教科書》

・太田貞司 上原千寿子 白井孝子「介護福祉士実務者研修テキスト 第3巻 介護Ⅱ―介護過程―」中央法規

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

生活には人それぞれの多様な人生があることを理解し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる介護過程の一連の流れをテキストにて事前に学習し、授業にて学びを深めてください。事後は、レポートにて学びの確認をし、人生設計論(介護過程Ⅲ)へと進めて学習しましょう。

人生設計論(介護過程Ⅲ)

2 年次(半期)
1 単位 (演習)
資格 介実
担当 ★長橋 幸恵

《授業の概要》

介護過程の応用的知識を学ぶ。本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づき介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。その中で、チームアプローチの重要性も理解する。介護過程の骨格となるアセスメントやニーズの焦点化、計画の作成、評価という一連のプロセスの基本的な解説を通して、介護過程は介護を科学的に実践するための思考過程であることを理解することを目的とする。

《学生の到達目標》

・実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。
・知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護(アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等)を提供する。
・介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。
・知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。

《授業計画》

1. 事例検討① 利用者のプロフィール 生活歴 現在の状況/ 情報収集 アセスメント
2. 事例検討① 計画・立案 個人ワーク1 / 計画・立案 グループワーク1
3. 事例検討① 計画・立案 グループワーク2 / 発表 振り返り
4. 福祉用具の実際 課外学習1 / 福祉用具の実際 課外学習2
5. 事例検討② 利用者のプロフィール 生活歴 現在の状況/ 情報収集 アセスメント
6. 事例検討② 計画・立案 個人ワーク / 計画・立案 グループワーク1
7. 事例検討② 計画・立案 グループワーク2 / 発表 振り返り
8. 施設職員からの利用者紹介① / 施設職員からの利用者紹介②
9. 事例検討③ 利用者のプロフィール 生活歴 現在の状況/ 情報収集 アセスメント
10. 事例検討③ 計画・立案 個人ワーク / 計画・立案 グループワーク1
11. 事例検討③ 計画・立案 グループワーク2 / 発表 振り返り
12. 施設職員からの利用者紹介③ / 施設職員からの利用者紹介④
13. 施設職員からの利用者 アセスメント / 計画・立案
14. 高齢者の幸せな暮らしについて考える / 幸せな暮らし グループワーク1
15. 幸せな暮らし グループワーク2 / 発表 振り返り 評価

《成績評価の基準・方法》

個人ワーク (40%)、グループワークへの貢献度・取り組み姿勢 (40%)、レポート (20%) で評価する。

《授業で使用する教科書》

・太田貞司 上原千寿子 白井孝子「介護福祉士実務者研修テキスト 第3巻 介護Ⅱ―介護過程―」中央法規

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

今年度は前期・後期で半期科目を連続、通年で運用します。事前学習では、自分自身と高齢者の生活ではどのような違いがあるのか日頃から、人の生活スタイルに関心を持ち、観察してみましょう。事後では、授業内容から、高齢者の方の望み・希望から幸せな暮らしとは何か、考える力を身につけましょう。

障害の理解(障害の理解 II)

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 介実
担当 山本 永人

《授業の概要》

障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解することを目的とする。また、障害のある人のライフステージや障がいの特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援につながる内容とする。

《学生の到達目標》

障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得し、介護の観点から根拠のある支援を考える力を養う。利用者理解に基づき、自立に向けた支援を行えること、たとえ障がいがあるとしても、その人のQOLを高める支援を考えることができる力を養う。

《授業計画》

1. 障害者の範囲とその実態(障害の捉え方とともに)
2. 障害者福祉の理念(ノーマライゼーション・リハビリテーション他)
3. 障害者福祉の歴史
4. 視覚障害者・聴覚障害者の理解
5. 肢体不自由者の障害の理解①(脳性麻痺・筋ジストロフィー)
6. 肢体不自由者の障害の理解②(脳血管疾患・脊髄損傷)
7. 重症心身障害の障害の理解(療育の発達とともに)
8. 知的障害の障害の理解①(精神発達遅滞)
9. 知的障害の障害の理解②(自閉症スペクトラム障害)
10. 発達障害者の障害の理解(高機能自閉症・ADHD・LD)
11. 精神障害者の障害の理解(統合失調症・気分障害・てんかん)
12. 高次脳機能障害の障害の理解
13. 内部障害の障害の理解
14. 難病等の障害の理解(ALS・パーキンソン・関節リウマチ)
15. 振り返りのディスカッション

《成績評価の基準・方法》

テスト 80% レポート(提出物) 20%

《授業で使用する教科書》

・太田 貞司 他 編「介護福祉士実務者研修テキスト4 こころからだのしくみ」中央法規

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、障がいのある人の心理や身体機能に関する基礎知識などの、さまざまな情報に興味を持ち調べてみましょう。振り返りをして、より深い学びを心がけましょう。そして、その知識を根拠に、自身の介護・支援のあり方を考えてみましょう。

医療的ケア1(吸引)(医療的ケア)

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 介実
担当 ★静 和美

《授業の概要》

医療的ケア(喀痰吸引や経管栄養など)が必要な人たちの安全で安楽な暮らしを支えるという観点から、医療職と連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できる知識・技術を獲得する。医療的ケアを受ける利用者や家族の気持ちを受けとめる姿勢を養い、医療的ケアを安全に実施するための感染予防・法制度についての基礎的な知識を理解することを目的とする。特に喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう基礎的な知識と実施手順方法を理解する内容とする。各単元に小テストを行い医療的ケア演習時に適切な実施ができるようにする。

《学生の到達目標》

医療的ケア実施に必要な基礎的な知識が理解できる。

医療的ケアを受ける利用者や家族の気持ちが理解できる。
医療的ケアで関わりのある多職種との連携の必要性が理解できる。

喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう基礎的な知識が理解できる。

《授業計画》

1. 医療的ケアとは何かを学ぶ
2. 医療的ケアに関する諸制度を学ぶ
3. 保険医療制度とチーム医療について学ぶ
4. 多職種との連携の必要性を学ぶ(小テスト)
5. 安全な療養生活① 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施について学ぶ
6. 安全な療養生活② 医療的ケアを受ける利用者や家族の気持ちの理解について学ぶ
7. 安全な療養生活③ リスクマネジメントの考え方を学ぶ
8. 安全な療養生活④ 救急蘇生法について学ぶ(小テスト)
9. 清潔保持と感染予防① 感染予防について学ぶ
10. 清潔保持と感染予防② 滅菌と消毒について学ぶ(小テスト)
11. 健康状態の把握① 身体・精神の健康状態把握のための観察について学ぶ
12. 健康状態の把握② バイタルサインについて学ぶ(小テスト)
13. 健康状態の把握③ 急変状態時の対応と記録について学ぶ
14. 呼吸のしくみについて学ぶ(小テスト)
15. 平常時とは異なる呼吸状態への気づきと、観察の留意点について学ぶ(グループワーク)
16. 喀痰吸引について学ぶ(小テスト)
17. 人工呼吸のしくみ・感染症(吸引物の性状)について学ぶ

《成績評価の基準・方法》

授業内の小テスト(6回)70% 授業への参加30%(話し合い参加の積極性、グループ貢献する作業能力、うなずき等のコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など)

《授業で使用する教科書》

・新田 剛夫・川村 佐和子・上野 桂子・白井 孝子・原口 道子「介護福祉士実務者研修テキスト 第5巻 医療的ケア 第3版」中央法規

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習として該当するテキスト等を読んでおきましょう。事後学習として授業内容を振り返り質問などがあれば、次の授業時に質問するようにしましょう。後期に始まる演習に必要な基礎知識となり、実践につながるようまよまよとまとめておきましょう。

医療的ケア2(経管栄養)(医療的ケア)

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 介実
担当 ★静 和美

《授業の概要》

医療的ケア(喀痰吸引や経管栄養など)が必要な人たちの安全で安楽な暮らしを支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう知識・技術を習得する。医療的ケアを受ける利用者や家族の気持ちを受けとめる姿勢を養い、医療的ケアを安全に実施するための感染予防・法制度についての基礎的知識を理解することを目的とする。特に経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう基礎的な知識と実施手順方法を理解する内容とする。各単元に小テストを行い医療的ケア演習時に適切な実施ができるようにする。

《学生の到達目標》

医療的ケア実施に必要な基礎的知識が理解できる。
経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう基礎的な知識が理解できる。

《授業計画》

1. 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引⑥ 安全管理について学ぶ
2. 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引⑦ 子どもの吸引について学ぶ
3. 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引⑧ ヒヤリハット・アクシデントについて学ぶ
4. 手順の解説 実施に必要な器具・器材について学ぶ
5. 喀痰吸引実施の手順と留意点について学ぶ
6. 消化器系のしくみと働きについて学ぶ (小テスト)
7. 消化器系のよく見られる症状について学ぶ
8. 平常時とは異なる消化器症状への気づきと、観察の留意点について学ぶ(グループワーク)
9. 経管栄養(経鼻経管栄養)について学ぶ
10. 経管栄養(胃ろう・腸ろう経管栄養)について学ぶ(小テスト)
11. 経管栄養法を行う上で起こりうる危険を予測し、未然に防ぐ方法を学ぶ
12. 経管栄養の実施上の留意点を学ぶ(小テスト)
13. 子どもの経管栄養について学ぶ
14. 感染の予防について学ぶ(小テスト)
15. 急変・事故対応について学ぶ(小テスト)
16. 手順の解説 実施に必要な器具・器材について学ぶ
17. 経管栄養実施の手順と留意点について学ぶ

《成績評価の基準・方法》

授業内の小テスト(5回)70% 授業への参加30%(話し合い参加の積極性、グループ貢献する作業能力、うなずき等のコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など)

《授業で使用する教科書》

・新田國夫・川村佐和子・上野桂子・白井孝子・原口道子「介護福祉士実務者研修テキスト第5巻 「医療的ケア」 第3版」中央法規

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習として該当するテキスト等を読んでおきましょう。事後学習として授業内容を振り返り質問などがあれば、次の授業時に質問するようにしましょう。後期に始まる演習に必要な基礎知識となりますので実践につながるようにとまどっておきましょう。

医療的ケア演習(医療的ケア演習)

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 介実
担当 ★静 和美

《授業の概要》

医療的ケア1、2の授業で学習した基礎知識をもとに、対象者にとって安全で安楽な医療的ケアの手技が行えるようになることを目的とする。対象者にとって安全で安楽な暮らしを支えるという観点から、多職種と連携しながら医療的ケアが安全に安楽に実施できるように必要な知識と技術を習得する。

《学生の到達目標》

対象者の状態に応じた安全で安楽な喀痰吸引(口腔・鼻腔・気管カニューレ内部)が、根拠をふまえた上で手順通りに実践できる。
対象者の状態に応じた安全で安楽な経管栄養(経鼻・胃ろう又は腸ろう)が、根拠をふまえた上で手順通りに実践できる。
救急蘇生法が実施できるようになる。

《授業計画》

1. 喀痰吸引の基礎知識の振り返り
2. 口腔内喀痰吸引の演習
3. 口腔内喀痰吸引の演習
4. 鼻腔内喀痰吸引の演習
5. 鼻腔内喀痰吸引の演習
6. 気管カニューレ内部の喀痰吸引
7. 気管カニューレ内部の喀痰吸引
8. 経管栄養の基礎知識の振り返り
9. 経鼻経管栄養の演習
10. 経鼻経管栄養の演習
11. 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の演習
12. 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の演習
13. 救急蘇生法の基礎知識の振り返り
14. 救急蘇生法の演習
15. 救急蘇生法の演習

《成績評価の基準・方法》

規定されている評価方法による実技評価(5項目で、5回目の評価時にはすべての項目で「手順通りに実施できている」とならなければ、できるまで実技を行う。

《授業で使用する教科書》

・新田國夫・川村佐和子・上野桂子・白井孝子・原口道子「介護福祉士実務者研修テキスト第5巻 「医療的ケア」 第3版」中央法規

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習として、前期で学習した基本的な内容を確認しておきましょう。また、演習前に配布する資料を熟読するようにしましょう。事後学習として、演習時にできなかった項目について自己学習しましょう。

健康運動(介護予防運動)

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 介実
担当 ★前田 崇博

《授業の概要》

高齢者への介護予防を推進するためには、要支援・要介護の状態に陥るリスクを早期に、的確に把握するとともに、その身体機能の維持・向上を個々の状態に応じて安全に、効果的に行うことが重要である。このようなことを踏まえて、専門的な座学と演習を通して高齢者向けのトレーニングを手助けする力を養う。トレーニングに関する演習に関しては外部の教員が担当する。

《学生の到達目標》

1. 高齢者の特徴の理解
2. 各種障がい者の特徴の理解
3. 基本的筋肉トレーニングメニュー方法の学習
4. 本学にある介護予防指定の4機器の理解と使い方の修得(ローリング、インナー&アウトターサイ等)
5. 個別トレーニングプログラムを考察できる能力

《授業計画》

1. 高齢者の理解
2. 身体障がい者の理解
3. 高齢者の栄養とリスクマネジメント
4. 高齢者レクリエーション・リハビリテーション
5. 長寿学1(100歳の生活分析)
6. 長寿学2(100歳の生活分析)
7. 介護予防演習1
8. 介護予防演習2
9. 介護予防演習3
10. 介護予防トレーニング演習1
11. 介護予防トレーニング演習2
12. 介護予防トレーニング演習3
13. 介護予防トレーニング演習4
14. 介護予防トレーニング演習5
15. 総括と今後の課題

《成績評価の基準・方法》

期末レポート40% ミニレポート30% トレーニング演習内容30%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習…様々なトレーニングについて興味を持って調べてください。特に、高齢者向けのレクリエーションやリハビリテーションも学んでください。
事後学習…学んだトレーニング方法は自宅でも出来るよう心がけてください。

食品の安全性

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 7-ド
担当 ★瀧本 文子

《授業の概要》

「食」は生命維持、健康保持のために必要不可欠なもので、「安全」であることは絶対条件である。食の安全性に関する基礎知識を学ぶとともに、食品にかかわる危害やその防止法、食品表示などについて学び、安全性を確保するための知識を習得する。

《学生の到達目標》

- ① 食中毒の分類、種類、発生状況、防止方法などが理解できる
- ② 食品表示の意味が理解できる
- ③ 食品添加物の種類、用途などが理解できる
- ④ 食品汚染物質の種類、防止方法などが理解できる
- ⑤ 食品の安全管理に関するシステムが理解できる

《授業計画》

1. 食品の安全性、食品従事者の衛生管理
2. 食品の腐敗・変敗とその防止法
3. 食中毒の分類と発生状況
4. 細菌性食中毒①
5. 細菌性食中毒②、ウイルス性食中毒、経口感染症
6. 自然毒食中毒
7. 化学性食中毒、寄生虫食中毒
8. 食品の安全性の確保
9. 家庭における食品の安全保持
10. 環境汚染と食品、器具及び容器包装、水の衛生
11. 食品の表示
12. 食品添加物
13. 輸入食品、遺伝子組み換え食品
14. 食品とアレルギー、発がん性物質
15. 食品の安全管理、総括

《成績評価の基準・方法》

定期試験(70%) 小テストを含む提出物(20%) 質問、回答など発言を含む授業への参加貢献度(10%)で総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・日本フードスペシャリスト協会「三訂 食品の安全性(第3版)」建帛社

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

食品の安全性は日常生活にも大変関係のある内容です。フードスペシャリスト資格受験に必要なだけでなく、普段の調理や買い物などにも役立つ内容ですので、興味をもって学びましょう。
事前学習…食の安全性に関するニュースなどに興味をもち、わからないことはインターネット等で調べてください
事後学習…前回の授業プリントの見直しを行ってください

食品学 I

2 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 フード
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

食品には、色素成分、味覚成分、香り成分、栄養成分などの多くの成分が含まれており、食品の特徴を形作っている。食品と栄養の特性上では、食品中の成分について、種類や性質、特徴、多く含まれる食品などの基礎知識について学ぶ。また、食品成分表の使い方や、パソコンを使った栄養価計算の方法を理解し、食品の評価と健全な食生活に役立たせる。その上で、食品についての知識を深めるために、種々の食品群について、種類や成分、食用としての価値、適正な取扱いや保存方法などについて学ぶ。

《学生の到達目標》

食品素材の基礎的な知識を身につけることができる。食品に含まれる成分の性質や特性を理解し、調理や製菓に活用できる。食品の知識を深め、良し悪しを判断できる。フードスペシャリスト資格試験合格に必要な知識を習得することができる。

《授業計画》

1. 食品学概論 食品学でどんなこと学ぶのか
2. 嗜好成分 (1) 色素成分、香り成分の種類と特徴
3. 嗜好成分 (2) 味覚成分の種類と特徴、テクスチャーについて
4. 炭水化物 (1) 炭水化物の種類と特徴
5. 炭水化物 (2) 炭水化物の特性と食品への応用
6. たんぱく質 (1) たんぱく質の種類と特徴
7. たんぱく質 (2) たんぱく質の特性と食品への応用
8. 脂 質 (1) 脂質の種類と特徴
9. 脂 質 (2) 脂質の特性と食品への応用
10. 食品の成分と栄養価
11. 栄養価計算の方法 (PCを使った栄養価計算)
12. 植物性食品の知識 1 穀類① (米、米加工品など)
13. 植物性食品の知識 2 穀類② (麦類、とうもろこしなど)
14. 植物性食品の知識 2 穀類③ (でんぷん類など)
15. 植物性食品の知識 3 いも類 (じゃがいも、さつまいも、やまいもなど)

《成績評価の基準・方法》

定期テスト (50%) 課題や小テスト (30%)
質問や回答などの積極的な発言を考慮した授業への参加貢献度 (20%)

《授業で使用する教科書》

・ (公社) 全国調理師養成施設協会「調理師養成教育全書 2 食品と栄養の特性」・「新食品成分表」東京法令出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

日ごろから食品や食物に関心を持ち、スーパーやコンビニエンスストア、デパ地下などの食品売り場を良く見て、どんな食品が売れているのか、季節や品種、価格、調理方法などに注目し、情報収集を心がける。授業前は、教科書をよく読み、興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べてみる。授業後は、教科書やプリントを読み返して復習問題に取り組み、知識の定着を図る。

食品学 II

2 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 フード
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

食品学 I で学んだ知識をもとに、食品についての知識を深めるために、日常よく利用する身近な食品について、種類や成分、食用としての価値、調理特性、適正な取扱いや保存方法などを幅広く学ぶ。また、食品の実際サンプルや写真を見たり、食べ比べなどをして、実用に即した知識を身につける。現在市場にあふれている食品の価値を、合理的に判断できる力を養い、栄養、嗜好、衛生、経済などいろいろな面から私たちの健全な食生活に役立たせる。

《学生の到達目標》

食品素材の基礎的な知識を身につけることができる。食品に含まれる成分の性質や特性を理解し、調理や製菓に活用できる。食品の知識を深め、良し悪しを判断できる。フードスペシャリスト資格試験合格に必要な知識を習得することができる。

《授業計画》

1. 植物性食品の知識 5 豆類 (大豆、小豆など)
2. 植物性食品の知識 6 種実類① (分類と特徴)
3. 植物性食品の知識 7 種実類② (チョコレート)
4. 植物性食品の知識 8 野菜類① (野菜の種類と成分)
5. 植物性食品の知識 9 野菜類② (利用頻度の高い野菜の特徴と目利き)
6. 植物性食品の知識 10 果実類 (果実の種類と成分)
7. 動物性食品の知識 1 肉類 (牛、豚、鶏肉の成分と特徴)
8. 動物性食品の知識 2 魚介類 (魚介類の種類と成分)
9. 動物性食品の知識 3 肉類・魚介類加工品 (ハム、ソーセージ、かまぼこなど)
10. 動物性食品の知識 4 卵類 (卵の構造と成分、特性)
11. 動物性食品の知識 5 乳類 (牛乳の種類と成分)
12. 動物性食品の知識 6 乳製品 (チーズ、バター、ヨーグルトなど)
13. その他の食品 1 調味料① (砂糖、塩)
14. その他の食品 2 調味料② (醤油、味噌、酢、みりん)
15. その他の食品 3 香辛料・嗜好飲料

《成績評価の基準・方法》

定期テスト (50%) 課題や小テスト (30%)
質問や回答などの積極的な発言を考慮した授業への参加貢献度 (20%)

《授業で使用する教科書》

・ (公社) 全国調理師養成施設協会「調理師養成教育全書 2 食品と栄養の特性」・「新食品成分表」東京法令出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

日ごろから食品や食物に関心を持ち、スーパーやコンビニエンスストア、デパ地下などの食品売り場を良く見て、どんな食品が売れているのか、季節や品種、価格、調理方法などに注目し、情報収集を心がける。授業前は、教科書をよく読み、興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。授業後は、教科書やプリントを読み返して復習問題に取り組み、知識の定着を図る。

食品科学実験

2年次(半期)
2単位(実習)
資格 フード[®]
担当 ★瀧本 文子

《授業の概要》

食品の安全性および品質の評価を行う目的でのアクティブ・ラーニングとして、環境中の微生物検査、食品添加物の検出、鮮度判定、食品加工の技法についてグループで実験を行う。また実験報告書を作成し、科学的・論理的な考え方の基本を理解する。

《学生の到達目標》

食品の科学的なもの見方と理解、論理的な考え方、実験報告書の作成ができるようになる。
① 科学実験の進め方について理解することができる
② 基本的な実験器具の取り扱いができる
③ 実験についてレポート(報告書)の書き方を理解し作成できる
④ 実験結果について考察し、自分の考えをまとめることができる

《授業計画》

1. 実験・検査方法および実験レポート作成のガイダンス
2. 微生物実験(1) 環境中の微生物
3. 微生物実験(2) 微生物による発酵食品
4. 食品添加物実験(1) 保存料の検出
5. 食品添加物実験(2) 発色剤の検出
6. 食品添加物実験(3) 着色料の検出
7. 食品添加物実験(4) 膨脹剤の特性
8. 食品のたんぱく質実験(1) 分離と検出
9. 食品のたんぱく質実験(2) 小麦加工品
10. 鮮度検査(1) 卵
11. 鮮度検査(2) 脂質、牛乳
12. 豆類加工品実験
13. 果実類加工品実験
14. 肉類加工品実験
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

・実験内容を理解した上で、積極的に参加し、班内での責任を全うしようとする取組みができているか評価する(50%)
・実験レポートの期限内の提出および実験結果や考察が、目的に沿って書かれているか評価する(50%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

基礎的な科学実験および種々の食品の衛生検査方法や加工方法を体得します。
事前学習：必ず「実験テキスト」を参照し、実験内容をよく理解して取り組んでください。
事後学習：実験した内容をよく精査し、実験レポートを作成して期日までに提出してください。

フードスペシャリスト論

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 フード[®]
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

フードスペシャリストとは、食に関する知識と技術を身につけた食の専門家である。食品の開発製造、流通、販売、外食を担う食品産業で、食のスペシャリストとして活躍できるように、食の本質が「おいしさ」、「楽しさ」、「おもてなし」にあることをしっかりと認識し、食の歴史や地域の食、法律や制度、環境問題などについて、幅広い知識を学んでいく。

《学生の到達目標》

職業としてのフードスペシャリストの仕事について理解することができる。世界の食、日本の食、現代日本の食生活について理解することができる。食品産業の働きと役割について理解することができる。フードスペシャリストの資格認定試験に合格できる知識を習得することができる。

《授業計画》

1. フードスペシャリストの業務と活躍分野
2. 人類と食物
3. 世界の食(1) 食作法と禁忌
4. 世界の食(2) 世界各地の食事情
5. 日本の食(1) 日本食物史
6. 日本の食(2) 食の地域差
7. 現代日本の食生活(1) 食生活の変化と現状
8. 現代日本の食生活(2) 食料の供給と食料自給率
9. 現代日本の食生活(3) 環境と食
10. 食品産業の役割(1) 食品製造業と卸売業
11. 食品産業の役割(2) 食品小売業と外食産業
12. 食品の品質企画と表示
13. 食品の情報管理と消費者保護
14. 地球環境問題と食糧問題について①(アクティブラーニング)
15. 地球環境問題と食糧問題について②(アクティブラーニング)

《成績評価の基準・方法》

定期テスト(50%) 課題への取り組みと提出(30%) 質問や回答などの積極的な発言を考慮した授業への参加貢献度(20%)

《授業で使用する教科書》

・(公社)フードスペシャリスト協会「四訂 フードスペシャリスト論」建帛社
他、適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

・(公社)フードスペシャリスト協会「フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集」建帛社

《事前・事後学習》

日ごろから食や食品に関するニュースに関心を持ち、スーパーやコンビニエンスストア、デパ地下などの食品売り場を見たり、どんな食品が売られているのか、また陳列方法などにも注目し、情報収集を心がける。授業前は、教科書をよく読み、興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。授業後は、問題集に取り組み、知識を定着させる。

食品の官能評価・鑑別論

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 F-1
担当 ★瀧本 文子

《授業の概要》

私たちの周りには数多くの食品が出回り、食品についての情報も氾濫している。その中から適切な食品を選択するためには、種々の食品についての知識と品質を見極める技術が必要である。そこで、化学的・物理的な食品の評価法、嗜好に直接結びつく官能的な評価法を学習する。また個別食品の特徴、品質と取り扱い方を学習する。

《学生の到達目標》

- ①食品の品質とは何かを理解し、食品の品質を見極めることが出来る
- ②フードスペシャリストの資格認定試験に合格できる知識を習得する

《授業計画》

1. 食品の品質とは
2. 官能評価とは
3. 官能評価の目的と意義
4. 官能評価の基本と実施法
5. 化学的評価法
6. 物理的評価法
7. 個別食品(米・麦類)の鑑別
8. 個別食品(トウモロコシ・雑穀類)の鑑別
9. 個別食品(イモ・豆類)の鑑別
10. 個別食品(種実類・野菜類)の鑑別
11. 個別食品(きのこ類・果実類)の鑑別
12. 個別食品(海藻類・魚介類)の鑑別
13. 個別食品(肉類・卵とその加工品)の鑑別
14. 個別食品(乳と乳製品、油脂)の鑑別
15. 個別食品(菓子類・酒類)の鑑別

《成績評価の基準・方法》

定期試験(70%) 小テスト・課題を含む提出物(20%) 質問、回答など発言を含む授業への参加貢献度(10%)で総合的に評価する

《授業で使用する教科書》

・日本フードスペシャリスト協会「食品の官能評価・鑑別演習」建帛社

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：教科書をよく読み、興味を持ったものや、わからないところはインターネット等で調べてください
事後学習：毎回配布するプリントを復習し、知識の定着を図ってください

食品の官能評価・鑑別演習

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 F-1
担当 ★瀧本 文子

《授業の概要》

食品の品質は、安全性がすべてに優先した上で、食品が備えている栄養性・嗜好性・生体調節機能性・商品性などを総合的に評価し決定されるものである。食品の品質を適正に評価・判断する技術を身につけるために、官能評価の基本的知識を学ぶと共に、具体的な鑑別方法を、演習を通して学ぶ。

《学生の到達目標》

- ①食品を鑑別する方法を理解し、多くの食品の中から適切なものを選択できる力を身につける
- ②フードスペシャリストの資格認定試験に合格できる知識を習得する

《授業計画》

1. 官能評価について
2. パネルについて
3. テストの管理について
4. 2点鑑別試験法について
5. 2点鑑別試験演習
6. 2点嗜好試験について
7. 2点嗜好試験演習
8. 3点鑑別試験法
9. 3点鑑別試験演習
10. 化学的評価法と演習
11. 個別食品(茶類、コーヒー)の鑑別
12. 個別食品(ココア、清涼飲料)の鑑別
13. 個別食品(醸造食品・調味料)の鑑別
14. 個別食品(香辛料、インスタント食品)の鑑別
15. 個別食品(冷凍食品、弁当)の鑑別 総括

《成績評価の基準・方法》

定期試験(70%) 小テスト・課題を含む提出物(20%) 質問、回答など発言を含む授業への参加貢献度(10%)で総合的に評価する

《授業で使用する教科書》

・日本フードスペシャリスト協会「食品の官能評価・鑑別演習」建帛社

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：教科書をよく読み、興味を持ったものやわからないところはインターネット等で調べてください
事後学習：毎回配布するプリントを復習して、知識の定着を図ってください

介護食論

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 介食
担当 ★奥田 晶子

《授業の概要》

人間はいくつになっても、生きていく以上食べることは必要である。この教科では、噛むことや、飲み込むことなどの摂食行為が難しくなった高齢者や障害者に、生きていくうえでのQOLを高める「おいしい食事」や「楽しい食事」の必要性と、介護食(嚥下食)を提供するために必要な知識(高齢者の身体的特徴、嚥下のしくみ、栄養や食品、食品衛生など)について学ぶ。

《学生の到達目標》

高齢者の身体的特徴や心理的特徴を理解することができる。介護食を作るうえで必要な、栄養素を理解し、バランスの良い介護食を考えることができる。介護食を作るために必要な食材の基礎知識を学び、日々の食生活に生かすことができる。安全な食事を提供するために、食品衛生に関する知識を身につけ、実践することができる。介護食士3級の資格取得のために必要な知識を身につけることができる。

《授業計画》

1. 介護食概論 介護食士の仕事
2. 医学的基礎知識 ①摂食活動に関わる器官とその機能
3. 医学的基礎知識 ②高齢者の身体機能の低下 (課題①)
4. 高齢者の心理 ①高齢者の心理の理解
5. 高齢者の心理 ②高齢者の食への支援 (課題②)
6. 栄養学 ①五大栄養素(炭水化物・たんぱく質)
7. 栄養学 ②五大栄養素(脂質)
8. 栄養学 ③五大栄養素(ビタミン・無機質) (課題③)
9. 栄養学 ④非栄養成分
10. 栄養学 ⑤高齢者の栄養学 (課題④)
11. 食品学 ①主食となる食材
12. 食品学 ②主菜となる食材
13. 食品学 ③副菜・その他の食材 (課題⑤)
14. 食品衛生学 ①食品衛生とは・食中毒概論
15. 食品衛生学 ②食中毒の予防・食品表示 (課題⑥)

《成績評価の基準・方法》

授業内外で取り組んだ課題や復習問題(40%)、「介護食士3級」筆記試験(60%)

《授業で使用する教科書》

・(公社)全国調理職業訓練協会「介護食士講座3級」他、適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

【事前学習】 授業範囲に当たる教科書をよく読み、理解する。高齢者の食に関するニュースや新聞に目を向け、社会状況を良く知る。
【事後学習】 「介護食士3級 問題集」を用いて、授業で習った範囲について復習をする。テスト前には教科書、配布プリントをよく読み、必要な知識は覚える。

介護食実習

2年次(半期)
2単位(実習)
資格 介食
担当 ★宮本 弥生

《授業の概要》

介護食論で学んだことを基本に、噛む事・飲み込むことが出来にくくなった高齢者の方にも楽しんでいただける、介護食を作る人にも重荷にならない食事を実習する。

《学生の到達目標》

介護食士3級の資格習得を目標にする。

《授業計画》

1. オリエンテーション 介護食について
2. ソフト食の献立
3. 咀嚼困難な人のための献立
4. 嚥下困難な人のための献立
5. 生活習慣病予防のための献立1(糖尿病予防)
6. 生活習慣病予防のための献立2(高血圧予防)
7. 生活習慣病予防のための献立3(脂質異常予防)
8. 骨粗しょう症予防のための献立
9. おやつ・軽食
10. いろいろなものでトロミをつけた献立
11. トロミ剤を使った献立
12. お節にも
13. 電子レンジや炊飯器を上手に使う
14. 冬の素材を使って1
15. 冬の素材を使って2

《成績評価の基準・方法》

毎授業の達成度50% テスト 50%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

・事前 介護食論で習ったことを復習。
・事後 実習後 実習ノートの作成。

幼児食実習

2年次(半期)
2単位(実習)
資格 なし
担当 寺石 佳世

《授業の概要》

離乳食、幼児食の初期・中期・後期・完了期に分け、更にアレルギー食・おやつ・行事食なども取り入れ、実習します。

《学生の到達目標》

乳児・幼児に適している食事やおやつを作れるようになる。
アレルギー食に対応できるようになる。
幼児に必要な栄養等を満たし、形・色合い・デザインも含め、幼児が喜ぶお弁当が作れるようになる。

《授業計画》

1. 離乳食、幼児食の概要、調乳
2. ごっくん期、もくもく期の献立
3. かみかみ期の献立
4. ばくばく期の献立 手づかみパーティー
5. おやつ1
6. ソーセージや果物をつかった飾り切り
7. 魚を使った献立
8. 肉を使った献立
9. デコレーション巻き寿司
10. おやつ2
11. 重ね煮メニュー
12. アレルギーの子どものために
13. 行事食1
14. 行事食2
15. 幼稚園児のためのオリジナル弁当制作

《成績評価の基準・方法》

- 毎授業の習得度：50%
授業での説明の聞きとり、実習内容の理解度、実習時に自分で判断して取り組んでいるかどうか、などで評価します。
- レポート：50%
毎授業で実習するレシピを完成させ、最後にまとめて提出していただきます。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

・寺石佳世「身体がよくなるお食事選び～明日からできる買い物の知識～」ギャラクシーブックス

《事前・事後学習》

事前学習：●配布プリントをよく読み、興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。●次回の学習内容について興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。
事後学習：●プリントを読み返し、知識の定着を図る。●その日に学んだ実習内容を自分で実践する。

ローカルフーズ(郷土料理)

2年次(半期)
2単位(実習)
資格 なし
担当 ★宮本 弥生

《授業の概要》

郷土料理や各国の料理を調理し、その地方や国の文化を食を通じて深めていく。また、時には「子ども食堂」について学んだり、今話題になっている食材を実習に取り入れれたりする。なお、実習時決められた服装・身だしなみが出来ていなければ授業は受講できない。

《学生の到達目標》

これまで行ってきた調理実習の知識・技術をより深めながら、調理だけでなく、食を通じた文化の理解を深め、食に対してより幅広い興味を持つ。

《授業計画》

1. インド料理
2. 発酵食品
3. 沖縄の郷土料理
4. アラブ料理
5. 四国地方の郷土料理
6. 子ども食堂
7. 災害時の調理
8. 和風テイストのお菓子
9. ペルー料理
10. 韓国料理
11. スイス料理
12. ご飯が美味しいお惣菜1
13. 鉄板料理
14. 東北地方の郷土料理
15. ご飯が美味しいお惣菜2

《成績評価の基準・方法》

毎回の実習の習得度 50%レポート 25%ノート 25%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

- ・事前 それぞれの地方・国に関する事前リサーチをし、レポートを提出しする。
- ・事後 実習後は実習ノートを作成し、15回目終了時に提出。

商品開発・販売Ⅱ

2年次(集中)
1単位(演習)
資格 なし
担当 現生専任教員, ★亀井 知子

《授業の概要》

東住吉区・平野区の企業を中心に、「好きになるプロジェクト」を立ち上げ、本学もこのプロジェクトに参加し、民間企業と連携して商品開発を行う。これ以外にも大阪府内の企業が参加しプロジェクトの数は12にも及ぶ。学生はこの12のプロジェクトの中から自分にあったプロジェクトを選んで開発に取り組み、学生は民間企業の商品開発のノウハウを理解して、新しい商品・サービスの開発を行い、その取組や開発した商品を産業交流フェア等で発表する。学生は、今まで経験したことのないこの取組により大きく成長し、近い将来、社会人となった時の力とする。

《学生の到達目標》

学生は民間企業と連携し、商品やサービスの開発を具体化する。学生は共同作業を通じてチーム力を高める。学生は民間企業の考え方を説明できる。学生は共同開発を進める中で課題を発見する。学生は共同開発を進める中で課題を解決する。学生は成果を具体的に発表できる。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 参加プロジェクトの決定
3. 商品開発とは
4. 企業訪問
5. 研究開発1
6. 研究開発2
7. 研究開発3
8. 研究開発4
9. 研究開発5
10. 研究開発6
11. 研究開発7
12. 成果発表準備1
13. 成果発表準備2
14. 成果発表準備3
15. 成果発表

《成績評価の基準・方法》

研究開発の参加・貢献度70%、成果発表での評価を30%とする

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：企業訪問に積極的に参加する。昨年度の成果等を十分理解しておく。事後学習：課題を確実にこなす。何事もチームワークを大切にして取り組む。

インターンシップⅡ

2年次(半期)
1単位(実習)
資格 なし
担当 湯浅 高晃, 現生専任教員

《授業の概要》

インターンシップでは、学生が興味のある企業などを訪問したり、実際に働いたりする職業体験を経験する。本学との間でインターンシップ契約を結んだ企業、食関連業種、保育・介護施設等において、正社員の業務の一部を担う実習を行ない、実際の業務や働く環境の体験を通じて、働くことへの理解を深める。期間は夏季もしくは春季の1週間～2週間で、実習内容等は、各受入先との事前打合せにて決定する。

《学生の到達目標》

- ①学生が社会人基礎力を高める。
- ②学生が仕事の仕組みを理解できる。
- ③学生が自分の役割を理解できる。
- ④学生が学んだことを就職活動で活用できる。
- ⑤学生が自ら定めた目標の達成に向かい努力できる。

《授業計画》

1. インターンシップガイダンス(概要説明)
2. 受入先公募
3. マッチング面談
4. インターンシップ事前ガイダンス①(全体スケジュール共有)
5. インターンシップ事前ガイダンス②(課題解決シート作成)
6. インターンシップ事前ガイダンス③(郵送物作成)
7. インターンシップ事前ガイダンス④(電話アポイント・挨拶訪問の仕方)
8. 電話アポイント
9. 挨拶訪問
10. インターンシップ本番
11. インターンシップ本番
12. インターンシップ本番(中間面談)
13. インターンシップ本番
14. インターンシップ本番
15. 総括(事後面談)

《成績評価の基準・方法》

実習先指導者による評価表(70%)と実習生の実習報告(30%)で評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：学生が希望する業種・職種を調査し、通勤可能エリアを考慮したうえで受入先候補を決定する。そのため、同時期に並行して行われるキャリアデザイン演習にて自己理解および仕事の理解を深めながら手続を進める。事後学習：インターンシップ終了後、総括し、就職活動に取り組み。受入スケジュールの調整等は、学生本人が受入先企業と協力して行なっていくため、責任を持って取り組むこと

医療系集中講義科目

医学一般

1・2年次(集中)
2単位(講義)
資格 医療
担当 ★静 和美, 岡田 享子

《授業の概要》

医療事務に必要な人体の構造と機能、薬の基礎知識、検査、医療用語、感染症、栄養などの基礎的な内容を理解することを目的とする。

《学生の到達目標》

医療事務に必要な人体の構造と機能、薬の基礎知識、検査、医療用語等を理解する。

《授業計画》

1. オリエンテーション(医療事務の仕事と資格について)
2. 解剖・生理(骨格系・筋系について学ぶ)
3. 解剖・生理(循環器系について学ぶ)
4. 解剖・生理(呼吸器系について学ぶ)
5. 解剖・生理(消化器系について学ぶ)
6. 解剖・生理(泌尿器系・生殖器系について学ぶ)
7. 解剖・生理(内分泌系について学ぶ)
8. 解剖・生理(神経系について学ぶ)
9. 解剖・生理(感覚器系について学ぶ)
10. 薬の基礎知識について学ぶ
11. 検査概論について学ぶ
12. 感染症について学ぶ
13. 栄養について学ぶ
14. 医療用語・病名略語について学ぶ
15. 医学一般のまとめ

《成績評価の基準・方法》

筆記試験60%、提出物40%により評価

《授業で使用する教科書》

・「医学一般」一般社団法人 医療教育協会

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習として、授業をうける範囲のテキストを熟読しましょう。事後学習として、受講内容を振り返っておきましょう。

医療管理学

1・2年次(集中)
2単位(講義)
資格 医療
担当 井上 里子

《授業の概要》

医療機関事務管理、医療関連法規、医療を支える職種、医療保険制度、高齢化社会の保健医療福祉等について学習する。法律用語は難しくテキストを読んでもなかなか理解できないことが多いので、できる限り平易な言葉に置き換え、又実例を挙げて解説していく。

《学生の到達目標》

医療事務関連の資格取得に必要な知識を習得すること。特に「医療管理秘書士」「医療情報事務士」の資格取得を目指す。

《授業計画》

1. オリエンテーション-医療事務の仕事と資格について
2. 医療機関組織の概略
3. 各医療機関組織の役割と運営
4. 医療機関事務管理の専門性と必要な基本知識
5. 医療と情報
6. 医療法(1)
7. 医療法(2)
8. 医師法
9. 保健師助産師看護師法
10. 薬剤師法・臨床検査技師法・その他
11. 医療保険(1)
12. 医療保険(2)
13. 公費負担医療制度、労働者災害補償保険法
14. 介護保険制度
15. 医療管理学のまとめ

《成績評価の基準・方法》

筆記試験60%、提出物40%により評価

《授業で使用する教科書》

・「メディカルシステム論」一般社団法人 医療教育協会

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：シラバスを確認してテキストを一読してくる。
事後学習：配布プリントとテキストを見直しし知識を定着させること

医療秘書実務

1・2年次(集中)
2単位(講義)
資格 医療
担当 井上 里子

《授業の概要》

医療秘書・医療事務には、常に患者様及び家族の置かれている状況や気持ちを理解して、医療サービスを行うことも求められている。その中で、社会組織における医療や倫理、医療秘書・医療事務の役割や業務を解りやすく概説する。

《学生の到達目標》

医療事務・医療秘書に必要な知識を理解する。病院職員の倫理や医療サービスの位置付けと実務について習得する。及び2年次に受験する「医療管理秘書士」、「医療事務士」の合格を目標とする。

《授業計画》

1. 社会の仕組みとしての医療
2. 医療秘書と医療事務の役割
3. 医療の倫理(病院の特性と倫理)
4. インフォームドコンセント
5. 患者の心理の理解①医療従事者に望むこと
6. 患者の心理の理解②医療従事者に求められる要素
7. 医療秘書実務①受付の業務
8. 医療秘書実務②接遇用語について
9. 医療秘書実務③応対の基本態度
10. 医療機関での応対①患者受付の種類と役割
11. 医療機関での応対②患者受付の実際のポイント
12. 医療機関での応対③患者受付(窓口受付)の実際
13. 医療秘書・医療事務に必要な医療用語
14. 全体のまとめ
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

試験80%、レポート20%、授業態度による総合評価とする。

《授業で使用する教科書》

・「メディカルシステム論」医療教育協会

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

医療現場や医療情報などに関心を持ち、医療用語や疾患理解などを、するように努める。

医療事務総論及び演習レセプトコンピュータ

2年次(集中)
1単位(演習)
資格 医療
担当 尾崎 好子, 柴田 敬子

《授業の概要》

医師が診療中に記録した診療録(カルテ)を読むための基本的な医学の知識を身に付けます。医師が行った診療行為を料金化するための算定方法を習得します。

《学生の到達目標》

診療録(カルテ)より治療内容を読み取り、診療報酬明細書を作成する知識と技術を身に付けます。

《授業計画》

1. 医療事務とは?医療費のしくみ・診療報酬請求事務
2. 初診料
3. 再診料
4. 入院料
5. 医学管理等料・在宅医療料・リハビリテーション料
6. 投薬料
7. 注射料
8. 処置料・手術料・麻酔料・精神科専門療法料
9. 検査料・病理診断料・放射線治療料
10. 画像診断料
11. カルテの読み方・レセプトの書き方・カルテ問題(1)
12. カルテ問題(2)(3)
13. カルテ問題(4)(5)
14. カルテ問題(6)(7)
15. 試験とまとめ

《成績評価の基準・方法》

課題・レポート・提出物(40%)、試験の成績点(60%)

《授業で使用する教科書》

・一般社団法人医療教育協会「診療報酬請求の実務診療報酬請求演習」一般社団法人医療教育協会
・一般社団法人医療教育協会「医科診療報酬点数表」一般社団法人医療教育協会

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

・講義は基礎の積み重ねですので、毎回受講した内容を復習しノートや資料を整理して下さい。
・講義中配布した練習問題は自主学習にも使用して下さい。

総合保育学科

体育（実技）

1年次(半期)
1単位（実技）
資格 幼・保
担当 久保田 佐世美

《授業の概要》

保育現場に必要な『歩く』『走る』『跳ぶ』の基本運動やリズム遊び・ダンスなどの基本動作を自ら体験し、指導者としてのスキルを高める。また、同じく保育現場で取り入れられる基本的な音楽（リズム）と運動の協調性と共感性、知的成長に必要な向上心と自立心、そして想像力と創造力などの基礎づくりをする。

《学生の到達目標》

運動と音楽の基礎能力を身につけ、保育現場に必要な指導法を習得する。授業最終日には保育園や幼稚園で指導できる『幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格認定試験2級』を受験し、合格すれば3歳児の指導資格を取得することができる。

《授業計画》

1. 運動およびリトミックについて
2. 基礎的な動き①（基礎リズムと2拍子）
3. 基礎的な動き②（基礎リズムと複リズム）
4. 基礎的な動き③（基礎リズムと補足リズム）
5. 振り付けを考えよう①（音楽に合わせた動きを考える）
6. 振り付けを考えよう②（発表）
7. 指導法と実技（基礎と応用）①（3歳児 1学期）
8. 指導法と実技（基礎と応用）②（3歳児 2学期）
9. 指導法と実技（基礎と応用）③（3歳児 3学期）
10. 指導案作成と実践演習
11. ピアノ演奏法と実践①（走ると歩く）
12. ピアノ演奏法と実践②（あそび歌とゆっくり歩く）
13. 実践の発表と評価（リズムの演奏法実技）
14. 実践の発表と評価
15. リトミックの理論とダルクローズについて

《成績評価の基準・方法》

授業内での実技テスト（40%）
リトミック認定試験2級（60%）
ただし、リトミック認定試験を受けることを単位認定の最低条件とする。

《授業で使用する教科書》

- ・「リトミック研究センター 幼稚園・保育園のためのリトミック 3歳児」

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習については「幼稚園・保育園のためのリトミック3歳児用」指導書を読むこと。事後学習については、授業内で出された課題をよく理解し、知識や技能、技術の習得に努めること。この授業の成果でリトミック指導資格2級を取得することができる。

幼児教育基礎Ⅰ

1年次(半期)
2単位（講義）
資格 なし
担当 魚住 美智子

《授業の概要》

幼児教育・保育に関する全般的な基礎的用語・知識が理解できるようになること。基本的知識を基に保育実践の場で、子どもたちと関わる基本的技術について理解・実践できるようになること。保育・教育に関連する広範囲な課題についての視野を持つことができることを目指す。

《学生の到達目標》

①乳幼児の心身の発達過程・発達段階の特徴を理解することができる。②乳幼児との関わりの中で、対象児の発達の様子を心理過程も含め幅広く見ることができる。③保育実践の場を想定し、発表・レポート等を通して、主体的に各自の考え方や関わり方を展開できる。

《授業計画》

1. オリエンテーション：幼児教育基礎とは
2. 子どもの発達に応じた幼児教育・保育技術の理解～0、1歳
3. 子どもの発達に応じた幼児教育・保育技術の理解～2歳
4. 子どもの発達に応じた幼児教育・保育技術の理解～3歳
5. 子どもの発達に応じた幼児教育・保育技術の理解～4歳
6. 子どもの発達に応じた幼児教育・保育技術の理解～5歳
7. 子どもの発達に応じた幼児教育・保育技術の実践～0、1歳
8. 子どもの発達に応じた幼児教育・保育技術の実践～2歳
9. 子どもの発達に応じた幼児教育・保育技術の実践～3歳
10. 子どもの発達に応じた幼児教育・保育技術の実践～4歳
11. 子どもの発達に応じた幼児教育・保育技術の実践～5歳
12. グループワーク①
13. グループワーク②
14. 発表・評価
15. 幼児教育・保育について振り返りと総括

《成績評価の基準・方法》

授業時の小レポート提出（50%）、グループワーク及び発表（50%）により評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

・厚生労働省「厚生労働省「保育所保育指針解説」」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 他、適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のそれぞれの解説書を事前によく読み、理解しておきましょう。事後に関しては、授業内容を復習し、各自の意見・考えをさらに深めていきたいと思います。

幼児教育基礎Ⅱ

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 なし
担当 油井 宏隆

《授業の概要》

幼児教育・保育に関する一般的な基礎的用語・知識がより深く理解できるようになること。基本的知識を基に、保育実践の場で、子どもたちと関わる基本的スキルについて理解・実践力を高めることができる。保育・教育に関連する広範囲な課題についての視野を持ち、多様な教育・保育観を持つことができるようになることを目指す。

《学生の到達目標》

①知識・理解保育・幼児教育の基本的事項・背景の流れをより深く理解することができる。②思考力・判断力・表現力等の能力幼児教育・保育のあり方についての考えを深め、幅広い視点から考察できるようになる。③主体的な態度・関心・意欲グループ発表・小レポート・実践活動等を通して、各自の考え、関わり方を展開できる。

《授業計画》

1. 幼児教育・保育の実践的スキル研究 (求められるスキルとは)
2. 保育者の表現力① 言語的コミュニケーション
3. 保育者の表現力② 非言語的コミュニケーション
4. 保育者の表現力③ 表情
5. 教育・保育の実践-言葉の世界
6. 教育・保育の実践的スキル①- 神話・昔話の魅力グループワーク
7. 教育・保育の実践的スキル②- 絵本の魅力グループワーク
8. 教育・保育の実践的スキル③- 読み聞かせグループワーク
9. 教育・保育の実践-アートの世界
10. 教育・保育の実践的スキル④- 色彩の魅力グループワーク
11. 教育・保育の実践的スキル⑤- 素材の魅力グループワーク
12. 教育・保育の実践-音楽の世界
13. 教育・保育の実践的スキル⑥- リズムの魅力グループワーク
14. 教育・保育の実践的スキル⑦- メロディーの魅力グループワーク
15. 教育・保育の実践力について 振り返りと総括

《成績評価の基準・方法》

知識・理解については、授業時の基礎用語・項目の確認課題 (30%) によって評価する。判断力・表現力・意欲・関心については、授業時の小レポート提出(30%)・グループ発表 (40%) によって評価する

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《事前・事後学習》

保育指針等の子どもの発達と保育に関する領域については事前よく読んでおくことが望まれる。授業内で取りあげられた事項やトピックスについて、保育実践の場を想定し各自の意見・考えをさらに深めておくことが望まれる。

情報処理演習 B

1 年次(半期)
1 単位 (演習)
資格 幼
担当 藤田 朋己

《授業の概要》

筆記用具と同じくICT機器を活用するスキルの向上を図るとともに、情報を読み取る力、情報を発信する表現力の向上を図る。保育・幼児教育現場においては、ただ単に情報を読み取り情報を発信すればよいという場面はない。そこには必ず思考・判断・表現が必要となる。したがって、思考力・判断力・表現力の育成をおこなう。ただし、これらの力は、すぐ身につくものではない。模擬発表として実践する場を授業内に設け、他者から学びを得る機会を作る。また、日常生活の中で常に意識することも重要であり、その積み重ねの中で変わるものである。本授業では、さまざまなテーマをもとに、そのきっかけを作り出す。

《学生の到達目標》

ICT機器を的確に操作できるようになるとともに、ICT機器を効率よく、正確に操作できるようになることを目標とする。また、何かしら作成物を作成する際には、それを手にする第三者の視点に立ち、デザイン・構成等を考えなければならない。自身の感性を磨き、広い視野でものを多方向から見ようとする姿勢を身につける。実施にあたっては、学生同士で評価し合う場面を設ける。他者から学びを得るとともに、他者に感想を伝え、アドバイス等をおこなうことで、評価者としての視点を持てるようになることも目標とする。

《授業計画》

1. 授業計画の理解・情報発信に対する理解
2. Webからの情報収集・整理・発信 (すくすく子育て)
3. 保育で活用できるサイト・「らくがきをしてみると・・・」課題提示
4. 【模擬保育発表1】「らくがきをしてみると・・・」
5. 【模擬保育発表2】「らくがきをしてみると・・・」
6. 【模擬保育発表3】「らくがきをしてみると・・・」
7. 映像から情報を読み解く
8. 保育者を支援するサイトの活用
9. Webからの情報収集・整理・発信 (あそびについて)
10. 絵本情報発信 (作表機能の活用)
11. 絵本情報を元にした交流と相互評価
12. Excel基本操作の理解
13. おやつの間スケジュール作成演習
14. 計算式・グラフ作成
15. 通学区域一覧の作成演習・授業総括

《成績評価の基準・方法》

本授業は演習授業である。授業時の説明を聞いた上で課題に取り組み、その課題を提出することが最も重要である。提出された課題については、修正点等のコメントをつけた上で返却する。指摘された点に注意して、以後の課題に反映して欲しい。
評価方法としては、演習への取り組み姿勢や課題への向き合い方に対する評価 (30%)・課題評価 (60%)・最終レポート (10%) とする。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

伝えたいことをわかりやすく、正確に伝えるためのスキルを身につけるためには、普段の生活の中で意識を持つことが重要である。また、常に自身の感性を磨き、ものごとに対する視野を広げる努力も重要である。事前学習として、これらのことを意識することを願う。提出課題については、評価とコメントをつけて返却する。事後学習として、指摘された内容を理解し、今後の演習に活かす努力を願う。

保育原理

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 保・主事
担当 ★大嶋 健吾

《授業の概要》

保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、保育の基本を理解していく。その際、子ども・人間をどのように捉えるのかという問題が深くかかわっている。保育の思想を持ってきた先人の思想に学び、保育の本質に触れるとともに、現代の保育課題について考える。授業では毎時、ミニッツペーパーを実施し、振り返りを行う。

《学生の到達目標》

保育の基本、意義及び目的について理解する。また保育に関する法令や制度、特に保育所保育指針を理解する。そして保育の思想と歴史の変遷について学び、説明できるようになる。さらに保育の現状と課題について理解し、考察できる。

《授業計画》

1. 保育の基本理念とその概念
2. 子どもの最善の利益とその保育
3. 子ども家庭福祉と保育の社会的役割
4. 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置づけと関連法令
5. 子ども・子育て支援制度
6. 保育所保育指針と幼保連携型認定こども園教育・保育要領
7. 保育に関する基本原則
8. 保育における養護
9. 保育の目標とねらいとその内容
10. 保育の環境と保育方法
11. 子ども理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）とその循環
12. 諸外国の保育の思想と歴史
13. 日本の保育の思想と歴史
14. 諸外国の保育の現状
15. 日本の保育の現状と課題

《成績評価の基準・方法》

定期試験（70%）、毎回の授業の最後に提出するミニッツペーパー（30%）

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習として保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書、幼稚園教育要領解説書、それぞれの第1章総則をよく読んでおくこと。事後学習として、毎時の授業内容を振り返り、ワークシート（講義ノート）をまとめておくこと。

教育原理

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 幼・保・主事
担当 ★太田 友子

《授業の概要》

「教育とは何か・どうあるべきか」との問いを改めて考えることは、将来、人間の成長・発達にかかわる仕事に就く学生にとって不可欠なことである。本講義では、「教える者」「学ぶ者」という双方の立場を行き来しながら、教育に関する基礎的知識を理解できるように力量を身につけることをねらいとする。そのために、他者との交流により、自分の頭で考え、自分の意見を持ち、それを表現することを重視した授業展開を行う。

《学生の到達目標》

幼児期およびそれ以降の教育を支える理念、方法論、歴史の概要を俯瞰する。教育の歴史、思想史、方法論、制度などを考察することにより、幼児期の学びや発達の姿と、それ以降の年代での学びや発達の姿の連関を理解する。

《授業計画》

1. オリエンテーション：教育原理とは？
2. 教育の意義と目的
3. 子ども観の変遷（前近代から現在まで）
4. 乳幼児期の教育の特性
5. 身体と心の発達から見る人間形成論
6. 諸外国の教育思想
7. 諸外国の教育の歴史
8. 日本の教育思想・歴史
9. 子ども観と教育観
10. 教育におけるカリキュラムと評価
11. 教育の法律と行政
12. 諸外国の教育制度
13. 教育実践の基礎
14. さまざまな教育実践
15. 授業まとめ・レポート作成

《成績評価の基準・方法》

定期試験は実施しない。
レポート（50%）
毎回の授業の最後に提出する小レポート（50%）

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習として、配布する資料を読み、授業にむけての課題意識を明確にしておくこと。事後学習として、授業のまとめのワークシートを活用し、授業で取り上げたテーマに関しての考察を深める。

子ども家庭福祉

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 保
担当 ★丸目 満弓

《授業の概要》

現代社会に生きる子どもが育つ家庭は多様化・複雑化している。授業は講義方式をベースとしつつ、適宜ペアワークやグループワークを取り入れる。まず講義によって問題や課題の背景を理解し、支援を行うために必要な知識を身につける。そのうえでワーク等を通して、支援者としての価値観を形成しながら実際の役割をイメージすることをめざす。

《学生の到達目標》

1. 現代社会における子どもや家庭、またそれらを取りまく環境について理解することができる
2. 子どもや保護者、家庭を支える様々な制度や取り組みについて体系的に理解することができる
3. 問題や課題を抱える当事者が持つニーズを理解することができる
4. 保育者として求められる役割、望ましい関わり方についてイメージすることができる

《授業計画》

1. オリエンテーション ー子ども家庭福祉とは何かー
2. 子ども家庭福祉の歴史の変遷
3. 子どもの貧困
4. 子どもの権利
5. 母子保健
6. 保育・教育施設と幼保一体化
7. 子育て支援サービス
8. 社会的養護
9. 児童虐待とドメスティックバイオレンス防止への支援
10. ひとり親家庭の支援
11. 障がいのある子どもへの支援
12. 非行少年等への対応・支援
13. 子ども家庭福祉に関わる機関
14. 子ども家庭福祉に関わる機関
15. まとめーこれからの子ども家庭福祉に必要なもの・関係者に求められる関わり

《成績評価の基準・方法》

試験 (40%)、授業内の取り組み(事前学習や事後学習の課題やレポート等)(60%)によって総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・杉本 敏夫監修
立花直樹・渡邊慶一・鈴木晴子・中村明美編「シリーズ・最新はじめて学ぶ社会福祉
児童・家庭福祉ー子どもと家庭の最善の利益ー」ミネルヴァ書房

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：新聞やニュースを読む際、現代社会における子どもや家庭に何が起きているのかを把握するよう努める。毎回提示されるキーワードについての調べ学習を行う。事後学習：毎回授業の最後に提示されるテーマについて、次回の授業までにまとめてくる。

社会福祉

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 保・主事
担当 ★丸目 満弓

《授業の概要》

前半は社会福祉に関わる基本的な概念理解や制度的枠組みについて、中盤では子どもや家庭を支援するための相談援助について学ぶ。さらに後半では社会福祉における現代的課題について保育職員の視点から実情を把握する。社会福祉を総合的に学ぶことにより、子どもや保護者が抱える問題の解決に向けて保育者として必要な基本的知識や技術を身につけることをめざす。

《学生の到達目標》

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。
2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
3. 社会福祉における相談援助について理解する。
4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

《授業計画》

1. 現代社会における社会福祉の理念と概念
2. 社会福祉の歴史の変遷
3. 子ども家庭支援と社会福祉
4. 社会福祉の制度と法体系
5. 社会福祉行財政と実施機関
6. 社会福祉施設と社会福祉の専門職
7. 社会保障および関連制度の概要
8. 社会福祉における相談援助とは
9. 相談援助の理論および意義と機能
10. 相談援助の対象と過程
11. 相談援助の方法と技術
12. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み
13. 社会福祉の動向と課題 ー少子高齢化社会における子育て支援
14. 社会福祉の動向と課題 ー共生社会の実現と障害者施策
15. 社会福祉の動向と課題 ー在宅福祉・地域福祉の推進

《成績評価の基準・方法》

試験 (40%)、授業内の取り組み(事前学習や事後学習の課題やレポート等)(60%)によって総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・立花直樹・波田英治・家高将明編「最新・はじめて学ぶ社会福祉第4巻「社会福祉ー原理と政策」」ミネルヴァ書房

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

新聞、テレビ等で取り上げられる「社会福祉」に関するニュースを読む際、特に子どもや家庭との関連の有無などを意識しながら自分なりの視点を持つように努める。毎回提示されるキーワードについての調べ学習を行う。事後学習：毎回授業の最後に提示されるテーマについて、次回の授業までにまとめてくる。

社会的養護 I

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 保
担当 ★前田 崇博

《授業の概要》

貧困や児童虐待などの家族問題が深刻化する中、家庭に代わって子どもの保護・養育を行う社会的養護へのニーズがますます高まっている。社会的養護の制度体系や専門性を学ぶことで、私たちはあらためて、家族とは何か、子どもを育てるとはどのような営みかといった身近な問いを見つめなおすことができる。本授業では、社会的養護の制度体系、歴史の変遷・現状と課題について学習する。現代における社会的養護の意義、歴史の変遷について概観し、子ども家庭福祉における社会的養護の位置づけを確認する。また、社会的養護に関する制度、実施体系、専門職を理解したうえで、施設養護、家庭的養護の実際を知り、現在の社会的養護の課題について考える。

《学生の到達目標》

- 1 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する
- 2 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護について理解する
- 3 社会的養護の制度や実施体系について理解する
- 4 社会的養護の対象や形態、関係する専門職について理解する
- 5 社会的養護の現状について理解する

《授業計画》

1. 社会的養護の理念と概念
2. 社会的養護の歴史の変遷
3. 子どもの人権擁護と社会的養護
4. 社会的養護の基本原則
5. 保育士の倫理と社会的養護
6. 社会的養護の法体系
7. 社会的養護の実施体系
8. 児童福祉施設の概観について学ぶ (1) 児童養護施設、乳児院
9. 児童福祉施設の概観について学ぶ (2) 障がい児施設、児童心理治療施設
10. 社会的養護の対象
11. 社会的養護関わる専門職
12. 家庭養護と施設養護
13. 社会的養護に関する社会的状況
14. 社会的養護と地域福祉
15. 社会的養護の課題と問題

《成績評価の基準・方法》

試験 (50%)、授業内での演習レポートおよび授業内容をふまえた事後学習によるレポート (50%) により評価を行います。

《授業で使用する教科書》

・伊藤嘉余子 福田公教「社会的養護」ミネルヴァ書房

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

テキストとは別に適宜プリントを配布します。しっかりファイリングして行ってください。また、ビデオ学習も多いので、提出する感想とは別に内容を記録していくノートを準備してください。虐待等の事件はリアルタイムで紹介していきます。自分でも常に児童系のニュースをチェックするよう心がけてください。特に、新聞の切り抜き、ネットニュースの保存、テレビの録画等、少しずつ習慣づけることでジャーナリズムの視点も醸成してください。

社会的養護 II

1 年次(半期)
1 単位 (演習)
資格 保
担当 ★井筒 貴史

《授業の概要》

対象者 (子ども) の理解をふまえた社会的養護の基礎的な内容について理解する。さらに、施設養護や家庭養護の現状および支援内容について具体的に理解する。また施設養護、里親制度それぞれの特性、現状を理解し、支援計画について学んだ上、社会的養護にかかわる専門的技術を習得をめざす。さらに子ども虐待の防止と家庭支援、児童の権利擁護、保育士等の倫理についても具体的に学ぶ。演習授業では、具体的な事例をとおして、学生同士が意見を出し合いながら「頭の中で支援をイメージできる」ような展開をめざす。

《学生の到達目標》

社会的養護を必要とする子どもやその家族への理解を深め、施設を中心とした社会的養護の現場での対人支援の基礎的技量を習得する。また事例演習や支援計画での学びから、困難な状況にある子どもや家族への支援について、自ら考え、主体的に行動できるようにする。

《授業計画》

1. オリエンテーション及び「社会的養護とは何か」について概観を学ぶ
2. 社会的養護の利用者理解① 児童養護施設を中心とした対象者の理解
3. 社会的養護の利用者理解② 乳児院を中心とした対象者の理解
4. 社会的養護の利用者理解③ 障がい児施設を中心とした対象者の理解
5. 社会的養護の施設基礎学習① 児童養護施設の支援計画の理解
6. 社会的養護の施設基礎学習② 乳児院の支援計画の理解
7. 社会的養護の施設基礎学習③ 障害児施設の支援計画の理解
8. 児童養護施設の現状と課題について学ぶ
9. 乳児院の現状と課題について学ぶ
10. 障がい児 (者) 施設の現状と課題について学ぶ
11. 施設保育士の基礎的実践演習 (1) 乳児院、障がい児施設での実技演習
12. 施設保育士の基礎的実践演習 (2) 児童養護施設での対人支援演習
13. 子どもの権利と社会的養護の実践について理解する
14. 施設保育士の資質と倫理について理解する
15. 社会的養護と施設保育士の課題について考察する

《成績評価の基準・方法》

各授業ごとの学習レポート (60%)、授業内容をふまえた事後学習の課題レポート (40%) で評価を行います。

《授業で使用する教科書》

・杉山宗尚・原田句哉「図解で学ぶ保育 社会的養護 II」萌文書林
他、適宜プリント等を配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

社会的養護に関連する資料を配布し、授業・演習を進めます。事前学習として次回内容の配布資料での予習が必要です。事後学習としては、授業資料・映像資料をもとに復習およびレポート作成をおこなっていただきます。最大の事後学習は、保育実習 I の施設実習での実践です。実際に支援を行う際に「支援内容を頭の中にイメージできること」がもっとも大切になります。

保育の心理学

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 幼・保
担当 小山 顕

《授業の概要》

子どもたちと関わる際に必要な心身の発達過程に関する基本的な知識を修得し、その心身の発達状態に応じた関わり方を考える。授業では発達理論や心理実験なども紹介し、子どもへの理解を深める。

《学生の到達目標》

①子どもの心身の発達過程・発達段階の特徴を理解し、説明することができる②子どもの発達に応じた関わり方を考えることができる③学んだことを自らの実習やキャリアに活かすことができる

《授業計画》

1. ガイダンスー発達とは何か
2. 胎児期の発達
3. 知覚の発達
4. 愛着の発達
5. 身体機能と運動機能の発達
6. 認知機能の発達①基礎
7. 認知機能の発達②視覚認知
8. 認知機能の発達③数量
9. 言語の発達
10. 社会性の発達①自己と感情
11. 社会性の発達②他者との関わり
12. 保育の実践の評価
13. 乳幼児の学びについて①認知的学び
14. 乳幼児の学びについて②社会的学び
15. 乳幼児の学びを支える保育

《成績評価の基準・方法》

授業内レポート30%、定期試験70%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

授業時に担当者から説明します。

子どもの保健

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 保
担当 井上 里子

《授業の概要》

少子高齢化における子どもの健全育成には、単に子どもの身体と心の発達のみならず、子どもを取り巻く教育環境の時代的変遷を理解し、統合できる力が求められている。保育者の質と向上を目指して、保育に必要な保健知識を深め、小児の特徴的な疾病や事故を把握し、母子保健や児童福祉施策とその課題についても概説し、子どもの理解を深め、到達度の確認をする。

《学生の到達目標》

子どもの心身の健康増進を図る意義を理解し、子どもの身体発育、生理、運動、精神機能の発達と保健、また疾病とその予防法や、適切な対応を理解することができる。更に保育における環境や、衛生と安全管理、並びに施設などにおける子どもの心身の健康について、現状と課題も理解する事ができる。

《授業計画》

1. 小児の発達、発育の総論 (子供の身体発育について)
2. 生理機能①体温、呼吸、排泄
3. 生理機能②睡眠
4. 感染症①ウイルス感染症
5. 感染症②細菌感染症
6. 予防接種について (予防接種の現状と課題について)
7. 食中毒について
8. 皮膚・アレルギーの病気について
9. 循環器・血液・泌尿器・生殖器の病気について
10. 運動器・眼・耳・鼻の病気について
11. 事故と応急処置① (現場で起こりやすい事故の応急手当について)
12. 事故と応急処置② (応急処置と救命処置について)
13. 事故と応急処置③ (子供のファーストエイドについて)
14. 子供の精神保健の現状と課題について
15. まとめ (子供の疾病と適切な対応について)

《成績評価の基準・方法》

到達度の確認、授業への参加度や授業態度、レポートなど、総合的に評価して、60点以上を合格とする。・テスト80%・授業への参加態度・小レポートなど20%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

・巷野悟郎「子どもの保健 第7版」診断と治療社 他、適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

講義で配布する資料や文献を読み、医学用語やわからない事柄を調べておくこと、また配布講義プリント内容を冊子などにまとめ、再度確認して到達度確認試験に備えること、毎時の学習については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。

領域指導法(健康)

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 幼・保
担当 ★石丸 るみ

《授業の概要》

乳幼児の発達に即した、主体的・対話的な学びを踏まえ、具体的な保育を構想する方法を身につける。
生涯にわたる人格形成の基礎を培う時期にあたる子どもの心身の健康を理解し、指導の在り方、問題解決能力などを身につける。

《学生の到達目標》

乳幼児期の教育・保育の基本を踏まえ、育みたい資質・能力を理解し、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。そして乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を構想する力を身につける。

《授業計画》

1. 領域指導法「健康」のねらい・目的・内容について
2. 子どもの健康と保育環境
3. 子どもの体と心について
4. 応急手当と健康について
5. 子どもの疾病と適切な対応について①(感染症・感染経路について)
6. 子どもの疾病と適切な対応について②(子どもの慢性疾患・三大症状について)
7. 子どもの健やかな成長発達について(3つの視点含む)
8. 子どもの社会性の発達について
9. 子どもの事故防止及び健康安全管理について
10. 子どもの健康と食育について
11. 楽しく食べる保育の取り組みについて
12. 子どもの事故の発生要因とその対策について
13. 保育における事故防止のポイントについて
14. 子どもの基本的生活習慣の獲得時期の目安について
15. 年齢別の発達と遊びについて

《成績評価の基準・方法》

指定の課題や発表時の取り組みによる評価(50%)、ミニテスト(50%)とする。

《授業で使用する教科書》

・小林美由紀「授業で現場で役に立つ! 子どもの健康と安全 演習ノート改訂第2版」診断と治療社 他、適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説2018」フレーベル館・厚生労働省「保育所保育指針解説2018」フレーベル館 他、適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

子どもに関するニュースなどの他、街の中で出会う子どもに関心を持ち、乳児にとつての最善の利益とは何かを日頃から考えてみましょう。

人間関係

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 幼・保
担当 佐藤 佳枝

《授業の概要》

子どもの人間関係の獲得と深化に果たす保育者の役割について理解することを目的とする。
乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、保育・幼児教育で保障すべき保育・教育内容に関する知識を身につける。特に領域「人間関係」の基礎知識として関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で人と関わる力が育つことを理解する。

《学生の到達目標》

乳幼児を取り巻く人間関係の意義と現代的課題を理解し、発達や生活における関係発達論的視点を理解する。具体的には、①人間関係の発達に関して理解を深め、様々な問題に対する対応法を考えることができる②保育者として子どもの豊かな人間関係を育む方法を説明できる③保育や幼児教育において人間関係の形成が重視されるようになった背景について説明できる。

《授業計画》

1. 子どもの生活と人間関係
2. 現代社会と子どもの人間関係及び子どもを取り巻く今日的課題
3. 保育内容「人間関係」のねらいとその内容の取り扱い
4. 人間関係を育てる保育
5. 人間関係の発達の基盤①自己の発達と他者理解
6. 人間関係の発達の基盤②愛着と人間関係
7. 人間関係の発達の基盤③仲間との関わり
8. 人間関係の発達の基盤④養育者と子どもの関係
9. 遊び・生活の中で育つ人間関係(社会性・道徳性の発達)
10. 環境構成や人との関わり
11. 人との関わりの実際とその援助
12. 保育者に求められる人間関係
13. 子どもの心理的安定と保育者の関わり
14. 子どもの仲間作りと保育者の関わり
15. 他者との関わりの中で育つ主体性と協同性・他者理解の発展と展開

《成績評価の基準・方法》

定期試験(50%)、毎回の授業の最後に提出する小レポート及びディスカッション等への参加態度(50%)

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前：初回授業までに自身の幼少期を思い出し、影響を受けた人物について考える。教科書をしっかり読む
事後：その日の授業を振り返り、ノートをまとめる

環境

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 幼・保
担当 ★大嶋 健吾

《授業の概要》

現代の子どもたちを取り巻く環境についての理解を深め、環境の構成、再構成について考察するとともに、子どもと身近な環境との関わりにおける思考や科学的概念の発達、認知的発達の特徴を踏まえ、演習を通して理解、実態の把握につなげる。

《学生の到達目標》

領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能を身につける。特に領域「環境」の指導の基礎となる、現代の子どもたちを取り巻く環境とそこから生まれる現代的課題、子どもたちと身近な環境との関わりについて学び、理解する。

《授業計画》

1. 保育内容「環境」とは
2. 環境を通して行う保育とは
3. 身近な環境との関わり：園内「保育室」の環境～多様な物や道具とのかかわり～
4. 身近な環境との関わり：園内「園庭」の環境～自然の特性を活かす～
5. 身近な環境との関わり：自然環境を実践事例から見る
6. 保育内容「環境」と保育：自然との関わりと具体的な活動（自然物の遊び等）
7. 身近な環境との関わり：季節の変化と行事～運動会から～
8. 身近な環境との関わり：生き物とのかかわりを通した子どもの学び
9. 保育内容「環境」と保育：自然との関わりと具体的な活動（自然体験活動等）
10. 身近な環境との関わり：文字や標識、数や図形への関心～大縄跳びの遊びから～
11. 保育内容「環境」と保育：子どもを取り巻く、標識・文字環境と具体的な活動
12. 身近な環境との関わり：生活のなかでの情報に興味や関心を持ち遊びへとつなげる
13. 保育内容「環境」と保育：生活に関係の深い情報や施設とそれに関わる具体的な活動
14. 海外における保育環境より
15. 現代社会における課題と子どもを取り巻く環境～過去と現代の環境比較から～

《成績評価の基準・方法》

毎回の授業の最後に提出するレポートなど授業への取り組み（80%）とフォトブックづくり（20%）で評価する。

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習として、身のまわりにある環境や保育環境に関心を持ち、情報収集を心がける。事後学習として、講義ノートをもとめておく。

言葉

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 幼・保
担当 日高 由貴

《授業の概要》

領域「言葉」の指導の基礎となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につける、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身につける。具体的には、人間の証といえる「言葉」の意義と機能について理解した上で、幼児の言葉を育て、豊かにする教材や実践に関する知識を身につける。グループワークとディスカッションを通し、他者の意見を聞いた上で自らの考えを深め、言語化して伝える力を育む。批判的思考を身につける。

《学生の到達目標》

言葉の持つ意義と機能を理解し、乳幼児期の言葉の発達過程について説明できる。また言葉に対する感覚を豊かにする実践を通して、感性を養う。さらに児童文化財について基礎的知識を深め、発達における児童文化財の意義を理解する。

《授業計画》

1. 保育内容「言葉」とは
2. 人間にとっての言葉の意義と機能について
3. 子どもの言葉の獲得について
4. 発達過程における言葉の位置づけについて
5. 言葉に対する感覚を豊かにする実践について①言葉の美しさ・楽しさ
6. 言葉に対する感覚を豊かにする実践について②言葉遊び
7. 言葉に対する感覚を豊かにする実践について③保育への取り入れ方
8. 児童文化財の実践について①児童文化財の意義とその歴史
9. 児童文化財の実践について②児童文化財の種類とその内容
10. 児童文化財の実践について③保育への取り入れ方
11. 創作児童文化財の製作発表①絵本
12. 創作児童文化財の製作発表②紙芝居
13. 創作児童文化財の製作発表③素話
14. 幼児における言葉の伝え合いについて
15. 幼児期の終わりにまで育ててほしい姿～言葉の領域について～

《成績評価の基準・方法》

各回に課される課題の理解度と論理的思考力、獨創性、グループワークにおける発言と傾聴力によって評価する（100%）

《授業で使用する教科書》

・無藤隆「事例で学ぶ保育内容 領域 言葉」萌文書林・「厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館」・「文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館」・「内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館」他、適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：資料をよく読む 事後学習：その日の授業を振り返り、ノートをまとめる

乳児保育Ⅰ

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 保
担当 ★玉川 朝子

《授業の概要》

「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。乳児期は人間形成の基礎を培う大切な時期であり、近年その重要性が謳われている。子どもが心身ともに健やかに成長していくためには、共に過ごす保育者が良き理解者・援助者としてどのように関わっていけばよいく、講義内容や学生間でのディスカッションを通し、理解を深める。さらには保育所保育指針に基づいた「保護と教育の一体化」の意味を深く知り、乳児の発達に合わせた実践的な援助や配慮のための知識を身につける。

《学生の到達目標》

・乳児の発達段階やその特徴・遊びの提供方法を理解し、実際の生活の援助や環境について結び付けて考えることが出来る。
・3歳未満児の子どもたちに必要な保育とは考察した上で、乳児保育Ⅱの実践に必要な基礎的な知識が身につく。
・計画の必要性と作成方法を理解する。

《授業計画》

1. 授業概要・乳児保育について
2. 乳児保育の意義・目的
3. 乳児保育の基本
4. 乳児保育の現状と課題
5. 0歳児の発達と生活
6. 1歳児の発達と生活
7. 2歳児の発達と生活
8. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の実例 (1)
9. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の実例 (2)
10. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の実例 (3)
11. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり
12. 3歳以上児の保育に移行する時期の保育
13. 乳児保育における計画・記録・評価とその意義
14. 乳児保育における連携・協働
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

定期試験(60%)、授業内で適宜提出する課題(40%)

《授業で使用する教科書》

・石川恵美 編者/布村志保、小寺玲音、黒木昌、玉川朝子「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」嵯峨野書院

《参考書》

・厚生労働省 「保育所保育指針」フレーベル館

《事前・事後学習》

事前学習：教科書を読み深め、不明点を明らかにしておく。
事後学習：授業内で学んだこと実習やインターンシップ、生活の中で接する乳児の姿を観察し、学び得た理解と自分の体験をつなげていく。
・毎回の授業で理解したことを実践で生かしていけるよう、保育現場での子どもたちと接する自分を意識しながら意欲をもって臨んでほしいと思います。

特別支援教育基礎

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 幼・保
担当 樋口 幸

《授業の概要》

共生社会を形成していくには、教育・保育において、一人ひとりの発達や保育・教育的ニーズに応じた、情報を共有し連携・協働する、ともに育ちあう保育・教育が求められている。この講義では、障害児保育・特別支援教育の理念や歴史的変遷、合理的配慮を実現するための特別な支援が必要となる子どもの保育の実例、障害特性や援助・保育方法の基礎を学ぶ。また、個別の指導計画の作成、保育者や家族、地域の人々が育ちあう関係、特別支援教育の現状と課題等についても、視聴覚教材、小レポート、発表などを通して考える。授業は講義形式をベースとし、適宜グループワークを取り入れる。

《学生の到達目標》

①特別支援教育が求められた背景を理解する。
②特別な支援を必要とする子どもの障害の特性および心身の発達を理解する。
③特別な支援を必要とする子どもに対する教育課程や支援方法を理解する。
④障害はないが、特別な教育ニーズのある子どもの困難とその対応を理解する。
⑤特別な支援を必要とする子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働、園内の体制作り・特別支援コーディネーターの役割について理解する。

《授業計画》

1. 障害児保育・特別支援教育の理念 (制度・しくみ)
2. 障害児保育の歴史と現在 (発達障害・特別支援教育)
3. 発達と障害～発達の考え方・特性・理論・支援 (幼児期の特別支援の考え方)
4. 知的障害のある子どもの発達と理解と援助
5. 自閉スペクトラム症のある子どもの発達と理解と援助
6. 注意欠如・多動症のある子どもの発達と理解と援助
7. 学習障害のある子どもの発達と理解と援助・医療的ケアを必要とする子どもの発達と援助
8. 運動障害 (発達性協調運動障害・肢体不自由) のある子どもの発達と理解と援助
9. 視覚障害・聴覚障害・言語障害のある子どもの発達と理解と援助
10. 障害はないが支援が必要な子どもの理解と援助①～養育環境の問題を抱える子ども
11. 障害はないが支援が必要な子どもの理解と援助②～気になる子ども・気になる行動
12. 支援が必要な子どもの保育の実例～指導計画および個別の支援計画の作成
13. 支援が必要な子どもの保育の実例～具体的ななかかわり (環境構成の工夫、視覚支援など)
14. 保護者の理解と支援について
15. 学校・専門機関・医療との連携について

《成績評価の基準・方法》

毎回の授業の最後に提出する小レポートなど授業への取り組み (40%)、確認課題 (60%) で評価する。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、日頃より障害に関する新聞記事やニュースなどに関心をもち、情報収集を心がける。事後学習として、授業内容を振り返り、講義ノートをもとめておく。

障害の理解 I

1 年次(半期)
1 単位 (演習)
資格 なし
担当 ★多田 鈴子, ★松浦 満夫

《授業の概要》

多様化する保育現場（保育園/乳児院/障害児施設等）では発達障害の理解を深めた専門的な支援が求められます。本科目では「障害」の基礎知識を学習し、インターンシップ実習での現場実践、事例演習や施設見学を通して社会資源や基本的な支援方法について学びます。

《学生の到達目標》

1. 障害児者の発達保障と歴史と制度の基礎知識を学びます。2. 実践事例の演習（事例検討、現場見学）から基本的な支援方法を知ります。3. 現場実践とグループ演習から障害児者への理解を深めます。

《授業計画》

1. 「障害」の定義と特性
2. 障害の基礎知識① 知的障害、身体障害の基礎を学ぶ
3. 障害の基礎知識② 発達障害の基礎を学ぶ
4. 保育現場実践からの演習① インターンシップでの気付きからのグループ演習
5. 保育現場実践からの演習② インターンシップでの観察からのグループ演習
6. 障害児の特性の理解① 発達の特性を学ぶ
7. 障害児の特性の理解② コミュニケーションの特徴を学ぶ
8. 保育現場実践からの演習③ インターンシップでの保育士の支援からのグループ演習
9. 障害児者福祉の仕組みの理解① 歴史と制度の展開と障害児者施設
10. 障害児福祉の仕組みの理解② ノーマライゼーションと社会資源の発展
11. 保育現場実践からの演習④ インターンシップでの自らの実践からのグループ演習
12. 実践事例の演習①（児童発達支援施設の事例検討、現場見学実習）
13. 実践事例の演習②（障害者支援事例検討、現場見学実習）
14. 実践事例の演習③（地域生活支援の事例検討、現場見学実習）
15. 総括 ～障害児者支援の理解～

《成績評価の基準・方法》

授業や演習、見学実習での演習成果レポート（70%）と授業内容を踏まえた事後学習の総括レポート（30%）で評価します。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

本科目は本学科独自の選択科目です。集中講義形式と施設見学（実践事例検討）により、授業を進めます。本学科、1年次インターンシップ科目、2年次の「障害の理解II」を取得することにより「障害児保育基礎プログラム修了証」が授与されます。演習や見学に向けてしっかりと事前学習と振り返りの事後学習を重視します。

インターンシップ I A

1 年次(半期)
2 単位 (実習)
資格 なし
担当 総保専任教員

《授業の概要》

幼稚園、保育所、認定こども園などの役割や機能を学外実習を通して具体的に学ぶ。保育現場に関わることを通じて、保育者としての技術と理解を深める場である。保育実践の指導者のもとで経験を積み、保育の実態を体験的に総合的に理解し、保育実践の基礎的な能力と態度を身に付け、幼稚園教諭・保育士の職務への基礎的な理解を深める。

《学生の到達目標》

①インターンシップ実習における経験を通して保育現場の様々な状況を理解を深める。②保育現場の課題を体感し、自分自身の意見を考える。③子どもと関わる保育者、子どもの発達過程を観察し、理解する。

《授業計画》

1. ①インターンシップ実習は週に1日、インターンシップ先で実習を行う。
2. ②期間は4月から8月までを基本とする。
3. ③インターンシップ先は短大にて決定する。
4. ④インターンシップ先では、職員の指導のもと、子どもや利用者に
5. 積極的に関わり、な業務、知識、技術について学習する。
6. ⑤インターンシップ中には、実習日ごとにインターンシップ実習日誌を作成する。
7. ⑥その日誌をもとに、課題や自己目標の達成状況を確認し、
8. インターンシップ実習担当者より適宜、指導を受ける。
9. ⑦インターンシップ実習終了後は、すみやかに実習日誌縦じ込みのレポート課題を
10. 作成した上、日誌を翌日、短大に提出する。
11. ⑧「インターンシップ I B」科目と連携して、事前指導を授業内で行う。
12. ⑨インターンシップ実習終了後は、日誌やインターンシップ先評価内容をもとに、
13. 教員とともに内容の振り返りを行う。
14. ⑩自己課題を明確にするとともに、自己目標を設定し、
15. 後期の「インターンシップ II A」へとつなげていく。

《成績評価の基準・方法》

インターンシップ実習日誌（50%）、インターンシップ先からの評価（20%）、インターンシップ実習の各レポート（計30%）から評価する。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

インターンシップ実習に赴くための準備（体調を整える、保育の準備など）を毎時、しっかりとしておくこと。またインターンシップ実習が終了したその日にインターンシップ実習日誌を記録し、翌日に必ず提出すること。さらにインターンシップ先の子どもの発達に合わせ、保育技術の向上に努めること。

インターンシップ I B

1 年次(半期)
1 単位 (演習)
資格 なし
担当 ★大嶋 健吾, ★玉川 朝子

《授業の概要》

幼稚園、保育所、認定こども園などの役割や機能をインターンシップ I A と連携して学ぶ。乳幼児の発達過程や保育者としての技術を深めていく。学んだ知識や技術をもとに学外で実施されるインターンシップ実習に参加する。インターンシップ実習を充実させるためにも事前・事後の学習を十分に行っていく。

《学生の到達目標》

インターンシップ実習の意義と目的を理解し、自らの課題を明確にする。インターンシップ先における乳幼児の発達過程について具体的に理解する。またインターンシップ実習の計画・実践・記録や内容について具体的に理解する。そしてインターンシップ実習の事後指導を通して、総括と自己評価を行い、今後の学習に向けて課題や目標を明確にする。

《授業計画》

1. インターンシップと学外実習について
2. インターンシップ先について学ぶ① (幼稚園)
3. インターンシップ先について学ぶ② (保育所)
4. インターンシップ先について学ぶ③ (認定こども園など)
5. インターンシップ先でのオリエンテーションに参加し、実習園と子どもについて理解する
6. インターンシップ実習日誌の書き方① (観察ポイント)
7. インターンシップ実習日誌の書き方② (時系列に沿った記録術)
8. インターンシップ実習日誌の書き方③ (保育環境の構成)
9. グループ・ディスカッション① (インターンシップ先での経験を報告する)
10. グループ・ディスカッション② (インターンシップ先での経験を共有する)
11. グループ・ディスカッション③ (ディスカッション内容を発表する)
12. インターンシップ実習の自己課題を挙げる
13. インターンシップ実習の自己課題に取り組み① (具体的な改善方法)
14. インターンシップ実習の自己課題に取り組み② (PDCAサイクル)
15. 総括を行い、インターンシップ II A に向けて確認を行う

《成績評価の基準・方法》

以下の①・②・③の要件を全て満たすことで単位認定となる①前期インターンシップ実習に8日間以上参加・出席すること②インターンシップ I B の授業を3分の2以上出席すること③インターンシップ I A の評価が「可」以上であること

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

保育者には誠実な姿勢がもためられるので、インターンシップ実習に赴くために、その心構えを形成すること。毎時のインターンシップ実習から自己課題を挙げ、取り組むこと。またインターンシップ実習における自己反省をし、次回への課題を設定すること。

インターンシップ II A

1 年次(半期)
2 単位 (実習)
資格 なし
担当 ★大嶋 健吾, ★玉川 朝子

《授業の概要》

幼稚園、保育所、認定こども園などの役割や機能を学外実習を通して具体的に学ぶ。保育現場に関わることを通じて、保育者としての技術と理解を深める。保育現場の指導者のもとで経験を積み、保育の実態を体験的に総合的に理解し、保育実践の基礎的な能力と態度を身に付け、幼稚園教諭・保育士の職務への基礎的な理解を深める。

《学生の到達目標》

①インターンシップ実習における経験を通して保育現場の様々な状況を理解を深める。②保育現場の課題を体感し、深く考察し、理解する。③子どもと関わる保育者、子どもの発達過程を観察し、具体的に理解する。

《授業計画》

1. ①インターンシップ実習は週に1日、インターンシップ先で実習を行う。
2. ②期間は10月から2月までを基本とする。
3. ③インターンシップ先は短大にて決定する。
4. ④インターンシップ先では、職員の指導のもと、子どもや利用者により積極的に関わり、な業務、知識、技術について学習する。
5. ⑤インターンシップ中には、実習日ごとにインターンシップ実習日誌を作成する。
6. ⑥その日誌をもとに、課題や自己目標の達成状況を確認し、
7. ⑦インターンシップ実習担当者より適宜、指導を受ける。
8. ⑧インターンシップ実習終了後は、すみやかに実習日誌縦じまみのレポート課題を
9. ⑨作成した上、日誌を翌日、短大に提出する。
10. ⑩「インターンシップ II B」科目と連携して、事前指導を授業内で行う。
11. ⑪インターンシップ実習終了後は、日誌やインターンシップ先評価内容をもとに、
12. ⑫教員とともに内容の振り返りを行う。
13. ⑬自己課題を明確にするとともに、自己目標を設定し、
14. ⑭自分の保育技術向上へとつなげていく。
15. ⑮自分の保育技術向上へとつなげていく。

《成績評価の基準・方法》

インターンシップ実習日誌 (50%)、インターンシップ先からの評価 (20%)、インターンシップ実習の各レポート (計30%) から評価する。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

インターンシップ実習に赴くための準備 (体調を整える、保育の準備など) を毎時、しっかりとしておくこと。またインターンシップ実習が終了したその日にインターンシップ実習日誌を記録し、翌日に必ず提出すること。さらにインターンシップ先の子どもの発達に合わせ、保育技術の向上に努めること。

インターンシップⅡB

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし

担当 ★大嶋 健吾, ★玉川 朝子

《授業の概要》

幼稚園、保育所、認定こども園などの役割や機能をインターンシップⅡAと連携して学ぶ。乳幼児の発達過程や保育者としての技術を深めていく。学んだ知識や技術をもとに学外で実施されるインターンシップ実習に参加する。インターンシップ実習を充実させるためにも事前・事後の学習を十分に行っていく。

《学生の到達目標》

インターンシップ実習の意義と目的を理解し、自らの課題を明確にする。インターンシップ先における乳幼児の発達過程について具体的に理解する。またインターンシップ実習の計画・実践・記録や内容について具体的に理解する。そしてインターンシップ実習の事後指導を通して、総括と自己評価を行い、今後の学習に向けて課題や目標を明確にする。

《授業計画》

1. インターンシップ実習の意義と気づき
2. インターンシップ実習ⅠAの振り返り①(自己課題の列挙)
3. インターンシップ実習ⅠAの振り返り②(課題の改善方法)
4. エピソード記述の記録の録りかた①(エピソード記録の意義)
5. エピソード記述の記録の録りかた②(エピソードの観察眼)
6. 子どもの発達特性(乳児期)
7. 子どもの発達特性(幼児期)
8. 絵本と紙芝居の読み聞かせ技術について
9. グループ・ディスカッション①(インターンシップ先での経験を報告する)
10. グループ・ディスカッション②(インターンシップ先での経験を共有する)
11. グループ・ディスカッション③(ディスカッション内容を発表する)
12. インターンシップ実習の自己課題を挙げる
13. インターンシップ実習の自己課題に取り組む①(具体的な改善方法)
14. インターンシップ実習の自己課題に取り組む②(PDCAサイクルを通して)
15. 総括を行い、2年次の実習に向けて確認を行う

《成績評価の基準・方法》

以下の①・②・③の要件を全て満たすことで単位認定となる①後期インターンシップ実習に8日間以上参加・出席すること②インターンシップⅡBの授業を3分の2以上出席すること③インターンシップⅡAの評価が「可」以上であること

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

保育者には誠実な姿勢がもてられるので、インターンシップ実習に赴くために、その心構えを形成すること。毎時のインターンシップ実習から自己課題を挙げ、取り組むこと。またインターンシップ実習における自己反省をし、次回への課題を設定すること。

幼児音楽Ⅰ

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 幼・保

担当 山田 千智, 北田 敦子, 板垣 幾久子, 井上 裕子, 竹山 陽子, 大前 香菜子, 関口 大介, 小林 響子, 宋 和映, 河野 多映, 山本 益子

《授業の概要》

音楽教育において重要な役割を担うピアノの基礎的な演奏技術を習得するとともに、楽譜を読む必要となる音楽的知識を習入、理解する。90分授業を2つに分け、全体授業と個別レッスンをを行う。個別レッスンでは、個々の演奏技術に応じたレベルの曲を選定し、課題曲を進めながらレベルアップしていく。中間と期末に実技試験を実施する。試験内容は教則本から1曲暗譜して演奏すること、童謡課題曲を3曲弾き歌いで演奏することである。教則本の21番まで修了することが必要。

《学生の到達目標》

ト音記号・ヘ音記号ともにすばやく音をよむことが出来る。16分音符(付点・休符を含む)までのリズムをよむこと、それを表現することが出来る。メジャーコードとマイナーコードを感覚的に聴き分けることが出来る。英語音名を覚えた上で基本の3和音を弾くことが出来る。

《授業計画》

1. オリエンテーション、レベルチェックテスト
2. 楽譜の構造を知る一名称やその意味について
3. 音をすばやく読み、弾く練習①(運指について)
4. 音をすばやく読み、弾く練習②(ト音記号)
5. 音をすばやく読み、弾く練習③(ヘ音記号)
6. 音をすばやく読み、弾く練習④(大譜表)
7. 保育現場で歌われている生活のうたを知る
8. 聴く力をつける練習-メジャーコードとマイナーコードについて
9. リズム打ち①(4分の4拍子)
10. リズム打ち②(4分の3拍子)
11. リズム打ち③(4分の2拍子・2分の2拍子)
12. リズム打ち④(8分の6拍子)
13. 英語音名について
14. 夏の童謡に単音で伴奏付けを行う
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

実技試験(60%) 課題の進捗(10%) 筆記試験・毎回の小テスト(30%)

《授業で使用する教科書》

・「幼児音楽集-大阪城南女子短期大学編-」石川特殊特急製本株式会社・「かんたんメソッド コードで弾き歌い」カワイ出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習: 次の課題曲等、レッスン担当教員と目標を定め、それに向けて練習しておくこと。分からないリズムや曲想がある場合は専任教員や友人に尋ね、明確にしておくこと。事後学習: 全体授業では毎回の小テストあり、よく復習しておくこと。また、得た知識が演奏のどの部分に出てきているのか、自分なりに採ること。個別レッスンでは習得した技術をインターンシップや実習で実践出来ることが望ましい。

幼児音楽Ⅱ

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 幼・保

担当 山田 千智, 北田 敦子, 板垣 幾久子, 井上 裕子, 竹山 陽子,
大前 香菜子, 関口 大介, 小林 響子, 宋 和映, 河野 多映,
山本 益子

《授業の概要》

音楽教育において重要な役割を担うピアノの基礎的な演奏技術を習得するとともに、童謡に簡単なコードネームを用いて自らが伴奏付けを行い、より専門的な知識・技能を養う。個別レッスンでは、幼児音楽Ⅰの続き(担当教員は異なる)で、課題曲を進めながらレベルアップしていく。中間と期末に実技試験を実施する。試験内容は教則本から1曲暗譜して演奏すること、童謡課題曲を3曲弾き歌いで演奏することである。教則本の32番まで修了することが必要。

《学生の到達目標》

楽譜上の音楽的指示の意味を理解し、それを表現して演奏することが出来る。自分に合った効果的な練習方法を探ることが出来る。簡単なコードネームを用いて自ら伴奏付けを行うことが出来る。

《授業計画》

1. 授業説明、グループ分けの為のレベルチェックテスト
2. 音楽記号・音楽用語について
3. コードネームについて①(セブンスコードの作り方)
4. コードネームについて②(メジャーコードとセブンスコードを用いて伴奏を付ける)
5. グループ発表一秋の童謡に伴奏を付ける
6. 聴く力をつける練習Ⅰ(リズム聴音)
7. 聴く力をつける練習Ⅱ(楽譜の書き方)
8. 聴く力をつける練習Ⅲ(旋律聴音)
9. コードネームについて③(マイナーコードの作り方)
10. コードネームについて④(マイナーコードとセブンスコードを用いて伴奏を付ける)
11. グループ発表一冬の童謡に伴奏を付ける
12. コードネームについて⑤(ディミニッシュコードの作り方)
13. コードネームについて⑥(これまで習ったコードを用いて伴奏を付ける)
14. グループ発表一任意の童謡に伴奏を付ける
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

実技試験(60%) 課題の進捗(10%) 筆記試験・毎回の小テスト(30%)

《授業で使用する教科書》

・「幼児音楽曲集一大阪城南女子短期大学編一」石川特殊特急製本株式会社・「かんとんメソッド コードで弾き歌い」カワイ出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：次の課題曲等、レッスン担当教員と目標を定め、それに向けて練習しておくこと。分からないリズムや曲想がある場合は専任教員や友人に尋ね、明確にしておくこと。事後学習：主体授業では毎回小テストあり、よく復習しておくこと。また、得た知識が演奏のどの部分に出てきているのか、自分なりに探すこと。個別レッスンでは、習得した技術をインターンシップや実習で実践出来ることが望ましい。

うたと音楽(基礎)

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 幼・保

担当 油井 宏隆

《授業の概要》

表現つながる音楽的知識や技術を具体的な指導場面を想定して実践していく。授業時に発声やリズム打ち、表現法を習得しながら幼児の発達や学びの課程を理解し、保育に関する知識と保育技術を身に付ける。

《学生の到達目標》

学生が幼稚園での教育、保育園での保育の基本を踏まえた歌や音楽の引き出しの基礎を培い、必要な歌のレパートリーを広げ、表現することをねらいとして内容の理解できるようになる。また幼児への援助方法などを体得し、保育者として子どもたちが感じたことを自分なりに表現する方法を習得できるようになる。

《授業計画》

1. 授業概要の説明 コミュニケーションを促す歌とゲーム
2. はじまりのうた、行事のうた リズム打ち(説明及び基礎問題を実践)
3. 乗り物のうた、生活のうた リズム打ち(7問を実践)
4. リズム遊び、春のうた リズム打ち(個人発表)
5. 手遊び、うた遊び、初夏のうた コンコーネ1番
6. みんなのうた、絵かきうた、秋のうた コンコーネ2番
7. アニメソング、季節のうた、秋のうた コンコーネ3番
8. リズムソング、冬のうた コンコーネ4番
9. 身体表現を取り入れたうた(基礎)、初春のうた コンコーネ5番
10. 身体表現を取り入れたうた(応用)、春のうた コンコーネ(個人発表)
11. リズム体操を取り入れたうた 楽譜の仕組み(説明及び写譜)
12. 絵かきうた、リトミック 聴音(採り方の説明及び基礎4小節×2問)
13. 動物のうた、リズム体操 聴音(基礎問題8小節×2問)
14. 虫のうた、遊びうた 新曲視唱(基礎問題8小節×3問)
15. 個人発表(歌による表現を暗譜で行う、コードネームや音楽用語の筆記試験を行う)

《成績評価の基準・方法》

実技試験(60%)、小テスト(20%)、レポート(20%)から総合的に評価する

《授業で使用する教科書》

・岩口摂子「表現がみるみる広がる保育ソング90」明治図書

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習 配布楽譜の音採り及び音楽練習事後学習 授業時の要点及び実技の復習

うたと音楽(応用)

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 保
担当 油井 宏隆

《授業の概要》

子どもたちの知識や技術をより深める指導法を実践・応用していく。授業時にはコーラスや弾き歌いによる個々のみだけでなく、グループでのハーモニーや音楽表現の幅を広げていく。子どもたちが日頃親しんでいる歌や音楽以外にも幅広い音楽を習得し、保育の引き出しとして応用力を身につけていく。

《学生の到達目標》

学生が基本的な歌い方や表現を用いて、音楽表現を展開していくことを考え、歌や音楽の引き出しの基礎を培い、自己のレパートリーの中からより具体的に表現することができるようになる。また幼児の行動や修正を考え、年齢にあった歌唱法や曲を自分で研究することができるようになる。

《授業計画》

1. わらべ歌(子守歌) 秋の歌
2. わらべ歌(生活の歌) 春の歌
3. コーラス①(ハーモニー) 初夏の歌
4. コーラス①(ハーモニー) 夏の歌
5. コーラス②(2声) 冬の歌
6. 弾き歌い①(左が1本指での伴奏) 園生活の歌
7. 弾き歌い②(左が3和音の伴奏) 行事の歌
8. 弾き歌い③(左がコードの伴奏) 遊びの歌①(絵描き歌) 楽器作り①(笛の製作)
9. 指揮法①(拍子の振り分け) 遊びの歌②(手遊びうた) 楽器作り②(打楽器の製作)
10. 指揮法②(テンポと強弱) クリスマスソング(日本語) ①3つのコードネーム
11. 輪唱① クリスマスソング(英語) ②色んなコードネーム
12. 輪唱② いろいろな歌 喜怒哀楽表現法
13. 楽しい歌 アニメソング① 名曲鑑賞①(イタリア)
14. おもしろい歌 アニメソング② 名曲鑑賞②(ドイツ)
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

実技試験(60%)、小テスト(20%)、レポート(20%)から総合的に評価する

《授業で使用する教科書》

・小林美実「音楽リズム 幼児のうた楽譜集(幼児教育法シリーズ)」東京書籍

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習 配布楽譜の音採り及び音楽練習事後学習 授業時の要点及び実技の復習

造形表現Ⅰ

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 幼・保
担当 ★柴田 精一

《授業の概要》

造形表現の実践を通して、「つくり出す喜び」を味わい、表現を行うための基礎的な知識と技能を培うことで、乳幼児の表現を支援する感性を養う。また、平面、立体に関する多様な材料体験を深めることで、発達に応じた乳幼児の表現について考え、理解する。

《学生の到達目標》

領域「表現」、特に造形表現への関心を広げ、材料や用具に慣れ親しむ中で、幼児の感性や想像性を豊かにする様々な材料や技法を実践的に学び、幼児の表現活動を支援するために必要な、発想力および基礎的な技能と、材料や作品鑑賞の能力を培うことができる。

《授業計画》

1. オリエンテーション 授業概要の説明
2. 描画材料(鉛筆)の扱い方と表現
3. 描画材料(パステル・クレパス)の扱い方と表現
4. 描画材料(絵の具)の扱い方と表現
5. 絵の具を使用した様々な描画技法①
6. 絵の具を使用した様々な描画技法②
7. 課題制作(平面で表す)①～絵本の場面を表現技法で表そう：下描き～
8. 課題制作(平面で表す)②～絵本の場面を表現技法で表そう：着色～
9. 薄紙の扱い方と表現
10. 厚紙の扱い方と表現
11. 粘土の扱い方と表現①
12. 粘土の扱い方と表現②
13. 課題制作(立体で表す)①～樹脂粘土を使用したフェイクスイーツ：原型～
14. 課題制作(立体で表す)②～樹脂粘土を使用したフェイクスイーツ：仕上げ～
15. 作品鑑賞、まとめ

《成績評価の基準・方法》

提出作品(60%)、ポートフォリオ(20%)、レポート(20%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

【事前学習】日常生活において目にする色や形、描画材など様々な美的なものに興味関心を持ち、それらを造形表現にどのように生かすことができるのかを考える。【事後学習】授業で学習した技法や素材などを活用し、自主的に作品製作を行う。

造形表現Ⅱ

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 保
担当 大西 由佳

《授業の概要》

「造形表現」で学習した、造形表現に関する基本的な知識と技能を基に、身近な素材を使用した保育現場で活用できる題材を構想、制作し、保育現場で必要な材料体験について考え、その役割を理解する。

《学生の到達目標》

造形体験を通して、身近にある造形材料や幼児に体験させたい造形行為などを幼児の心情を理解しながら見つけたり考えたりできるようになる。また、表現に関する基本的な能力を制作に応用することができる。

《授業計画》

- 1.身の回りの素材と乳幼児の造形活動
- 2.色彩表現の基礎と応用1(色鉛筆を用いた表現)
- 3.色彩表現の基礎と応用2(絵の具を用いた表現)
- 4.身辺材料(自然材)の扱い方と表現1
- 5.身辺材料(自然材)の扱い方と表現2
- 6.身辺材料(加工材)の扱い方と表現1
- 7.身辺材料(加工材)の扱い方と表現2(制作)
- 8.課題表現制作「子どものおもちゃ-身辺材料を生かして」1(構想)
- 9.課題表現制作「子どものおもちゃ-身辺材料を生かして」2(制作)
- 10.10.課題表現制作「くらしと造形」1(段ボールからイメージを広げる)
- 11.11.課題表現制作「くらしと造形」2(制作)
- 12.2.課題表現制作「壁面制作-日本の四季」1(構想)
- 13.13.課題表現制作「壁面制作-日本の四季」2(色画用紙の加工)
- 14.14.課題表現制作「壁面制作-日本の四季」3(貼り付け、完成)
- 15.15.作品鑑賞・まとめ

《成績評価の基準・方法》

授業への取り組み方(造形への関心・意欲・態度)40%、課題作品(発想・構想・技能)60%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

造形活動で必要となる力は、「表現することを楽しむ心」そして「物事を不思議に思う感覚」です。この授業では「造形表現」で学んだ基本的な知識や技能を応用し、発展的な造形活動を行います。事前学習として、普段の生活から造形活動に使用できる材料や表現について考え、授業時に活用できるようにします。事後学習としては、授業で学んだ造形表現について、教育・保育実習でできる手順や準備物等の振り返りを行います。

表現法(絵本・読み聞かせ・人形劇・等)

1年次(半期)
2単位(講義)
資格 保
担当 山田 早智

《授業の概要》

保育において、絵本や紙芝居の読み聞かせは日常的に取り入れられる活動の一つである。絵本や紙芝居をはじめとする様々な教材を知り見たり触れたりした上で、教材作成や演習に取り組みながら表現方法を学び、子どもの前で実践できる力をつける。

《学生の到達目標》

保育における表現の楽しさ大切さを知り、自分らしく表現する力をつける。教材制作を通して教材への理解を深め、子どもに合った教材選びを考えられるようにする。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 野外観察
3. 絵本の持ち方や読み方
4. 年齢や季節に合った絵本・紙芝居選び
5. 絵本を読んでみよう
6. 表現遊び
7. ペープサート・指人形
8. ペープサートを作る
9. ペープサートを演じる
10. パネルシアター・エプロンシアター
11. 手遊び
12. うたと絵本
13. 表現してみよう(教材選び、事前準備)
14. 表現してみよう(実演)
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

授業時に提出する課題レポート60%、発表・準備40%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

子どもの年齢や季節ごとに、どんな絵本や紙芝居があるか、自分の経験から思い出したり、意識して触れる機会を作りましょう。また、授業等で触れた教材について、どんな場面で取り入れられるか考えてみましょう。

表現法(運動遊び・屋外遊び等)

1 年次(半期)
2 単位 (講義)
資格 保
担当 油井 宏隆

《授業の概要》

保育者として現場で子どもたちの前に立った時、どのような表現をしていくかを考え、様々な遊びを体得していく。そのためには大きく体を動かしたり、いろいろな遊びや視聴覚教材を利用して、子どもに興味を持ってもらうためのゲームや表現法を学習していく。

《学生の到達目標》

学生が保育者にとっての表現の大切さを理解し、その表現を体を使って実践することができるようになる。いろいろな遊びやゲームを行ないながらチームワークやゲームの面白さ、互いを理解し分かり合うことができるようになる。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 屋外遊び (公園での遊び実践)
3. 屋外遊び的な表現法 (活動)
4. 屋外遊び的な表現法 (振り返り)
5. 運動遊び的な表現法 (園での遊び)
6. 運動遊び的な表現法 (園でのグループワーク)
7. 屋外遊び的な表現法 (自転車運転マナー)
8. 運動遊び的な表現法 (いろいろなゲーム)
9. 身体遊び的な表現法 (子どもの身体表現)
10. 身体遊び的な表現法 (子どもの言葉表現)
11. 身体遊び的な表現法 (園での遊び応用編)
12. 身体遊び的な表現法 (ダンス)
13. 身体遊び的な表現法 (リトミック)
14. 運動身体遊び的な表現法 (体を使った表現のいろいろ)
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

参加貢献度70%、課題レポート30%等で総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

次の課題に関する下調べや準備をしっかりとしておく。事後学習 行なわれたことを自分なりにしっかりとまとめ、展開していけるようにノートなどにまとめておく。

教育実習 I

1 年次(通年)
3 単位 (実習)
資格 幼
担当 油井 宏隆, 山田 千智, 柴田 精一, 多田 鈴子, 佐藤 佳枝, 大嶋 健吾

《授業の概要》

教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通じて、教育者としての愛・情・使命感を深め、将来教員となるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する授業・実習である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。

《学生の到達目標》

幼児や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通じて、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。

《授業計画》

1. 教育実習の意義・目的・内容について理解する
2. 各実習における目的・内容を理解し、教育現場で実習することの自覚と責任を確認する
3. 幼児理解を深め、教育実習の心構えについて理解する
4. 実習指導案の立案方法と実習日誌(記録)を書く目的とその方法について学ぶ
5. 幼稚園の理解①(幼稚園教育要領を中心に学び、幼稚園の実際を理解する)
6. 幼稚園の理解②(一人一人にあった指導、幼児の実態を踏まえた教育活動を理解する)
7. 幼稚園の理解③(実際の教育現場を見学し、幼稚園教育における環境を学ぶ)
8. 幼稚園の理解④(見学会で学んだことをまとめ、グループ・ディスカッションを行う)
9. 実習日誌(記録)の作成方法を学び、その活用法を理解する
10. 実習指導案の立案とその書き方について学び、環境を通して行う教育の意義を理解する
11. 模擬保育の実施①(実習指導案に沿って、保育指導のシミュレーションを行う)
12. 模擬保育の実施②(実習指導案に沿って、保育指導のシミュレーションを行う)
13. 実習園でのオリエンテーションに参加し、実習園と子どもについて理解を深める
14. 教育実習計画について、グループ・ディスカッションを通して、多面的に検討する
15. 各自の実習目標や問題意識を明確化し、実習の課題を探る
16. 教育実習の総括①(実習の体験を通して考察したことをレポートにまとめる)
17. 教育実習の総括②(実習での気づきや成果・課題を今後の学習と実践へつなげる)
18. グループ・ディスカッション①(幼稚園での実習体験を報告し、共有する)
19. グループ・ディスカッション②(幼稚園での実習体験を多面的に検討する)
20. 教育実習報告会①(他の学生の実習園や実習についての発表を聞き、理解を深める)
21. 教育実習報告会②(幼稚園実習の意義を明確にし、今後の進路の課題を設定する)
22. 教育実習報告会③(教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける)
23. 個人面談①(実習校からの評価を知る)
24. 個人面談②(自己評価と反省を行い、課題をさらに明確化する)
25. 個人面談③(自分自身を多様な角度から検討して客観化を図る)
26. 個人面談④(今後に修得必要な知識や技能を考え、自己目標を設定する)
27. 教材研究①(幼稚園教育における教材の必要性を知る)
28. 教材研究②(幼児の発達に即した教材について理解し、深める)
29. 教育実習における自己評価(目標に対しての自己評価を行い、実習計画を検討する)
30. 今後の学習についての総括を行い、2年次における学外実習に向けて確認を行う

《成績評価の基準・方法》

実習園の「教育実習評価表」に基づいて実習生を評価(50%)し、さらに事前・事後指導の講義において実施する各種課題レポート(50%)と合算して評価する。

《授業で使用する教科書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習では教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高めておくこと。事後学習では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解すること。

保育実習Ⅰ

1年次(通年)
4単位(実習)
資格 保
担当 ★丸目 満弓, 他

《授業の概要》

保育所、児童福祉施設などの役割や機能を学外実習を通して具体的に学ぶ。観察・参加・実習という方法で保育実践に関わることを通して、保育者としての愛情と使命感を深め、能力や適性を考えるとともに課題を自覚する授業・実習である。一定の実践的指導力を有する指導者のもとで体験を積み、保育の実際を体験的・総合的に理解し、保育実践の基礎的な能力と態度を身に付ける。

《学生の到達目標》

観察実習や参加実習での子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。既存の教科目の内容を踏まえ、子ども保育及び保護者への支援について総合的に理解する。保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

《授業計画》

- ①実習期間は基本的に、施設実習が10月下旬からの【2週間】、
2. 保育所実習が翌年2月中旬からの【2週間】とする。
3. ②施設実習の実習先は、乳児院、児童養護施設、障がい児施設、障がい者施設である。
4. 実習形態は、宿泊による実習を基本とする。
5. ③保育所実習の実習先は、児童福祉法の規定する保育所とする。
6. 通所(通勤)での実習となる。
7. ④実習先では、職員の指導のもと、子どもや利用者にも積極的に関わり、
8. 「保育」の基礎的な業務、知識、技術について学習する。
9. ⑤実習中には、実習日ごとに実習日誌を作成する。その日誌をもとに、実習課題や
10. 自己目標の達成状況を確認し、実習担当者より適宜、指導を受ける。
11. ⑥実習終了後は、すみやかに実習日誌縦じ込みのレポート課題を作成した上、
12. 日誌を実習先に提出する。
13. ⑦「保育実習指導Ⅰ」科目と連携して、事前指導を授業内で行う。
14. ⑧各実習の終了後は、日誌や実習先評価内容をもとに、教員とともに実習内容を振り返る
15. ⑨2年次の実習へと結びつけていく。
16. 【実習に関する注意事項】
17. ①実習期間中は施設の生活に合わせて活動し、積極的に行動すること。
18. ②謙虚に学ぶ態度で指導を受け、傍観的な態度や批判的な態度は避けること。
19. ③欠席・早退・遅刻は前もって施設及び学校に連絡すること。
20. ④施設内の生活は、必ず職員の指示に従い、時間は正しく守り、無断で行動しないこと。
21. ⑤健康管理に留意すること。
22. ⑥子どもや利用者とは接するときは、個人的感情で行動せず、常に共感と理解を持つこと。
23. ⑦個人情報の取り扱い及び漏洩に注意すること。
24. ⑧指導担当職員だけでなく全職員に敬意を持ち、接すること。
25. ⑨宿舎に当てられた部屋の整理整頓、施設内の清掃に従事すること。
26. ⑩関係者と金品の貸借をしたり、許可なく買物を依頼したりされないこと。
27. ⑪社会人としての常識にはずれた行為をしてはならない。
28. ⑫できるだけ多くのものを学び、意欲的に行動すること。
29. ⑬乳幼児期の心身の発達に関与する保育者として規律と礼儀を守らなければならない。
30. ⑭保育者として責任ある言動をとらなければならない。

《成績評価の基準・方法》

施設実習と保育所実習の「実習評価表」に基づいて、それぞれ評価(合計50%)し、また施設実習と保育所実習における実習日誌(記録)を評価(合計20%)し、さらに各報告レポートをそれぞれ評価(合計30%)と合算して評価する。

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習として施設実習、保育所実習それぞれの準備を丁寧にとともに、実習計画をたてること。事後学習としてそれぞれの実習を振り返り、自己評価し、課題や反省を挙げておくこと。

保育実習指導Ⅰ

1年次(通年)
2単位(演習)
資格 保
担当 ★丸目 満弓, 日高 由貴, 多田 鈴子, 樋口 幸, 井筒 貴史,
★大嶋 健吾

《授業の概要》

この授業では保育所やその他の児童福祉施設の目的や機能、乳幼児の生活や保育士の職務についての学びを実習によって確かめ、深めることを目的とする。講義で学ぶ知識や技術をもとに学外で実施される施設実習及び保育所実習に参加する。これら学外実習を充実させるためにも事前・事後の学習を十分に行っていく。

《学生の到達目標》

保育実習の意義と目的を理解し、自らの実習の課題を明確にする。実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。また実習の計画・実践・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。そして実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けて課題や目標を明確にする。

《授業計画》

1. 保育実習の意義について
2. 学外実習の目的・実習の種類
3. 学外実習の基本事項
4. 見学実習の心得・レポート作成について
5. 見学実習の振り返り①(グループディスカッションを通して)
6. 見学実習の振り返り②(報告会を行い、他者の意見を聞く)
7. 保育所の役割と保育士資格
8. 社会福祉施設の役割と保育士資格
9. 施設類型と保育実習の課題(乳児院)
10. 施設類型と保育実習の課題(児童養護施設)
11. 施設類型と保育実習の課題(障がい関連施設)
12. 施設実習における計画と実践
13. 施設実習における観察、記録及び評価
14. 施設実習の振り返り①(グループワーク、グループディスカッションを通して)
15. 施設実習の振り返り②(報告会を行い、他者の意見を聞き、共有する)
16. 保育所実習での乳児へのかかわり
17. 保育所実習での幼児へのかかわり
18. 子どもの人権と最善の利益の考慮
19. プライバシーの保護と守秘義務
20. 職業間の役割分担や連携・協働
21. 保育の役割と職業倫理
22. 保育指導案の立案①(計画に基づく保育立案)
23. 保育指導案の立案②(模擬保育の実践)
24. 保育指導案の立案③(環境を通しての保育)
25. 保育所実習における計画と実践
26. 保育所実習における観察、記録及び評価
27. 保育所実習の振り返り①(グループワーク、グループディスカッションを通して)
28. 保育所実習の振り返り②(報告会を行い、他者の意見を聞き、共有する)
29. 施設実習と保育所実習の総括と自己評価
30. 学外実習を通しての自己課題の明確化

《成績評価の基準・方法》

以下の①・②・③の要件を全て満たすことで単位認定となる①施設実習と保育所実習、それぞれ10日間以上かつ80時間以上の学外実習に参加・出席すること②保育実習指導Ⅰの授業を3分の2以上出席すること③保育実習Ⅰの評価が「可」以上であること

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習では保育実習生として社会福祉施設と保育所の保育活動に参画する意識を高めておくこと。事後学習ではそれぞれの学外実習を経て得られた成果と課題等を首肯するとともに、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能等について理解すること。

保育実践演習Ⅰ

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 保
担当 総保専任教員

《授業の概要》

「子ども」「保育」に関連する全体会、ゼミによる個別演習により進行する。学生生活全般に関する指導、保育現場への参加も合わせながら、教育・保育・福祉の現場で適用する実践力の基礎を築く。保育に関わる専門的な授業を振り返り、保育士としての知識・技術を修得したことを確認するとともに、子どもに対する援助の技術や保育技術等について課題を掲げてグループ討議やフィールドワークによる主体的な学習を行い、問題解決能力を身につけ、保育実践への理解を深めていく。

《学生の到達目標》

①保育士としての必要な保育に関する専門的な知識・技術・教養・総合的な判断力・専門職としての倫理観等が習得・形成されたか、自らの学びを振り返る②自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する課題を分析し、対応などを多角的な視点から考察する力を習得する③①と②を踏まえ、自己課題を明確にし、保育の実践に際して必要な基礎的資質と能力を定着させる。

《授業計画》

1. ガイダンス(本教科の意義、授業の進め方、ゼミの運営、夏祭りボランティア等)
2. 保育の教材研究①(絵本・製作等の実技)
3. 保育の教材研究②(歌遊び・手遊び等の実技)
4. 保育の教材研究③(グループ発表・ディスカッション)
5. 保育に関わる課題についての講義①(保育士の意義・役割・責任・倫理)
6. 保育に関わる課題についての講義②(子ども理解と職員間の連携)
7. 保育に関わる課題についてのグループ討議と発表①(長時間保育と子どもの発達)
8. 保育に関わる課題についてのグループ討議と発表②(特別な支援が必要な子どもの対応)
9. 保育行事の企画についてのグループ討議
10. 保育行事の準備(グループワーク)①
11. 保育行事の準備(グループワーク)②
12. フィールドワークに参加①
13. フィールドワークに参加②
14. フィールドワークの振り返りとグループ討議
15. 前期授業内容の総括ならびに今後の自己課題の明確化

《成績評価の基準・方法》

各種の課題レポート内容(計40%)、保育内容の企画・運営・参加貢献度等(計60%)から判断する。

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

授業において学んだ「保育者の教養・知識・技術」について考え、保育関係科目の復習を十分に行うよう続けてください。また保育所や幼稚園等の保育行事等に積極的に参加し、保育者・子どもの理解を深めてください。さらに後期開講の「保育実践演習Ⅱ」において企画する保育行事等の準備を進めておきましょう。

保育実践演習Ⅱ

1年次(半期)
1単位(演習)
資格 保
担当 総保専任教員

《授業の概要》

「子ども」「保育」に関連する全体会、ゼミによる個別演習により進行する。学生生活全般に関する指導、保育現場への参加も合わせながら、教育・保育・福祉の現場で適用する実践力の基礎を築く。保育に関わる専門的な授業を振り返り、保育士としての知識・技術を修得したことを確認するとともに、子どもに対する援助の技術や保育技術等について課題を掲げてグループ討議やフィールドワークによる主体的な学習を行い、問題解決能力を身につけ、保育実践への理解を深めていく。

《学生の到達目標》

①保育士としての必要な保育に関する専門的な知識・技術・教養・総合的な判断力・専門職としての倫理観等が習得・形成されたか、自らの学びを振り返る②自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する課題を分析し、対応などを多角的な視点から考察する力を習得する③①と②を踏まえ、自己課題を明確にし、保育の実践に際して必要な基礎的資質と能力を定着させる。

《授業計画》

1. ガイダンス(本教科の意義、授業の進め方、ゼミの運営、クリスマス会等)
2. ピアノ演奏会指導
3. 保育実習に向けての教材研究①(責任実習指導案)
4. 保育実習に向けての教材研究②(模擬保育)
5. 保育に関わる課題についてのグループ討議と発表①(保育における安全管理)
6. 保育に関わる課題についてのグループ討議と発表②(虐待への対応)
7. 保育に関わる課題についてのグループ討議と発表③(保護者支援と子育て支援)
8. 保育行事の企画についてのグループ討議
9. 保育行事の準備(グループワーク)①
10. 保育行事の準備(グループワーク)②
11. フィールドワークに参加①
12. フィールドワークに参加②
13. フィールドワークの振り返りとグループ討議
14. 卒業研究合同発表会
15. 後期授業内容の総括ならびに今後の自己課題の明確化

《成績評価の基準・方法》

各種の課題レポート内容(計40%)、保育内容の企画・運営・参加貢献度等(計60%)から判断する。

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

授業において学んだ「保育者の教養・知識・技術」について考え、保育関係科目の復習を十分に行うよう続けてください。また保育所や幼稚園等の保育行事等に積極的に参加し、保育者・子どもの理解を深めてください。さらに2年次開講の「卒業研究Ⅰ」の履修の準備を進めておきましょう。

日本の憲法と人権

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 幼
担当 宮崎 康支

《授業の概要》

『日本国憲法』は日本国における最高法規であり、その内容を正しく理解したうえで自分の意見を持つようになることは、社会人として必須の教養である。また、今日の様々な人権問題についても然りである。それを踏まえて本科目においては、毎回一つのことを学ぶ。ひとつは、『日本国憲法』の概要と教育・保育におけるその意義である。テキスト『新装版 日本国憲法』に掲載されている日本国憲法の条文を14回に分けて読み、教育・保育に関連するものを含む今日的なニュースを取り上げながらその内容を理解する。もうひとつは、今日の人権問題に関する様々なテーマである。テキスト『身近に考える人権』の各章を事前に読んでもらい、その内容についてペアワーク・グループディスカッションにより議論する。そして、人権問題と日本国憲法の関係について考える。

《学生の到達目標》

1. 学生が、日本国憲法の教育・保育における意義を理解している
2. 学生が、今日の人権問題における自分の意見を述べることができる

《授業計画》

1. オリエンテーション/授業の進め方についての説明
2. 前文/人権のはじまり
3. 天皇/世界人権宣言と日本における人権規定
4. 戦争の放棄/子どもと人権
5. 国民の権利及び義務(1)/女性の人権
6. 国民の権利及び義務(2)/障害と人権
7. 国民の権利及び義務(2)/高齢者の人権
8. 国会/医療と患者の人権
9. 内閣/部落差別と人権
10. 司法/外国人と人権
11. 財政/経済的格差と人権
12. 地方自治/マイノリティと人権
13. 改正/さまざまなハラスメント
14. 最高法規/人権問題を身近に考える
15. 補則/差別する心理/授業のまとめ

《成績評価の基準・方法》

期末試験: 60%
毎回の授業における参加度と小レポートの内容: 40%

《授業で使用する教科書》

・講談社学術文庫編集部「新装版 日本国憲法」講談社・高井由起子「身近に考える人権」ミネルヴァ書房
他、適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習: 毎回、授業に用いる教科書の箇所についての課題プリントに記入し授業に持参する。
授業内でそのプリントにさらに記入し、授業の最後に提出する。これを「小レポート」とし、授業出席表として扱う。
事後学習: 毎回の授業で学んだことについて、次回授業に提出する課題プリントに記入する。

体育(理論)

2年次(半期)
1単位(講義)
資格 幼・保
担当 坂口 亜弓

《授業の概要》

子どもは遊びを中心に生活をしており、様々な身体活動を通じて行われる「運動あそび」は身体的・社会的・知的な発達を促している。保育者は運動あそびを中心とした活動の中で年齢や発達に応じた運動を教育的な視点を持って展開する必要がある。本科目では、体育についての基本的な考えに加え、なぜ保育者養成のカリキュラムで「体育理論」を学ぶ必要があるのかを子どもの運動機能の発達や健康と運動の関係性、体育としての運動遊びがどのように行われるべきかなど、講義やグループワークなどを通して総合的に学び、保育者として求められる体育・運動あそびに対する知識を習得することを目的とする。

《学生の到達目標》

1. 子どもの運動発達の特徴について理解し、説明できる。
2. 幼児体育の意義と役割について理解し、説明できる。
3. 幼児体育を指導するための基本的な考えを理解し、説明できる。
4. 体格・体力・運動能力などを適切に測定・評価することができる。
5. 発育過程や安全を考慮した授業準備ができる。
6. 保育者養成のカリキュラムにおける体育理論の必要性を理解し、説明できる。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 体育とスポーツの違い
3. 体育の成り立ち
4. 体育・スポーツと経済の関係
5. 環境が子どもの成長に与える影響
6. 乳幼児期における発育・発達と運動の発現
7. 幼児体育の意義と役割
8. 幼児体育指導における基本的な考え
9. 適切な測定・評価の方法
10. 子どもの安全の確保と応急手当Ⅰ 怪我等の対応
11. 子どもの安全の確保と応急手当Ⅱ 事故等の対応
12. 体育としてのあそびの実践
13. 体育としての運動あそびに関するグループワーク
14. 体育としての運動あそびに関するレポート作成
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

- ・定期試験は実施しない
- ・毎回の授業の最後に提出する小レポート(40%)
- ・レポート(20%)
- ・最終課題(40%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

【事前学習】 シラバスの内容をよく把握し、テーマに関する情報を事前に学習する。
【事後学習】 学習した内容を振り返り、保育現場での活用法について考察する。

教育制度

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 幼
担当 弘田 みな子

《授業の概要》

教育に関する社会的事項、制度的事項並びに学校と地域との連携、学校安全への対応について、自分自身の身近な教育経験をもとに紐解き、それぞれの教育制度の背景にある子ども観の変遷、教育方法の変化、制度の課題を理解する。

《学生の到達目標》

①現代の教育に関する社会的、制度的事項について、基礎的な知識を身に付けることができるとともに、それらに関連する課題を理解することができる。②我が国の幼児期の教育に関する教育制度についての知識を身に付けるとともに、学校と地域との連携に関することが理解でき、学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付けることができる。

《授業計画》

1. オリエンテーション：教育制度とは？
2. 幼児教育に関わる教育制度と教育行政の理念と仕組み
3. 義務教育に関わる教育制度と教育行政の理念と仕組み
4. 諸外国の幼児期の教育の状況と制度
5. 日本と諸外国の学校体系制度比較から日本の教育の制度的特色を考える
6. 幼小連携の意義と取り組み
7. 教育制度における体罰と懲戒
8. 教材の変化と教育制度
9. 教育におけるカリキュラムに関わる基礎理論と制度
10. 学校評価の基礎理論とPDCA
11. 教育現場の働き方改革と教育制度
12. 映像視聴：教員の仕事と制度
13. 様々な学校教職員と校務分掌
14. 教育の現代的課題と教育制度
15. 授業まとめ：レポート作成

《成績評価の基準・方法》

授業ごとのまとめ小レポートの提出と内容30%
授業での発言や積極性20%
レポート試験50%

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：授業中に適宜資料を配付するので、その資料をよく読み、興味を持ったことや分からないところはインターネットを使って調べる。
事後学習：資料やノートを読み返して復習問題に取り組み、知識の定着を図る。

保育者・教育者論

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 幼・保
担当 佐藤 佳枝

《授業の概要》

保育者・教育者に求められる役割や資質・能力について学ぶ。授業では、保育者の「制度的位置づけ」「社会的役割」や「倫理」について学ぶとともに、保育者としての基本的な資質・能力を身につける。授業では、具体的な事例を通して課題解決の専門性により理論と実践との結びつきを図るとともに、保育者・教育者になるにあたって、自らの課題を認識するとともに、学び続けるための意欲や自覚を養う。

《学生の到達目標》

・現代社会における教職の社会的意義と教職の職業的特徴について理解する。・保育者・教育者に求められる基本的な資質・能力や専門性について理解する。・チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性について理解する。・保育者・教育者になるために、自らを振り返り、成長課題を認識し、学生生活の改善・充実を図ろうとする意欲を喚起する。

《授業計画》

1. 保育者・教育者の役割について考え、公教育の目的を理解する。
2. 他の職業と教職との違いを理解し、保育者志望の自覚を高める。
3. 教育の動向とそれに伴う法規等について理解し、保育者の役割について考える。
4. 教職観の変遷を理解し、保育者の専門性について考える。
5. 今日の社会の動向を踏まえ、教員に求められる基礎的な資質・能力について理解する。
6. 学び続けるための教員研修の意義について理解する。
7. 保育者の多様な役割と園の管理・運営について理解する。
8. 組織の一員としての基礎的な資質・能力について事例を通して理解する。
9. 保育者としての基礎的な資質・能力について整理し、考察する。
10. 特に配慮を要する子どもと保護者への対応について事例を通して考える。
11. これからの保育者の課題について事例を通して理解する。
12. 保育現場での事例研究を通して、専門職の職遂行について考える。
13. 保育現場での事例研究を通して、学び続ける必要性を理解する。
14. 新教育課程における保育者像について考える。
15. 学生である自らを振り返り、強みと弱みを整理し、進路選択にむけて意欲を喚起する。

《成績評価の基準・方法》

毎回の授業で作成する小レポート(50%) 定期試験(50%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、社会における幼児教育に関する動向について関心を高めるために、授業の中で取り上げる場を毎回15分設ける。事後学習として、毎回の授業内容に関する具体的な事例について、教育実習・インターンシップ・保育実習等から考察し、次の授業で取り上げ、記録・考察する場を15分間設ける。

子ども家庭支援論

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 保・主事
担当 ★丸目 満弓

《授業の概要》

現代社会では子育てのあり方が多様化し、家庭をとりまく諸問題が複雑化している。子どもが育つ基盤である家庭の基本的役割を理解するとともに、現代の家族が抱える諸問題を「当事者の問題」としてだけでなく、社会のあり方と合わせて理解し、家庭支援の方法を学ぶ。基本的には講義形式ですめるが、一部にアクティブラーニング型の学び(事例検討をはじめとする個人ワークやグループワーク、ディスカッション)を取り入れることにより、知識の定着をはかり、具体的な家庭支援を行う保育者のあり方をイメージできることをめざす。

《学生の到達目標》

1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の体制について理解する。3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。

《授業計画》

1. オリエンテーションー子ども家庭支援の意義と必要性ー
2. 子ども家庭支援の目的と機能
3. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
4. 子どもの育ちの喜びの共有
5. 保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
6. 保育士に求められる基本的態度
7. 家庭の状況に応じた支援
8. 地域の資源活用と自治体・関係機関等との連携・協力
9. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
10. 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
11. 多様な支援の展開を行うための子ども家庭支援の内容・対象
12. 保育所等を利用する子どもの家庭への支援・地域の子育て家庭への支援
13. 要保護児童等及びその家庭に対する支援
14. 子ども家庭支援に関する現状と課題
15. 総括・まとめ

《成績評価の基準・方法》

試験(40%)と小テスト・レポートなど授業への取り組み(60%)を総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・立花直樹・安田誠人監修 青井夕書・中典子・吉田祐一郎・谷村和秀
編「子どもと保護者に寄り添う「子ども家庭支援論」」晃洋書房

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習：新聞やニュースを読む際、現代社会における子どもや家庭に何が起きているのかを把握するよう努める。毎回提示されるキーワードについての調べ学習を行う。
事後学習：毎回授業の最後に提示されるテーマについて、次回の授業までにまとめる。

保育の心理学

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 幼・保
担当 小山 顕

《授業の概要》

子どもたちと関わる際に必要な心身の発達過程に関する基本的な知識を修得し、その心身の発達状態に応じた関わり方を考える。授業では発達理論や心理実験なども紹介し、子どもへの理解を深める。

《学生の到達目標》

①子どもの心身の発達過程・発達段階の特徴を理解し、説明することができる②子どもの発達に応じた関わり方を考えることができる③学んだことを自らの実習やキャリアに活かすことができる

《授業計画》

1. ガイダンスー発達とは何か
2. 胎児期の発達
3. 知覚の発達
4. 愛着の発達
5. 身体機能と運動機能の発達
6. 認知機能の発達①基礎
7. 認知機能の発達②視覚認知
8. 認知機能の発達③数量
9. 言語の発達
10. 社会性の発達①自己と感情
11. 社会性の発達②他者との関わり
12. 保育の実践の評価
13. 乳幼児の学びについて①認知的学び
14. 乳幼児の学びについて②社会的学び
15. 乳幼児の学びを支える保育

《成績評価の基準・方法》

授業内レポート30%、定期試験70%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

授業時に担当者から説明します。

子ども家庭支援の心理学

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 保
担当 未定教員

《授業の概要》

時代の変化にともない保護者の子育てに関する知識や経験の乏しさ、それに対する戸惑いが見られるようになった。一歩身近な子育ての専門職である保育者には、保育に加えて保護者や家庭への支援も求められるようになってきている。この授業では、生涯発達や成長さらには支援を必要とする家庭が抱える課題など具体的な事例の理解を深めることを目的とする。

《学生の到達目標》

①子どもを発達の観点から理解し、各時期における発達課題を習得する。②子どもに対する家族や家庭の意義や機能を理解し、子どもとその過程を包括的に捉える視点をもつことができる。③子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。④子どもの精神保健とその課題について理解する。

《授業計画》

1. イントロダクション
2. 乳幼児期から学童前期にかけての発達
3. 学童後期から青年期にかけての発達
4. 成人期・老年期における発達
5. 家族・家庭とは
6. 家族・家庭の意義と機能
7. 親子関係・家族関係の理解
8. 子育ての経験と親としての育ち
9. 子育てをとりまく社会的状況
10. ライフコースと仕事・子育て
11. 多様な家庭とその理解
12. 特別な配慮を要する家庭
13. 子どもの生活・生活環境とその影響
14. 子どもの心と健康
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

試験(60%)と小レポートなど授業への取り組み(40%)を総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・立花直樹・津田尚子監修、要正子・小山頭・國田祥子編「子どもと保護者に寄り添う「子ども家庭支援の心理学」」晃洋書房

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

予習：子どもや子育てに関するニュースを日々把握し、情報収集をする。また、それらについて深く調べレポートとしてまとめる。まとめたものは、授業時に提出すると教員が講評を加え評価をつけて返却する。教科書を読み、章ごとに自主レポートとしてまとめる。まとめたものは、授業時に提出すると教員が講評を加え評価をつけて返却する。復習：毎回授業後に、授業の振り返りとして内容をまとめ、さらに自分で調べたことも加えてレポートとしてまとめる。まとめたものは、授業時に提出すると教員が講評を加え評価をつけて返却する。

幼児理解と教育相談

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 幼・保
担当 ★太田 友子

《授業の概要》

社会環境の変化に伴い、子どもの育ちをめぐる環境も著しく変化するとともに、子育てに対する不安を募らせ、孤立感を抱く保護者が増加している。授業では、子ども・保護者との向かい合い力について、事例研究を通して教育相談の基本を学ぶ。毎時間の自力解決と「振り返り」の場を設け、課題解決力を高める。

《学生の到達目標》

対人援助職として保育者に欠かせない教育相談に関する知識・技能を習得する。自らの言動について振り返り、カウンセリングマインドの実践意欲を喚起する。方法としての教育相談を学ぶだけでなく、かけがえのない一人ひとりの幼児や保護者を大切にすることを理解する。

《授業計画》

1. 教育相談の意義について理解し、子どもとの関わり方について考える。
2. 幼児理解を深めるための保育者の基本的な態度について理解する。
3. 保育者にとって教育相談を学ぶ意義と課題について理解する。
4. 保育者が行う教育相談の考え方について理解する。
5. 保育者が行う教育相談の進め方について事例を通して考え、理解する。
6. 発達の特性と遊びとの関係から幼児理解について理解を深める。
7. 幼児理解を深める方法(観察・記録)について事例を通して理解する。
8. 配慮を要する子どもの理解と保護者対応について、事例を通して理解する。
9. 配慮を要する子どもの理解と集団への関わりについて、事例を通して理解する。
10. 配慮を要する子どもの理解と組織的な対応について、事例を通して理解する。
11. 事例を通して、幼児のつまずきや周りの子どもへの対応について考える。
12. 事例を通して、保護者(家族)とのかかわり方について考える。
13. 保育者(援助者)のストレスについて学び、組織的な取り組みの重要性を理解する。
14. 保育者(援助者)のストレスについて学び、専門機関との連携の重要性を理解する。
15. 受容・傾聴等カウンセリングの基本を自らの生活で実践を図る意欲を喚起する。

《成績評価の基準・方法》

毎回の授業で作成する小レポート(50%) 定期試験(50%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習として、社会における子どもの育ちや子育てに関する動向について関心を高めるために、授業の中で取り上げる場を毎回15分間設ける。事後学習として、授業の内容に関する具体的な事例について、教育実習、インターンシップ等から考察し、次の授業で取り上げ、記録観察する場を15分間設ける。

子どもの理解と援助

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 保
担当 樋口 幸

《授業の概要》

保育における子ども理解とその方法、子どもを捉える保育者の姿勢について検討し、具体的事例を通して子どもの理解に基づく発達援助について学ぶ。一人ひとりの子どもの内面を理解する方法や具体的な援助の方法については視聴覚教材やグループワークなどを通して子どもの気持ちをくみ取り、理解するための分析力を身に付ける。

《学生の到達目標》

- ①保育実践において、実態に応じた一人一人の子どもの心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。
- ②子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。
- ③子どもを理解するための具体的な方法を理解する。
- ④子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本について理解する。

《授業計画》

1. 保育における子ども理解の意義
2. 子ども理解に基づく養護および教育の一体的展開
3. 子どもに対する共感的理解と子どもとのかかわり
4. 子どもを理解する視点①：子どもの生活や遊び
5. 子どもを理解する視点②：人的環境としての保育者
6. 子どもを理解する視点③：子どもの相互のかかわりと関係づくり
7. 子どもを理解する視点④：集団における経験と育ち
8. 子どもを理解する視点⑤：いざこざについて
9. 子どもを理解する視点⑥：保育環境の理解と構成
10. 子どもを理解する方法①：観察・記録と省察・評価
11. 子どもを理解する方法②：職員間の対話と協働
12. 子どもを理解する方法③：保護者との情報共有
13. 発達の課題に応じた援助とかわり
14. 特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助
15. 発達の連続性と就学の支援について

《成績評価の基準・方法》

定期試験(50%)、毎回の授業の最後に提出する小レポートなど授業への取り組み(50%)で評価する。

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

日頃より、保育・教育に関する新聞記事やニュースなどに関心を持ち、保育者となった自分をイメージしながら積極的に授業に参加する。事後学習として、授業内で取り上げた事項の理解を深める。

子どもの食と栄養 I

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 保
担当 木村 恵子

《授業の概要》

近年子どもを取り巻く食環境は大きく変化し、子どもの肥満・やせ・欠食等の問題も多様である。子どもが健やかに育つには、健全な食生活と成長に合わせた栄養の摂取が必須である。この授業では、子どもの発達と食生活の意義を理解し、関連する基礎知識と実技を学ぶ。

《学生の到達目標》

子どもの発達と食生活の特徴、栄養と代謝、食品、食の安全性についての基礎的知識を習得する。また保育現場において、子どもの健康管理と食生活支援に必要な基礎的技術を習得する。

《授業計画》

1. 子どもの健康と食生活の意義(なぜ子どもの食と栄養を学ぶのか)
2. 子どもの健康と食生活の意義(子どもの食生活をめぐる現状)
3. 栄養に関する基本的知識(栄養とは何か)
4. 栄養に関する基本的知識(栄養素の種類と機能)
5. 栄養に関する基本的知識(栄養素の消化と吸収)
6. 子どもの発育・発達と食生活 乳児期の食生活 1(乳汁栄養)
7. 子どもの発育・発達と食生活 乳児期の食生活 2(離乳食)
8. 調理実習 1(乳汁栄養)
9. 調理実習 2(離乳食)
10. 食物アレルギーのある子どもへの対応 1(アレルゲン・除去食・代替食)
11. 食物アレルギーのある子どもへの対応 2(保育所での対応)
12. 日本人の食事摂取基準と調理の基本(日本人の食事摂取基準)
13. 日本人の食事摂取基準と調理の基本(献立作成と調理の基本)
14. 子どもの食と栄養に関するまとめ 1(実習先での経験を通して考える)
15. 子どもの食と栄養に関するまとめ 2(授業を総括して)

《成績評価の基準・方法》

試験：70%
授業時に課すレポート等の提出物・実習時の参加貢献度：30%
により総合評価を行います。
提出物については、添削し返却。質問等については授業時にフィードバックを行う。

《授業で使用する教科書》

・松本峰雄監修「子どもの食と栄養 演習ブック(第2版)」ミネルヴァ書房

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習：次回の学習内容について教科書をよく読む。
事後学習：その日に学んだ授業内容について振り返り、実習体験と照らし合わせて知識の定着を図る。
その他、自分自身の食生活にも目を向け、日々の健康管理に関心を持つ。

子どもの食と栄養Ⅱ

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 保
担当 藤井 久美子

《授業の概要》

近年子どもを取り巻く食環境は大きく変化し、子どもの肥満・やせ・欠食等の問題も多様である。子どもが健やかに育つには、健全な食生活と成長に合わせた栄養の摂取が必須である。この授業では、子どもの発達と食生活の意義を理解し、食育の意義、食を通じた発達支援を学ぶ。

《学生の到達目標》

子どもの発達と食生活の特徴についての基礎知識を習得できる。また保育現場での子どもの健康と食生活を支援し、食の意義を伝える食育への基礎を身につけることができるようになる。

《授業計画》

1. オリエンテーション・前期の復習
2. 妊娠・授乳期の食生活
3. 幼児期の食生活
4. 学童期・思春期の食生活
5. 生涯発達と食生活
6. 調理実習1(幼児食)
7. 調理実習2(幼児食・アレルギー対応)
8. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養1(体調不良の子どもへの対応)
9. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養2(保育現場の対応と衛生安全管理)
10. 家庭における食と栄養
11. 児童福祉施設における食と栄養1(保育所給食)
12. 児童福祉施設における食と栄養2(障害のある子どもの食生活)
13. 食育の基本と内容1(理論と実際)
14. 食育の基本と内容2(演習)
15. 子どもの食と栄養に関するまとめ

《成績評価の基準・方法》

・試験(70%)
・講義後の振り返りシート・実習時の参加貢献度・提出物(製作課題)・課題プリント(30%)
により総合評価を行います。

《授業で使用する教科書》

・松本峰雄監修「子どもの食と栄養 演習ブック(第2版)」ミネルヴァ書房

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習: 次回の学習内容について教科書をよく読む。
事後学習: その日に学んだ授業内容について振り返り、実習体験と照らし合わせて知識の定着を図る。

教育方法・技術論

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 幼・保
担当 日高 由貴

《授業の概要》

幼児・児童の心身の発達過程及び特徴を理解し、学習に関する基礎的知識に基づいて保育・教育活動の中での視聴覚教材・情報機器の役割と活用方を理解する。また、現代の幼児教育・保育に必要としている思想や教育方法にふれ、深く学ぶこと、これからの社会を担う子どもたちを育成するにあたって必要な応用力を養う。グループワークやディスカッションを通してアクティブ・ラーニングについて自らの体験を通して理解を深める。課題に取り組むことで情報活用能力を育み、情報リテラシー、情報モラルについても学ぶ。

《学生の到達目標》

①知識・理解幼児の心身の発達及び学習の過程についての基礎的な知識を得る。保育活動に必要な視聴覚教材とその役割、活用法について理解する。②思考力・判断力・表現力等の能力幼児の心身の発達及び学習の過程について幅広い知識と理解を得て、適切な視聴覚教材とその役割、活用法を考えていくことができる。③主体的な態度・関心・意欲保育実践の場を想定し、幼児の心身の発達及び学習の過程を踏まえ、適切な視聴覚教材・デバイスの選択とその活用を展開できる。

《授業計画》

1. フレーベルの思想・幼稚園教育の原点を学ぶ
2. モンテッソーリ教育における教材活用と理念
3. シュタイナー教育における五感に働きかける教材の選定と活用
4. コダーイ・システムにおけるわらべうた、音楽教育
5. レッジョ・エミリアアプローチにおけるプロジェクト型教育
6. レッジョ・エミリアアプローチにおける芸術教育と視聴覚機器の活用
7. ピラミッド・メソッドにおけるプロジェクト活動と視聴覚機器の活用例
8. ピラミッド・メソッドの実践例と子どもの発達
9. 視聴覚機器の活用例、音響機器、映像機器、光源と各種の素材との効果
10. 日本における幼児教育の歴史と伝統的な遊び・伝統行事
11. 日本における幼児教育の歴史と現代社会において子どもたちに求められる資質・能力
12. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と教育技術
13. 幼児教育・保育における主体的で深い学び
14. 幼児教育・保育における幼児理解にもとづいた評価
15. これからの社会を担う子どもたちに求められる力と情報活用能力

《成績評価の基準・方法》

各回の授業で課される課題の理解度と、回答する際の情報活用能力(情報モラルを含む)によって評価する(100%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

授業時に担当者から説明します。

教育課程論・保育の計画と評価

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 幼・保
担当 未定教員

《授業の概要》

教育課程・保育の計画と評価についての基礎的な理解を深め、その上で具体的な教育課程・保育の計画の編成、作成、実践、省察・評価、改善の過程について学ぶ。また幼稚園教育要領、保育所保育指針の理解も深め、教育課程・保育の計画と評価が社会において果たしている役割や機能を学ぶ。授業は講義形式をベースとし、適宜グループワークを取り入れる。

《学生の到達目標》

教育課程・保育の計画と評価の意義を理解し、教育課程・保育の計画の編成方法と指導計画の作成方法について具体的に説明できる。また各教育・保育現場の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

《授業計画》

1. オリエンテーション、乳幼児教育におけるカリキュラムの実際―実践中の記録
2. 保育者にとっての教育課程・全体的な計画
3. 教育課程・全体的な計画とは何か(要領・指針の法的位置づけ、要領・指針の内容)
4. 保育の目標と計画の編成の原則・保育の計画における記録と省察
5. 子どもと遊びの理解(要領・指針における遊びの位置づけ)
6. 発達観を踏まえた乳幼児のカリキュラムの編成
7. 確認課題①、基礎資料としての幼稚園教育要領の変遷と現在
8. 基礎資料としての保育所保育指針の変遷と現在
9. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の制定、3法令の同時改訂について
10. 指導計画の種類と書き方
11. 教育課程・全体的な計画・指導計画の中の環境設定
12. 教育保育実践計画(縦割り保育、延長保育、預かり保育など)
13. 実践に応じた教育課程・全体的な計画の工夫
14. 実践の質の向上を図る記録のあり方(カリキュラム・マネジメント)
15. 確認課題②、保育実践力の向上とこれからのカリキュラムの編成と評価

《成績評価の基準・方法》

毎回の授業の最後に提出する小レポートなど授業への取り組み(60%)、確認課題(40%)で評価する。

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説を読む。事後学習として、毎回の授業内容を振り返り、講義ノートをもとめておく。

保育内容(総論)

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 幼・保
担当 佐藤 佳枝

《授業の概要》

「保育内容」とは、保育所や幼稚園、認定こども園において、保育の目標を達成するために展開される全ての内容を意味するものである。領域を総合的に理解し、子ども理解や保育方法について総合的に捉える視点を養い、実践に即して学ぶことを目指している。

《学生の到達目標》

各法令における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期に終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。

《授業計画》

1. 保育の全体構造と保育内容
2. 保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解
3. 幼稚園教育要領に基づく保育の全体構造と保育内容の理解
4. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育の全体構造と保育内容の理解
5. 保育の内容の歴史の変遷とその社会的背景
6. 子どもの発達や生活に即した保育の内容の基本的な考え方
7. 養護及び教育が一体的に展開する保育
8. 子どもの主体性を尊重する保育
9. 環境を通して行う保育
10. 生活や遊びによる総合的な保育
11. 個と集団の発達を踏まえた保育
12. 家庭や地域、小学校等との連携を踏まえた保育
13. 預かり保育などの長時間保育
14. 特別な配慮を要する子どもの保育
15. 海外等の多文化共生の保育

《成績評価の基準・方法》

毎回の講義で実施する各レポート内容(計30%)、レポート内容(30%)、試験(40%)によって評価する。

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習として保育所保育指針解説書、幼稚園教育要領解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説の保育内容に関する記述をよく読んでおくこと。事後学習として、保育の多様な展開について意識し、他の科目と関連つけて保育内容を考察すること。

領域指導法(人間関係・言葉)

2年次(半期)
2単位(演習)
資格 幼・保
担当 日高 由貴, ★石丸 るみ, ★丸目 満弓

《授業の概要》

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「人間関係」「言葉」のねらい及び内容について乳幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で、乳幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に実践する方法を考え、身に付ける。

《学生の到達目標》

幼稚園教育・保育所保育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「人間関係」「言葉」のねらい及び内容についても理解を深める。また乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて領域「人間関係」「言葉」における具体的な指導・保育を構想する方法を身に付ける。

《授業計画》

1. 保育内容「人間関係」の幼稚園教育要領と保育所保育指針におけるねらいと内容
2. 保育内容「言葉」の幼稚園教育要領と保育所保育指針におけるねらいと内容
3. 身近な人たちとの関係性と愛着の形成について
4. ことばへの関心、他者の話への興味と関心について
5. 自律性の発達・成長と活動、自分でできることは自分で
6. 自分の体験や関心を言語的表現について
7. 自主性の発達と活動、自分で考え自分で行動することについて
8. 欲求・欲望の移ろいを自己のことばで表現し、伝えることについて
9. あそびの変化と自己達成感の感受
10. 他者の思いを傾聴し、ことばで伝えることについて
11. 友人関係と感情の共有
12. 日常生活の中のことばに寄るコミュニケーション・スキル
13. 自己の主張と他者の主張への関心
14. 日常生活の中の関係性を作ることばへの関心
15. 集団性と共同活動、友人関係の深まり
16. ことばの楽しさや美しさの体感
17. 共同、共通の活動と、協力関係
18. 日常のイメージや体験の中のことばとその機能
19. 集団活動の中のルールと社会性
20. 絵本・ものがたりの世界観とことばによるイメージ
21. 友人関係の深まりと、愛他的行動
22. 文字ことばへの関心と文章による表現
23. 共有と分かち合いの意識
24. ことばのリズム、間、表情といったメタ言語の役割
25. 生活の中の社会的な関係性
26. ことばのイメージの展開と創造性の発達
27. 他者との関係性の深まり
28. 言葉遊びと、文字への関心
29. 他者への理解と幼児の特性
30. 他者との関係性を深める言葉の働き

《成績評価の基準・方法》

定期試験(60%)、授業中の小レポートや制作物(40%)

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 他、適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

予習: 次回の授業に向けたキーワードやテーマを伝えるので、事前に調べたり考えをまとめておくこと
復習: 毎回授業の最後に提示されるテーマについて、次回の授業までにまとめてくる。

領域指導法(環境・表現)

2年次(半期)
2単位(演習)
資格 幼・保
担当 ★大嶋 健吾, ★玉川 朝子, 佐藤 佳枝

《授業の概要》

1) 幼児の遊びや生活における、領域「環境・表現」の位置づけと重要性について説明できる。2) 乳幼児の認知的発達の特徴と道徳を理解し、乳幼児を取り巻く環境の諸側面への興味関心、それらとの関わり方について専門的知識を用いて説明でき、現代的課題と幼児期において身近な環境と関わることの意義について理解する。3) 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することによって表現を生成する過程について理解する。4) 身の周りの環境を五感で捉え、イメージを豊かに素材の特性を活かし、共同し表現することを通して、他者の表現を受け止め、共感し、より豊かな表現に繋げ、基礎的な知識技能を用い、幼児の表現活動に展開させることが出来る。

《学生の到達目標》

幼児教育の基本を踏まえ、「環境・表現」両領域のねらい及び内容を理解する。子どもの発達や学びの過程、子どもの周囲を取り巻く環境と、子どもの表現方法においての相互関係を理解し具体的な指導場面を想定して、保育を構想する力を身につけ、保育実践ができるようになる。

《授業計画》

1. 教育要領、保育指針、子ども園教育・保育要領の領域「環境」について
2. 教育要領、保育指針、子ども園教育・保育要領の領域「表現」について
3. 保育現場における表現と環境の関係性
4. 「環境」の基礎1 ～自然に親しみ動植物に触れる～
5. 「表現」の基礎1 ～自然をテーマにした表現活動～
6. 「環境」「表現」の基礎1 ～指導法の観点から～
7. 「環境」の基礎2 ～モノや道具に関わって遊ぶ～
8. 「表現」の基礎2 ～モノや道具をテーマにした表現活動～
9. 「環境」「表現」の基礎2～指導法の観点から～
10. 「環境」の基礎3～文字や標識、数量や図形に関心を持つ～
11. 「表現」の基礎3～文字などをテーマにした表現活動～
12. 「環境」「表現」の基礎3～指導法の観点から～
13. 「環境」の基礎4～遊びや生活の情報に興味を持つ～
14. 「表現」の基礎4～遊びや生活をテーマにした表現活動～
15. 「環境」「表現」の基礎4～指導法の観点から～
16. 「環境」の基礎5～現代と過去の子どもの取り巻く環境の違い～
17. 「表現」の基礎5～現代と過去をテーマにした表現活動～
18. 「環境」「表現」の基礎5～指導法の観点から～
19. 領域「環境・表現」の関係性～指導法の観点から～
20. グループ研究についての方法論
21. グループ研究1「テーマ選定～運動会・作品展・発表会の立場より～」
22. グループ研究2「テーマについての企画・立案」
23. グループ研究3「研究発表会取り組み～プレゼンテーション準備:パワーポイント～」
24. グループ研究4「研究発表取り組み～実演準備:身体表現の観点から～」
25. グループ研究5「研究発表取り組み～プレゼンテーション準備:模造紙～」
26. グループ研究6「研究発表取り組み～実演準備:制作の観点から～」
27. グループ研究7「研究発表 指導計画作成」
28. グループ研究8「研究発表 模擬保育実施～保育者の観点から～」
29. グループ研究9「研究発表 模擬保育実施～子どもの観点から～」
30. グループ研究10「各研究発表についての振り返り&講評」

《成績評価の基準・方法》

研究発表(準備、発表 60%) 毎回の授業の最後に提出する小レポート(40%)

《授業で使用する教科書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・文部科学省「保育所保育指針」フレーベル館

《参考書》

・文部科学省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《事前・事後学習》

事前学習に関しては、教育要領、保育指針、子ども園教育・保育要領を熟読し、内容を理解するとともに、個別に各テーマに沿った研究に向けて理解を深める。事後学習は、授業内容及び発表などを振り返り、自身の課題を発見・抽出しその改善に努め、発表に向けて精査する。

乳児保育Ⅱ

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 保
担当 ★玉川 朝子

《授業の概要》

・乳児(3歳未満児)の心身機能の未熟性を理解し、健康・安全に配慮しつつ、一人ひとりに応じた個別の対応の中で欲求を満たすことのできる重要性を学ぶ。
・乳児保育Ⅰで学んだ「基本的な信頼関係の形成」に必要な応答的な関わりを技術的に学び、愛着関係の必要性をより深く理解する。
・保育現場での事例を通して、「養護と教育の一体化」の意味を理解した上で、乳児に関わる保育者の役割とその実践力を養う

《学生の到達目標》

・乳児期は人格形成の基盤となる重要な時期である。子どもが心身ともに健康な生活を送れるよう、最善の利益を享受できるように、愛着関係(アタッチメント)を築きながら支援できる保育者のかかわり方を身につける。
・3歳未満児にとっての望ましい保育環境を提供する重要性を理解し、その為の整備方法を習得する。
・保育者の具体的な援助に必要なかかわり方や生活の中で技術を含めた実践ができる。

《授業計画》

1. 授業ガイダンス 乳児保育の基本
2. 子どもの一日の生活の流れ(デイリープログラム)と保育環境
3. 3歳未満児の発達・発育を踏まえた生活と援助の実際①(抱っことおんぶ、排泄、着脱)
4. 3歳未満児の発達・発育を踏まえた生活と援助の実際②(食事、ミルク・離乳食)
5. 3歳未満児の発達・発育を踏まえた生活と援助の実際③(沐浴・清潔保持の方法)
6. 0. 1歳児の発達を促す遊びについて①(命の誕生について)
7. 0. 1歳児の発達を促す遊びについて②(子どもの姿を通して遊びの捉え方を理解する)
8. 2歳児の発達を促す遊びについて
9. 3歳以上児の移行期に対する保育
10. 指導案の作成について
11. 長期的な指導計画と短期的な指導計画の作成
12. 保護者や保育者との連携(連絡帳を中心に考える)
13. 乳児保育における安全管理の意識について
14. 指導計画についての振り返りとまとめ
15. 全体のまとめ

《成績評価の基準・方法》

定期試験(60%) 課題レポート(40%)

《授業で使用する教科書》

・石川恵美 編者/布村志保、小寺玲音、黒木昌、玉川朝子「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」嵯峨野書院

《参考書》

・厚生労働省 「保育所保育指針」フレーベル館

《事前・事後学習》

実際の乳幼児の姿を映像で見ながら、乳児保育Ⅰでの理論と現場の実践が結びつくよう進めていきます。皆さんが実習等で体験した子どものかかわりの中で感じた疑問や思いを授業とつなげて考え、まとめておきましょう。また皆さんの子どもに対する眼差しを言語化していくことが出来るよう積極的に授業に臨んでください。

子どもの健康と安全

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 保
担当 坂口 亜弓

《授業の概要》

1年次の「子どもの保健」の基本的な理論をふまえ、保育施設で保健活動を計画的に実践・展開できるように以下の5項目の知識・技術において演習・実習・グループワークを通じて習得する。
①子どもの健康情報の収集と評価 ②子どもの生活習慣と健康 ③保育施設の環境整備 ④子どもによく起こる症状と疾病の予防と対応 ⑤保育施設の事故防止対策・対応と救急法。

《学生の到達目標》

以下の5項目について応用的な知識と技術を習得し、保育の場において保健活動が実践できる。
①子どもの健康を理解し、保健活動を計画的に行える。②子どもの発育発達を把握し、健全な生活習慣へと導くことできる。③事故対策、感染症対策、アレルギー疾患対策を踏まえた保健的観点で保育施設の環境整備ができる。④子どもによく起こる事故の特徴を理解し、対応、救急法ができる。⑤子どもによく起こる疾病を理解し、体調不良時の対応ができる。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 子どもの発育・発達に関する評価
3. 子どもの健康状態の把握と評価
4. 子どもに多い病気や体調不良時の対応
5. 子どもに多い感染症の予防と対応
6. 保育施設の環境整備
7. 日常における養護(抱き方・おむつ交換・寝かせ方等)
8. 日常における養護(衣服の着脱・入浴等)
9. 慢性疾患のある子どもへの対応
10. 障害のある子どもへの対応
11. 子どもの事故と予防
12. 子どもの事故と応急処置
13. 子どもの事故と救急処置・救急蘇生法
14. 災害による影響と備え
15. 健康及び安全の管理の体制について

《成績評価の基準・方法》

・定期試験は実施しない
・授業への取り組み(30%)
・実習・グループワークなどへの取り組み(70%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

【事前学習】 シラバスの内容をよく把握し、テーマに関する情報を事前に学習する。
【事後学習】 学習した内容を振り返り、保育現場での活用法について考察する。

子育て支援

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 保
担当 ★丸目 満弓

《授業の概要》

ソーシャルワークの基礎を学びつつ、保育の専門性を背景とし、保護者に対する子育て支援の理論・意義・機能について理解する。それらを含めた上で、保育士の行う子育て支援について、さまざまな場面や対象に即した行動見本の提示、相談助言、情報の提供など、保育相談支援の内容・方法、技術を中心に実践事例を通して具体的に理解する。さらに事例分析を通して子育て支援に関する相談援助や個別支援計画についての理解を深める。

《学生の到達目標》

1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)を行う際の基本的視点や姿勢を身につける。2. 保育相談支援を行う際に必要となる方法を身につける。3. 保育相談支援の具体的な支援がイメージできる。4. 保育士の専門性を活かした相談支援のあり方を考えることができる。

《授業計画》

1. オリエンテーション 一人の子どもの保育とともに行う保護者の支援とは
2. 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
3. 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解
4. 子どもや保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供
5. 子ども及び保護者の状況・状態の把握
6. 支援の計画と環境の構成
7. 支援の実践・記録・評価・カンファレンス
8. 職員間の連携・協働および社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働
9. 保育所等における支援
10. 地域の子育て家庭に対する支援
11. 障害のある子ども及びその家庭に対する支援
12. 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援
13. 子ども虐待の予防と対応・要保護児童等の家庭に対する支援
14. 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

試験(40%)と小レポートなど授業への取り組み(60%)を総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

・立花直樹・安田誠人監修 渡邊慶一・河野清志・丸目満弓・明柴聡史
編「子どもと保護者に寄り添う「子育て支援」」晃洋書房

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

予習: 次回の授業に向けたキーワードやテーマを伝えるので、事前に調べたり考えをまとめておくこと
復習: 毎回授業の最後に提示されるテーマについて、次回の授業までにまとめてくる。

在宅保育

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 へび-
担当 弘田 みな子

《授業の概要》

家庭訪問保育に必要な基本的な知識から、実践に必要とされるスキルについて扱う授業となります。保育所保育と対比をしながら、家庭訪問保育ならではの必要性の社会的背景や歴史的成り立ち、実際の保育現場で必要とされる知識やスキルを、毎回テキストに沿って取り上げていきます。

《学生の到達目標》

家庭訪問保育の実際を知り、必要なスキルを身に付けることができる。家庭訪問保育者の使命についての理解を深め、保育者の働き方に必要な幅広い知識を身につける事ができる。

《授業計画》

1. オリエンテーション: 家庭訪問保育とは?
2. 家庭訪問保育の体系/身に付けたい保育マインド
3. 乳幼児の生活と遊び/乳幼児の発達と心理
4. 小児の保健
5. 安全の確保とリスクマネジメント
6. 映像視聴: 子どもの発達
7. 前半期まとめ 確認テスト①
8. 居宅訪問型保育における保育者への対応/保育者のマナー
9. 子ども虐待への知識と対応
10. 特別に配慮を要する子どもへの対応
11. 一般型家庭訪問保育の業務の流れ
12. 様々な家庭訪問保育
13. 保育技術
14. 映像視聴: 産後ケアの必要性
15. 後半期まとめ 確認テスト②

《成績評価の基準・方法》

毎回の授業時に書く、授業まとめの小レポートの提出とその内容 (30%)
確認テスト① (35%)
確認テスト② (35%)

《授業で使用する教科書》

・公益社団法人 全国保育サービス協会 監修 中央法規「家庭訪問保育の理論と実際」
他、適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習として、授業で扱うテーマに関して、疑問点などを明確にしたうえで授業に臨めるよう、テキスト該当箇所を読んでくること。事後学習として、テキストの重要箇所を再確認するとともに、授業内で問題提起した課題について考察してくること。

障害児保育 I

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 保
担当 樋口 幸

《授業の概要》

障害児保育とは何か、そのかわりと内容について考察し、指導の方法について考える。障害児保育は、家庭や保育所・幼稚園など、関係諸機関の連携のもとに、子ども一人一人を理解する姿勢を大切に、保育を展開させることが大切である。本授業では、様々な障害について学ぶことによって、障害児保育を行う基礎を培っていく。授業の中では、調べたことをプレゼンテーションしたり、グループでディスカッションしたりする時間もとりいれて、すすめていく。

《学生の到達目標》

乳幼児期に起こりうる障害や問題について一つ一つ学ぶ。障害や症状の理解を深める。その上で、子ども一人一人に合った接し方を学ぶ。また、症状ごとに対応の仕方をしっかり学ぶ。そして、障害児保育の中で、障害がある子どもだけでなく、障害がない子どもについても配慮することを学ぶ。さらに、家庭や相談機関との連携などについても配慮することを学ぶ。さらに、家庭や相談機関との連携などについても理解する。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 障害をどのようにとらえるか「障害」ということばについて
3. 障害について(ドラマやアニメから学ぶ)
4. 発達について ※この回から記事の発表を行う
5. 障害児保育の理念
6. 障害児保育の歴史
7. 障害児保育の現状と制度について
8. 子どもの理解と発達の援助①肢体不自由のある子ども
9. 子どもの理解と発達の援助②知的障害のある子ども
10. 子どもの理解と発達の援助③言語障害のある子ども
11. 子どもの理解と発達の援助④視覚・聴覚障害のある子ども
12. 子どもの理解と発達の援助⑤発達障害のある子ども～自閉スペクトラム～
13. 子どもの理解と発達の援助⑥発達障害のある子ども～注意欠如・多動症、学習障害～
14. 子どもの理解と発達の援助 まとめ
15. 前期最終課題

《成績評価の基準・方法》

課題への取り組み(20%)
授業内レポート(60%)
最終課題(20%)などを総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

・監修 竹田 契一 他「保育における特別支援」日本文化科学社・編集 玉井 浩「ダウン症児の学びとコミュニケーション支援ガイド」診断と治療社
他、適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

新聞やニュースなどの障害についての記事を常にチェックしておくこと。
インタビューや実習で出会った子どもたちの記録を見直し、振り返ること。
障害児保育に関する本を読むこと。
自分の住む地域での子ども支援事業に興味を持って調べておくこと。

障害児保育 II

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 保
担当 樋口 幸

《授業の概要》

障害児保育とは何か、そのかわりと内容について考察し、指導の方法について考える。障害児保育は、家庭や保育所・幼稚園など、関係諸機関の連携のもとに、子ども一人一人を理解する姿勢を大切に、保育を展開させることが大切である。本授業では、様々な障害について学ぶことによって、障害児保育を行う基礎を培っていく。授業の中では、調べたことをプレゼンテーションしたり、グループでディスカッションしたりする時間もとりいれて、すすめていく。

《学生の到達目標》

乳幼児期に起こりうる障害や問題について一つ一つ学ぶ。障害や症状の理解を深める。その上で、子ども一人一人に合った接し方を学ぶ。また、症状ごとに対応の仕方をしっかり学ぶ。そして、障害児保育の中で、障害がある子どもだけでなく、障害がない子どもについても配慮することを学ぶ。さらに、家庭や相談機関との連携などについても配慮することを学ぶ。さらに、家庭や相談機関との連携などについても理解する。

《授業計画》

1. 後期のオリエンテーション・前期の復習
2. 実習で出会った子どもについて話し合う
3. 障害児保育の実際1(ビデオの場面から学ぶ) ※この回から絵本や遊びを発表
4. 障害児保育の実際2(ビデオの場面から学ぶ)
5. 一日の保育の流れ
6. 指導計画の作成・発達検査の利用
7. 記録及び評価について
8. 集団生活・生活習慣の援助～個に応じた保育支援～
9. 遊び・音楽・絵本・ことばについて(1)
10. 遊び・音楽・絵本・ことばについて(2)
11. 保護者・家庭への支援
12. 保育者としての倫理・ヒヤリハットについて
13. 関連機関との連携～専門機関とのよりよい連携～
14. 障害がある子どもの保育にかかわる今後の課題
15. 後期最終課題

《成績評価の基準・方法》

課題への取り組み(20%)
授業内レポート(60%)
最終課題(20%)などを総合的に評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

新聞やニュースなどの障害についての記事を常にチェックしておくこと。
インタビューや実習で出会った子どもたちの記録を見直し、振り返ること。
障害児保育に関する本を読むこと。
自分の住む地域での子ども支援事業に興味を持って調べておくこと。

障害の理解 II

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 ★多田 鈴子, ★松浦 満夫

《授業の概要》

多様化する保育現場(保育園、乳児院、障がい児施設等)では、発達障害の理解を深めた専門的な支援が求められます。本科目では、「発達障がい」を中心に特別なニーズを持つ子どもや家族への支援について、基礎知識を学習し、現場実践の事例演習や施設見学をとおして、共生社会への理念や社会資源や基本的な支援方法について学びます。

《学生の到達目標》

1. 障がい児者の発達保障と歴史と制度の基礎知識を学びます。2. 実践事例の演習(事例検討・現場見学)から基本的な支援方法を知ります。3. 共生社会をめざした「障がい児者を支える仕事や社会資源」への理解を深めます。

《授業計画》

1. 発達障がいの基礎理解① 全体的な発達の特性を学びます
2. 発達障がいの基礎理解② 対人面、コミュニケーション面の発達を学びます
3. 発達障がいの基礎理解③ 社会生活能力の発達を学びます
4. 障がい児者支援の最新の動向の理解① ノーマライゼーションについて学びます
5. 障がい児者支援の最新の動向の理解② インテグレーションについて学びます
6. 発達障がいの実践事例の演習①(社会的養護施設の実例検討、現場見学実習)
7. 発達障がいの実践事例の演習②(児童発達支援施設の実例検討、現場見学実習)
8. 保育現場での特別なニーズの理解① 保育園現場の実践者から学びます
9. 保育現場での特別なニーズの理解② 幼稚園現場の実践者から学びます
10. 保育園での利用者の多様な状況の理解①(保育園での事例検討、現場見学実習)
11. 保育園での利用者の多様な状況の理解②(幼稚園での事例検討、現場見学実習)
12. 児童福祉施設での利用者の多様な状況の理解①(児童養護施設での事例検討)
13. 児童福祉施設での利用者の多様な状況の理解②(障がい児施設での事例検討)
14. 共生社会をめざした社会資源や実践の理解① インクルージョンについて学びます
15. 共生社会をめざした社会資源や実践の理解② 共生社会に向けた課題を学びます

《成績評価の基準・方法》

授業や演習、見学実習での演習成果レポート(70%)と授業内容をふまえた事後学習の総括レポート(30%)で評価します。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

科目は、本学科独自の選択科目です。集中講義方式と施設見学(実践事例検討)により、授業を進めます。本科目と1年次のインターンシップ科目、「障害の理解I」を取得することで、「障害児保育基礎プログラム修了証」が授与されます。演習や見学に向けてしっかりと事前学習と「ふりかえり」の事後学習を重視します。

インターンシップ III A

2年次(半期)
2単位(実習)
資格 なし
担当 総保専任教員

《授業の概要》

幼稚園、保育所、認定こども園などの役割や機能を学外実習を通して実践的かつ具体的に学ぶ。保育現場に関わることを通じて、保育者としての技術と理解を大きく深める実習である。保育実践の指導者のもとで経験を積み、保育の実態を体験的・総合的に理解し、保育実践の基礎的な能力と態度を身に付け、幼稚園教諭・保育士の職務への基礎的な理解を深める。

《学生の到達目標》

①インターンシップ実習における経験を通して保育現場の様々な状況を理解を深める。②保育現場の課題を深く考察し、理解するとともに意見をもつ。③子どもと関わる保育者、子どもの発達過程を観察し、具体的に理解する。④保育者の倫理観を学び、自分の職業意識を高める。

《授業計画》

1. ①インターンシップ実習は週に1日、インターンシップ先で実習を行う。
2. ②期間は4月から8月までを基本とする。
3. ③インターンシップ先は短大にて決定する。
4. ④インターンシップ先では、職員の指導のもと、子どもや利用者により積極的に関わり、な業務、知識、技術について学習する。
5. ⑤インターンシップ中には、実習日ごとにインターンシップ実習日誌を作成する。
6. ⑥その日誌をもとに、課題や自己目標の達成状況を確認し、
7. ⑦インターンシップ実習担当者より適宜、指導を受ける。
8. ⑧インターンシップ実習終了後は、すみやかに実習日誌綴じ込みのレポート課題を
9. ⑨作成した上、日誌を翌日、短大に提出する。
10. ⑩「インターンシップIII B」科目と連携して、事前指導を授業内で行う。
11. ⑪インターンシップ実習終了後は、日誌やインターンシップ先評価内容をもとに、
12. ⑫教員とともに内容の振り返りを行う。
13. ⑬自己課題を明確にするとともに、自己目標を設定し、
14. ⑭後期の「インターンシップIV A」へとつなげていく。

《成績評価の基準・方法》

インターンシップ実習日誌(50%)、インターンシップ先からの評価(20%)、インターンシップ実習の各レポート(計30%)から評価する。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

インターンシップ実習に赴くための準備(体調を整える、保育の準備など)を毎時、しっかりとしておくこと。またインターンシップ実習が終了したその日にインターンシップ実習日誌を記録し、翌日に必ず提出すること。さらにインターンシップ先の子どもの姿に合わせ、保育技術の向上に努めること。

インターンシップⅢB

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 ★大嶋 健吾, ★玉川 朝子

《授業の概要》

幼稚園、保育所、認定こども園などの役割や機能をインターンシップⅢAと連携して学ぶ。乳幼児の発達過程や保育者としての技術を深めていく。学んだ知識や技術をもとに学外で実施されるインターンシップ実習に参加する。インターンシップ実習を充実させるためにも事前・事後の学習を十分に行っていく。

《学生の到達目標》

インターンシップ実習の意義と目的を理解し、自らの課題を明確にする。インターンシップ先における乳幼児の発達過程について具体的に理解する。またインターンシップ実習の計画・実践・記録や内容について具体的に理解する。そしてインターンシップ実習の事後指導を通して、総括と自己評価を行い、今後の学習に向けて課題や目標を明確にする。

《授業計画》

1. インターンシップと学外実習について
2. インターンシップ先について学ぶ①(幼稚園)
3. インターンシップ先について学ぶ②(保育所)
4. インターンシップ先について学ぶ③(認定こども園)
5. インターンシップ先について学ぶ④(児童福祉施設)
6. インターンシップ先でのオリエンテーションに参加し、実習園と子どもについて理解する
7. 保育実践技術①(乳児期の遊び)
8. 保育実践技術②(幼児期の遊び)
9. グループ・ディスカッション①(インターンシップ先での経験を報告する)
10. グループ・ディスカッション②(インターンシップ先での経験を共有する)
11. グループ・ディスカッション③(ディスカッション内容を発表する)
12. インターンシップ実習の自己課題を挙げる
13. グループ・ディスカッション④(自己課題を共有する)
14. グループ・ディスカッション⑤(ディスカッション内容を発表する)
15. 総括を行い、インターンシップⅣAに向けて確認を行う

《成績評価の基準・方法》

以下の①・②・③の要件を全て満たすことで単位認定となる①前期インターンシップ実習に8日間以上参加・出席すること②インターンシップⅢBの授業を3分の2以上出席すること③インターンシップⅢAの評価が「可」以上であること

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

保育者には誠実な姿勢がもてられるので、インターンシップ実習に赴くために、その心構えを形成すること。毎時のインターンシップ実習から自己課題を挙げ、取り組むこと。またインターンシップ実習における自己反省をし、次回への課題を設定すること。

インターンシップⅣA

2年次(半期)
2単位(実習)
資格 なし
担当 総保専任教員

《授業の概要》

幼稚園、保育所、認定こども園などの役割や機能を学外実習を通して実践的かつ具体的に学ぶ。保育現場に関わることを通じて、保育者としての技術と理解を大きく深める実習である。保育実践の指導者のもとで経験を積み、保育の実際を体験的・総合的に理解し、保育実践の基礎的な能力と態度を身に付け、幼稚園教諭・保育士の職務への基礎的な理解を深める。

《学生の到達目標》

①インターンシップ実習における経験をを通して保育現場の様々な状況の理解を深め、考察する。②保育現場の課題を深く考察し、理解するとともに意見をもつ。③子どもと関わる保育者、子どもの発達過程を観察し、具体的に理解する。④保育者の倫理観を学び、自分の職業意識を高め、実行に移す。

《授業計画》

1. ①インターンシップ実習は週に1日、インターンシップ先で実習を行う。
2. ②期間は10月から2月までを基本とする。
3. ③インターンシップ先は短大にて決定する。
4. ④インターンシップ先では、職員の指導のもと、子どもや利用者に
5. 積極的に関わり、な業務、知識、技術について学習する。
6. ⑤インターンシップ中には、実習日ごとにインターンシップ実習日誌を作成する。
7. ⑥その日誌をもとに、課題や自己目標の達成状況を確認し、
8. インターンシップ実習担当者より適宜、指導を受ける。
9. ⑦インターンシップ実習終了後は、すみやかに実習日誌綴じ込みのレポート課題を
10. 作成した上、日誌を翌日、短大に提出する。
11. ⑧「インターンシップⅣB」科目と連携して、事前指導を授業内で行う。
12. ⑨インターンシップ実習終了後は、日誌やインターンシップ先評価内容をもとに、
13. 教員とともに内容の振り返りを行う。
14. ⑩自己課題を明確にするとともに、自己目標を設定し、
15. 自分の保育技術向上へとつなげていく。

《成績評価の基準・方法》

インターンシップ実習日誌(50%)、インターンシップ先からの評価(20%)、インターンシップ実習の各レポート(計30%)から評価する。

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

インターンシップ実習に赴くための準備(体調を整える、保育の準備など)を毎時、しっかりとしておくこと。またインターンシップ実習が終了したその日にインターンシップ実習日誌を記録し、翌日に必ず提出すること。さらにインターンシップ先の子どもの姿に合わせ、保育技術の向上に努めること。

インターンシップIVB

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 ★大嶋 健吾, ★玉川 朝子

《授業の概要》

幼稚園、保育所、認定こども園などの役割や機能をインターンシップIVAと連携して学ぶ。乳幼児の発達過程や保育者としての技術を深めていく。学んだ知識や技術をもとに学外で実施されるインターンシップ実習に参加する。インターンシップ実習を充実させるためにも事前・事後の学習を十分に行っていく。

《学生の到達目標》

インターンシップ実習の意義と目的を理解し、自らの課題を明確にする。インターンシップ先における乳幼児の発達過程について具体的に理解する。またインターンシップ実習の計画・実践・記録や内容について具体的に理解する。そしてインターンシップ実習の事後指導を通して、総括と自己評価を行い、今後の学習に向けて課題や目標を明確にする。

《授業計画》

1. インターンシップ実習の意義と気づき
2. インターンシップ実習III Aの振り返り①(自己課題の列挙)
3. インターンシップ実習III Aの振り返り②(課題の改善方法)
4. 保育現場に即した記録の録りかた①(記録の意義)
5. 保育現場に即した記録の録りかた②(記録の活用方法)
6. 保育実践技術①(運動遊び)
7. 保育実践技術②(戸外遊び)
8. 保育実践技術③(ふれあい遊び)
9. グループ・ディスカッション①(インターンシップ先での経験を報告する)
10. グループ・ディスカッション②(インターンシップ先での経験を共有する)
11. グループ・ディスカッション③(ディスカッション内容を発表する)
12. インターンシップ実習の自己課題を挙げる
13. グループ・ディスカッション④(自己課題を共有する)
14. グループ・ディスカッション⑤(ディスカッション内容を発表する)
15. 総括を行い、自分の進路に向けて確認を行う

《成績評価の基準・方法》

以下の①・②・③の要件を全て満たすことで単位認定となる①後期インターンシップ実習に8日間以上参加・出席すること②インターンシップIVBの授業を3分の2以上出席すること③インターンシップIVAの評価が「可」以上であること

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

保育者には誠実な姿勢がもてられるので、インターンシップ実習に赴くために、その心構えを形成すること。毎時のインターンシップ実習から自己課題を挙げ、取り組むこと。またインターンシップ実習における自己反省をし、次回への課題を設定すること。

幼児音楽III

2年次(通年)
2単位(演習)
資格 保
担当 山田 千智, 北田 敦子, 板垣 幾久子, 井上 裕子, 竹山 陽子, 大前 香菜子, 関口 大介, 小林 響子, 宋 和映, 河野 多映, 山本 益子

《授業の概要》

前期はI・II同様に全体授業と個人レッスンで構成され、1年次で培った専門的な知識・技能をより高める。中間と期末に演技試験を実施する。試験内容は教則本から1曲暗譜して演奏すること、童謡課題曲を4曲弾き歌いで演奏することである。教則本の38巻まで修了することが必要。後期は領域「表現」のねらい及び内容を理解し、様々な音楽表現活動に取り組むことで、保育者として必要とされる表現力、保育現場で領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する力を身につける。

《学生の到達目標》

教則本中の自分のレベルに合った楽曲を1曲暗譜で演奏することが出来る。指定の季節の童謡を弾き歌いすることが出来る。コードネームの知識を用いて童謡に簡単な伴奏付けを行うことが出来る。ピアノ以外の様々な楽器に触れ、知識を深め、表現豊かに演奏することが出来る。他者と協調してより良い演奏を目指すことが出来る。

《授業計画》

1. 授業説明、グループ分けの為のレベルチェックテスト
2. 色々なシチュエーションに応じて伴奏の形を変える
3. 色々なシチュエーションに応じてメロディーの弾き方を変える
4. グループ発表一春の童謡に伴奏を付ける(選曲)
5. グループ発表一春の童謡に伴奏を付ける(練習)
6. グループ発表一春の童謡に伴奏を付ける(発表)
7. 聴く力をつける練習ーキーボードを用いたアンサンブル
8. グループ発表一夏の童謡に伴奏を付ける(選曲)
9. グループ発表一夏の童謡に伴奏を付ける(練習)
10. グループ発表一夏の童謡に伴奏を付ける(発表)
11. より複雑な伴奏の形について
12. グループ発表一任意の童謡に伴奏を付ける(選曲)
13. グループ発表一任意の童謡に伴奏を付ける(練習)
14. グループ発表一任意の童謡に伴奏を付ける(発表)
15. 前期のまとめ
16. 領域「表現」と音楽表現
17. 音楽活動で使用される楽器について知る
18. 合奏①(選曲)
19. 合奏②(練習)
20. 合奏③(発表)
21. 合奏①(選曲)
22. 合奏②(練習)
23. 合奏③(発表)
24. 絵本に音をつける①
25. 絵本に音をつける②
26. 絵本に音をつける③
27. 音楽遊びを考える①(発案)
28. 音楽遊びを考える②(準備)
29. 音楽遊びを考える③(発表)
30. 後期のまとめ

《成績評価の基準・方法》

演技試験(40%) 課題の進捗(10%) 筆記試験・グループ発表(50%)

《授業で使用する教科書》

・「幼児音楽曲集ー大阪城南女子短期大学編ー」石川特殊特急製本株式会社・「かんたんメソッド コードで弾き歌い」カワイ出版

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習: グループ発表ではメンバー内の作業がスムーズに進むよう各自準備をしてくるよう。個人レッスンでは、レッスン担当教員と次の課題曲や目標を決め、それに向けて練習してくる。事後学習: 童謡や子どもたちが好きなうたに興味を持ち、自ら伴奏付けを数多くやってみること。

音楽理論

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 なし
担当 油井 宏隆

《授業の概要》

保育に役立つ音楽の基礎及びその方法に関して多角的に学習していく。楽譜の書き方や移調、簡単な作曲や写譜などができるように音符や五線の構造、音符の読解力アップ、現場での弾き歌いなどに役立つよう学習を行う。

《学生の到達目標》

自らが音楽を“楽しい、覚えていて良かった”と思えるように、いろいろな音符や記号などに対する知識を養い曲の構成について学習し、それを保育現場において子どもの前で展開できるよう実践していく。

《授業計画》

1. 五線と音符の関係
2. ドイツ語読み・写譜
3. 音程について①
4. 音程について② コードネーム①
5. 長音階・短音階① コードネーム②
6. 長音階・短音階②
7. 作曲家 イタリア
8. 作曲家紹介 ドイツ
9. 作曲家紹介 日本
10. 簡単な移調①
11. 簡単な移調② 作曲家紹介 童謡
12. 作曲実践①
13. 作曲実践②
14. 自作曲の実演
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

実技試験(60%)、小テスト(20%)、レポート(20%)から総合的に評価する

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

配布楽譜の音採り及び音楽練習事後学習 授業時の要点及び実技の復習

造形表現III

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 保
担当 ★柴田 精一

《授業の概要》

「造形表現I」で学習した造形表現に関する基本的な知識と技能を応用して、さらに難易度が高く保育に活用できる技法を習得する。

《学生の到達目標》

素材や技法の性質を深く理解することで、教材を適切に保育に生かせるようになる。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. 幼児のための版画演習(下描き)
3. 幼児のための版画演習(ステレン版の版製作)
4. 幼児のための版画演習(紙版の版製作)
5. 幼児のための版画演習(印刷)
6. 幼児のための張り子の面製作(下描き)
7. 幼児のための張り子の面製作(骨組み)
8. 幼児のための張り子の面製作(張り込み)
9. 幼児のための張り子の面製作(下地塗り)
10. 幼児のための張り子の面製作(絵付け)
11. ウォッシング(下描きと着彩)
12. ウォッシング(着彩と墨塗布)
13. ウォッシング(洗い)
14. フィンガーペインティング指絵具の作り方から活動まで
15. 総括

《成績評価の基準・方法》

作品(60%)、小レポート(20%)、授業への取り組み方(造形への関心・意欲・態度(20%))

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習では、次回取り組む内容について予習する。事後学習では、学習した素材や技法が用いられている身近なものをその興味を持ち、保育に活用する手だてを構想する。

身体表現Ⅰ

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 幼・保
担当 魚住 美智子

《授業の概要》

領域「表現」のねらい及び内容を理解する。また、乳幼児の発育・発達や学びの過程を理解し、総合的な表現活動の実践を通して、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法を身につける。

《学生の到達目標》

保育内容の各領域を総合的に捉え、表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。身体表現などの様々な表現活動を実践することによって、それらの特徴や面白さを確認し、総合的な表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身につける。

《授業計画》

1. 領域「表現」のねらいと内容について理解する。
2. 乳児の表現活動の事例から、身体表現の指導法を考える。
3. 幼児の表現活動の事例から、身体表現の指導法を考える。
4. 子どもの発育・発達に応じた身体表現の理解・実践(0～2歳児)
5. 子どもの発育・発達に応じた身体表現の理解・実践(3歳児)
6. 子どもの発育・発達に応じた身体表現の理解・実践(4歳児)
7. 子どもの発育・発達に応じた身体表現の理解・実践(5歳児)
8. グループワーク「教材の選択」
9. グループワーク「企画・立案(保育指導案作成など)」
10. グループワーク「発表内容の検討・活動」
11. グループワーク「発表内容の改善点の検討」
12. グループワーク「グループ発表①」
13. グループワーク「グループ発表②」
14. グループワーク「発表の振り返り・総括」
15. 身体表現・指導法のまとめと課題について

《成績評価の基準・方法》

毎時の課題・レポート(30%)、グループ発表(準備、発表40%)、総括課題レポート(30%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習として、次回の授業内容の予習をする。事後学習は、前回の授業内容の知識を深め、技能・技術、指導法の習得に努める。

身体表現Ⅱ

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 幼・保
担当 魚住 美智子

《授業の概要》

身体表現Ⅰの授業を基に、領域「表現」のねらい及び内容を更に理解する。また、乳幼児の発育・発達や学びの過程を理解し、総合表現活動に取り組むことで、保育現場で領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する力を身につける。

《学生の到達目標》

乳幼児期に育みたい表現に関する資質・能力などの理解を深めながら、総合表現活動を通して、保育現場で必要な知識・技能・指導方法を習得する。また、これらの活動を通して、保育者として必要な表現力や創造力、実践力などを身につける。

《授業計画》

1. 授業概要の説明(オペレッタ創作活動の意義、創作の理解)
2. オペレッタ創作(対象年齢やテーマなどに沿った台本制作)
3. オペレッタ創作(台本の読み合わせ・見直し)
4. オペレッタ創作(役作り～台詞や身振りを考える)
5. オペレッタ創作(音楽～テーマ曲・背景音楽・効果音を考える)
6. オペレッタ創作(ダンスの創作)
7. オペレッタ創作(大小道具・衣装の企画)
8. オペレッタ創作(大小道具・衣装の制作)
9. オペレッタ創作(大小道具・衣装の制作)
10. オペレッタ創作(大小道具の配置と動線の調整)
11. 通し練習
12. オペレッタ作品の改善点の確認
13. オペレッタ予行
14. オペレッタ発表
15. オペレッタ創作・発表の評価と総括

《成績評価の基準・方法》

グループ活動・発表(60%)、課題レポート(40%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習については、オペレッタ創作の各活動の企画・構想を深める。事後学習は、前回の活動を振り返り、改善点を探り、オペレッタ作品の向上に努める。

身体と運動

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 保
担当 井上 裕子

《授業の概要》

幼児にとって、音楽と身体は自己表現と密接な関係がある。子どもにとっての表現について、年齢によって異なる意義や方法(教具を使う使わない、リトミックなど)を学びながら、感性と表現に関する領域「表現」の内容を子どもたちに育むために、保育者はどのような役割を担っているのか考える。

《学生の到達目標》

保育現場で、それぞれの年齢や発達過程に応じた音楽と身体を使った活動内容(導入→表現活動→展開)が、一つでも実践できるように、スキルや考え方を身につける。

《授業計画》

1. 音楽・身体表現の意義について
2. 表現方法Ⅰ ①(からだあそび)
3. 表現方法Ⅰ ②
4. 表現方法Ⅱ ①(教具を使って:スカーフ)
5. 表現方法Ⅱ ②
6. 表現方法Ⅲ ①(教具を使って:フープ)
7. 表現方法Ⅲ ②
8. 表現方法Ⅳ ①(教具を使って:ひも)
9. 表現方法Ⅳ ②
10. 表現方法Ⅴ ①(教具を使って:ボール)
11. 表現方法Ⅴ ②
12. サウンドスケープについて
13. 手づくり楽器など
14. まとめ(グループ発表)
15. まとめ(グループ発表)

《成績評価の基準・方法》

グループ活動・発表(60%)、諸々レポート(40%)

《授業で使用する教科書》

適宜プリント等配布を行う。

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習:「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」の感性と表現に関する領域「表現」のところを、熟読しておくこと。
事後学習:その日の授業内容を振り返り、自分の言葉でまとめておくこと。

表現法(室内遊び・ふれあい遊び等)

2年次(半期)
2単位(講義)
資格 保
担当 山田 早智

《授業の概要》

保育現場で実践することを想定しながら集団での遊びやふれあい遊びを体験し、保育者として工夫することや、留意点を知る。

《学生の到達目標》

室内遊びやふれあい遊びを体験しながら、保育者として子どもと活動する力をつける。実際に体験する中で、どんなことに留意すればよいかや、どんな工夫をすれば遊びが広がるかを、保育者の視点で考える。

《授業計画》

1. オリエンテーション
2. ゲーム遊び
3. 室内遊び①
4. 室内遊び②
5. 室内遊びを考えてみよう
6. ふれあい遊び①
7. ふれあい遊び②
8. 簡単な制作と遊び
9. 身近なものを使った遊び
10. 遊びの為の環境作り
11. 室内での活動・行事
12. 行事の計画を立ててみよう①
13. 行事の計画を立ててみよう②
14. 行事を楽しもう
15. まとめ

《成績評価の基準・方法》

授業時に提出する課題レポート60%、準備・発表40%

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

自分が子どもの頃にしてきた遊びや、実習等で見た遊びを振り返りながら、自分が保育者として子どもとの遊びにどう取り入れるかを想定していく。

教育実習 II

2年次(半期)
2単位(実習)
資格 幼
担当 油井 宏隆, 山田 千智, 柴田 精一, 多田 鈴子, 佐藤 佳枝,
★大嶋 健吾

《授業の概要》

教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する。教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を習得する。

《学生の到達目標》

幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。そして保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。学級担任の役割と職務内容を實地に即して理解している。

《授業計画》

1. 教育実習の概要と意義の再確認(教育実習の年間計画・指導体制・手続き・日程など)
2. 教育実習生が遵守すべき義務について理解する
3. 実習日誌(記録)の記入方法、及び観察観点について学ぶ
4. 環境を通して行う教育の意義及び教師の役割を理解する
5. 実習園でのオリエンテーションに参加し、実習校と子どもの実際について理解を深める
6. 実習園の方針、特色をまとめ、実習課題に即して、保育指導計画・実習計画を作成する
7. 各自の実習目標や問題意識を明確化し、実習の課題を探る
8. 教育実習の総括(実習での気づきや成果・課題を今後の学習と実践へつなげる)
9. グループ・ディスカッション(実習園や実習に関して報告し、実習体験を共有する)
10. 教育実習報告会①(他の学生の実習園や実習に関しての発表を聞き、理解を深める)
11. 教育実習報告会②(各自の幼稚園実習の意義を明確にし、進路の課題を設定する)
12. 個人面談①(実習校からの評価を知る)
13. 個人面談②(自分自身を多様な角度から検討して客観化を図る)
14. 学習計画・実習計画について、グループ・ディスカッションを行う
15. 教育実習の本質を知り、理解し、今後の進路に向けて総括を行う

《成績評価の基準・方法》

実習園の「教育実習評価表」に基づいて実習生を評価(50%)し、さらに事前・事後指導の講義において実施する各種課題レポート(50%)と合算して評価する。

《授業で使用する教科書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習として、1年次の教育実習を振りかえり、自己課題を挙げておくこと。事後学習として、教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、習得すること。

保育実習 II

2年次(半期)
2単位(実習)
資格 保
担当 ★丸目 満弓, 日高 由貴, 大嶋 健吾

《授業の概要》

保育所の役割や機能について、具体的な実践や学外実習を通して理解を深めていく。既習の教科目や保育実習 I の経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。保育士として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に保育実習に参加する。保育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、保育士資格取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を習得する。

《学生の到達目標》

子どもの観察や関わり方の視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。そして保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。さらに保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解し、実習における自己の課題を明確化する。

《授業計画》

1. ①実習期間は基本的に9月上旬から2週間とする
2. ②保育所実習の実習先は、児童福祉法の規定する保育所とする。
3. また通所(通勤)での実習となる。
4. ③実習先では、職員の指導のもと、子どもに積極的にかわり保育士としての
5. 業務、知識、技術について学習する。
6. ④実習期間中に責任実習(保育)を1回以上行う。保育士の指導のもと、指導計画案作成
7. と教材準備を行う。実施後、反省会に参加する。
8. ⑤実習中には、実習日毎に実習日誌を作成する。その日誌をもとに、実習課題や
9. 自己目標の達成状況を確認する。その実習担当者より、適宜、指導を受ける。
10. ⑥実習終了後は、速やかに実習日誌冊子綴じ込みのレポート課題を作成した上、
11. 日誌を実習先に提出する。
12. ⑦「保育実習指導II」科目と連携して、事前指導を授業内で行う。
13. ⑧終了後は、日誌や実習先評価の内容をもとに、教員とともに実習内容の振り返る
14. ⑨前向きに自己を振り返りながら自己課題を明確にすると同時に、改善策を
15. 考え、検討し、次の進路へとつなげる。

《成績評価の基準・方法》

保育所実習の「実習評価表」に基づいて、評価(50%)し、また実習日誌(記録)を評価(20%)し、事前・事後指導の講義において実施する各種課題レポート(30%)と合算して評価する。

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習として保育所実習の準備をするとともに、実習計画をたてること。事後学習としてそれぞれの実習を振り返り、自己評価し、課題や反省を挙げ、進路に活用していくこと。

保育実習指導Ⅱ

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 保
担当 ★丸目 満弓, 日高 由貴, 大嶋 健吾

《授業の概要》

保育実習生として遵守すべき法令や義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に保育実習に参加する。保育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、保育士資格取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を習得する。

《学生の到達目標》

保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。そして保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。さらに実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

《授業計画》

1. 保育所実習の意義と目的、及びその内容
2. 養護と教育が一体となって行われる保育
3. 保育所の社会的役割と責任
4. 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
5. 子どもの保育と保護者支援
6. 子ども(利用者)の状態に応じた適切な関わり
7. 保育の知識・技術を活かした保育実践
8. 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
9. 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
10. 保育士の専門性と職業倫理
11. 保育所実習の振り返り①(グループワーク、グループディスカッションを通して)
12. 保育所実習の振り返り②(報告会を行い、他者の意見を聞き、共有する)
13. 保育所実習の振り返り③(自分自身を多様な角度から検討して客観化を図る)
14. 施設実習と保育所実習の総括と自己評価
15. 学外実習を通しての自己課題の明確化

《成績評価の基準・方法》

以下の①・②・③の要件を全て満たすことで単位認定となる①保育所実習において10日間以上かつ80時間以上の学外実習に参加・出席すること②保育実習指導Ⅱの授業を3分の2以上出席すること③保育実習Ⅱの評価が「可」以上であること

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習として、1年次の保育実習を振りかえり、自己課題を挙げておくこと。事後学習として、保育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、習得すること。

保育実習Ⅲ

2年次(半期)
2単位(実習)
資格 保
担当 ★多田 鈴子, 樋口 幸

《授業の概要》

既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、児童福祉施設、障害児施設等(保育所以外)の役割や機能について、具体的な支援計画と実践、観察、記録及び自己評価等を通して総合的に学ぶ。また、家庭と地域の生活実態、社会的養護や障害児支援への理解を深め、保育士・支援員としての職業倫理、具体的な実践について理解し、自己の課題を明確にする。

《学生の到達目標》

各自が将来を見ずして設定した個人課題を、現場学習(実習)により深く探究することをめざす。子どもや利用者の観察やかかわりの視点を明確にすることで、保育の理解を深める。そして保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。さらに保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解し、実習における自己の課題を明確化する。

《授業計画》

1. ①実習期間は、原則9月中の【2週間】とする。
2. ②施設実習先は、乳児院、児童養護施設、児童自立支援施設、障がい児施設、障がい者施設である。形態は、宿泊実習を基本とする。
3. ③実習先では、職員の指導のもと、子どもや利用者積極的にかかわり、「保育」や「対人支援」の基礎的な業務、知識技術について学習する。
4. ④実習期間中は、「保育実習指導Ⅲ」で事前作成した個人課題と実習計画をもとに実践を行う。支援員の指導のもと、実習内容を検討して、実施後反省会に参加する。
5. ⑤実習期間中は、実習日毎に実習日誌を記載する。その日誌をもとに、課題や自己目標達成状況を確認し、実習先担当者より、適宜、指導をうける。
6. ⑥実習終了後は、すみやかに実習日誌冊子綴じ込みのレポート課題を作成した上、11.日誌を実習先に提出する。
7. ⑦「保育実習指導Ⅲ」科目と連携して、事前指導を授業内で行う。
8. ⑧終了後は、日誌や実習先評価の内容をもとに、教員とともに実習内容をふりかえり、具体的な実践について理解し、自己の課題を明確にする。
9. ⑨実習を総括し、保育士としての進路に結びつけて考察する。

《成績評価の基準・方法》

施設実習の「実習評価表」に基づいて評価(60%)し、さらに事前・事後指導の講義において実施する各種課題レポート(40%)と合算して評価する。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として施設実習の準備をするとともに、実習計画をたてること。事後学習としてそれぞれの実習を振り返り、自己評価し、課題や反省を挙げ、進路に活用していくこと。

保育実習指導III

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 保
担当 ★多田 鈴子,樋口 幸

《授業の概要》

保育実習Iを基礎としながら、社会的養護や障害児施設についての講義、事例検討、演習等を実施する。また家庭と地域の実情にふれて子ども家庭福祉及び社会的養護について総合的に学び、保育士としての職業倫理及び利用者・家庭支援のための知識、技術、判断力を培う。個別支援計画と実践、観察・記録等の事前学習、実習先施設での指導、実習の総括と自己評価や課題の明確化等の事後指導を行う。

《学生の到達目標》

施設実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。グループ演習により、各自が主体的に実習課題と計画を作成して、奥深い現場学習(実習)のための基礎を築く。また学生間での成果の共有により、広く実践的な知識を身につける。そして保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。さらに実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

《授業計画》

1. プレゼンテーション(1) 1年次施設実習の振り返り
2. 事前学習講義(1) 児童福祉施設等の状況と課題を学ぶ
3. グループ演習(1) 共通課題について事前学習を行う
4. グループ演習(2) 個人課題づくりに取り組む
5. プレゼンテーション(2) 実習への動機、個人課題について発表
6. 事前学習講義(2) 児童福祉施設等での支援について学ぶ
7. グループ演習(3) 事前学習① 多様な施設携帯を学ぶ
8. グループ演習(4) 事前学習② 施設の利用者支援を学ぶ
9. グループ演習(5) 事前学習③ 実習先施設の役割を理解する
10. グループ演習(6) 事前学習④ 実習先施設の利用者について理解する
11. プレゼンテーション(3) 社会的養護施設の前学習の発表と検討
12. プレゼンテーション(4) 障がい児者施設の前学習の発表と検討
13. グループ演習(7) 社会福祉施設の現状と展望
14. 直前指導と現場学習(実習)での課題探求
15. グループ演習(8) 現場学習(実習)の成果のまとめ

《成績評価の基準・方法》

以下の①・②・③の要件を全て満たすことで単位認定となる。①施設実習において10日間以上かつ80時間以上の学外実習に参加・出席すること。②保育実習指導IIの授業を3分の2以上出席すること。③保育実習IIIの評価が「可」以上であること。

《授業で使用する教科書》

指定なし

《参考書》

指定なし

《事前・事後学習》

事前学習として、1年次の施設実習、保育所実習を振りかえり、自己課題を挙げておくこと。事後学習として施設実習を経て得られた成果と課題等を考察しレポート作成するとともに、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、習得すること。

教職実践演習(幼稚園)

2年次(半期)
2単位(演習)
資格 幼
担当 樋口 幸

《授業の概要》

幼稚園教諭に必要な教科・教職に関する知識・技能を習得するために、幼稚園教育現場の視点を取り入れ、実践的な演習などを中心に展開する。この授業は、模擬保育やロールプレイング、グループ討議を含めて実施する。

《学生の到達目標》

幼稚園教諭に必要な、①使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③幼児理解やクラス運営力、④保育内容に即した指導力、を身につける。

《授業計画》

1. オリエンテーション、今までの学修の振り返り、保育あそびBOOKについて
2. 教職の意義や教員の役割・職務内容について
3. 自己課題の認識と自己研鑽に励む姿勢について(グループディスカッション)
4. 幼児の成長と安全、健康管理について(グループディスカッション)
5. 社会性や人間関係能力について(グループディスカッション)
6. 職員との協力する活動について(グループディスカッション)
7. 保護者支援と地域貢献について(グループディスカッション)
8. 豊かな人間性とその向上について(グループディスカッション)
9. 模擬保育・幼児の特性と発達理解について
10. 模擬保育・幼児理解とクラス運営について①(幼児の発達と信頼関係)
11. 模擬保育・幼児理解とクラス運営について②(集団あそびにおける指導や雰囲気づくり)
12. 模擬保育・教材研究と指導計画について
13. 模擬保育・言葉かけや配慮について
14. 保育あそびBOOKの表紙づくりと製本(授業内に提出)
15. 今後求められる実践力について

《成績評価の基準・方法》

保育あそびBOOK提出(20%)と毎回の授業後に提出する小レポート、授業への取り組み(80%)で評価する。

《授業で使用する教科書》

・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

事前学習として、これまでに履修した教職課程の振り返りを行い、授業内で配布した資料をよく読んでおくこと。事後学習として、その日に学んだ授業内容について振り返りをし、実践に活かす意識を持ち、まとめておく。

卒業研究Ⅰ

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 総保専任教員

《授業の概要》

個別演習と全体会により進行する。自ら課題にするゼミナールを選択する。個々の興味・関心に沿って個別に分かれ、各自の課題研究を行う。指導教員の専門的研究を基礎とした個別指導を受けながら、保育・教育や乳幼児に関する今日的課題について、学生自らがテーマ選択・調査・研究・発表・討論に関わり、探求していく。また個々の課題研究を進める過程として外部機関に赴き、フィールドワークを実施し、卒業研究の参考にする。

《学生の到達目標》

①卒業研究および短大行事への主体的な参加を行い、教育・保育・福祉の現場で通用する保育者としての基本姿勢・専門的知識・技能を身につける。②乳幼児の養護、教育、及び子育てに関する今日的諸問題・課題を探究することにより、幼児教育・保育における総合的な理解を深め、問題・課題解決に向けて自らの考えを整理することができる。③これまでに学んだ科目を横断的に応用し、学生自らがテーマ選択・調査・討論等に関わり、卒業研究として明文化することができる。

《授業計画》

1. ゼミごとによるガイダンス(目的、内容、日程、方法、評価等)
2. 卒業研究発表作成に関して
3. 各自の卒業研究テーマを設定
4. 各自のテーマを確定し、論文作成計画書を作成
5. 卒業研究計画書にそっての個別指導①
6. 卒業研究計画書にそっての個別指導②
7. 卒業研究調査①
8. 卒業研究調査②
9. 外部機関へのフィールドワーク①
10. 外部機関へのフィールドワーク②
11. 外部機関へのフィールドワーク③
12. 外部機関へのフィールドワーク④
13. 中間報告書作成指導
14. 中間報告会①
15. 中間報告会②

《成績評価の基準・方法》

卒業研究の内容および作成過程(計50%)、中間報告書(50%)から評価する。

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

各自の卒業研究テーマについて、色々な方法による個別学習の積み重ねておくこと。文献学習、インターネットによる資料収集、アンケート調査、インタビュー調査、観察調査、製作、鍛錬などの多様な研究方法による学習や他の学生との議論や共同活動を積み重ねることで自分の教育観・保育観を見つめなおしていくこと。

卒業研究Ⅱ

2年次(半期)
1単位(演習)
資格 なし
担当 総保専任教員

《授業の概要》

個別演習と全体会により進行する。卒業研究Ⅰに引き続いて、個々の興味・関心に沿って、各自の課題研究を行う。指導教員の専門的研究を基礎とした個別指導を受けながら、保育・教育や乳幼児に関する今日的課題について、学生自らがテーマ選択・調査・研究・発表・討論に関わり、探求していく。卒業研究テーマに対して主体的に取り組む力、自らの考えを整理する力、明文化する力、他者に伝える力、などを育成し、本学での学びの集大成的な位置づけをもっている。最終的に論文をまとめ、研究発表会に参加し、研究成果を発表する。

《学生の到達目標》

①卒業研究および短大行事への主体的な参加を行い、教育・保育・福祉の現場で通用する保育者としての基本姿勢・専門的知識・技能を養い、身につける。②自らの作成した卒業研究を他者に伝えるために、自らの考えを焦点化し、表現方法を工夫することによって、卒業研究としての完成度を高める。③卒業研究発表会に参加し、自分の研究内容を他者にわかりやすく、発表し、プレゼンテーションを行うことができる。

《授業計画》

1. ゼミごとによるガイダンス(目的、内容、日程、方法、評価等)
2. 卒業研究調査①
3. 卒業研究調査②
4. 卒業研究計画書にそって、各自で研究活動①
5. 卒業研究計画書にそって、各自で研究活動②
6. 卒業研究計画書にそって、各自で研究活動③
7. 卒業研究計画書にそって、各自で研究活動④
8. 卒業研究発表会のプレゼンテーション指導①
9. 卒業研究発表会のプレゼンテーション指導②
10. 卒業研究発表会のプレゼンテーション指導③
11. 卒業研究発表会(プレゼンテーション)①
12. 卒業研究発表会(プレゼンテーション)②
13. 卒業研究発表会(プレゼンテーション)③
14. 総合発表会
15. 卒業研究活動の総括

《成績評価の基準・方法》

卒業研究の内容および作成過程(計50%)、卒業研究総括レポート(50%)から評価する。

《授業で使用する教科書》

・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

《参考書》

適宜プリント等配布を行う。

《事前・事後学習》

各自の卒業研究テーマについて、色々な方法による個別学習の積み重ねること。個別学習が主となるので、卒業研究に対して主体かつ積極的に取り組むことが求められる。また他の学生との議論や共同活動を積み重ねることで自分の教育観・保育観を見つめなおしていくこと。